

青森県埋蔵文化財調査報告書 第127集

# 表館(1)遺跡Ⅴ

平成元年度

青森県教育委員会



青森県埋蔵文化財調査報告書 第127集

おもて だて  
表館(Ⅰ)遺跡Ⅴ

平成元年度

青森県教育委員会



## 序

青森県教育委員会は、むつ小川原開発事業予定地内の埋蔵文化財の保護と活用を図るため、昭和46年度から分布調査・試掘調査・発掘調査を実施してまいりました。

昭和63年度には、4遺跡の発掘調査を実施しましたが、本報告書は、縄文時代早期を主体とする表館(1)遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。本書が、埋蔵文化財の保護と活用に、いささかでも資するところがあれば幸いに存じます。

最後になりましたが、この調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導・御協力賜りました関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成2年3月

青森県教育委員会

教育長 山 崎 五 郎



## 例 言

- (1) 本報告書は、昭和63年度に発掘調査を実施した、むつ小川原開発事業予定地内「表館(1)遺跡（青森県教育委員会登録番号50019）」の報告書である。
- (2) 本報告書の執筆者の氏名は、文頭もしくは文末に付した。
- (3) 遺構内の焼土・ローム・炭化物・貼り床等はスクリーントーンを用いて示し、その都度図中に注記した。
- (4) 標準層序、遺構内堆積土の色調は『新版標準土色帖』（小川、竹原編 1967）に基づいて記載した。
- (5) 出土遺物には観察表を付し、観察表中の計測値の（ ）の中に入れた数値は現存値である。
- (6) 住居跡の床面積の計測については、 $S = 1/20$ の実測図を用い、壁の下端と床面との接点を基準として、プランメータで3回計り、その平均値を使用した。なお、その数値は、床面（柱穴等含む）全体の面積である。
- (7) 図版縮尺は、原則として次のようにした。これ以外の縮尺を用いた場合には、その都度図中に示した。

縦穴住居跡・土壙・溝状ピット— 1/50

土器実測図・拓影— 1/2.5・1/3、剥片石器— 1/1.5・1/2、礫石器— 1/2.5・  
1/3

- (8) 引用・参考文献は一括収録した。
- (9) 石器の鑑定及び分析等は次の方々に依頼した。
  - ・石質鑑定 青森県立八戸高等学校教諭 松山 力
  - ・花粉分析 パリノ・サーヴェイ株式会社
  - ・放射性炭素年代測定 学習院大学教授 木越邦彦
- (10) 本遺跡出土の遺物、実測図面、撮影写真等は、現在当センターで保管している。
- (11) 発掘調査及び整理作業に際しては、下記の機関や方々からご教示を得た。

工藤竹久・長尾正義・鍋島直久・利部修・谷地薫・桜田隆・村木淳・秋元信夫

  - ・大沼忠春・名久井文明・熊谷常正・石岡憲雄





# 目 次

序	
例 言	
目 次	
第Ⅰ章 調査経過と調査要項	
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	2
第Ⅱ章 調査の概要	
第1節 調査の方法	3
第2節 調査の概要	3
第3節 遺物の分類	5
第Ⅲ章 遺跡の地形と層序	
第1節 遺跡の周辺の地形	9
第2節 遺跡周辺の地質	10
第3節 遺跡の基本層序	11
第Ⅳ章 検出遺構と出土遺物	
第1節 表館(1)遺跡Ⅰ地区の検出遺構と遺構内出土遺物	
1. 検出遺構と遺構内出土遺物	
(1) 住居跡	18
(2) 土 壙	64
(3) 溝状ピット	77
2. 遺構外出土遺物	
(1)土 器	80
(2)石 器	102
第2節 表館(1)遺跡Ⅱ地区の検出遺構と出土遺物	
1. 検出遺構と遺構内出土遺物	
(1) 住居跡	131

(2) 土 壙	137
(3) 溝状ピット	139
2. 遺構外出土遺物	
(1) 土 器	143
(2) 石 器	158
第V章 調査の成果	
第1節 遺 構	
1. 住居跡	169
第2節 出土遺物	
1. 土 器	
ア. 第I群1類土器	172
イ. 第I群2類土器	173
2. 石 器	174
第VI章 自然科学的分析	
第1節 花粉分析	179
第2節 年代測定	181
第VII章 まとめ	182
引用参考文献	183

## 図版目次

第1図	遺跡位置図	4
第2図	遺跡周辺の鳥瞰図	10
第3図	遺跡周辺の地形分類図	11
第4図	表館(1)遺跡における基本層序の模式柱状図	12
第5図	調査区域図	15
第6図	I地区遺構配置図	16
第7図	I地区基本層序	17
第8図	第1号住居跡	19
第9図	第1号住居跡出土遺物(1)	20
第10図	第1号住居跡出土遺物(2)	21
第11図	第1号住居跡出土遺物(3)	22
第12図	第1号住居跡出土遺物(4)	23
第13図	第1号住居跡出土遺物(5)	24
第14図	第1号住居跡出土遺物(6)	25
第15図	第1号住居跡出土遺物(7)	26
第16図	第2号住居跡(1)	29
第17図	第2号住居跡(2)	30
第18図	第2号住居跡出土遺物(1)	31
第19図	第2号住居跡出土遺物(2)	32
第20図	第2号住居跡出土遺物(3)	33
第21図	第2号住居跡出土遺物(4)	34
第22図	第2号住居跡出土遺物(5)	35
第23図	第2号住居跡出土遺物(6)	36
第24図	第2号住居跡出土遺物(7)	37
第25図	第2号住居跡出土遺物(8)	38
第26図	第2号住居跡出土遺物(9)	39
第27図	第2号住居跡出土遺物(10)	40
第28図	第2号住居跡出土遺物(11)	41
第29図	第2号住居跡出土遺物(12)	42
第30図	第2号住居跡出土遺物(13)	43
第31図	第2号住居跡出土遺物(14)	44
第32図	第2号住居跡出土遺物(15)	45
第33図	第2号住居跡出土遺物(16)	46
第34図	第2号住居跡出土遺物(17)	47
第35図	第2号住居跡出土遺物(18)	48
第36図	第2号住居跡出土遺物(19)	49
第37図	第4号住居跡	52
第38図	第4号住居跡出土遺物(1)	53
第39図	第4号住居跡出土遺物(2)	54
第40図	第4号住居跡出土遺物(3)	55
第41図	第4号住居跡出土遺物(4)	56
第42図	第4号住居跡出土遺物(5)	57
第43図	第4号住居跡出土遺物(6)	58
第44図	第4号住居跡出土遺物(7)	59
第45図	第4号住居跡出土遺物(8)	60
第46図	第4号住居跡出土遺物(9)	61
第47図	第4号住居跡出土遺物(10)	62
第48図	第4号住居跡出土遺物(11)	63
第49図	第1号土壇	64
第50図	第2号土壇	65
第51図	第2号土壇出土遺物	65
第52図	第3号土壇	66
第53図	第5号土壇出土遺物	66
第54図	第5号土壇	67
第55図	第6号土壇	68
第56図	第7号土壇	68
第57図	第8号土壇	69
第58図	第10号土壇	70
第59図	第11号土壇	71
第60図	第12号土壇	71
第61図	第12号土壇出土遺物	72
第62図	第13号土壇	72
第63図	第13号土壇出土遺物	72
第64図	第14号土壇	73
第65図	第15号土壇	74
第66図	第16号土壇	74
第67図	第16号土壇出土遺物	74
第68図	第17号土壇	75
第69図	第18号土壇	76
第70図	第1号溝状ピット	77
第71図	第1号溝状ピット出土遺物(1)	78
第72図	第1号溝状ピット出土遺物(2)	78
第73図	第2号溝状ピット	79
第74図	I地区土器分布	80
第75図	I地区遺構外出土土器(1)	86
第76図	I地区遺構外出土土器(2)	87
第77図	I地区遺構外出土土器(3)	88
第78図	I地区遺構外出土土器(4)	89
第79図	I地区遺構外出土土器(5)	90

第80図	I 地区遺構外出土土器(6)……………	91	第120図	第20号土壙出土遺物(1)……………	137
第81図	I 地区遺構外出土土器(7)……………	92	第121図	第20号土壙出土遺物(2)……………	137
第82図	I 地区遺構外出土土器(8)……………	93	第122図	第21号土壙……………	138
第83図	I 地区遺構外出土土器(9)……………	94	第123図	第21号土壙出土遺物……………	138
第84図	I 地区遺構外出土土器(10)……………	95	第124図	第3号溝状ピット……………	139
第85図	I 地区遺構外出土土器(11)……………	96	第125図	第3号溝状ピット出土遺物(1)……………	139
第86図	I 地区遺構外出土土器(12)……………	97	第126図	第3号溝状ピット出土遺物(2)……………	140
第87図	I 地区遺構外出土土器(13)……………	98	第127図	第4号溝状ピット……………	140
第88図	I 地区遺構外出土土器(14)……………	99	第128図	第5号溝状ピット……………	142
第89図	I 地区遺構外出土土器(15)……………	100	第129図	白浜・小船渡平式土器分布図……………	143
第90図	I 地区遺構外出土土器(16)……………	101	第130図	II 地区遺構外出土土器(1)……………	147
第91図	I 地区石器分布図……………	102	第131図	II 地区遺構外出土土器(2)……………	148
第92図	I 地区遺構外出土石器(1)……………	107	第132図	II 地区遺構外出土土器(3)……………	149
第93図	I 地区遺構外出土石器(2)……………	108	第133図	II 地区遺構外出土土器(4)……………	150
第94図	I 地区遺構外出土石器(3)……………	109	第134図	II 地区遺構外出土土器(5)……………	151
第95図	I 地区遺構外出土石器(4)……………	110	第135図	II 地区遺構外出土土器(6)……………	152
第96図	I 地区遺構外出土石器(5)……………	111	第136図	II 地区遺構外出土土器(7)……………	153
第97図	I 地区遺構外出土石器(6)……………	112	第137図	II 地区遺構外出土土器(8)……………	154
第98図	I 地区遺構外出土石器(7)……………	113	第138図	II 地区遺構外出土土器(9)……………	155
第99図	I 地区遺構外出土石器(8)……………	114	第139図	II 地区遺構外出土土器(10)……………	156
第100図	I 地区遺構外出土石器(9)……………	115	第140図	II 地区遺構外出土土器(11)……………	157
第101図	I 地区遺構外出土石器(10)……………	116	第141図	II 地区石器分布図……………	158
第102図	I 地区遺構外出土石器(11)……………	117	第142図	II 地区遺構外出土石器(1)……………	161
第103図	I 地区遺構外出土石器(12)……………	118	第143図	II 地区遺構外出土石器(2)……………	162
第104図	I 地区遺構外出土石器(13)……………	119	第144図	II 地区遺構外出土石器(3)……………	163
第105図	I 地区遺構外出土石器(14)……………	120	第145図	II 地区遺構外出土石器(4)……………	164
第106図	I 地区遺構外出土石器(15)……………	121	第146図	II 地区遺構外出土石器(5)……………	165
第107図	I 地区遺構外出土石器(16)……………	122	第147図	II 地区遺構外出土石器(6)……………	166
第108図	I 地区遺構外出土石器(17)……………	123	第148図	II 地区遺構外出土石器(7)……………	167
第109図	I 地区遺構外出土石器(18)……………	124	第149図	II 地区遺構外出土石器(8)……………	168
第110図	I 地区遺構外出土石器(19)……………	125	第150図	I・II 地区石器組成……………	174
第111図	I 地区遺構外出土石器(20)……………	126	第151図	I 地区石錘分布図・石器の石質傾向……………	176
第112図	II 地区遺構配置図……………	129	第152図	石器の大きさ……………	177
第113図	II 地区基本層序……………	130	第153図	石器の大きさ・重さ……………	178
第114図	第5号住居跡……………	132			
第115図	第5号住居跡出土遺物(1)……………	133			
第116図	第5号住居跡出土遺物(2)……………	134			
第117図	第6号住居跡……………	135			
第118図	第6号住居跡出土遺物……………	136			
第119図	第20号土壙……………	137			

## 表目次

第1表	I地区出土石器一覧表	102
第2表	II地区出土石器一覧表	158
第3表	青森県内の白浜式期の住居跡	170
第4表	青森県内の物見台式期の住居跡	171
第5表	青森県内の物見台式出土遺跡	173
第6表	表館(1)遺跡分析試料表	180
第7表	表館(1)遺跡花粉分析結果	180

## 写真目次

写真1	I地区遠景写真・基本層序	1
写真2	I地区住居跡(1)	2
写真3	I地区住居跡(2)	3
写真4	I地区住居跡・土壌	4
写真5	I地区土壌	5
写真6	I地区土壌・溝状ピット	6
写真7	I地区住居跡出土土器(1)	7
写真8	I地区住居跡出土土器(2)	8
写真9	I地区住居跡出土土器(3)	9
写真10	I地区住居跡出土土器(4)	10
写真11	I地区住居跡出土土器(5)	11
写真12	I地区住居跡・遺構外出土土器	12
写真13	I地区遺構外出土土器(1)	13
写真14	I地区遺構外出土土器(2)	14
写真15	I地区遺構外出土土器・住居跡出土石器	15
写真16	I地区住居跡出土土器(1)	16
写真17	I地区住居跡出土土器(2)	17
写真18	I地区住居跡出土土器(3)	18
写真19	I地区住居跡・土壌・溝状ピット・遺構外出土石器	19
写真20	I地区遺構外出土土器(1)	20
写真21	I地区遺構外出土土器(2)	21
写真22	I地区遺構外出土土器(3)	22
写真23	I地区遺構外出土土器(4)	23
写真24	I地区遺構外出土土器(5)	24
写真25	I地区遺構外出土土器(6)	25
写真26	I地区遺構外出土土器(7)	26

写真27	I地区遺構外出土土器(8)	27
写真28	I地区遺構外出土土器(9)	28
写真29	II地区遠景写真・基本層序	29
写真30	II地区住居跡	30
写真31	II地区土壌・溝状ピット	31
写真32	II地区住居跡・溝状ピット・遺構外出土土器	32
写真33	II地区遺構外出土土器(1)	33
写真34	II地区遺構外出土土器(2)	34
写真35	II地区遺構外出土土器(3)	35
写真36	II地区住居跡・土壌・溝状ピット・遺構外出土石器	36
写真37	II地区遺構外出土土器(1)	37
写真38	II地区遺構外出土土器(2)	38
写真39	II地区遺構外出土土器(3)	39
写真40	花粉化石状写真	40



# 第Ⅰ章 調査に至る経過と調査要項

## 第1節 調査に至る経過

昭和44年度に発表された新全国総合開発計画に基づき、青森県では「陸奥湾・小川原湖地域の開発」を発表した。その後、昭和46年度には第一次基本計画として「むつ小川原地域開発構想の概要」が発表された。これと同時に、県教育委員会は開発予定地域内及びその周辺に分布する遺跡の所在確認のための分布調査を行い、翌47年度からは開発に伴う遺跡の保護対策の資料作成等のため試掘調査を実施して、遺跡の性格・規模等の概要把握に努めた。

昭和49年度には、むつ小川原開発第二次基本計画の骨子が発表され、また昭和52年3月にはむつ小川原開発第二次基本計画に係る環境影響評価報告書が示され、同年8月の閣議了解を経てむつ小川原開発は本格的に進められることになった。

これ以後、各種施設の建設計画が具体化するに伴い、県教育委員会ではこれに関わる遺跡の試掘調査及び発掘調査を実施してきた。

本遺跡については、昭和54年度に石油国家備蓄基地建設に伴う道路建設及びパイプライン敷設に係る発掘調査、昭和58年度には国道338号暫定迂回建設に伴う発掘調査、更に昭和62年には専用道路造成に係る発掘調査並びに試掘調査が実施されており、各々報告書が刊行されているが、この昭和62年度の専用道路に係る試掘調査において、さらに本調査を必要とする部分が、1,800㎡存在することが明らかとなった。

昭和62年9月10日、日本原燃サービス株式会社の放流管理設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の打合せ会議が開催され、同30日にはむつ小川原開発株式会社より専用道路および放流管理設事業に係る埋蔵文化財包蔵地の調査依頼があり、同年11月11日県教育委員会はこれについて昭和63年度に調査を実施する旨受諾回答した。

(三宅)

## 第2節 調査要項

### 1 調査目的

むつ小川原開発事業の実施に先立ち、当該地区に所在する埋蔵文化財の発掘調査を行い、その記録保存をはかり、地域社会の文化財の活用に資する。

### 2 調査期間

昭和63年5月9日から同年6月30日まで

### 3 遺跡名及び所在地

表館(1)遺跡 上北郡六ヶ所村鷹架字発茶沢2-44

### 4 調査面積

4,480m<sup>2</sup>

### 5 調査委託者

むつ小川原開発株式会社

### 6 調査受託者

青森県教育委員会

### 7 調査担当機関

青森県埋蔵文化調査センター

### 8 調査協力機関

六ヶ所村・六ヶ所村教育委員会・上北教育事務所

### 9 調査参加者

調査指導員 村越 潔 弘前大学教育学部教授

調査協力員 田中 澄 六ヶ所村教育委員会教育長

調査員 工藤雅哉 三戸郡三戸町立三戸中学校教諭（現弘前市立第一中学校教諭）

青森県埋蔵文化財調査センター

調査第三課長 三宅 徹也

総括主査 成田 滋彦

主事 奈良 昌毅

調査補助員 平野俊徳・工藤哲也・熊谷紀子・畠山ひろみ



## 第Ⅱ章 調査の概要

### 第1節 調査の方法

調査にあたっては、表館(1)遺跡が湿地を挟んで台地が別れているために北側をⅠ地区とし、東側の台地をⅡ地区と仮称した。発掘調査は、Ⅰ地区→Ⅱ地区の順序で実施した。

調査区の設定にあたっては、昭和62年度に青森県教育委員会文化課が試掘調査を実施した杭を用い、B J - 313とB M - 313の杭を基準線に用い、4 m四方のグリッドを設定した。南北の基準線はN - 8° - Eである。

グリッドは、南北方向にアルファベット、東西方向に算用数字を付し、その呼称は、南西隅の杭番号を使用し、例えばB J - 316区等と呼称した。グリッドの設定・呼称は、Ⅰ区・Ⅱ区共に同一である。

調査はグリッド法を用いた分層発掘とし、遺物が含まれている第Ⅲ・Ⅳ層の遺物を記録した後、遺構認面の第Ⅵ層まで掘り下げた。

遺構の精査は、堆積土層の観察用断面を残し、住居跡は四分法、他の遺構は二分法を用いて層序事に掘り下げた。土層の注記には『標準土色帳』を使用した。

### 第2節 調査の概要

5月9日 調査関係機関の担当者、調査員及び埋蔵文化財調査センター職員による発掘調査についての打ち合わせ会議が六ヶ所村立中央公民館で開催された。

5月10日 機材を運搬し調査を開始した。調査は調査区の北側からグリッド設定を行い、北側の台地をⅠ区と呼称した。この地区は、昭和62年度に青森県教育委員会文化課が試掘調査を行い、縄文時代早期の土器(物見台式)・石器及び遺構が出土しており、本調査でも多くの遺物や遺構の検出が予測されていた。

5月27日 むつ小川原開発株式会社から文化課長あてに放流管理設工事工法の変更により保安林に係る部分の発掘調査の依頼を取り消す旨の連絡を受けた。この結果、放流管理設部分の調査対象面積6000㎡のうち3,400㎡が調査不要となり、当初調査予定期間が1箇月短縮されて6月30日までとなった。

5月下旬に入って住居跡及び土壌が検出され始め、遺構の精査にとりかかった。

Ⅰ区では、縄文時代早期(物見台式)を主体とした住居跡・土壌と溝状ピットを検出した。遺構配置等から集落の外縁部に相当すると思われた。

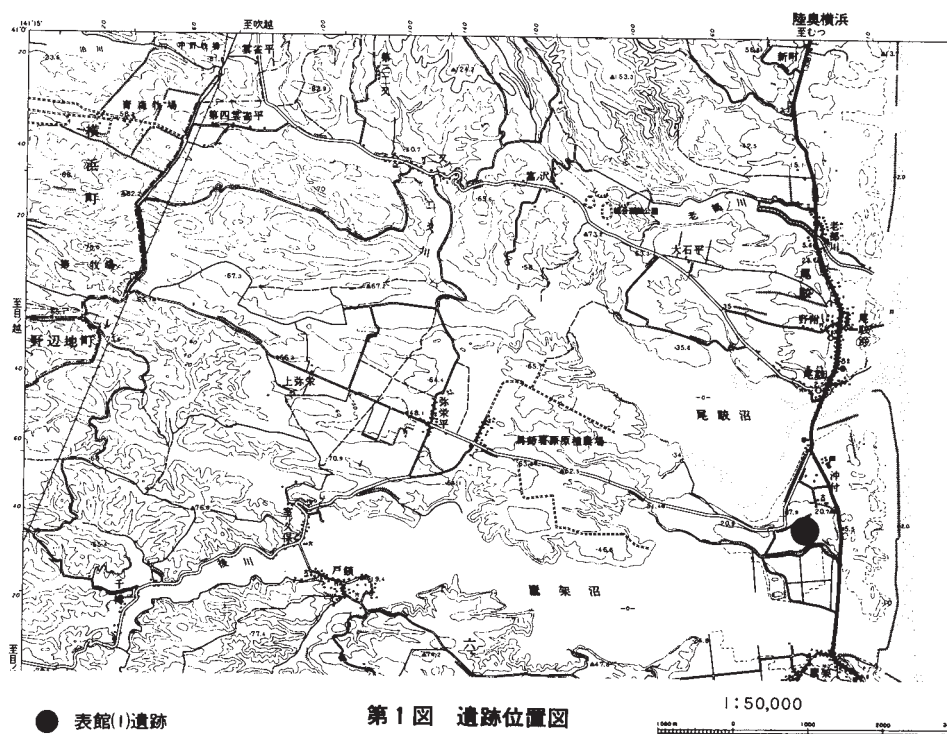
6月に入り、調査区の東側台地の調査を開始した。東側の台地をⅡ区と呼称する。この台地は、南側を昭和54年度に石油国家備蓄基地消化用水に係る工事で青森県教育委員会文化課が発

掘調査を行い、縄文時代早期(白浜式)が出土している(青森県教 1981)。今回の調査でも同時期の遺物が出土する事が予想された。

Ⅱ区では、グリッドA P-360 区を中心として縄文時代早期の遺物(白浜式)が出土し、それに伴う住居跡と縄文時代の溝状ピット・土壌を検出した。

6月30日には予定されたすべての調査を終了した。

(成田)



### 第3節 遺物の分類

本報告書で取り扱った土器は、縄文時代早期～晩期の各時期である。便宜的に縄文時代早期の土器を第Ⅰ群土器、縄文時代中期末葉～後期前葉の土器を第Ⅱ群土器、縄文時代晩期を第Ⅲ群土器と大別し、これを時期差・文様差などから種別を用い更に細別した。

#### 第Ⅰ群土器（縄文時代早期）

1類土器 貝殻条痕・刺突のみられる土器で、白浜・小舟渡平式に相当するもの。

本類土器は、施文文様の差から、A～E種に細別した。

- A. 沈線文を主体とするもの
- B. 刺突文を主体とするもの
- C. 貝殻文を主体とするもの
- D. 条痕文のみのもの
- E. 無文のもの

2類土器 貝殻腹縁文を主体とした土器で、物見台式に相当するもの。

本類土器は、施文文様の差から、A～F種に細別した。

- A. 貝殻腹縁文を主体とするもの
- B. 沈線文を主体とするもの
- C. 沈線と刺突を施文するもの
- D. 貝殻条痕文を施文するもの
- E. 無文のもの
- F. 底部破片のもの

3類土器 縄文のみられる土器で、東釧路Ⅳ式に相当するもの。

#### 第Ⅱ群土器（縄文時代中期末葉～後期前葉）

1類土器 縄文を主体とした粗製の深鉢型土器である。

#### 第Ⅲ群土器（縄文時代晩期）

1類土器 縄文を主体とした粗製の鉢型土器である。

### 石 器

本遺跡からは、石鏃、石槍、石錐、石匙、石篋、不定形石器、石核、石斧、加工礫、石錘、敲磨器類、石皿・台石が出土した。

石器は種類ごとに下記のように分類した。

#### A類 石 鏃

形態から次のように分類した。

I類 基部に抉入のあるもの

- a. 基部の抉り込みが極度に深く、長脚状のもの
- b. 基部の抉り込みがやや浅く、両側縁が湾曲して五角形に近い形状を呈するもの
- c. 尖頭部を欠損しているため全体の形状が不明のもの

II類 基部が直線的なもの

- a. 両側縁が直線的で、三角形の形状を呈するもの
- b. 両側縁が湾曲し、五角形に近い形状を呈するもの

III類 基部が尖るもの

IV類 基部欠損のため不明なもの

B類 石 槍

基部の形状から次のように分類した。

I類 いわゆる柳葉形を呈するもの

- a. 幅広で薄手のもの
- b. 細身で若干厚手のもの

II類 円基に近い形状を呈するもの

III類 基部残存部分が少ないために形状の不明なもの

C類 石 錐

つまみ状の頭部が作出されているもの

D類 石 匙

すべて縦型石匙で形状から次のように分類した。

I類 両側縁部が直線的で、先端部が尖るもの

II類 両側縁部が直線的で、先端部が丸いもの

III類 両側縁部及び先端部が直線的で、台形状を呈するもの

IV類 一方の側縁部が直線的で、他方の側縁部が湾曲するもの

V類 一方の側縁部が直線的で、他方の側縁部が鋸歯状のもの

E類 石 篋

平面形の形状から次のように分類した。

I類 基部が幅狭で三角形状ないし台形状を呈するもの

II類 楕円形状に近いもの

III類 長方形形状に近いもの

IV類 基部が尖り、五角形状を呈するもの

V類 両側縁部が凹み、ばち状を呈するもの

また、断面形の形状から

- a. 両面の湾曲の度合いが強く、凸レンズ状を呈するもの
- b. 両面の湾曲の度合いが弱く、扁平気味のもの
- c. 片面が平坦で、他面が盛り上がっているもの

#### F類 不定形石器

調整の状況によって次のように分類した。

I類 連続した調整が施され、いわゆるスクレイパーに属するもの

- a. 両面側縁部に調整が施され、ほぼ全周か二側縁部に及ぶもの
- b. 両面の一侧縁部に調整が施されているもの
- c. 片面側縁部に調整が施されているもの
- d. 片面の一侧縁部に調整が施されているもの

II類 連続した刃部調整のもの、あるいは連続するが極浅形調整の施されているもの

- a. 連続の極浅形調整が施されているもの
- b. 連続しない刃部調整のもの

III類 大まかな剝離が見られるが、定形的な刃部をもたないもの

IV類 使用痕の見られるもの

#### G類 石核

#### H類 石斧

I類 擦切磨製石斧に属するもの

II類 磨製石斧に属するもの

III類 打製石斧に属するもの

#### I類 加工礫

加工された部分によって次のように分類した。

I類 器体の長軸方向の一端部を加工しているもの

II類 器体の長軸方向と平行の一侧縁部を加工しているもの

#### J類 石錘

打ち欠きのある方向とその面数によって次のように分類した。

I類 器体の長軸方向と短軸方向に打ち欠きのあるもの

II類 器体の長軸方向に打ち欠きのあるもの

- a. 打ち欠きが、両端部で、しかも両面のもの
- b. 打ち欠きが一方の端部が両面で、他方の端部が片面のもの
- c. 打ち欠きが両端部で、しかも片面のもの

d. 打ち欠きが一端部だけのもの

Ⅲ類 器体の短軸方向に打ち欠きのあるもの

Ⅳ類 不整形なもの及び欠損のため形状の不明なもの

K類 敲磨器類

使用痕と平面形の形状から

I類 主要痕跡が磨(擦)痕のもの

- a. 楕円形及びその形状に近似のもの
- b. 円形及びその形状に近似のもの
- c. 棒状及びその形状に近似のもの
- d. 三角形及びその形状に近似のもの
- e. 不整形及び欠損のため形状の不明なもの

Ⅱ類 主要痕跡が敲打痕のもの

- a. 円形・楕円形状で扁平のもの
- b. 球状・卵形のもの
- c. 不整形のもの
- d. 欠損により形状不明のもの

Ⅲ類 主要痕跡が磨(擦)痕と敲打痕のもの

L類 石皿・台石類

なお、石器観察表の石質の項目には、下記の略号を用いた。

頁-頁岩      珪-珪質頁岩      玉珪-玉髓質の珪質頁岩      粘-粘板岩      砂-砂岩  
安-安山岩      閃-閃緑岩      チャ-チャート      石斑-石英斑岩      黒-黒曜石  
凝-凝灰岩      輝-輝緑岩      緑ホ-緑色ホルンフェルス      礫-礫岩

また、石器実測中における表現法のうち、スクリーントーンの使用部分は下記のとおりである。



ケンマ



スリ



タタキ

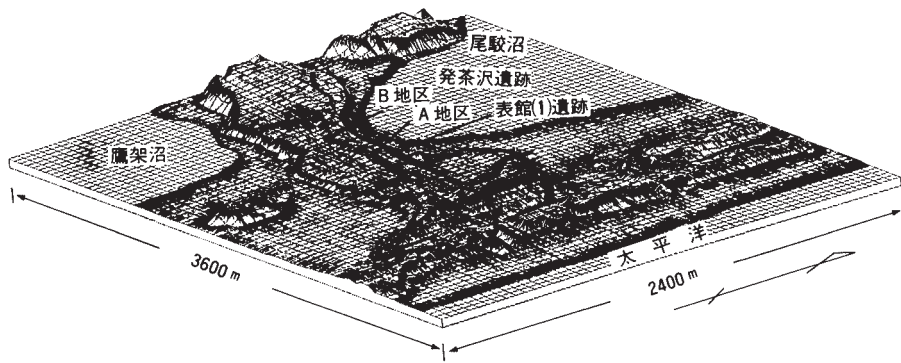
(成田・奈良)

## 第Ⅲ章 遺跡の地形と層序

### 第1節 遺跡周辺の地形（第2～4図）

上北郡六ヶ所村は、下北郡半島頸部の太平洋側に位置している。この付近には、北方から、尾駮沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、内沼、そして小川原湖の湖沼群がみられる。太平洋岸にはこれらの湖沼群を閉塞するような形で、天ヶ森砂丘が現汀線に沿って南北方向に約200mの幅で分布している。さらに内陸側には天ヶ森砂丘に並行する古砂丘の存在も認められ、約200～300mの幅で分布し、所々で標高20mを越す帯状の小丘地を成している。ただ、尾駮沼と鷹架沼との間はその幅が約800mにも達するところがあり、また段丘面に発達する小谷を埋積しているところもあって一部に湿地帯が認められる。現在、古砂丘は松林となっていて、防風・防砂林の役割を果たしている。

下北半島頸部には海岸段丘の発達も顕著であって、およそ4段の段丘面が確認できる。このうち、表館(1)及び登茶沢(1)の両遺跡が立地しているのは最下位の七鞍平段丘（標高12～50m）である。この七鞍平段丘は現汀線にほぼ平行して約4kmの幅で発達しているが、湖沼群の存在で断続的である。上位の段丘と比較して、開析度も小さくきわめて平坦であるのが一般的である。なお、上位の千歳段丘（標高60～100m）とは比高約10mの浸食斜面でもって接している。本段丘は、遺跡周辺においては東方へ舌状に張り出していて、尾駮沼及び鷹架沼の両沼に臨む付近では急峻な段丘崖となっている。本段丘は標高約30mを境にして地形的な差異が認められる。標高30m以上の高所（七鞍平段丘A面とする）では東方への傾斜の度合いがやや大きく、開析度も大きくやや起伏に富む地形となっている。この傾向は尾駮沼北方の大石平遺跡、上尾駮(1)・(2)遺跡等の立地する付近でも同様であって、特に上尾駮(2)遺跡C区においては標高30m付近に比高6～8mの急傾斜面が認められた。標高30m以下の低所では七鞍平段丘B面・C面・D面の3面に細分でき、いずれも比高2～3mの傾斜地をもって接している。B面は上述のA面に隣接し、一部は舌状に張り出した段丘のほぼ中央部に細長く帯状に分布していて、東縁部では南北に帯状となっている。標高17～30mであって、開析されて小丘地状を呈している。ただA面に隣接する付近では浸食されて東方への急傾斜地となっている。C面は標高14～20mであって、解析度も小さくきわめて平坦である。舌状に張り出した段丘のほぼ中央部に分布し、尾駮沼及び鷹架沼に面している。なお、一部は鷹架沼に臨む沖積平野内に残丘状に点在している。そして、D面は舌状の段丘の東端部にあって、標高12～15mである。一部小谷によって開析されているが、きわめて平坦である。東方の小谷内には古砂丘が埋積していて、その頭部には湿地帯が展開している。西方においては谷地形が明瞭で砂礫及び粘土の堆積が認められる。なお、段丘東縁部にはB面があって、D面が逆傾斜している。



第2図 遺跡周辺の鳥瞰図(「表館(1)遺跡Ⅲ」より)

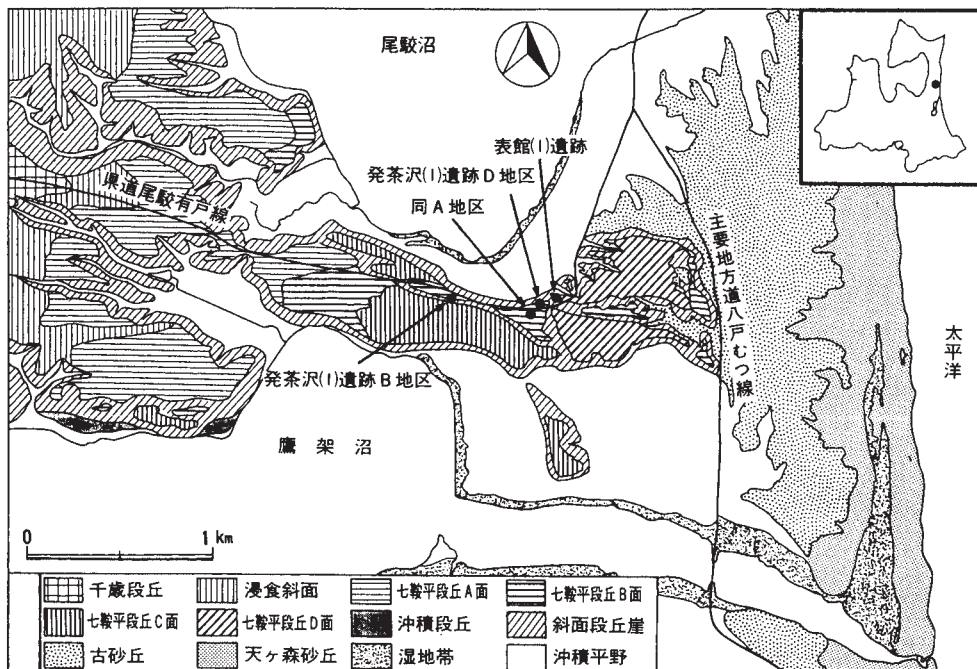
本遺跡の立地する地域は舌状に張り出した七鞍平段丘の東縁部にあつて、標高は12～17mである。段丘東縁部に分布する七鞍平段丘B面から西方へ緩傾斜しているD面上に占地している。その調査区域西端には東西100m、南北150mの低湿地帯があつて、古砂丘に被覆されている。この低湿地帯は、七鞍平段丘B面を開析する小谷の谷頭付近に位置するものであつて、湧水量が多い。なお、調査地域の東端は浸食段丘の野辺地層の上に直接ロームが堆積している。

## 第2節 遺跡周辺の地質

北半島の頸部を構成している地層のうち、基盤をなす地層は新第三系中新統の泊安山岩類及び鷹架層である。また、本地域に最も広く分布する地層は新第三系鮮新統の浜田層及び第四系下部洪積統の野辺地層である。泊安山岩類は安山岩質角礫岩及び同質集塊岩等からなつていて本地域北方の山岳地に広く分布している。鷹架層は主として塊状のシルト質砂岩からなり泊安山岩類の上部と指交関係にあつて、鷹架沼を中心ほぼ南北に分布している。浜田層は塊状無層理の砂質シルト岩との互層からなり、下位の中新統を不整合におおっている。また、野辺地層は全体的に砂とシルトの互層からなり、下位の第三系を不整合におおひ、ほぼ水平に堆積している。なお、野辺地層は段丘構成におおわれている。

七鞍平段丘の段丘構成層は段丘砂礫層と火山灰層とから成り立っている。段丘砂礫層は主に中～粗粒砂層からなり、時に薄層あるいはレンズ状の礫層を伴うことがある。なお、最下部には段丘礫層が堆積している。火山灰層は褐色ラピリ質浮石(千曳浮石C b. p)と下位の黄褐色粘土質火山灰(ローム)層である。千曳浮石層は本地域においては一般に薄層であつて鍵層となりうる。七鞍平段丘D面では千曳浮石層が粘土質に層相変化し、下位のローム層を伴わないことから、D面の形成時期は千曳浮石の降下時期に相前後するものと思われる。





第3図 遺跡周辺の地形分類図(「表館(1)遺跡Ⅲ」より)

### 第3節 遺跡の基本層序 (第4図)

遺跡内の各層の対比及び発茶沢(1)遺跡との対比は第4図に示したとおりである。本遺跡の調査区域及び西側に隣接する発茶沢(1)遺跡D地区は七鞍平段丘B面の北斜面からD面の平坦地にかけて位置する。D地区の北端は尾駁沼に面した急峻な段丘崖であり、本遺跡の北端は、尾駁沼の縁辺部に分布する低平な湿地帯へ連続している。

前年度の発茶沢(1)、表館(1)遺跡の調査では、飛砂の堆積が顕著に認められたが、本年度の調査区域では砂の混入は目立たず、ローム様粒子が認められた。また第Ⅱ層(昭和63年度の層序区分を踏襲する)は本調査区域ではきわめて薄いか欠如していた。これは第Ⅱ層が風成堆積を示す砂質層であるため古地形や風向・風力が一様でなかったためと思われる。第Ⅰ層は、その色調と混入物からⅠa層とⅠb層に識別できるが、表館(1)遺跡A地区ではⅠa・Ⅰbの区別ができたがB地区では区別ができずⅠ層として取り扱った。

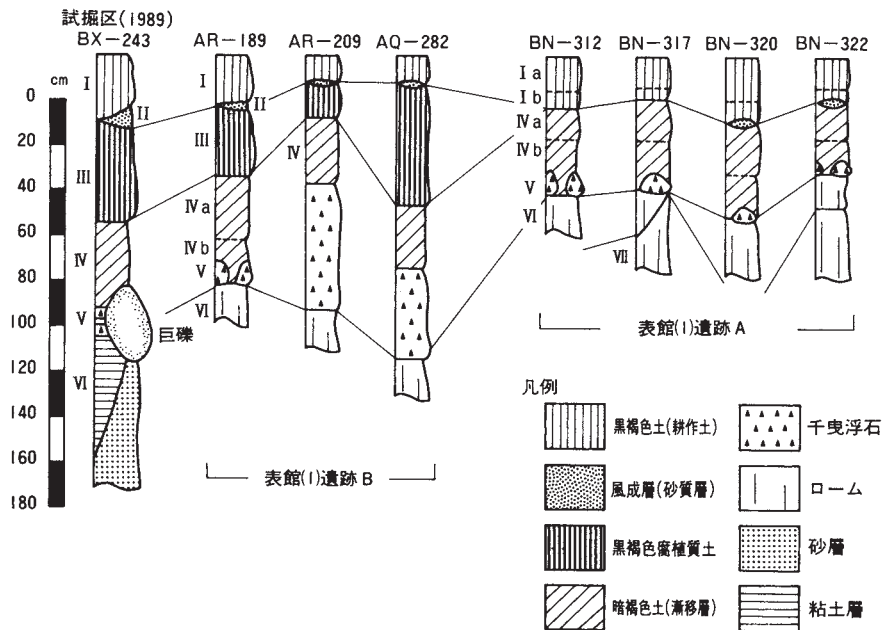
各層の概要は次のとおりである。

Ⅰ層 黒褐色土層(10～30cm) 耕作土。草根を多く含む。ややしまりがあり、粘性もある色調の違いからⅠa層、Ⅰb層に区分できる。Ⅰb層はⅠa層より色調が明るく、ローム粒を若干含む。

Ⅱ層 暗褐色砂質土層(0～10cm) 風成堆積物と考えられ、局所的な分布を示す。全くしまりがなくソフトである。

- III層 黒褐色腐植土層(0～50cm) ローム粒子を少量含む。しまり・粘性あり。表館(1)遺跡A地区では欠くところも見られるが、B地区では東方に向かって厚く堆積している。
- IV層 黒褐色～暗褐色土層(10～50cm) 下位の千曳浮石層からの漸移層である。色調からIV a層、IV b層に区分でき、下位のIV b層に千曳浮石がブロック状で含まれるのに対しIV a層には千曳浮石が粒子状で含まれる。粘性・しまりともにある。
- V層 千曳浮石層(5～40cm) 黄褐色ラピリ質浮石である。浸食されて欠如しているところもある。非常に緻密であるが、上面は浸食されて脆い。
- VI層 淡赤灰色粘土質ローム層(20cm～) V層直下に伴う暗色帯で、クラックの発達が見られる。混入物を含まない。粘土質でしまりがある。
- VII層 黄褐色粘土質ローム層(20cm～) 粘性が強くしまりがある。
- VIII層 黄褐色中粒砂層段丘砂層である。
- 本遺跡からの遺物の出土は、III層下部からIV a層までの間から縄文早期、同じくIII層下部から縄文前期、III層上部から縄文後期～晩期のものが出土している。

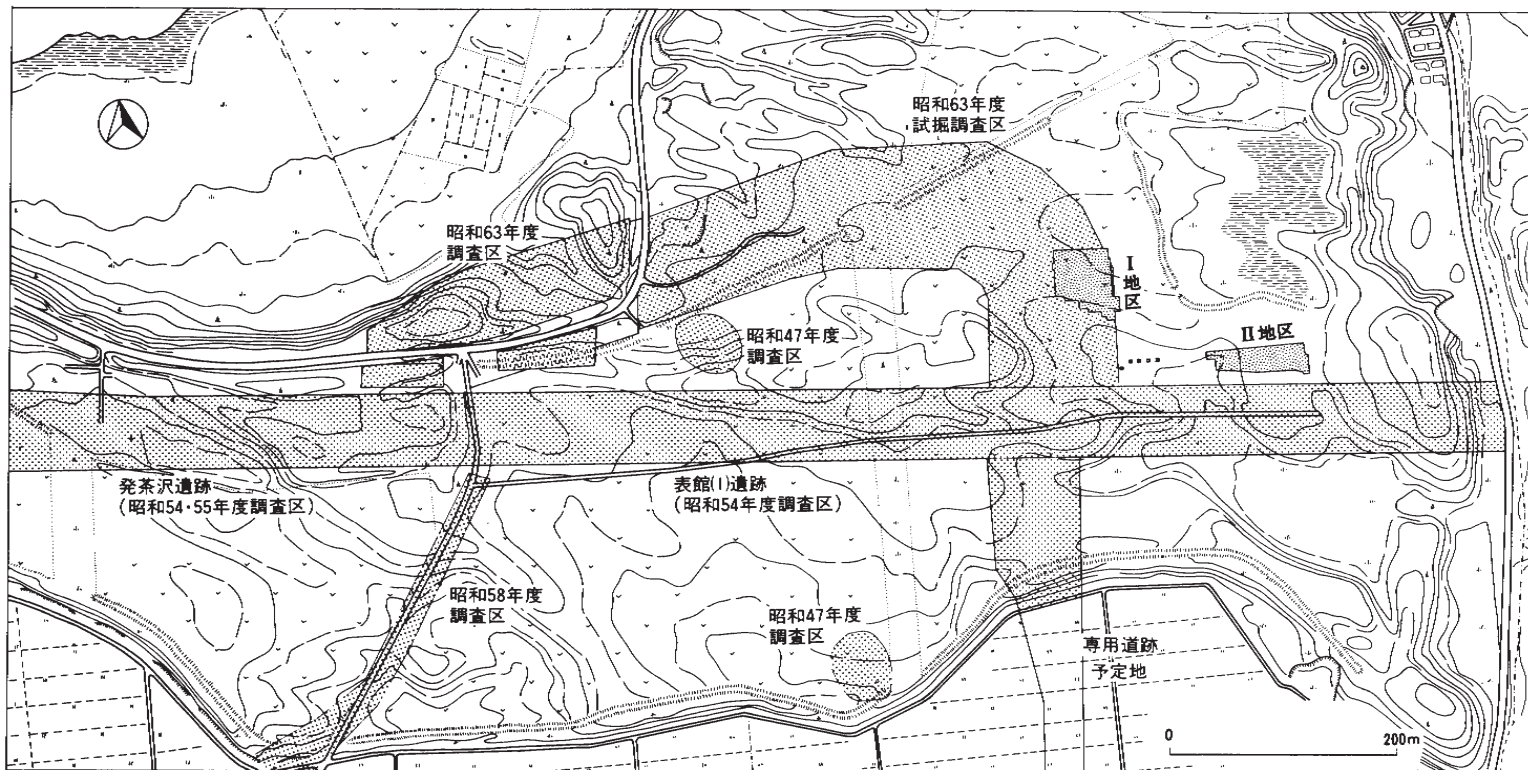
(工藤)



第4図 表館(1)遺跡における基本層序の模式柱状図


# 表館( 1 )遺跡 I 地区

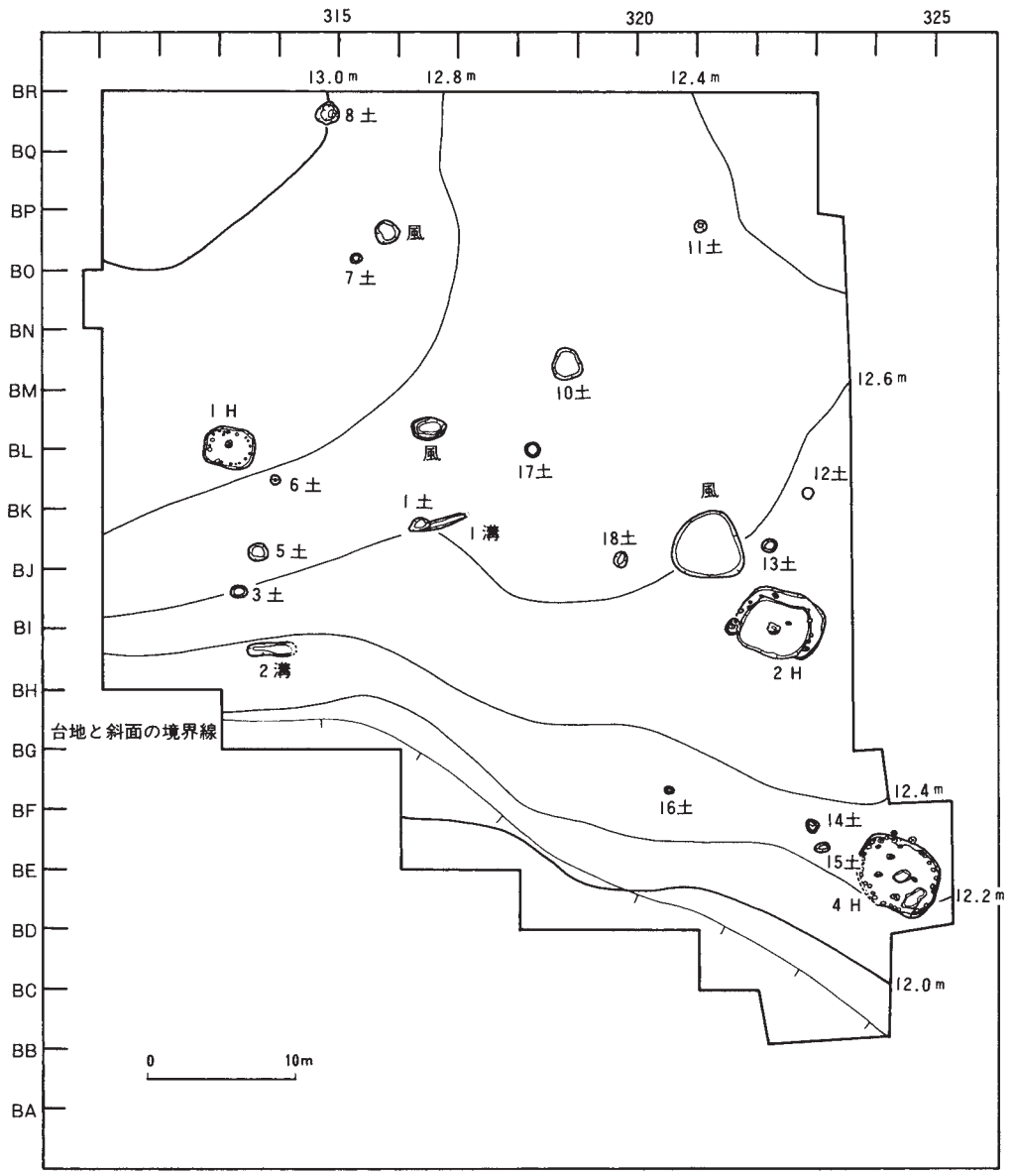




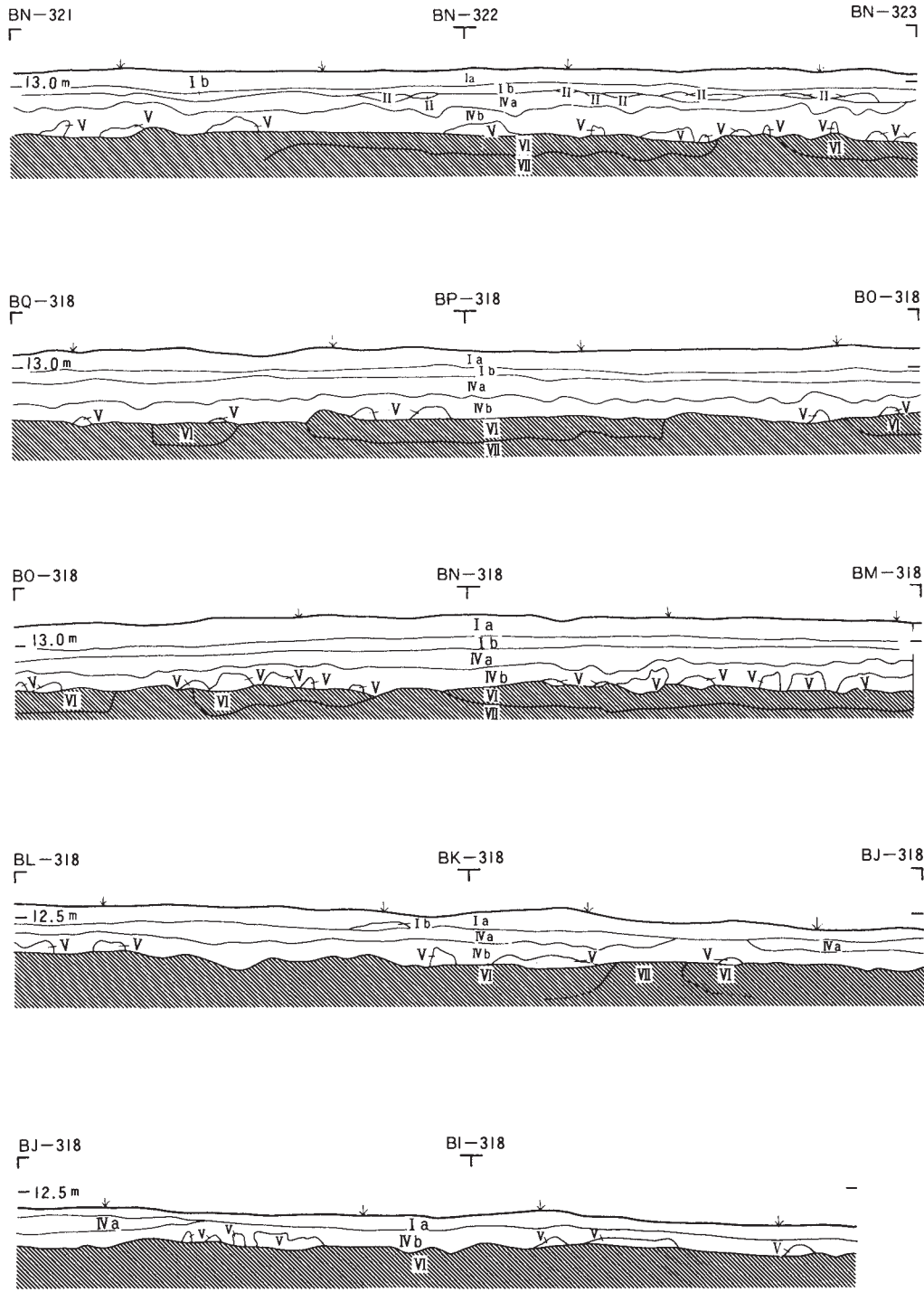
第5図 調査区域図

 調査終了区範囲

 本年度調査区範囲



H：住居跡    溝：溝状ピット  
 土：土墳    風：風倒木  
 第6図 I地区遺構配置図



第 7 图 I 地区基本層序

## 第IV章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 表館(1)遺跡I地区の検出遺構と遺構内出土遺物

#### 1. 検出遺構と遺構内出土遺物

本地区で検出された遺構は、住居跡3軒・土壇16基・溝状ピット2基である。

##### (1) 住居跡

##### 第1号住居跡(第8～15図)

〈位置と確認〉調査区北側平坦面のBK・BL-312・313グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で確認した。

〈重複〉第2号土壇と重複し、切り合い関係は本住居跡が古い。

〈平面形・規模〉平面形は、隅丸長方形に近い形状を呈する。規模は、長径3m32cm・短径2m82cmで、床面積は7.35㎡と小型である。

〈壁〉基本層序第IV b層を掘り込んで構築しており、やや堅緻である。掘り込みの確認面から床面までの深さは5～10cmと浅い。

〈床面〉基本層序第IV b層を削平し、直接床面としている。ほぼ平坦で、P3周辺の中央部がやや堅緻である。

〈柱穴〉検出できたピットは20個である。P3は〈付属施設〉の項目で記載する。ピットの配置は壁際に位置するが、柱痕跡は検出できなかった。

##### ピット計測表

No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	14×14	8.9	2	円形	12×11	7.2	3	不整形	35×20	11.7
4	円形	10×9	3.8	5	円形	7×7	5.2	6	楕円形	11×8	5.2
7	楕円形	7×5	5.2	8	円形	10×9	4.7	9	円形	8×7	8.8
10	円形	13×13	8.2	11	楕円形	18×11	12.5	12	円形	7×6	5.2
13	楕円形	7×6	3.2	14	円形	8×7	6.5	15	円形	7×7	10.7
16	楕円形	7×6	4.6	17	円形	7×7	4.6	18	円形	6×6	7.8
19	円形	6×6	7.4	20	楕円形	9×7	7.3				

〈炉〉検出できなかった。

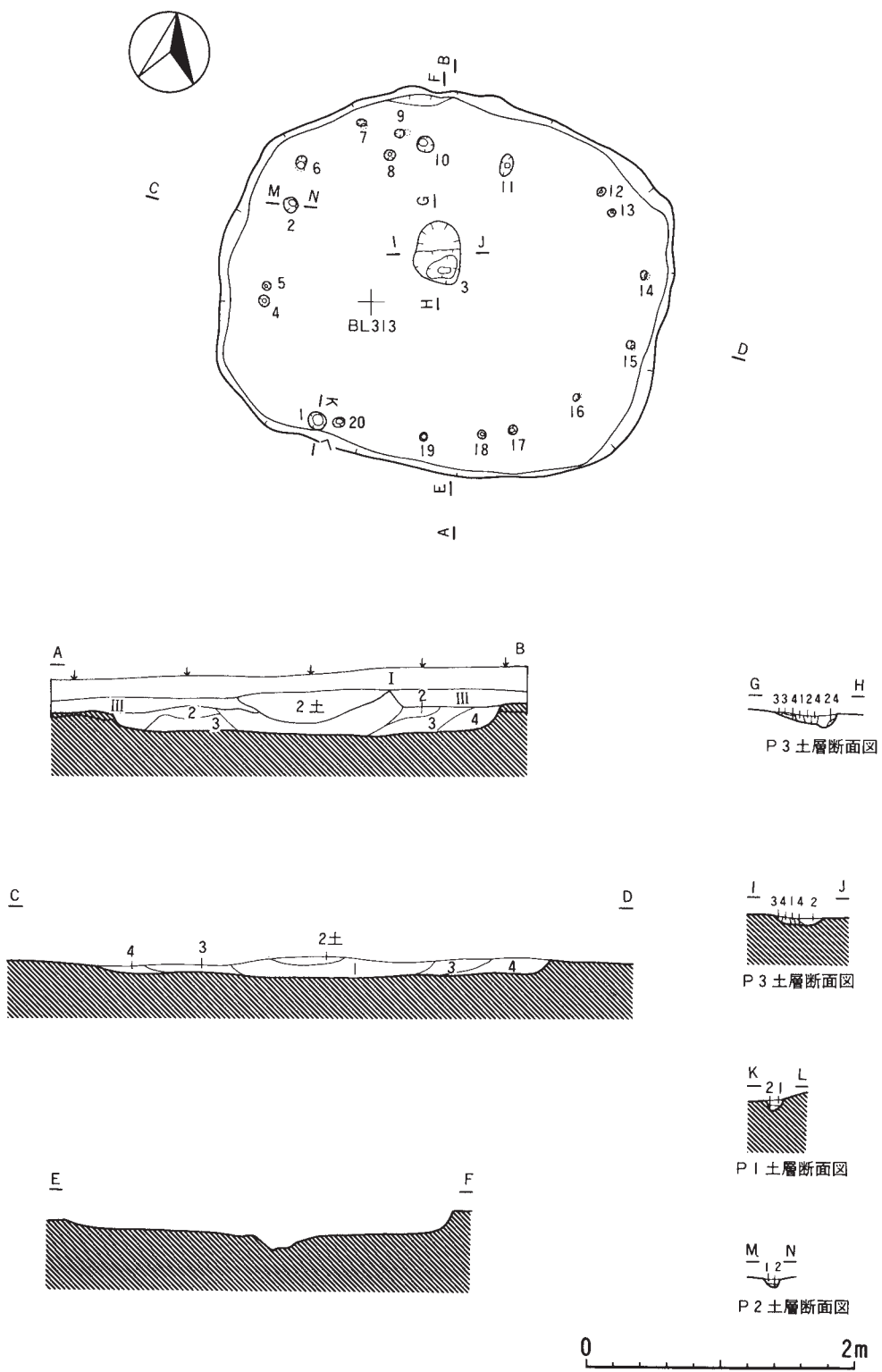
〈付属施設〉P3は堅穴の中央部に位置しており、長形76cm・短径36cm、床面からの深さ9cmの不整な楕円形を呈する。その堆積土は本住居跡の堆積土に類似しており、住居跡に付随すると思われるが、その性格については不明である。

〈堆積土〉4層に区分できた。その堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

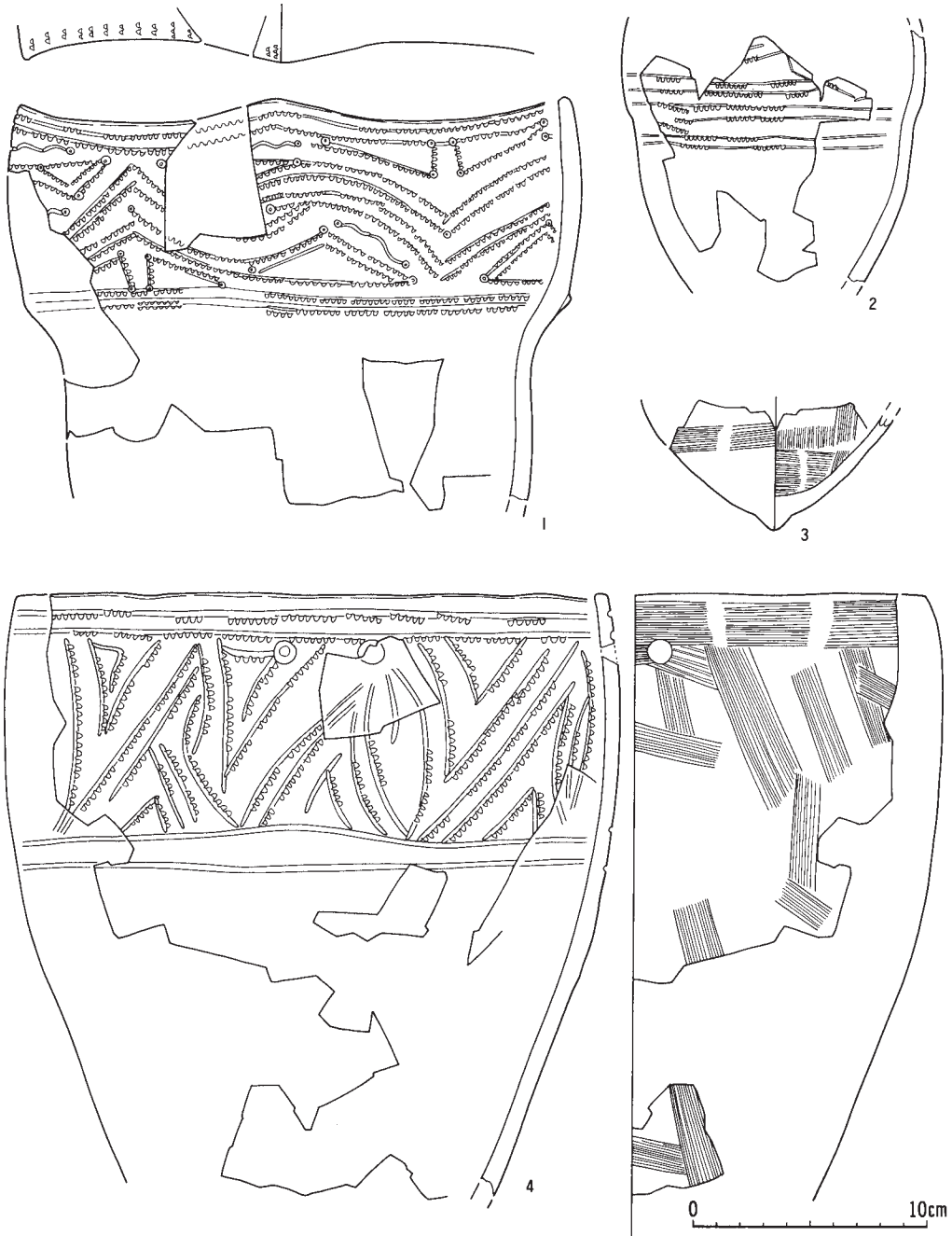
##### 〈出土遺物〉(第9～15図)

復元できた3個(1)・(2)・(4)の土器の出土状態は、土器を意識的に破壊して住居跡内のほぼ全面にまいて廃棄したのではないかと考えられる状況であるため、住居跡内のすべての土器は同一時期と考えられる。出土した土器はすべて第I群2類土器である。





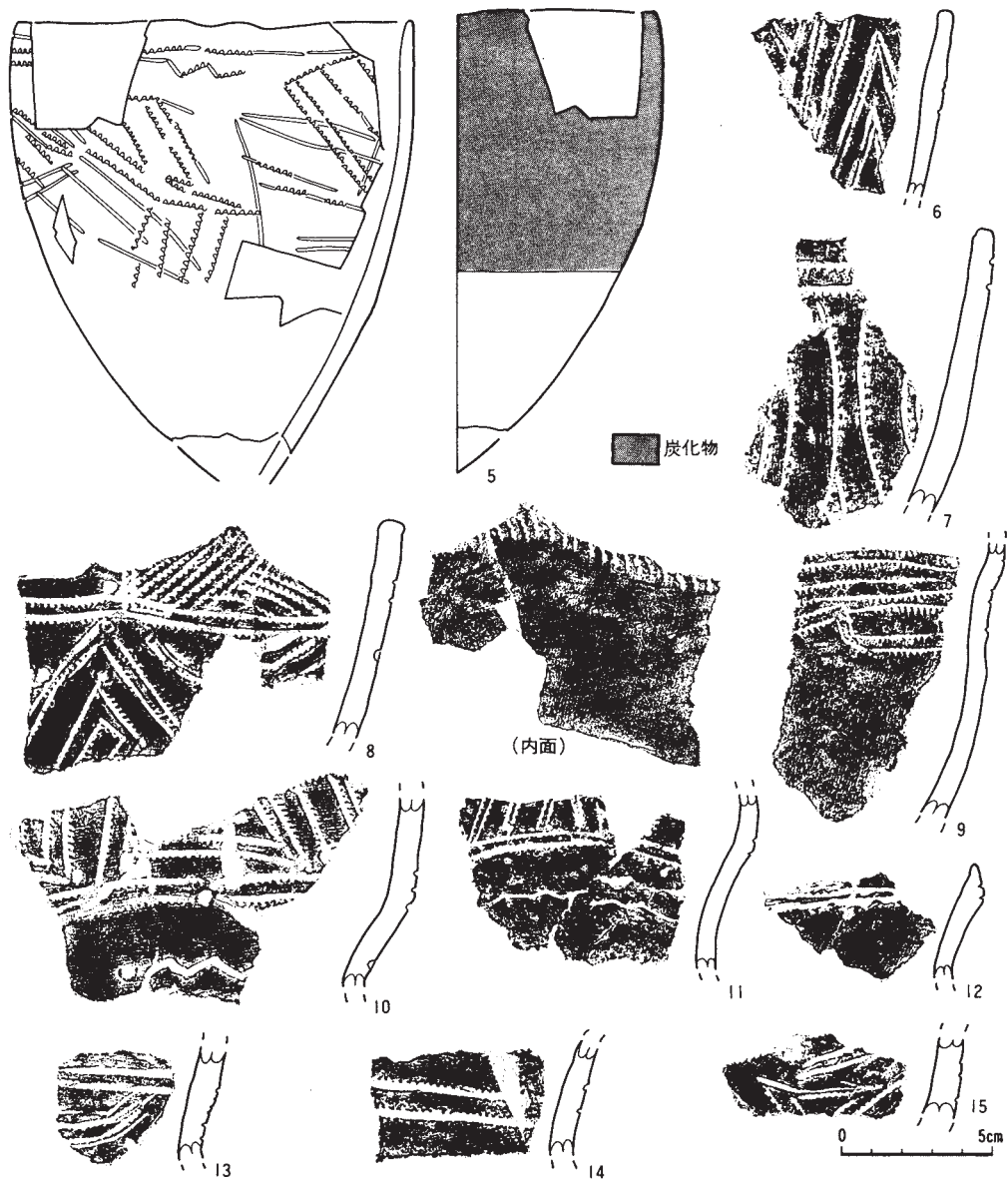
第8图 第1号住居跡



第1号住居跡出土土器観察表(1)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
1	1H 床面	深鉢	山形状文(貝殻腹縁)、鋸齒状沈線、波状口縁、粘土状(刺突)	貝殻刺突	I群2類A種
2	1H 床面	鉢	山形状文(貝殻腹縁)、鋸齒状沈線、波状口縁、粘土状(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
3	1H 床面	底	貝殻条痕	貝殻条痕	I群2類
4	1H 床面	深鉢	弧状文(貝殻腹縁)、補修孔、平口縁		I群2類A種

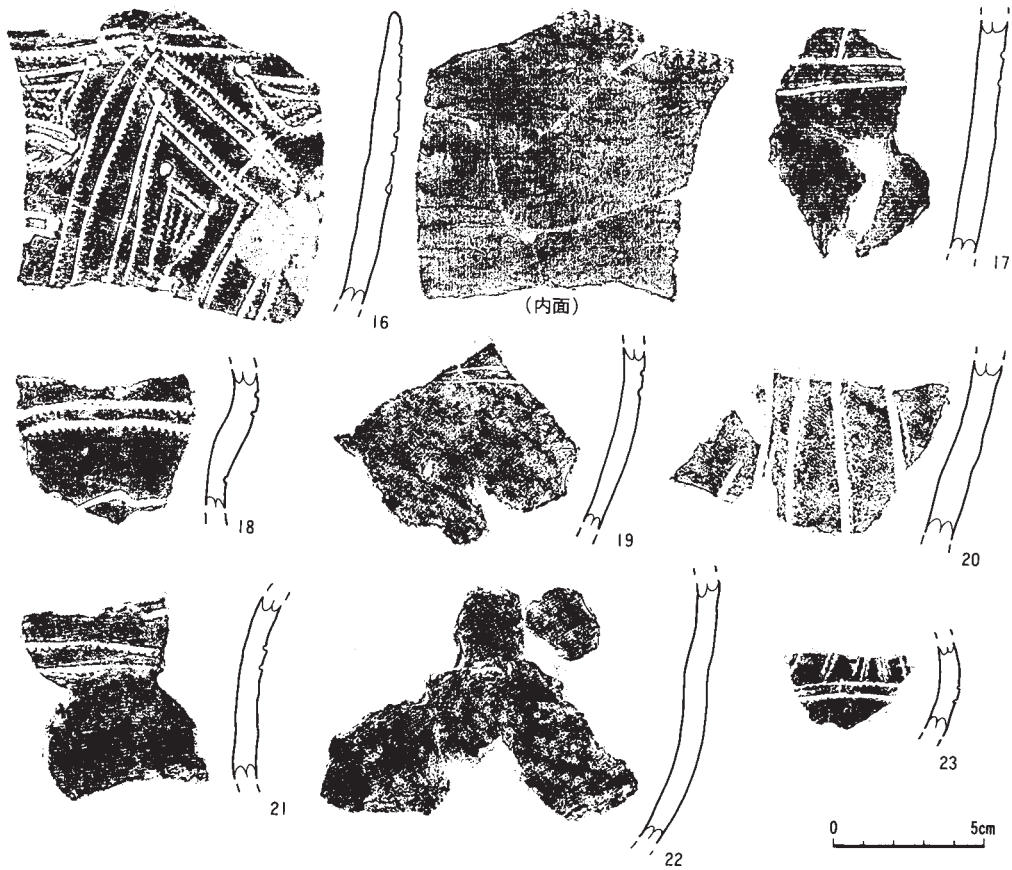
第9図 第1号住居跡出土遺物(1)



第1号住居跡出土土器観察表(2)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
5	1H 床面	鉢形	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
6	1H 1層	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、粘土状(刺突)、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
7	1H 床面	口縁	縦位弧状文(貝殻腹縁)、平口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種
8	1H 1層	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
9	1H 床面	胴	方形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
10	1H 床直	胴	方形状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
11	1H 覆土	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
12	1H 床面	口縁	貝殻腹縁文・沈線	ナデ調整	I群2類A種
13	1H 覆土	口頸	横位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
14	1H 覆土	胴	貝殻腹縁文・沈線	ヘラナデ調整	I群2類A種
15	1H 床面	胴	方形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種

第10図 第1号住居跡出土遺物(2)



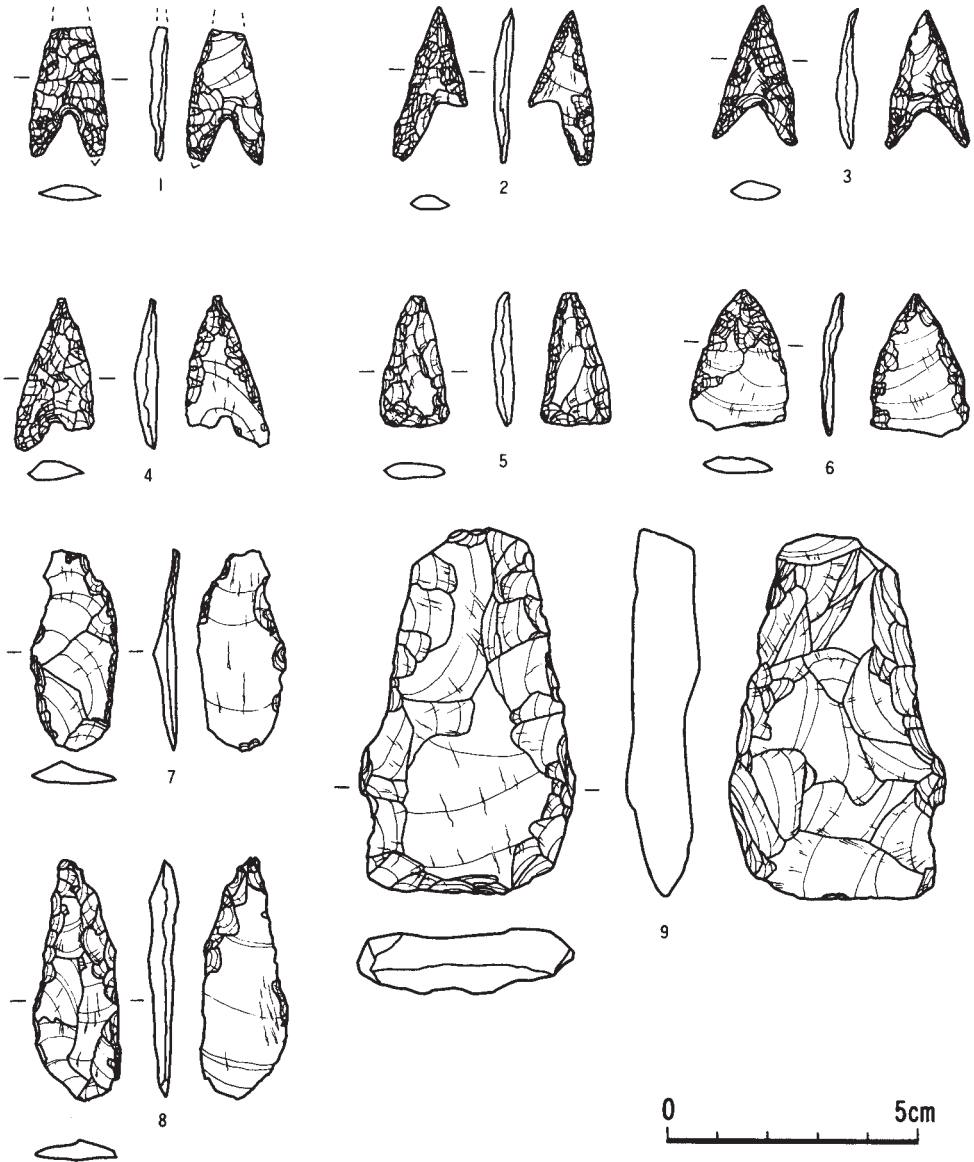
第1号住居跡出土土器観察表(3)

番号	地区・層位	部位	外面 施文 文様	内面	分類
16	1H 覆土	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
17	1H 床面	胴	横・縦位(沈線)	ヘラナデ調整	I群2類B種
18	1H 床直	胴	貝殻腹縁文、円形刺突、鋸歯状(沈線)	ナデ調整	I群2類A種
19	1H 床面	胴	横位(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
20	1H 床直	胴	縦位状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I群2類A種
21	1H 床直	胴	貝殻腹縁文、鋸歯状沈線、円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
22	1H 床面	底辺	火熱による剝落が著るしい	ナデ調整	I群2類
23	1H 床直	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種

第11図 第1号住居跡出土遺物(3)

土器の紋様構成は、貝殻腹縁文を多用した横位弧状文(1)・縦位弧状文(4)・(8)・(9)である。

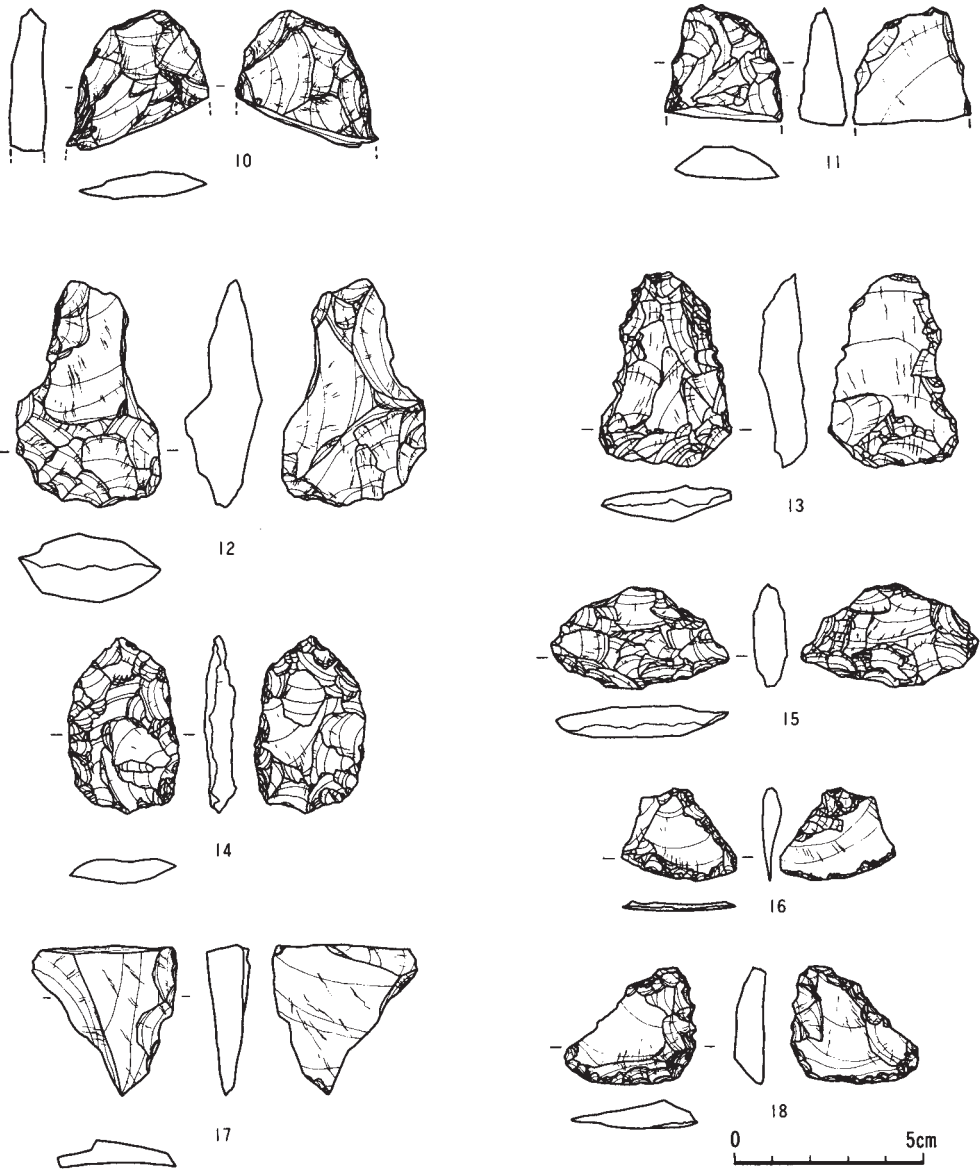
石器は、石鏃6点・石匙2点・石筥5点・不定形石器20点・チップ640点が出土している。出土石器から、本住居跡は縄文時代早期の物見台式期である。



第1号住居跡出土石器計測表(1)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第12図-1	1 H	覆土	(26)	(15)	3	(1.1)	珩	A-I a	1	尖頭部欠損
第12図-2	1 H	床面	(31)	12	3	(0.7)	珩	A-I a	3	基部欠損
第12図-3	1 H	床面	27	18	4	1.2	珩	A-I a	5	
第12図-4	1 H	3(床面)	(29)	(10)	4	(1.1)	珩	A-I a	7	基部欠損
第12図-5	1 H	覆土	28	14	3	1.2	珩	A-II a	2	
第12図-6	1 H	床面	27	20	3	1.5	珩	A-II b	36	
第12図-7	1 H	覆土	40	17	3	2.0	珩	D-II	8	
第12図-8	1 H	覆土	47	17	4	2.9	珩	D-IV	10	
第12図-9	1 H	床面	72	42	12	34.8	珩	E-I b	4	

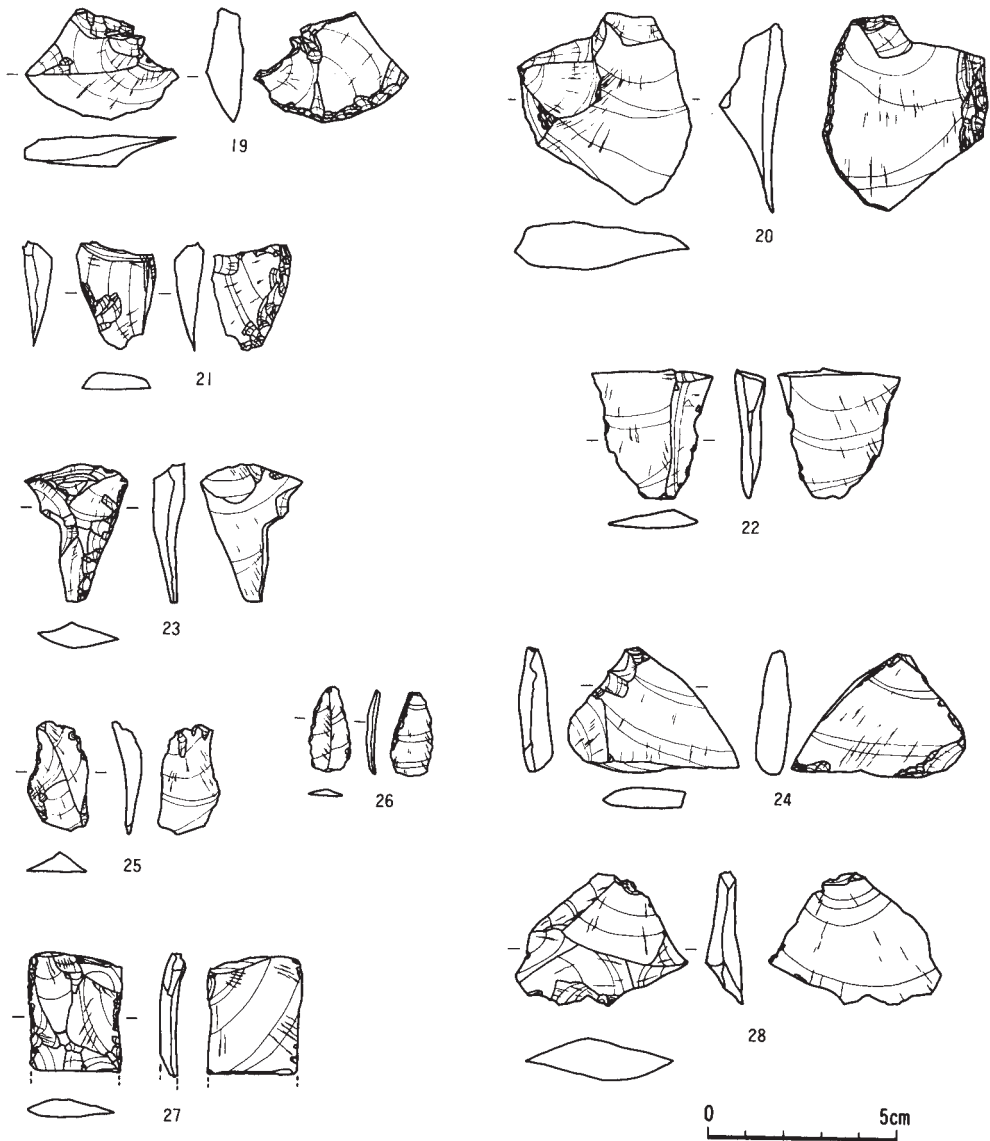
第12図 第1号住居跡出土遺物(4)



第1号住居跡出土石器計測表(2)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第13図-10	1 H	床面	(42)	(35)	8	(9.3)	珪	E-I b	32	基部残存
第13図-11	1 H	床直	(30)	(31)	12	(10.7)	珪	E-I c	17	基部残存
第13図-12	1 H	床面	59	39	15	29.0	珪	E-V a	16	
第13図-13	1 H	床面	52	35	10	16.0	珪	E-I c	34	
第13図-14	1 H	覆土	46	29	7	10.9	珪	F-I a	11	
第13図-15	1 H	床面	27	47	8	8.8	珪	F-I a	28	
第13図-16	1 H	覆土	23	29	5	2.0	珪	F-I a	12	
第13図-17	1 H	床直	33	44	10	9.1	珪	F-I d	18	
第13図-18	1 H	床面	33	34	7	7.3	珪	F-I c	22	

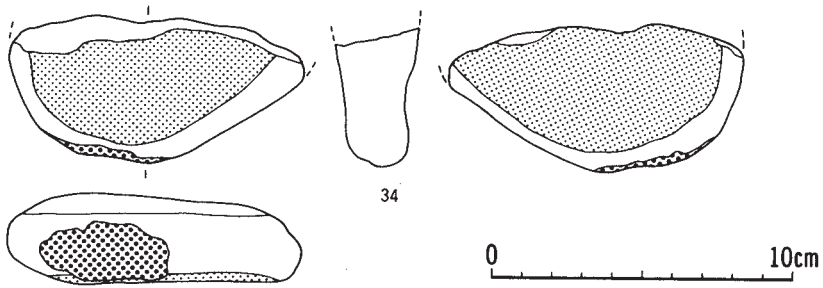
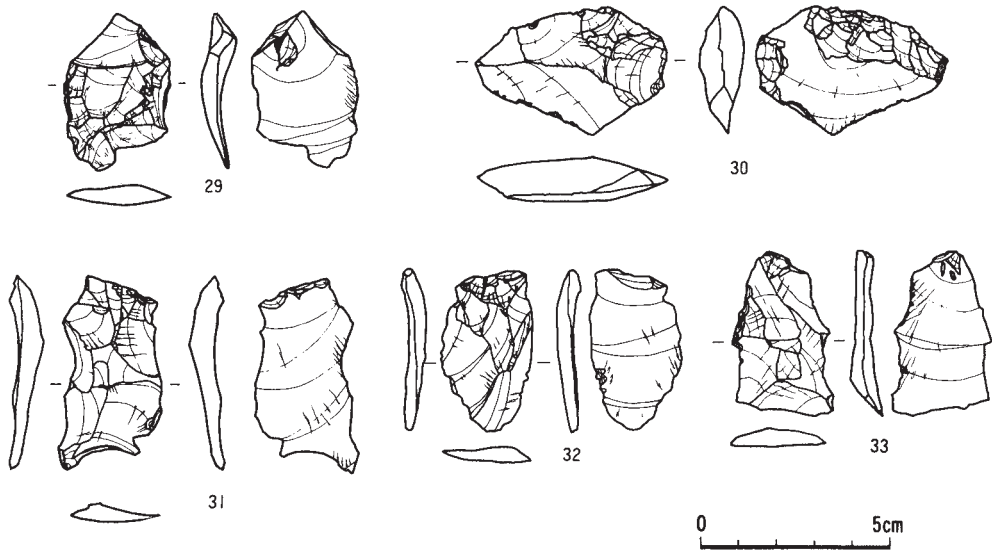
第13図 第1号住居跡出土遺物(5)



第1号住居跡出土石器計測表(3)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第14図-19	1 H	床面	26	41	9	9.1	珪	F-I d	26	
第14図-20	1 H	床面	50	42	13	20.9	珪	F-I d	27	
第14図-21	1 H	3(床面)	20	26	7	3.2	珪	F-I d	19	
第14図-22	1 H	覆土	34	33	8	5.6	珪	F-IV	9	
第14図-23	1 H	床面	37	27	8	4.4	珪	F-I d	31	
第14図-24	1 H	床面	34	43	8	9.7	珪	F-II b	23	
第14図-25	1 H	床面	13	12	4	1.7	珪	F-II a	30	
第14図-26	1 H	床面	22	10	2	0.4	珪	F-II a	6	
第14図-27	1 H	床直	36	37	5	4.6	珪	F-II a	13	
第14図-28	1 H	床面	37	43	10	11.9	珪	F-IV	21	

第14図 第1号住居跡出土遺物(6)



第1号住居跡出土石器計測表(4)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第15図-29	1 H	床面	40	31	6	5.7	珪	F-IV	15	
第15図-30	1 H	4(床直)	34	51	11	16.4	珪	F-IV	29	
第15図-31	1 H	床面	48	27	6	6.3	珪	F-IV	35	
第15図-32	1 H	床面	42	24	4	3.8	珪	F-IV	24	
第15図-33	1 H	床面	42	25	7	5.4	珪	F-IV	33	

第1号住居跡出土石器計測表(5)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第15図-34	1 H	4(床直)	(46)	(43)	30	(53)	珪	K-III	1	欠損、ケンマ2面、タタキ1面

第15図 第1号住居跡出土遺物(7)



### 第1号住居跡土層注記

第1層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /6	ローム粒と炭化物を多量に含む。ロームブロック混入。しまりややあり、粘性あり。
第2層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /8	ローム粒と炭化物若干含む。しまり・粘性ややあり。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒と炭化物を多量に含む。しまりあり、粘性なし。
第4層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /8	ローム粒と炭化物を多量に含む。しまりあり、粘性ややあり。

### 第1号住居跡ピット1土層注記

第1層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	炭化物・ローム粒を若干含む。しまり・粘性なし。
第2層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /6	暗褐色土混入。しまり・粘性あり。

### 第1号住居跡ピット2土層注記

第1層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒を多量に含む。しまり・粘性なし。
第2層	明褐色	7.5Y R <sup>5</sup> /6	褐色土混入。しまり・粘性あり。

### 第1号住居跡ピット3土層注記

第1層	明黄褐色	10Y R <sup>6</sup> /8	ローム粒を少量含む。しまりなし、粘性ややあり。
第2層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /6	炭化物を若干・ローム粒を多量に含む。しまり・粘性なし。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	炭化物・ローム粒を少量含む。しまり・粘性なし。
第4層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /8	褐色土混入。しまりなし、粘性あり。

### 第2号住居跡(第16～36図)

〈位置と確認〉調査区BH・BI-321～323グリッドに位置し、基本層序第IV a層上面で黒褐色土の円形の落ち込みを確認した。

〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉長径5m90cm・短径4m40cmの東西に長い楕円形を呈する。床面積は(20.6)㎡である。

〈壁〉基本層序第IV b・V層を掘り込んで構築されている。壁高は、東壁13～15cm、西壁5～7cm、南壁15～17cm、北壁12～14cmである。壁面は東西が緩やかに立ち上がり、南北はテラス面からほぼ垂直に立ち上がる。

〈床面〉住居跡中央部が最も低く、壁寄りが若干高くなる傾向にある。床面中央部が堅く締まり、壁寄りには軟らかい。また、住居跡南東側から北西側にかけて、壁寄りに一段高いテラスがみられ、段の高さは11～16cmである。

〈柱穴〉堅穴内から検出されたピットは11個で、そのうちテラス面から10個検出された。すべてのピットは壁際に配置されており、柱痕跡は確認できなかった。

#### ピット計測表

No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	不整形	44×27	11.0	2	円形	29×27	16.5	3	楕円形	24×14	11.5
4	楕円形	22×13	7.8	5	楕円形	19×15	8.6	6	円形	26×26	12.6
7	円形	15×15	21.3	8	円形	19×17	17.5	9	円形	18×17	7.9
10	円形	32×27	8.1	11	円形	17×16	6.4				

〈炉〉 堅穴内中央部で、長径87cm・短径76cm のほぼ円形の地床炉を検出した。床面から底面までの深さは10cmと浅い。堆積土は3層に区分でき、火烧面は検出されなかった。

〈付属施設〉 認められなかった。

〈堆積土〉 10層に区分できた。断面の観察から自然堆積と思われる。

### 第2号住居跡土層注記

第1層	黒褐色	10YR <sup>3/2</sup>	ローム粒若干含む。しまり・粘性ややあり。
第2層	暗褐色	10YR <sup>3/3</sup>	ローム粒若干含む。しまりなし、粘性ややあり。
第3層	黒褐色	10YR <sup>2/2</sup>	ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む。しまり・粘性ややあり。
第4層	暗褐色	10YR <sup>3/4</sup>	ローム粒少量含む。しまりなし、粘性ややあり。
第5層	暗褐色	10YR <sup>3/4</sup>	ローム粒少量含む、ロームブロック混入。しまり・粘性ややあり。
第6層	褐色	10YR <sup>4/4</sup>	ローム粒少量含む。しまりなし、粘性あり。
第7層	黄褐色	10YR <sup>5/6</sup>	ローム粒少量含む。しまりなし、粘性あり。
第8層	褐色	10YR <sup>4/4</sup>	ローム粒若干含む。しまりなし、粘性ややあり。
第9層	暗褐色	10YR <sup>3/4</sup>	ローム粒・炭化物粒・焼土粒を少量含む。しまり・粘性あり。
第10層	黒褐色	10YR <sup>2/3</sup>	ローム粒・ロームブロック少量混入。しまり・粘性なし。
第11層	明黄褐色	10YR <sup>6/6</sup>	炭化物を少量含み、ロームブロック混入。しまり・粘性ややあり。

### 第2号住居跡炉土層注記

第1層	黒色	7.5YR <sup>2/1</sup>	焼土粒・焼土ブロック混入、炭化物少量含む。しまりなし、粘性ややあり。
第2層	黒褐色	10YR <sup>2/2</sup>	焼土粒・ローム粒・炭化物少量含む。しまり・粘性ややあり。
第3層	褐色	10YR <sup>4/6</sup>	黒色土混入。しまりなし、粘性あり。

### 第2号住居跡ピット1土層注記

第1層	褐色	10YR <sup>4/4</sup>	ローム粒若干含む。しまり・粘性なし。
第2層	褐色	10YR <sup>4/6</sup>	ローム粒多量に含む。しまり・粘性なし。
第3層	暗褐色	10YR <sup>3/4</sup>	ロームブロック混入。しまりなし、粘性ややあり。

### 第2号住居跡ピット2土層注記

第1層	黄褐色	10YR <sup>5/6</sup>	暗褐色土混入。しまり・粘性なし。
-----	-----	---------------------	------------------

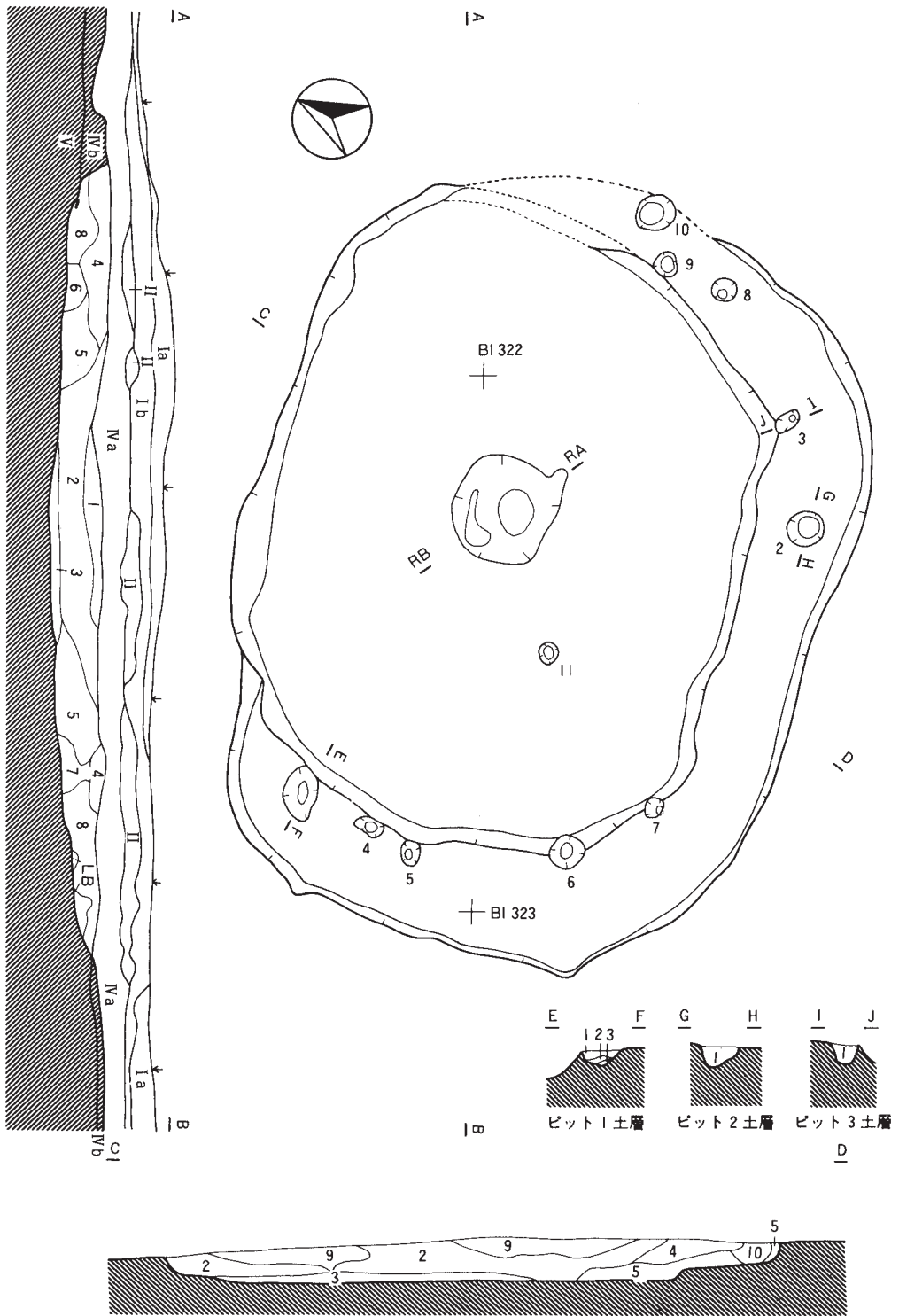
### 第2号住居跡ピット3土層注記

第1層	褐色	10YR <sup>4/4</sup>	暗褐色土混入。しまり・粘性なし。
-----	----	---------------------	------------------

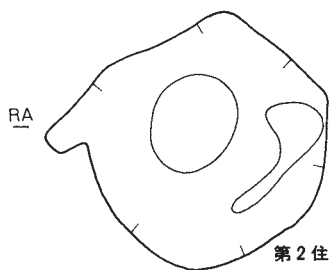
### 〈出土遺物〉(第18～36図)

住居跡の確認面から床面に至る各層のほぼ全面から出土している。復元できた土器は、床面・床直から出土したものが多く、覆土からは少なかった。また、多量の土器破片が出土したにもかかわらず復元土器が少なかった。出土した土器はすべて第I群2類土器である。

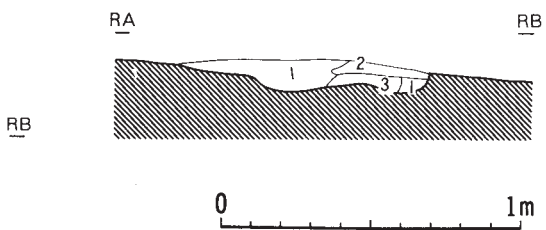
土器の文様構成は、横位弧状文(1)・山形文(2)・貝殻条痕文(7)が見られ、文様帯の内部に貝殻腹縁文を充填している。(3)は口唇部寄りに円形刺突文を横位に巡らしている。波状口縁を有する土器は副次突起をもつものが多い。



第16図 第2号住居跡(1)

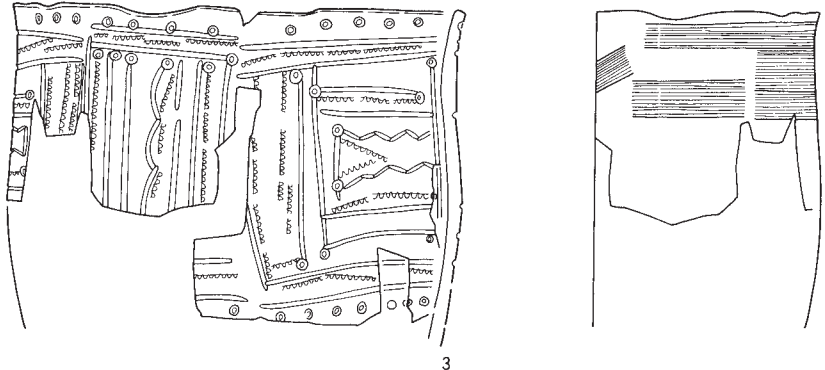
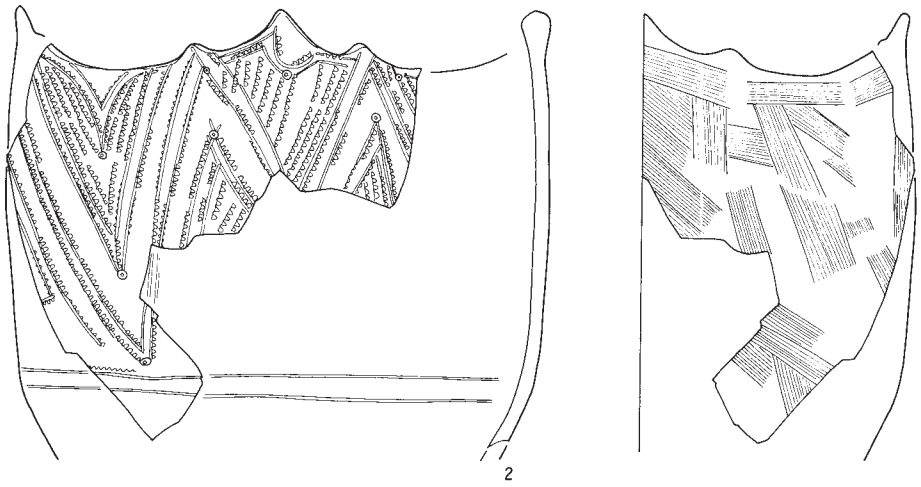
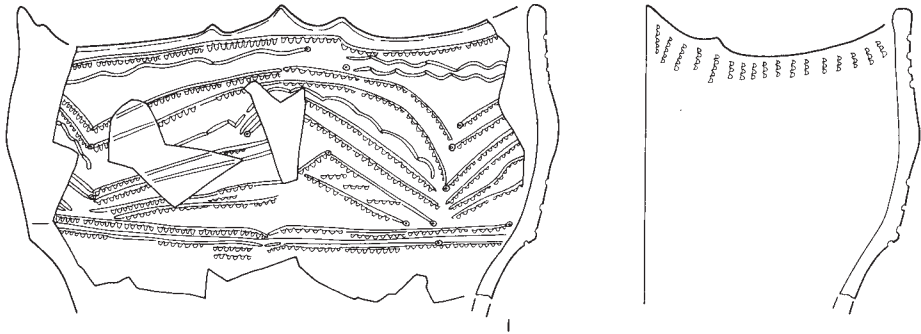


第2住居跡炉

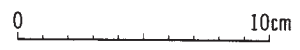


• 土器      ▲ 石器

第17図 第2号住居跡(2)

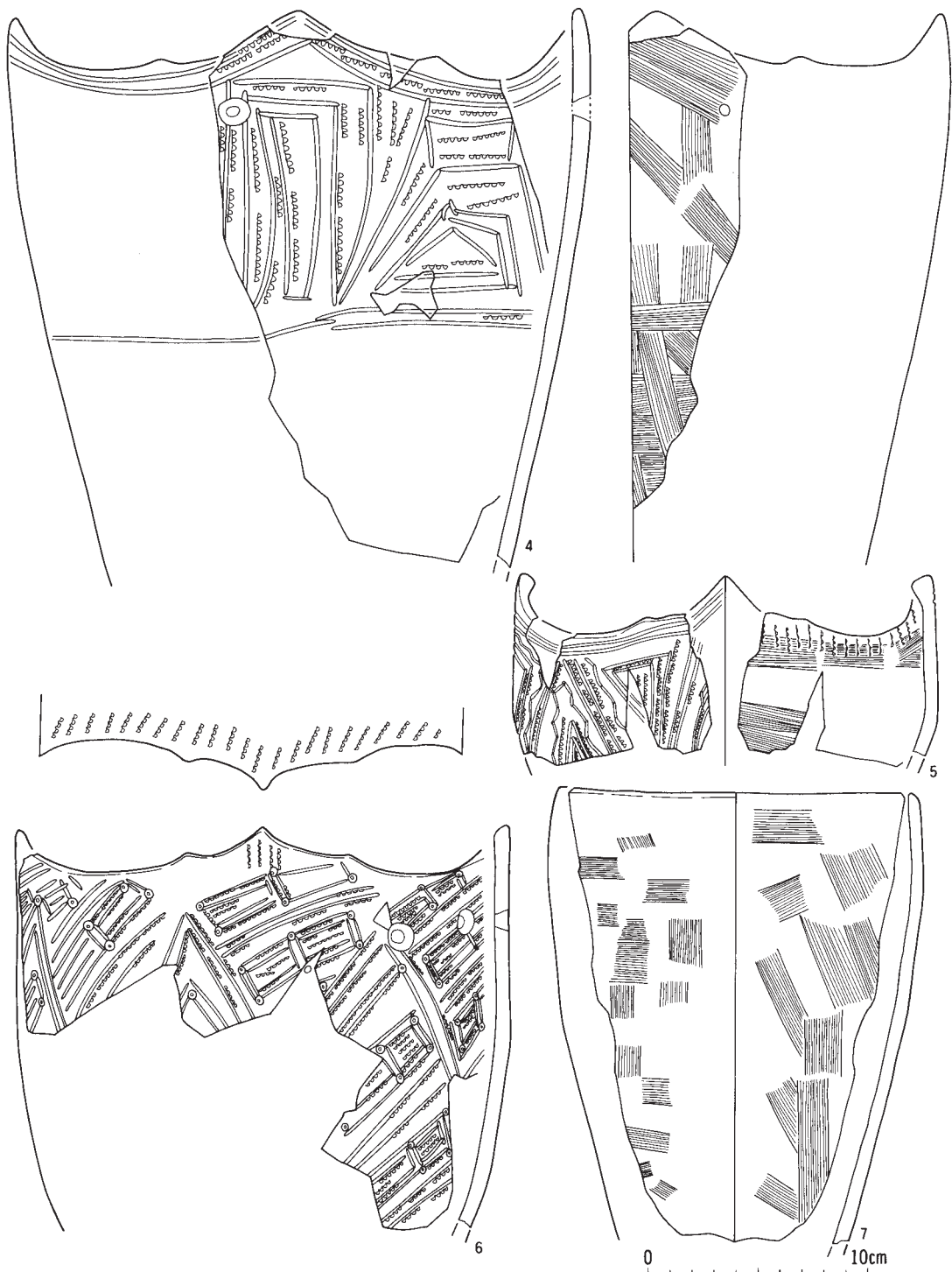


第2号住居跡出土土器観察表(1)



番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
1	2H 床面	深鉢	山形状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	1群2類A種
2	2H 床面	深鉢	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻条痕	1群2類A種
3	2H 床面	深鉢	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻条痕	1群2類A種

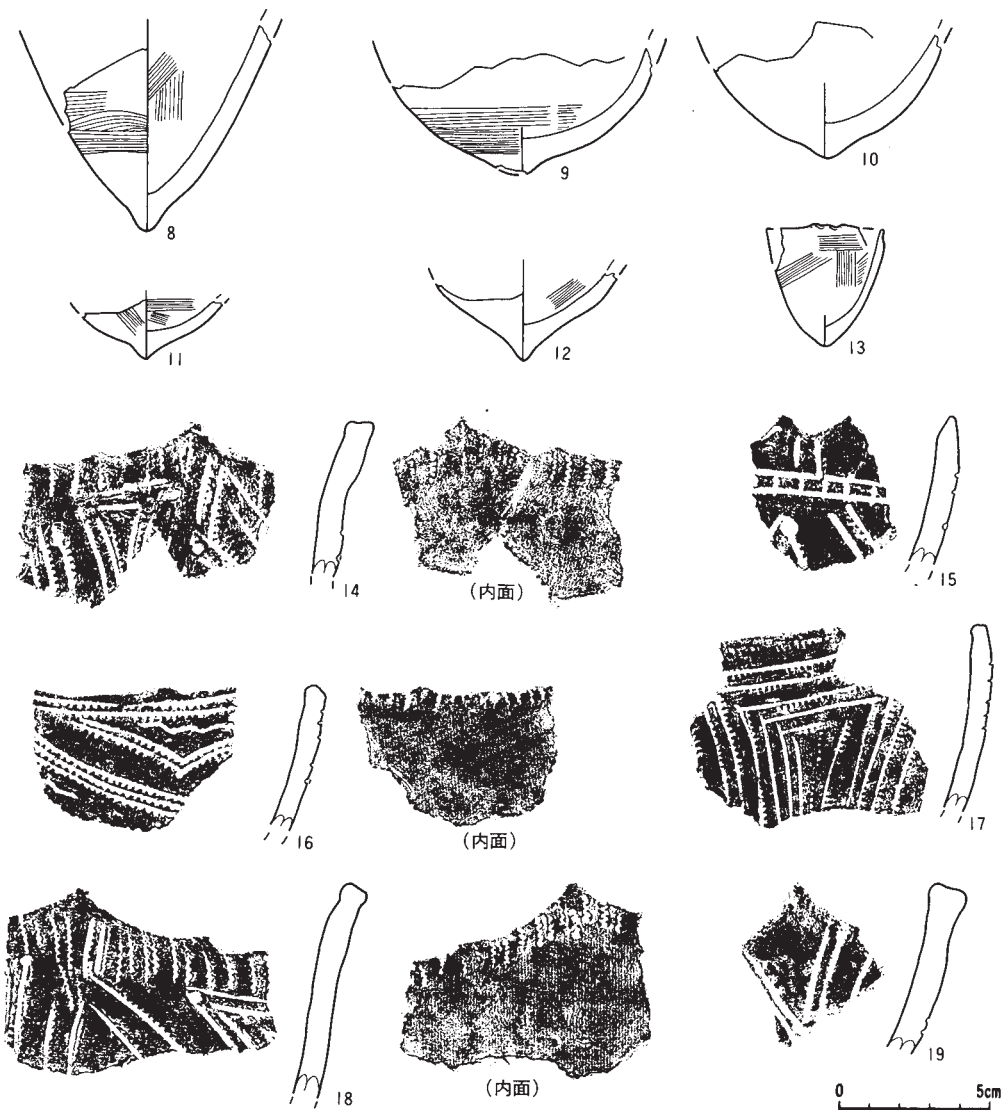
第18図 第2号住居跡出土遺物(1)



第2号住居跡出土土器観察表(2)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
4	2H 床面	深鉢	方形状文(貝殻腹縁)、補修孔、波状口縁	貝殻条痕	1群2類A種
5	2H 床直	深鉢	方形状文(貝殻腹縁)、鋸齒状沈線、波状口縁	貝殻刺突	1群2類A種
6	2H 床面	深鉢	方形状文(貝殻腹縁)、補修孔、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	1群2類A種
7	2H 床直	深鉢	貝殻条痕、平口縁	貝殻条痕	1群2類D種

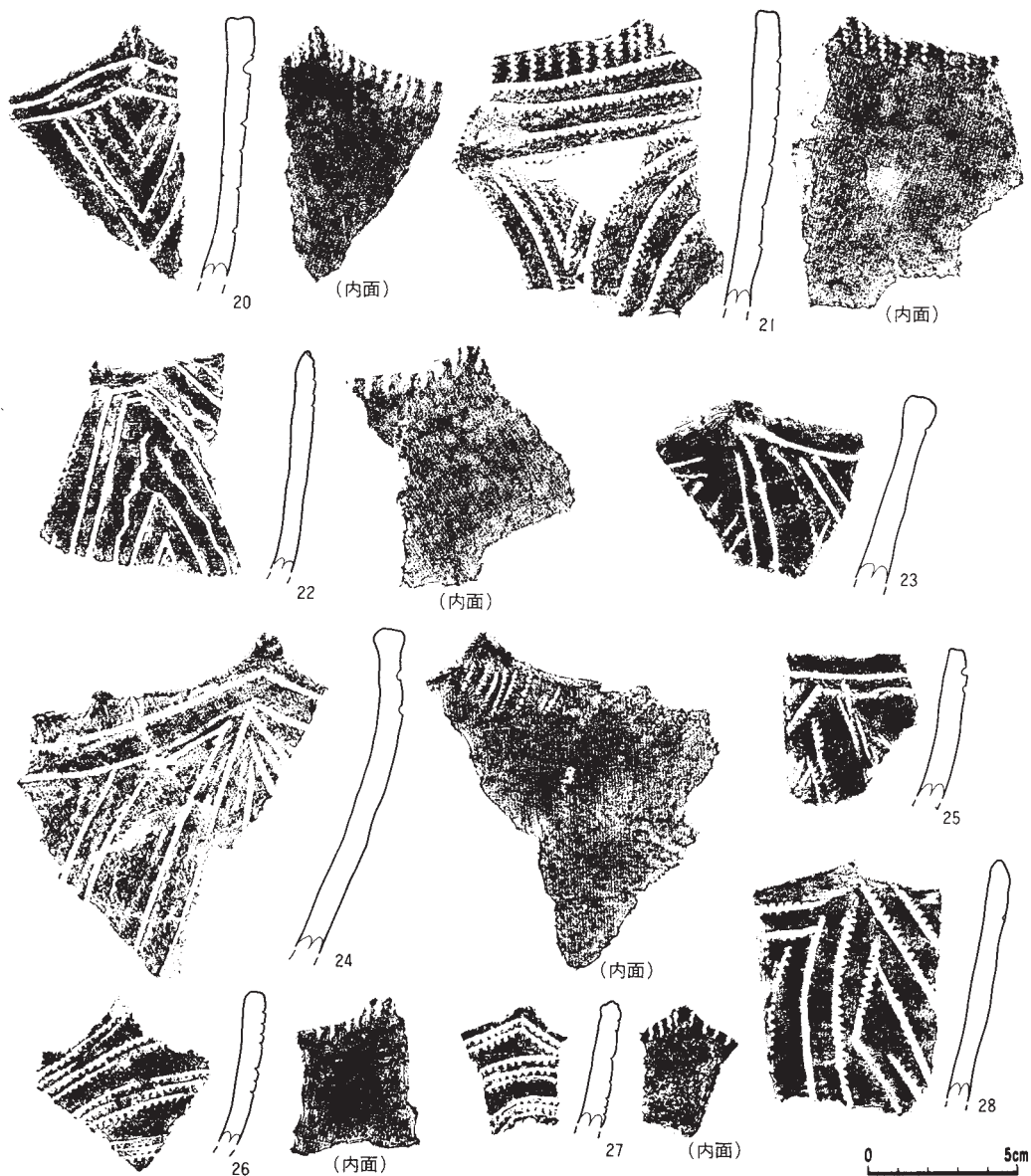
第19図 第2号住居跡出土遺物(2)



第2号住居跡出土土器観察表(3)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
8	2H 覆土	底部	貝殻条痕、乳房状突起	貝殻条痕	I群2類D種
9	2H 覆土	底部	貝殻条痕、乳房状突起	ナデ調整	I群2類D種
10	2H 床直	底部	火熱による剥落が著しい。乳房状突起	ナデ調整	I群2類
11	2H 覆土	底部	貝殻条痕、乳房状突起	貝殻条痕	I群2類A種
12	2H 覆土	底部	乳房状突起	貝殻条痕	I群2類
13	2H 床直	小型器	貝殻条痕、平口縁	ナデ調整	I群2類D種
14	2H 床面	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
15	2H 覆土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
16	2H 床面	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
17	2H 覆土	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻条痕	I群2類A種
18	2H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
19	2H 床面	口縁	山形状文(沈線)、波状口縁	ナデ調整	I群2類B種

第20図 第2号住居跡出土遺物(3)

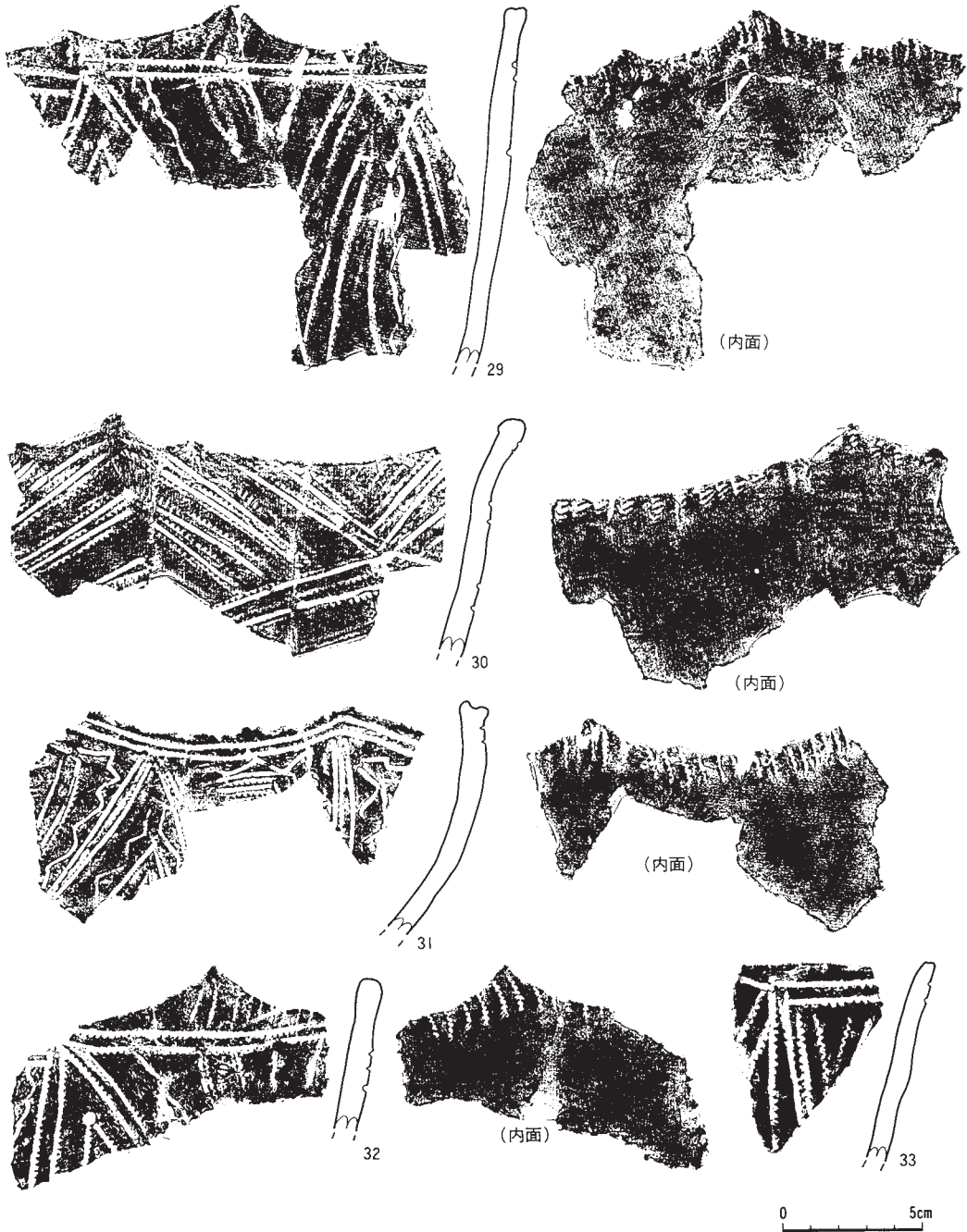


第2号住居跡出土土器観察表(4)

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	分類
20	2H 床面	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
21	2H 1層	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
22	2H 覆土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、鋸齒状沈線、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
23	2H 床直	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁			ナ	I群2類A種
24	2H 床面	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
25	2H 覆土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、平口縁			貝殻条痕	I群2類A種
26	2H 床直	口縁	斜位・弧状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
27	2H 床面	口縁	斜位・弧状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
28	2H 床面	口縁	斜位・縦位弧状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻条痕	I群2類A種

第21図 第2号住居跡出土遺物(4)

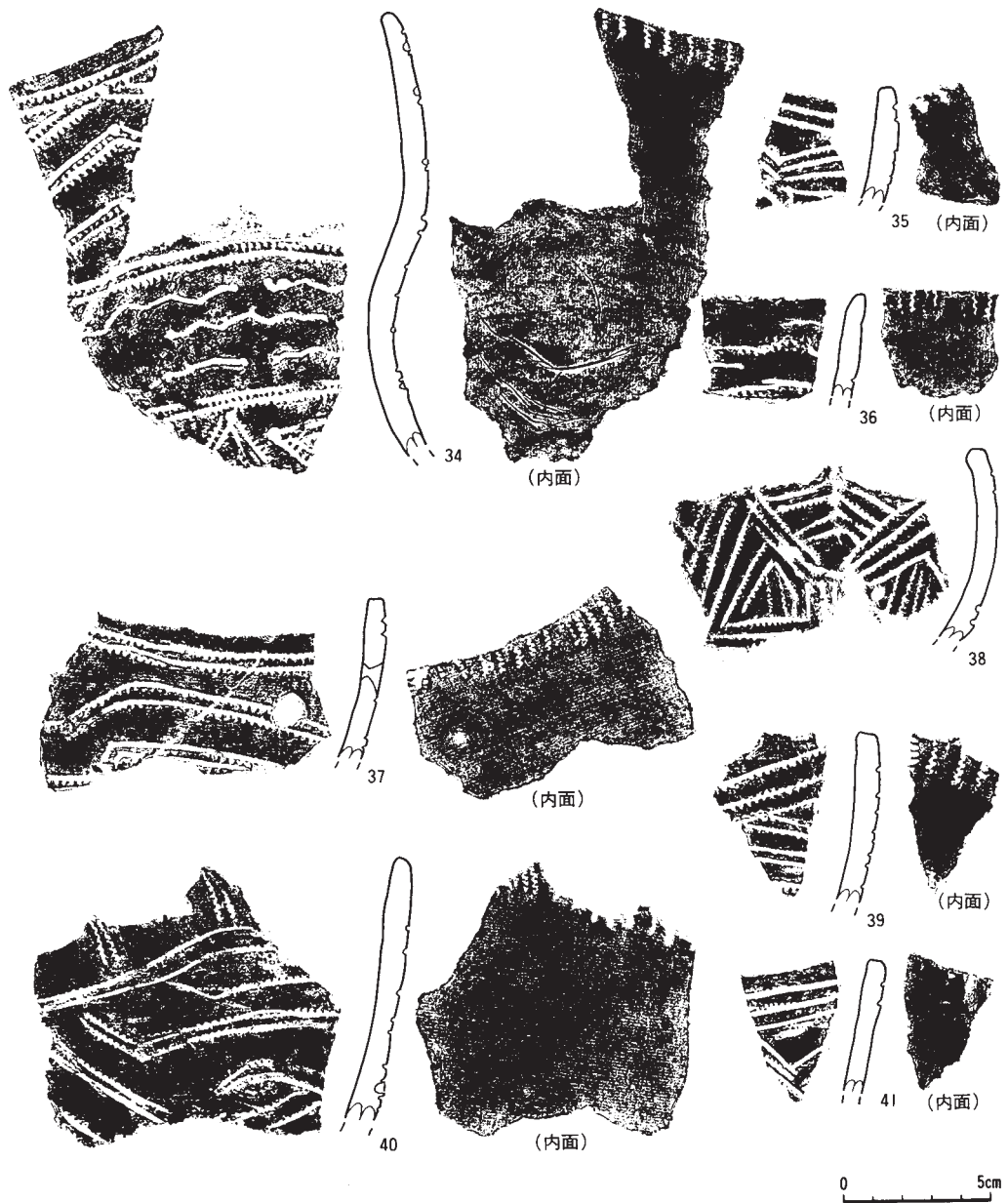




第2号住居跡出土土器観察表(5)

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	分類
29	2H 覆土	口縁	縦位弧状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻腹縁	I群2類A種
30	2H 床直	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻腹縁	I群2類A種
31	2H 床面	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、波状口縁			貝殻腹縁	I群2類A種
32	2H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁			貝殻腹縁	I群2類A種
33	2H 床面	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、平口縁			貝殻条痕	I群2類A種

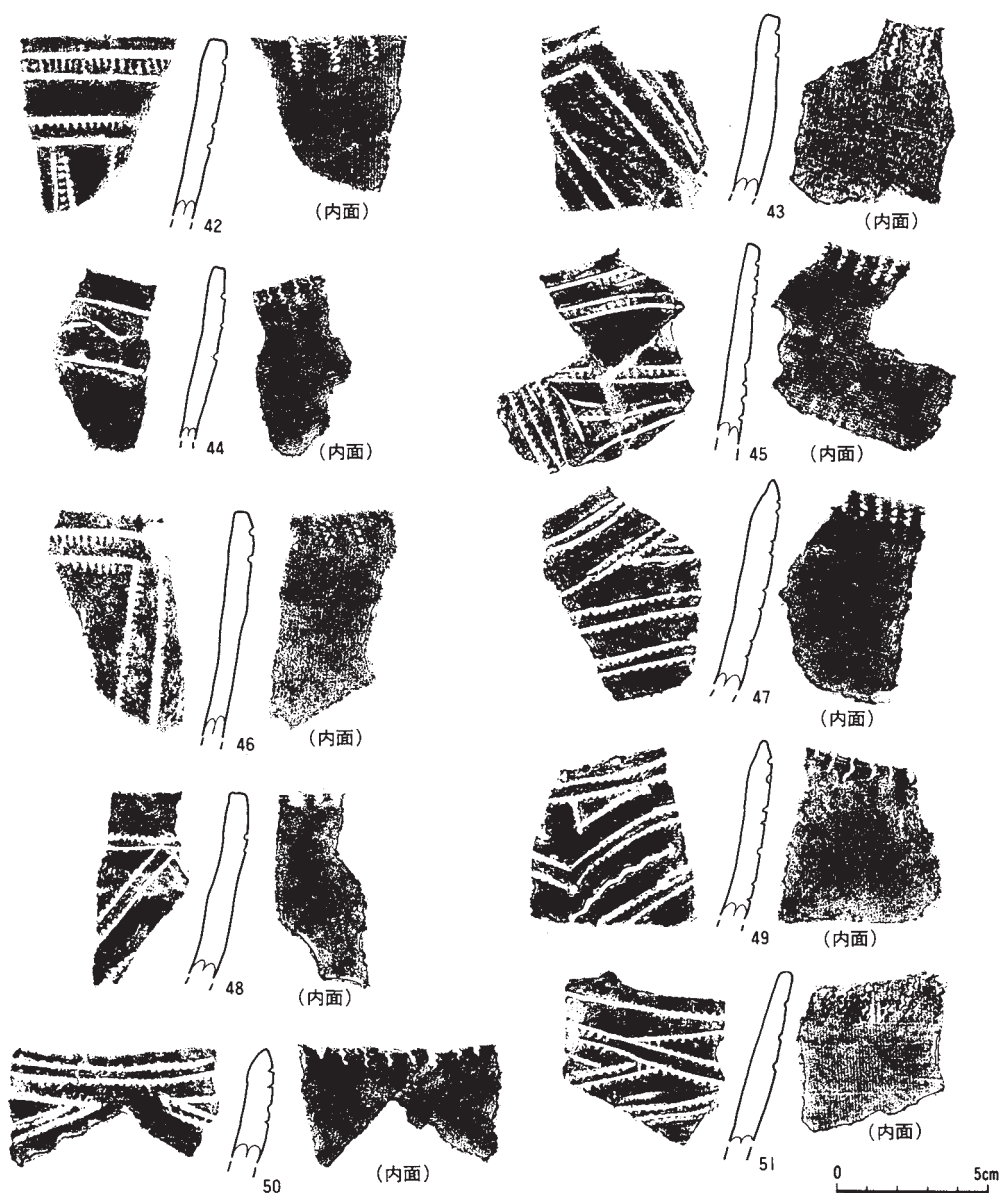
第22図 第2号住居跡出土遺物(5)



第2号住居跡出土土器観察表(6)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
34	2H 覆土	口縁	鋸齒状沈線、円形刺突、貝殻腹縁、波状口縁	貝殻腹縁	I群2類A種
35	2H 2層	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、平口縁	貝殻腹縁	I群2類A種
36	2H 床直	口縁	平行状文(貝殻腹縁)、平口縁	貝殻腹縁	I群2類A種
37	2H 覆土	口縁	横位弧状文(貝殻腹縁)、補修孔、波状口縁	貝殻腹縁	I群2類A種
38	2H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻条縁	I群2類A種
39	2H 3層	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻腹縁	I群2類A種
40	2H 覆土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻腹縁	I群2類A種
41	2H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻腹縁	I群2類A種

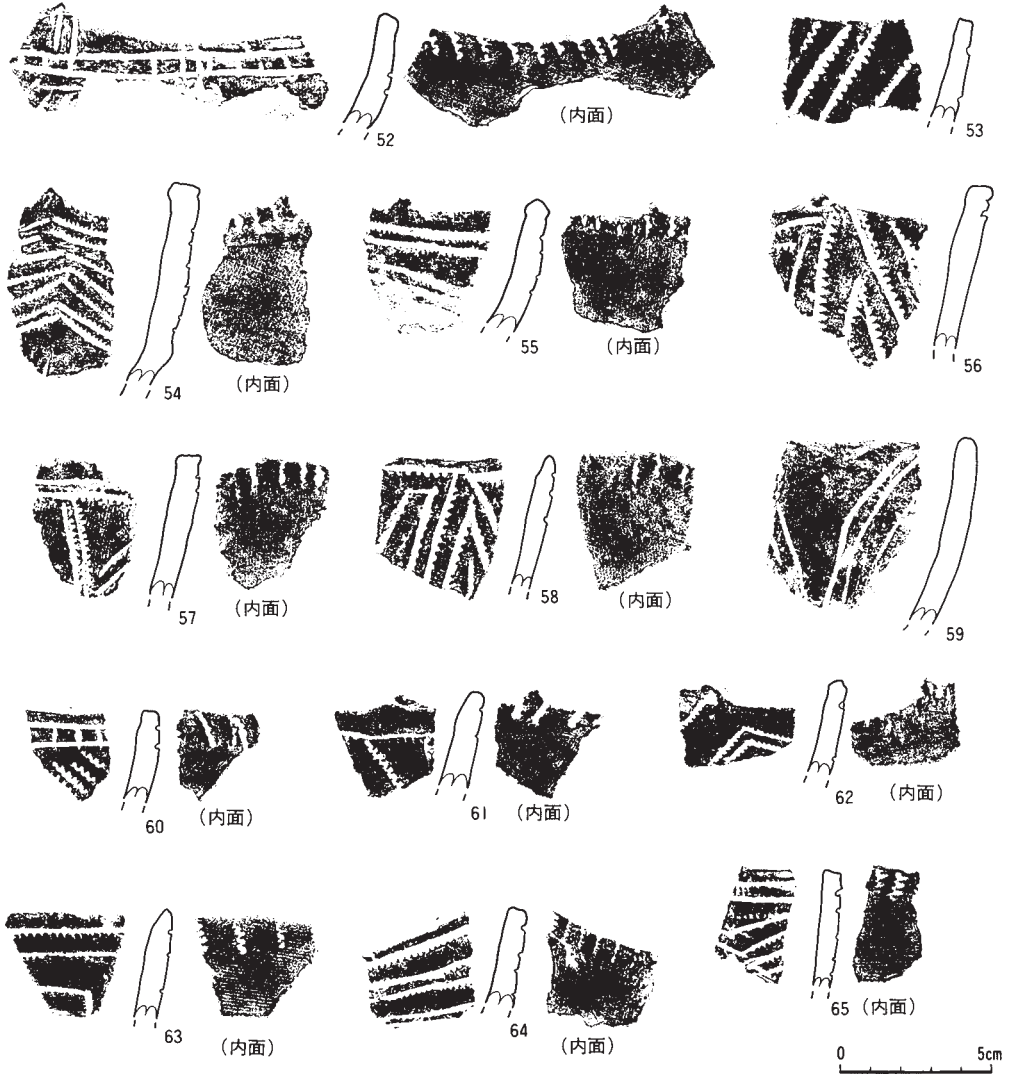
第23図 第2号住居跡出土遺物(6)



第2号住居跡出土土器観察表(7)

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	分類
42	2 H 床面	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、平口縁			貝殻刺突	I群2類A種
43	2 H 3層	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
44	2 H 覆土	口縁	鋸齒状沈線、貝殻腹縁、平口縁			貝殻刺突	I群2類A種
45	2 H 覆土	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
46	2 H 床面	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、平口縁			貝殻刺突	I群2類A種
47	2 H 覆土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
48	2 H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、平口縁			貝殻刺突	I群2類A種
49	2 H 4層	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
50	2 H 覆土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
51	2 H 床面	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種

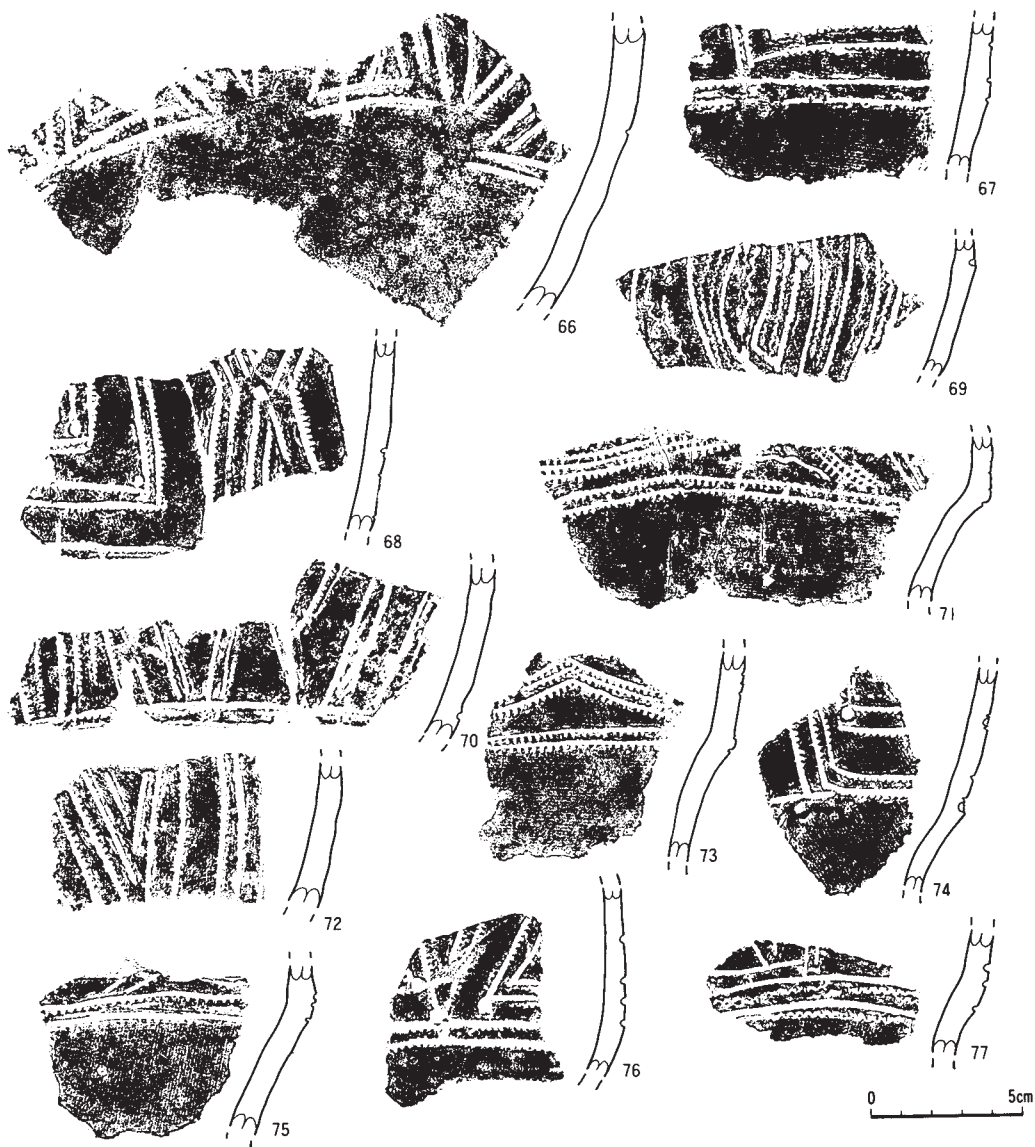
第24図 第2号住居跡出土遺物(7)



第2号住居跡出土土器観察表(8)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
52	2 H 覆土	口縁	貝殻腹縁文・沈線、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
53	2 H 床面	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻条痕	I群2類A種
54	2 H 床面	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、粘土粒、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
55	2 H 2層	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
56	2 H 床面	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁	ナデ調整	I群2類A種
57	2 H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
58	2 H 床面	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
59	2 H 床直	口縁	縦位弧状文(貝殻腹縁)、波状口縁	ナデ調整	I群2類A種
60	2 H 覆土	口縁	貝殻腹縁文・沈線、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
61	2 H 覆土	口縁	貝殻腹縁文・沈線、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
62	2 H 床面	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
63	2 H 覆土	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
64	2 H 1層	口縁	貝殻腹縁文・沈線、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
65	2 H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種

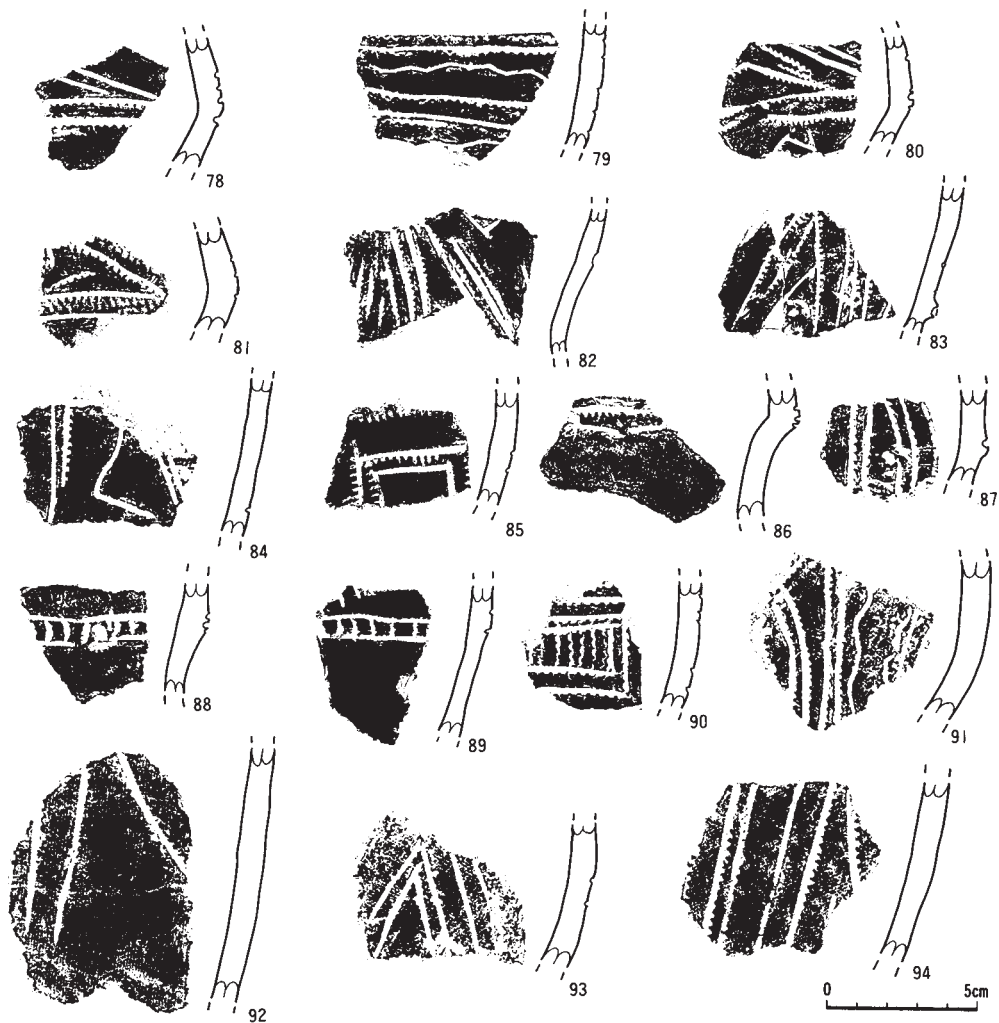
第25図 第2号住居跡出土遺物(8)



第2号住居跡出土土器観察表(9)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
66	2 H 床直	胴	方形状文(貝殻腹縁)、	ヘラナデ調整	I群2類A種
67	2 H 覆土	胴	横位弧状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
68	2 H 覆土	胴	方形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
69	2 H 覆土	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
70	2 H 覆土	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
71	2 H 覆土	胴	貝殻腹縁文、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
72	2 H 覆土	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
73	2 H 覆土	胴	山形状文(貝殻腹縁)	貝殻条痕	I群2類A種
74	2 H 9層	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
75	2 H 覆土	胴	貝殻腹縁文・沈線	ミガキ	I群2類A種
76	2 H 覆土	胴	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
77	2 H 覆土	胴	貝殻腹縁文・沈線	ヘラナデ調整	I群2類A種

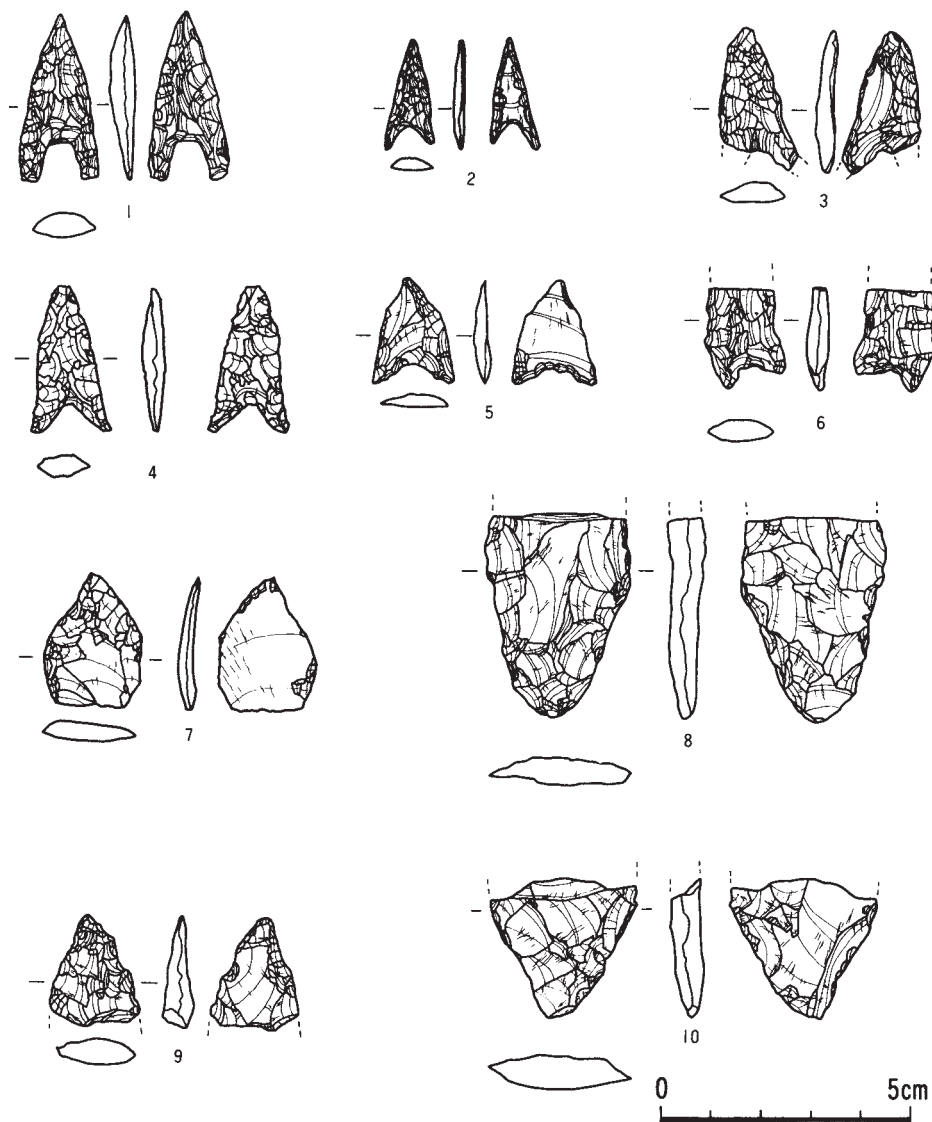
第26図 第2号住居跡出土遺物(9)



第2号住居跡出土土器観察表(10)

番号	地区・層位	部位	外面 施文 文様	内面	分類
78	2 H 3層	胴	斜位沈線、貝殻腹縁文	ヘラナデ調整	I群2類A種
79	2 H 覆土	胴	鋸齒状沈線、貝殻腹縁文	ナデ調整	I群2類A種
80	2 H 4層	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
81	2 H 床面	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
82	2 H 覆土	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
83	2 H 床直	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	貝殻条痕	I群2類A種
84	2 H 覆土	胴	鋸齒状沈線、貝殻腹縁文	ナデ調整	I群2類A種
85	2 H 床直	胴	方形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
86	2 H 床面	胴	貝殻腹縁文・沈線・凹形刺突	ナデ調整	I群2類A種
87	2 H 覆土	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
88	2 H 床面	胴	貝殻腹縁文・凹形刺突	ナデ調整	I群2類A種
89	2 H 床面	胴	貝殻腹縁文・沈線	ナデ調整	I群2類A種
90	2 H 覆土	胴	方形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
91	2 H 床面	胴	鋸齒状沈線・縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
92	2 H 覆土	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
93	2 H 3層	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類B種
94	2 H 3層	胴	山形状文(貝殻腹縁)	貝殻条痕	I群2類A種

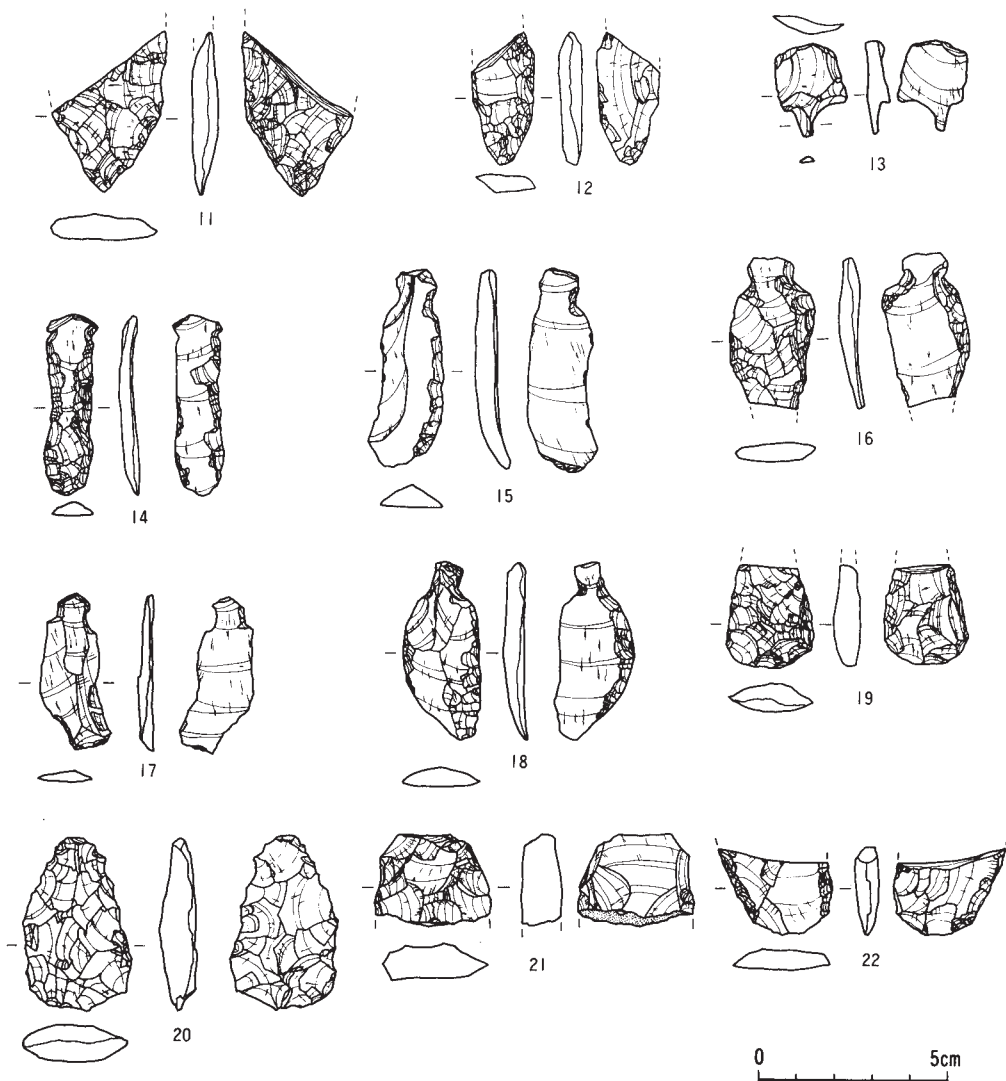
第27図 第2号住居跡出土遺物(10)



第2号住居跡出土石器計測表(1)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第28図-1	2 H	覆土	33	16	4	1.6	珪	A-I a	43	
第28図-2	2 H	覆土	22	19	2	0.3	珪	A-I a	44	
第28図-3	2 H	床面	(30)	(13)	3	(1.1)	黒	A-I a	45	基部欠損
第28図-4	2 H	覆土	29	16	4	1.3	珪	A-I a	50	
第28図-5	2 H	覆土	21	17	3	0.6	珪	A-I b	42	
第28図-6	2 H	床面	(20)	(17)	4	(1.3)	珪	A-I c	54	尖頭部欠損
第28図-7	2 H	覆土	27	19	3	1.7	珪	A-II b	51	
第28図-8	2 H	覆土	(41)	29	6	(7.6)	珪	B-I a	41	尖頭部欠損
第28図-9	2 H	床面	(22)	(17)	6	(1.6)	珪	A-IV	79	基部欠損
第28図-10	2 H	覆土	(28)	(28)	7	5.0	珪	B-I a	66	基部残存

第28図 第2号住居跡出土遺物(1)

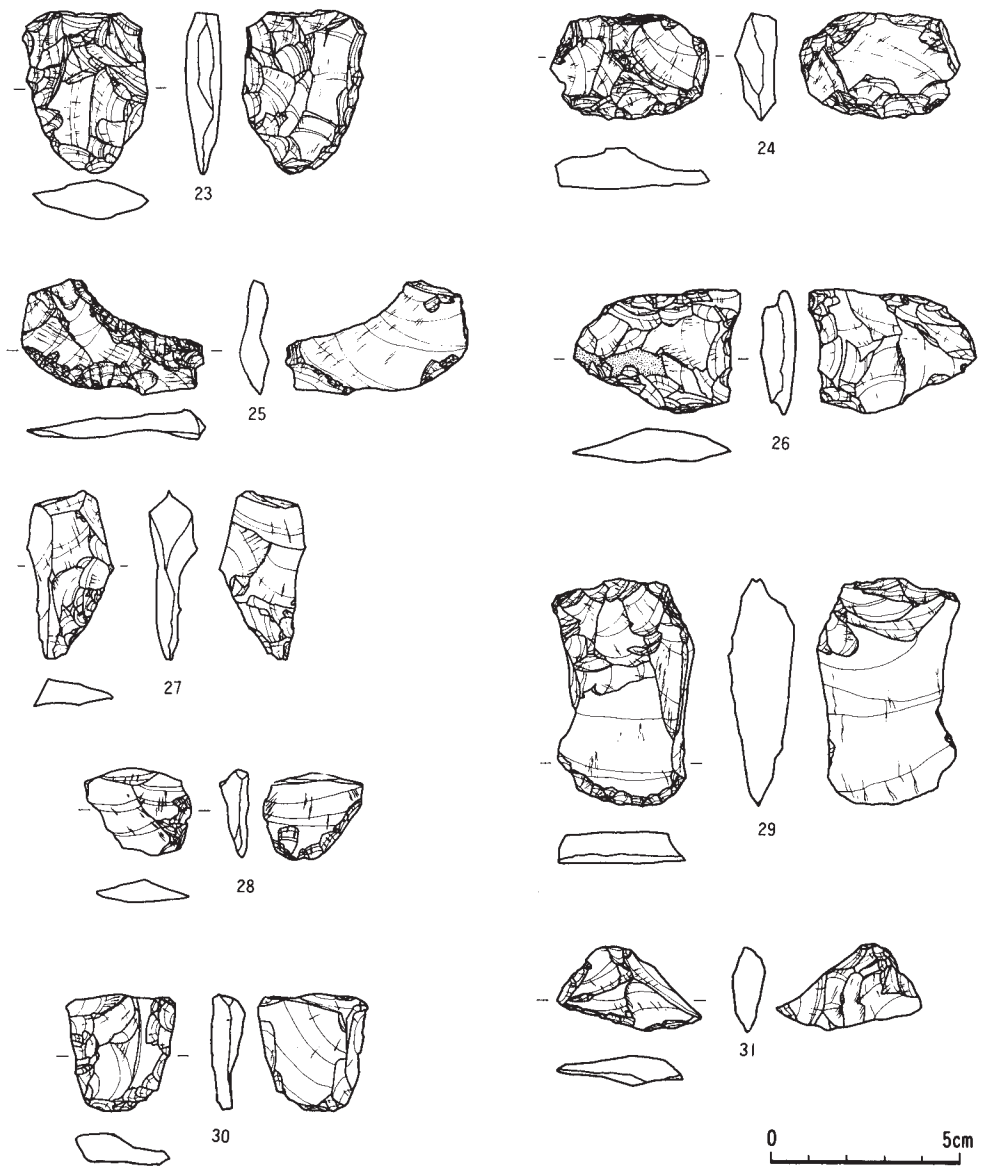


第2号住居跡出土石器計測表(2)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第29図-11	2 H	覆土	(46)	(29)	7	(6.3)	珪	B-I a	95	尖頭部欠損
第29図-12	2 H	覆土	(35)	(17)	6	(3.7)	珪	B-I b	94	尖頭部欠損
第29図-13	2 H	4	24	17	4	1.3	珪	C	87	
第29図-14	2 H	覆土	48	13	4	2.4	珪	D-II	39	
第29図-15	2 H	床面	54	17	6	5.7	珪	D-II	48	
第29図-16	2 H	覆土	(40)	21	5	(4.4)	珪	D-IV	40	刃部欠損
第29図-17	2 H	4	41	15	3	1.9	珪	D-IV	46	
第29図-18	2 H	2	47	21	5	4.0	珪	D-IV	47	
第29図-19	2 H	2	(27)	23	7	(4.3)	珪	E-I b	83	欠損
第29図-20	2 H	覆土	46	27	9	11.7	珪	E-I c	49	
第29図-21	2 H	床直	(24)	(31)	10	(9.0)	珪	E-IV	77	基部残存
第29図-22	2 H	床面	(28)	(26)	6	(3.7)	珪	F-I c	37	欠損

第29図 第2号住居跡出土遺物(12)

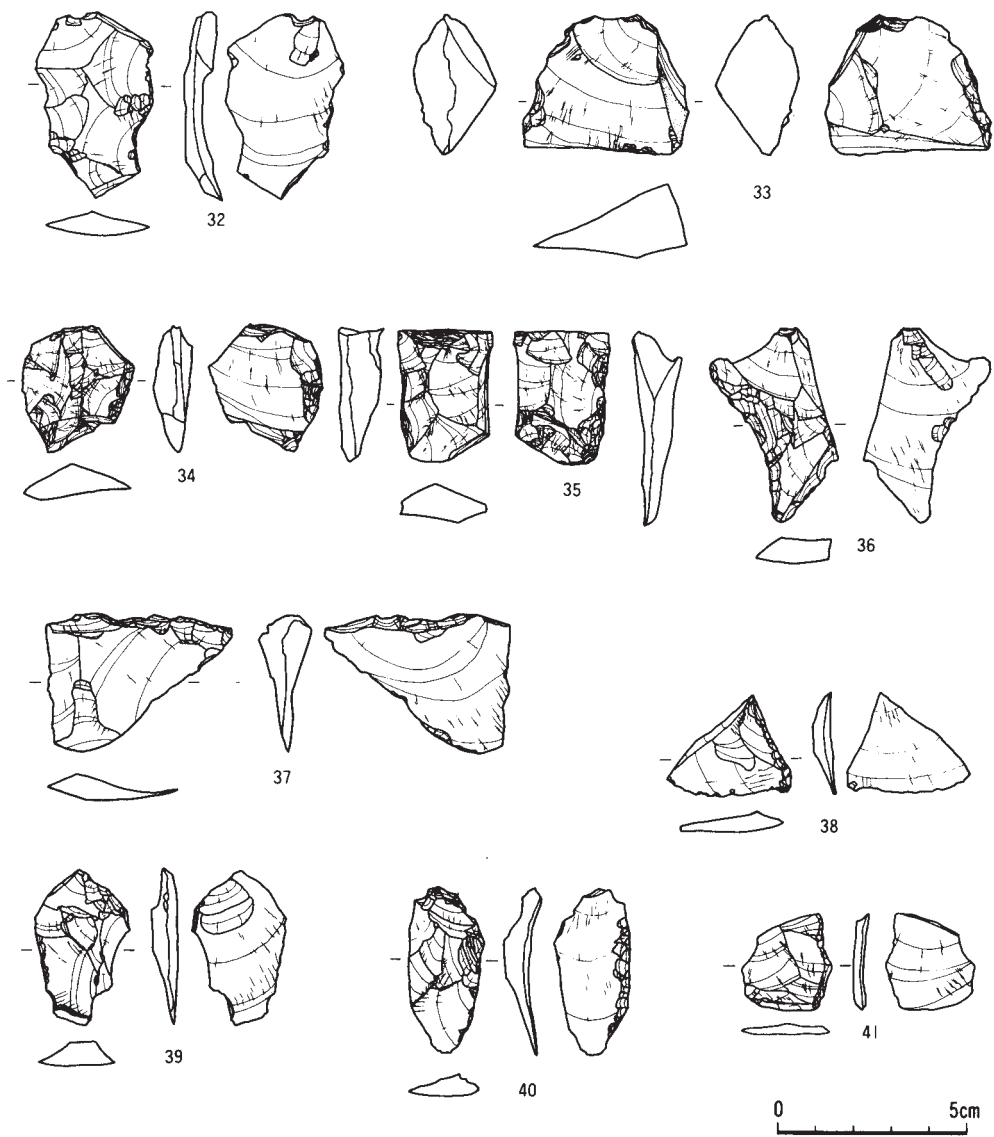




第 2 号住居跡出土石器計測表(3)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第30図-23	2 H	床面	42	32	10	14.3	珪	F-I a	55	
第30図-24	2 H	覆土	28	42	6	12.2	珪	F-I a	96	
第30図-25	2 H	覆土	51	29	8	6.2	珪	F-I c	74	
第30図-26	2 H	2	47	32	9	11.7	珪	F-I a	88	
第30図-27	2 H	覆土	41	19	12	9.7	珪	F-I b	64	
第30図-28	2 H	床直	24	30	8	4.4	珪	F-I d	56	
第30図-29	2 H	床直	58	43	16	37.1	珪	F-I d	57	
第30図-30	2 H	覆土	33	36	9	8.2	珪	F-I d	62	
第30図-31	2 H	覆土	41	22	9	5.3	珪	F-I d	69	

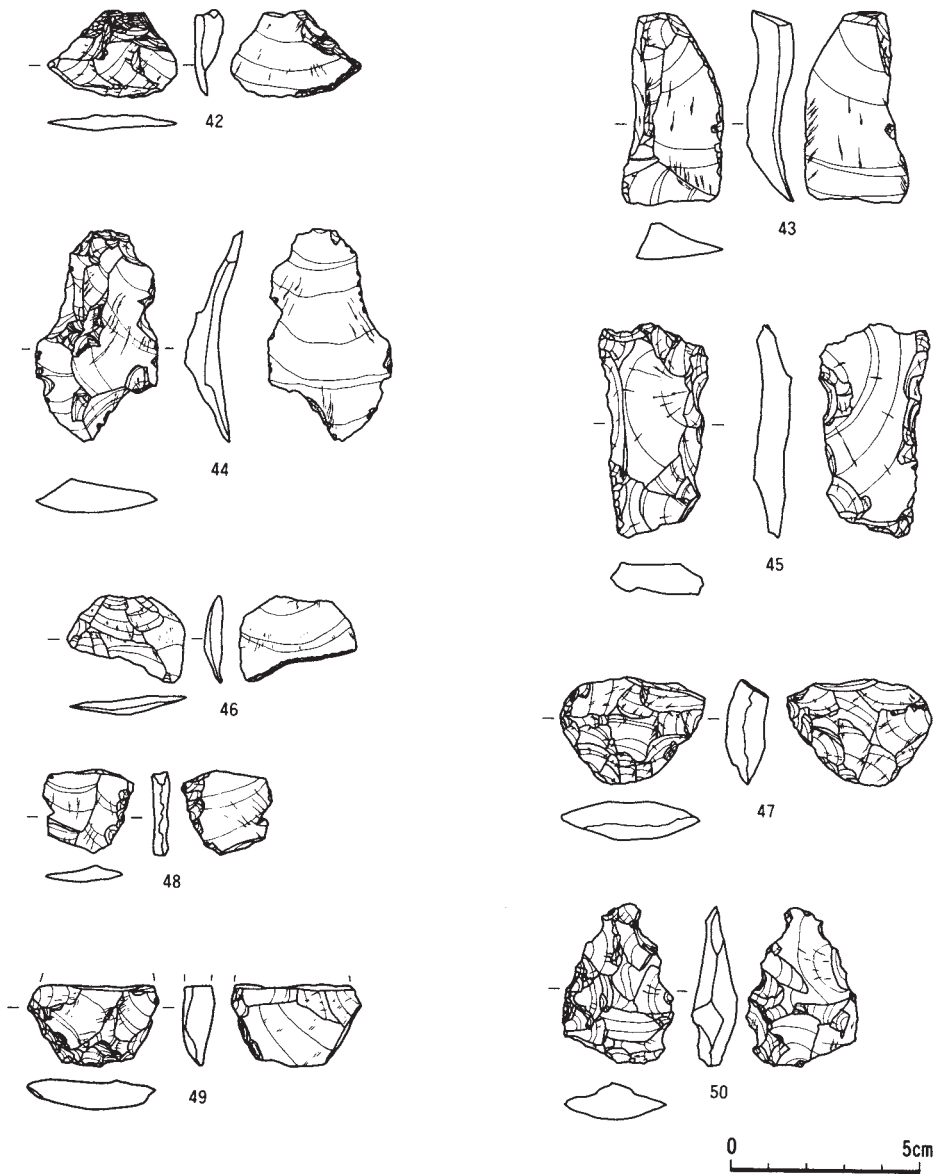
第30図 第 2 号住居跡出土遺物(13)



第2号住居跡出土石器計測表(4)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第31図-32	2 H	3	49	30	7	9.4	珪	F-II a	52	
第31図-33	2 H	床直	47	44	18	25.6	珪	F-I d	76	
第31図-34	2 H	床面	30	32	8	6.4	珪	F-I d	78	
第31図-35	2 H	8	24	35	10	11.2	珪	F-I d	84	
第31図-36	2 H	覆土	51	27	4	9.7	珪	F-I d	70	
第31図-37	2 H	覆土	35	48	8	7.9	珪	F-II a	59	
第31図-38	2 H	覆土	27	32	5	2.7	珪	F-I d	68	
第31図-39	2 H	覆土	37	24	6	5.0	珪	F-II a	67	
第31図-40	2 H	覆土	42	20	6	3.6	珪	F-II a	72	
第31図-41	2 H	覆土	27	24	3	1.5	珪	F-II a	63	

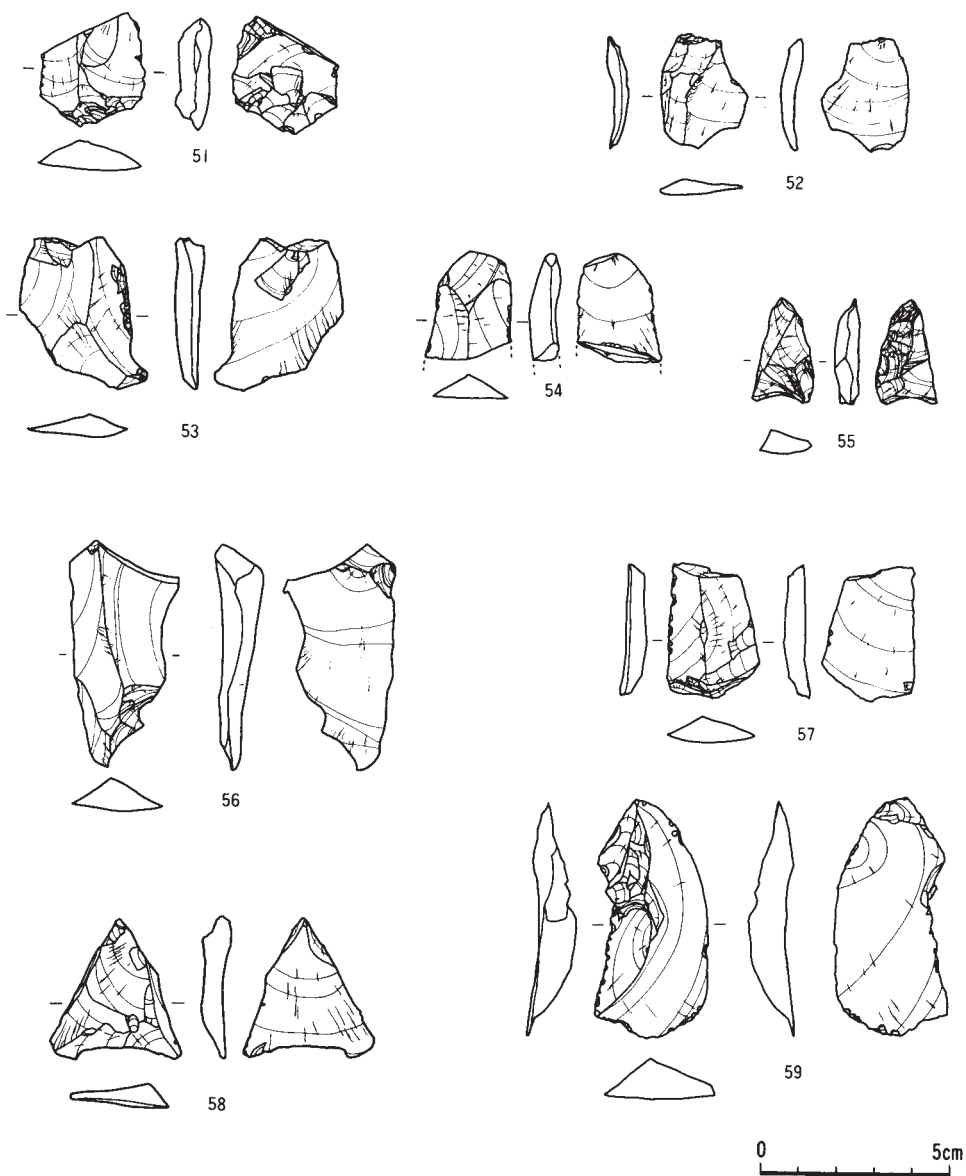
第31図 第2号住居跡出土遺物(14)



第2号住居跡出土石器計測表(5)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第32図-42	2 H	覆土	22	34	7	3.2	玉珪	F-II a	71	
第32図-43	2 H	床面	50	26	10	11.0	珪	F-II a	81	
第32図-44	2 H	覆土	56	33	9	11.2	珪	F-II a	92	
第32図-45	2 H	覆土	56	29	8	12.8	珪	F-II b	58	
第32図-46	2 H	覆土	21	32	3	1.9	珪	F-II a	93	
第32図-47	2 H	床面	27	38	10	9.2	珪	F-II b	91	
第32図-48	2 H	覆土	22	23	4	2.1	珪	F-II b	73	
第32図-49	2 H	覆土	(21)	(34)	7	(6.3)	珪	F-II b	61	欠損
第32図-50	2 H	床面	40	29	11	11.0	珪	F-III	38	

第32図 第2号住居跡出土遺物(15)



第2号住居跡出土石器計測表(6)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第33図-51	2 H	覆土	(24)	(31)	8	(6.7)	珪	F-IV	53	
第33図-52	2 H	覆土	30	23	4	2.2	珪	F-IV	65	
第33図-53	2 H	床面	41	28	6	6.9	珪	F-IV	80	
第33図-54	2 H	覆土	(28)	(21)	7	(4.0)	珪	F-IV	60	欠損
第33図-55	2 H	床直	28	16	7	2.6	珪	F-1d	209	
第33図-56	2 H	8	62	29	13	14.9	珪	F-IV	85	
第33図-57	2 H	8	34	25	6	5.2	珪	F-IV	86	
第33図-58	2 H	4	36	34	6	5.3	珪	F-IV	90	
第33図-59	2 H	2	58	28	11	14.4	珪	F-IV	89	

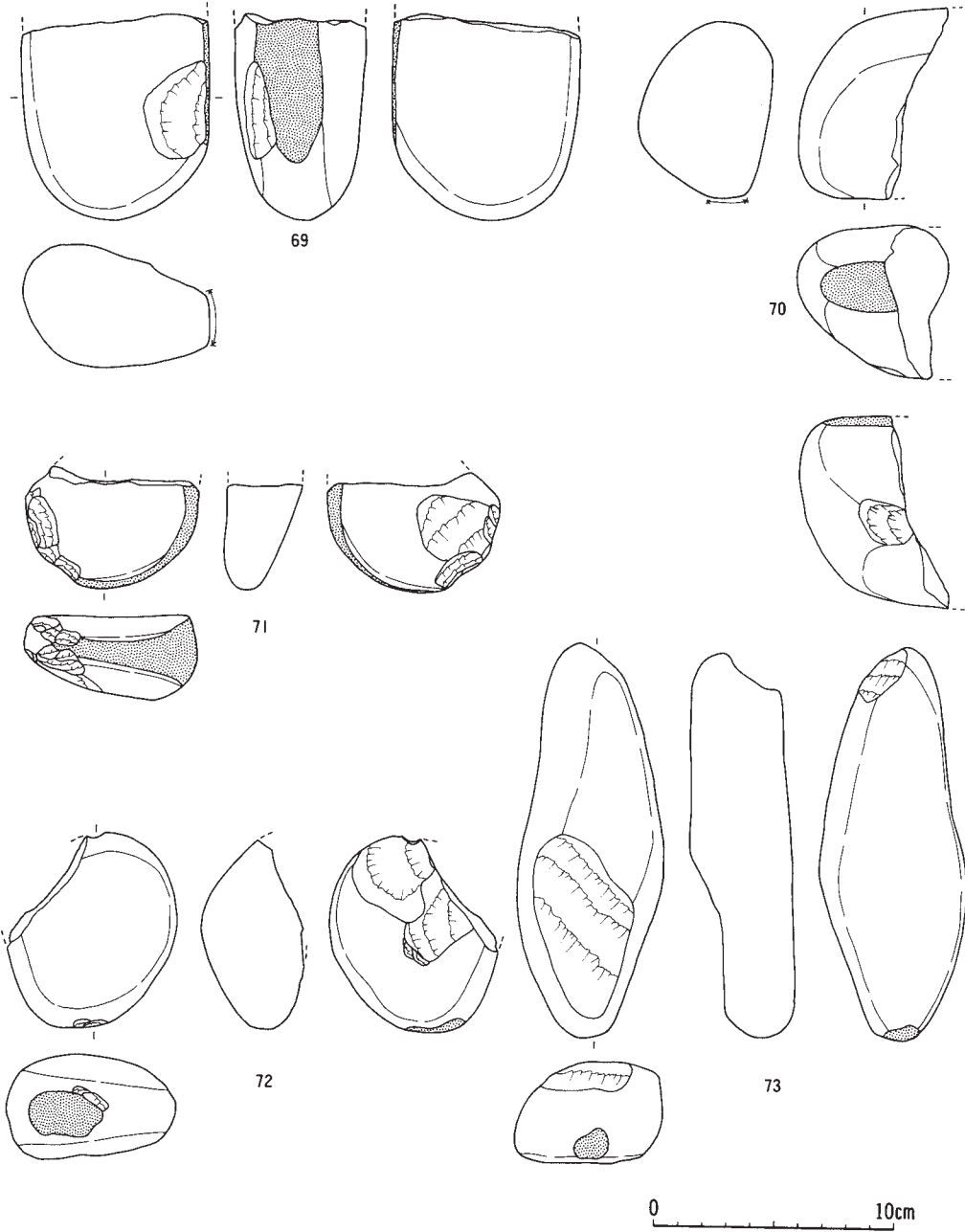
第33図 第2号住居跡出土遺物(16)



第2号住居跡出土石器計測表(7)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第34図-60	2H	覆土	54	44	13	41	砂	J-II a	15	
第34図-61	2H	床直	45	40	13	31	安	J-II b	16	
第34図-62	2H	床面	58	51	12	56	頁	J-II b	17	
第34図-63	2H	覆土	66	46	19	74	チャ	J-II c	12	
第34図-64	2H	覆土	67	64	25	125	安	J-II c	21	
第34図-65	2H	覆土	46	42	20	53	チャ	J-II c	13	
第34図-66	2H	8	65	65	22	135	安	J-II c	20	
第34図-67	2H	床直	90	61	35	276	安	K-I a	2	
第34図-68	2H	床直	50	41	13	38	チャ	J-III	9	

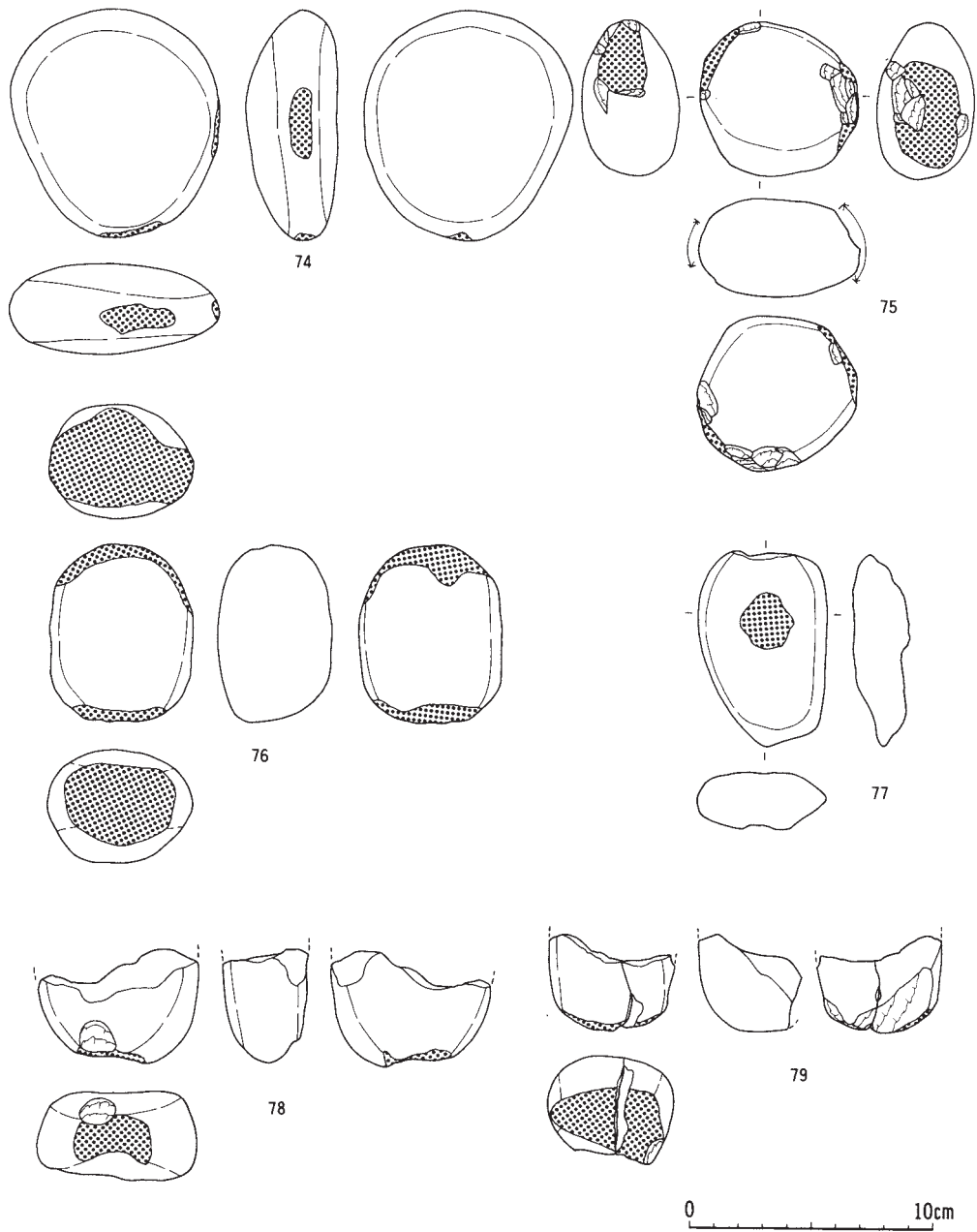
第34図 第2号住居跡出土遺物(17)



第2号住居跡出土石器計測表(8)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第35図-69	2 H	床直	(80)	77	52	(520)	安	K-I c	7	欠損 スリ1面
第35図-70	2 H	3	(59)	78	59	(305)	安	K-I e	14	欠損 スリ1面
第35図-71	2 H	3	(44)	72	35	(146)	砂	K-I b	19	欠損 スリ1面
第35図-72	2 H	床直	(58)	83	43	(283)	安	K-I a	6	欠損 スリ1面
第35図-73	2 H	覆土	163	60	42	543	安	K-I c	8	スリ1面

第35図 第2号住居跡出土遺物(18)



第2号住居跡出土石器計測表(9)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第36図-74	2 H	床直	93	82	38	412	安	K-II a	3	タタキ2面
第36図-75	2 H	床直	67	64	41	258	礫	K-II b	4	タタキ2面
第36図-76	2 H	床直	72	57	47	297	チャ	K-II b	5	タタキ2面
第36図-77	2 H	覆土	79	53	23	108	凝	K-II c	10	タタキ1面
第36図-78	2 H	2	(47)	66	34	123	安	K-II d	11	欠損、タタキ1面
第36図-79	2 H	床直	(22)	50	41	(82)	チャ	K-II d	18	欠損、タタキ1面

第36図 第2号住居跡出土遺物(19)

石器は、石鏃 8 点・石槍 4 点・石錐 1 点・石匙 5 点・石篋 3 点・不定形石器 38 点・石錘 8 点・敲磨器類 13 点・チップ 520 点が出土している。

出土遺物から、本住居跡は縄文時代早期の物見台式期である。

#### 第 4 号住居跡（第 37 ～ 48 図）

〈位置と確認〉調査区 B D・B E - 324・325 に位置する。基本層序第 IV a 層で住居跡を確認した。本住居跡の北方約 10m に第 2 号住居跡がある。

〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉直径 6m・短径 4m 64 cm の長方形を呈するが、南東側の壁は確認できなかったため、残存部分からの推定ラインである。床面積は (18.35) m<sup>2</sup> である。

〈壁〉基本層序第 IV a 層を掘り込んで構築していることから、第 IV a 層を壁としている。掘り込みの確認面から床面までの深さは 18 cm と浅い。

〈床面〉基本層序第 IV 層を削平し、直接床面としている。ほぼ平坦で、住居跡の中央部が堅く踏み固められている。また、北側の壁寄りには長さ 1.5m・幅 30 cm にわたり、床面から 16 cm の高さの段がみられる。

〈柱穴〉堅穴内外で検出できたピットは 41 個である。P1・P2 については〈付属施設〉の項目で記載する。ピットの配置から、堅穴の中央部に位置する P3～P6 の四本は支柱穴と考えられ、P8・P10～P41 の堅穴の壁寄りに位置するものは壁柱穴と考えられる。一方、堅穴外に位置する P7・P9 については、本住居跡に関連するか否かは判断できなかった。また各ピットでは柱痕を検出できなかった。

#### ピット計測表

No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)
3	橢円形	42×40	16.1	4	橢円形	36×22	17.3	5	橢円形	60×30	23.1
6	橢円形	30×19	11.1	7	円形	47×46	19.6	8	橢円形	28×14	12.4
9	橢円形	37×28	6.0	10	橢円形	34×26	12.6	11	円形	23×20	3.7
12	円形	37×30	19.2	13	円形	28×26	9.2	14	橢円形	12×9	4.7
15	円形	20×19	12.6	16	不整形	27×14	7.4	17	円形	17×15	11.7
18	円形	16×15	16.2	19	橢円形	15×12	10.8	20	円形	19×16	9.3
21	円形	14×13	13.4	22	円形	22×20	13.2	23	不整形	24×17	13.5
24	円形	25×22	11.7	25	橢円形	21×16	15.3	26	円形	28×25	15.2
27	橢円形	26×17	6.9	28	橢円形	23×17	7.8	29	円形	20×19	11.3
30	円形	19×17	14.9	31	円形	22×18	13.3	32	不整形	35×27	2.5
33	円形	16×14	6.9	34	円形	21×20	2.7	35	円形	21×18	9.3
36	円形	20×18	12.3	37	円形	16×15	7.2	38	円形	17×16	11.2
39	円形	17×14	8.8	40	橢円形	26×20	8.8	41	橢円形	35×26	11.0

〈炉〉検出できなかった。

〈付属施設〉P1は堅穴の中央部に位置しており、長径1m10cm・短径87cmの長方形を呈し、床面からの深さは23cmである。P2は東壁寄りに位置しており長径1m77cm・短径92cmの長方



形を呈し、床面からの深さは 12 cm である。両ピットの堆積土は住居跡の堆積土と同じであり、本住居跡に付随するものと思われる。

〈堆積土〉6 層に区分できた。その堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

#### 第 4 号住居跡土層注記

第 1 層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	ローム粒・炭化物を若干含む、ロームブロック混入。しまり・粘性あり。
第 2 層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /3	炭化物若干・ローム粒多量に含む、ロームブロック混入。しまり・粘性あり。
第 3 層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒・炭化物若干含む。しまりややあり、粘性あり。
第 4 層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	炭化物若干・ローム粒少量含む。しまりなし、粘性あり。
第 5 層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /6	炭化物・ローム粒を若干含む。しまりややあり、粘性あり。
第 6 層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /1	ローム粒・炭化物を若干含む。しまり・粘性あり。

#### 第 4 号住居跡ピット 1 土層注記

第 1 層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /1	住居跡層序第 6 層と同層位。
第 2 層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	小ロームブロック・炭化物を多量に含む。しまり・粘性なし。

#### 第 4 号住居跡ピット 2 土層注記

第 1 層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	住居跡層序第 4 層と同層位。
-------	----	-----------------------	-----------------

#### 第 4 号住居跡ピット 5 土層注記

第 1 層	褐色	10Y R <sup>6</sup> /4	炭化物若干含む、暗褐色土混入。しまりなし、粘性あり。
第 2 層	にぶい黄褐色	10Y R <sup>6</sup> /4	暗褐色土混入。しまりなし、粘性あり。

#### 第 4 号住居跡ピット 7 土層注記

第 1 層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒少量・炭化物若干含む。しまりなし、粘性あり。
第 2 層	褐色	10Y R <sup>6</sup> /4	小ロームブロック多量・炭化物を若干含む。しまりなし、粘性あり。

#### 第 4 号住居跡ピット 38 土層注記

第 1 層	褐色	10Y R <sup>6</sup> /4	小ロームブロックを含む、暗褐色土混入。しまり・粘性あり。
-------	----	-----------------------	------------------------------

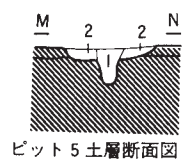
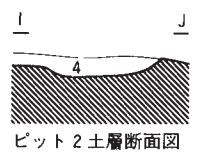
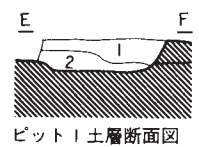
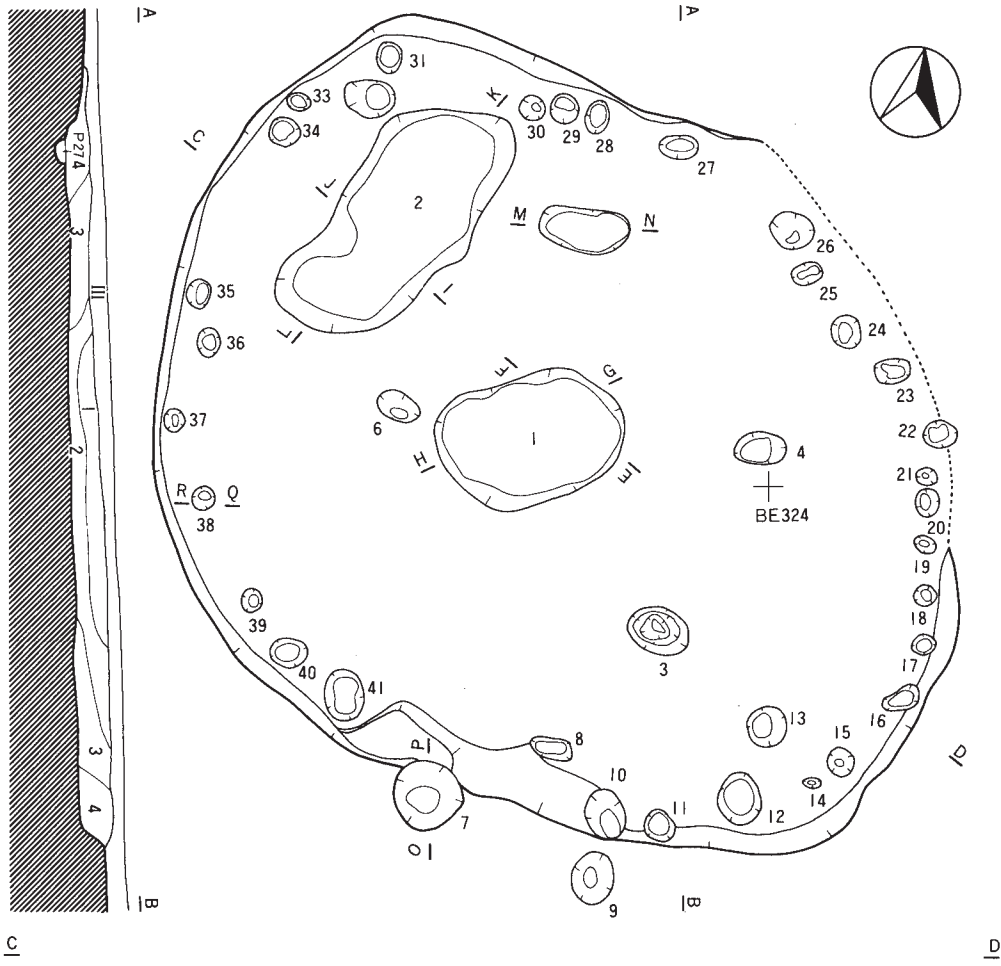
#### 〈出土遺物〉(第 38 ~ 48 図)

土器は、住居跡のほぼ全面に散布状態で出土していたが、完形土器は出土していない。(4)・(5)はまとまって出土したが、(1)・(2)は床面及び床直の出土でほぼ同一時期に廃棄したと考えられる。出土した土器は第 I 群 2 類土器である。

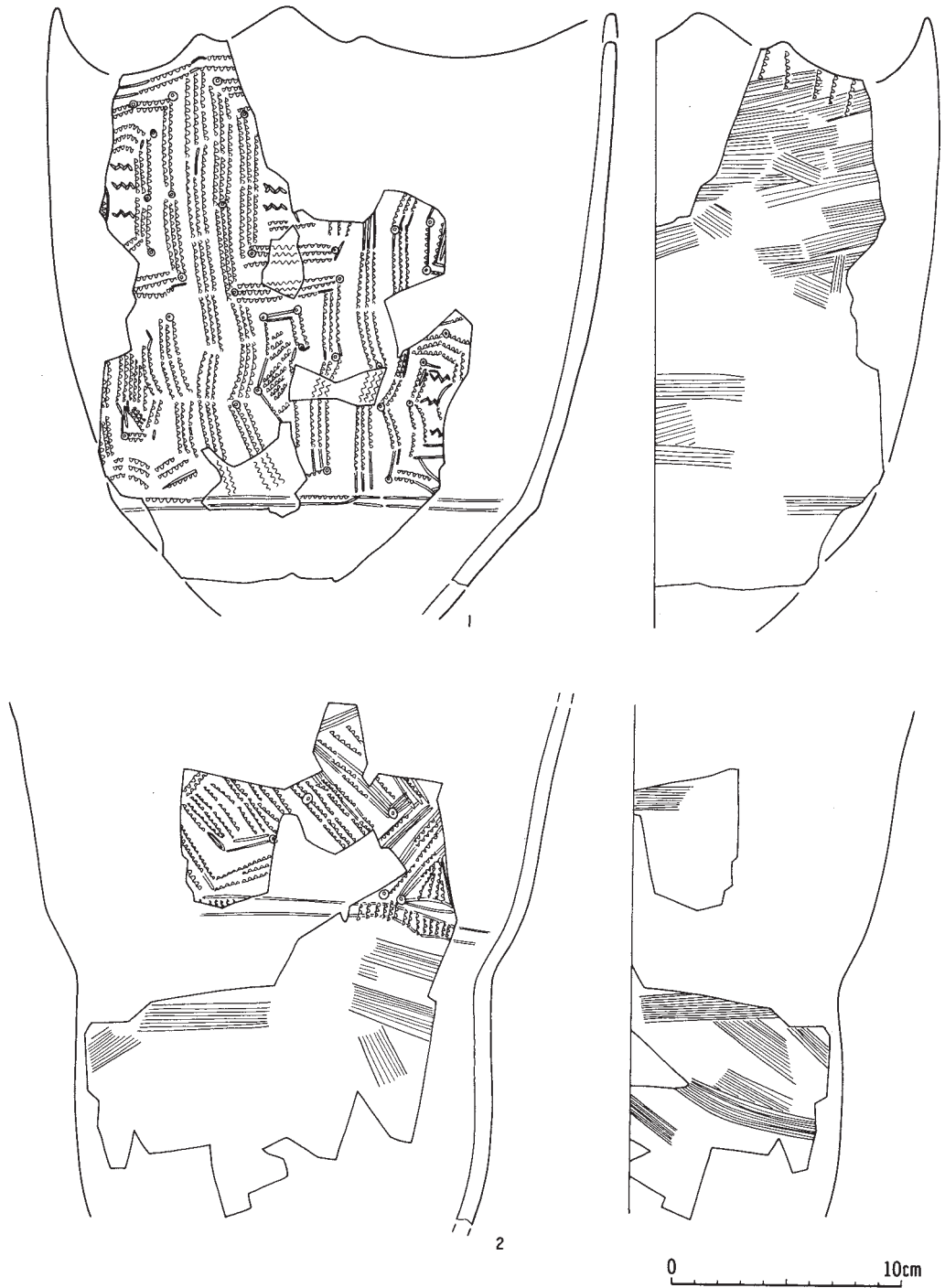
土器の文様構成は、縦位及び斜位に構成された方形文が多く、方形文の終始には円形刺突文を施す。(3)は口縁部と胴部の文様帯が分離している例である。(4)は器表裏面に貝殻条痕を施しており、痕跡は弱い。(5)は小形土器で、沈線と貝殻腹縁を用いて山形状に文様を構成している。

石器は、石鏃 8 点・石槍 4 点・石錐 1 点・石匙 1 点・石篋 2 点・不定形石器 13 点・石錘 4 点・敲磨器類 4 点・石皿台石類 1 点・チップ 2 1 2 点出土している。

出土遺物から、本住居跡は縄文時代早期の物見台式期と思われる。



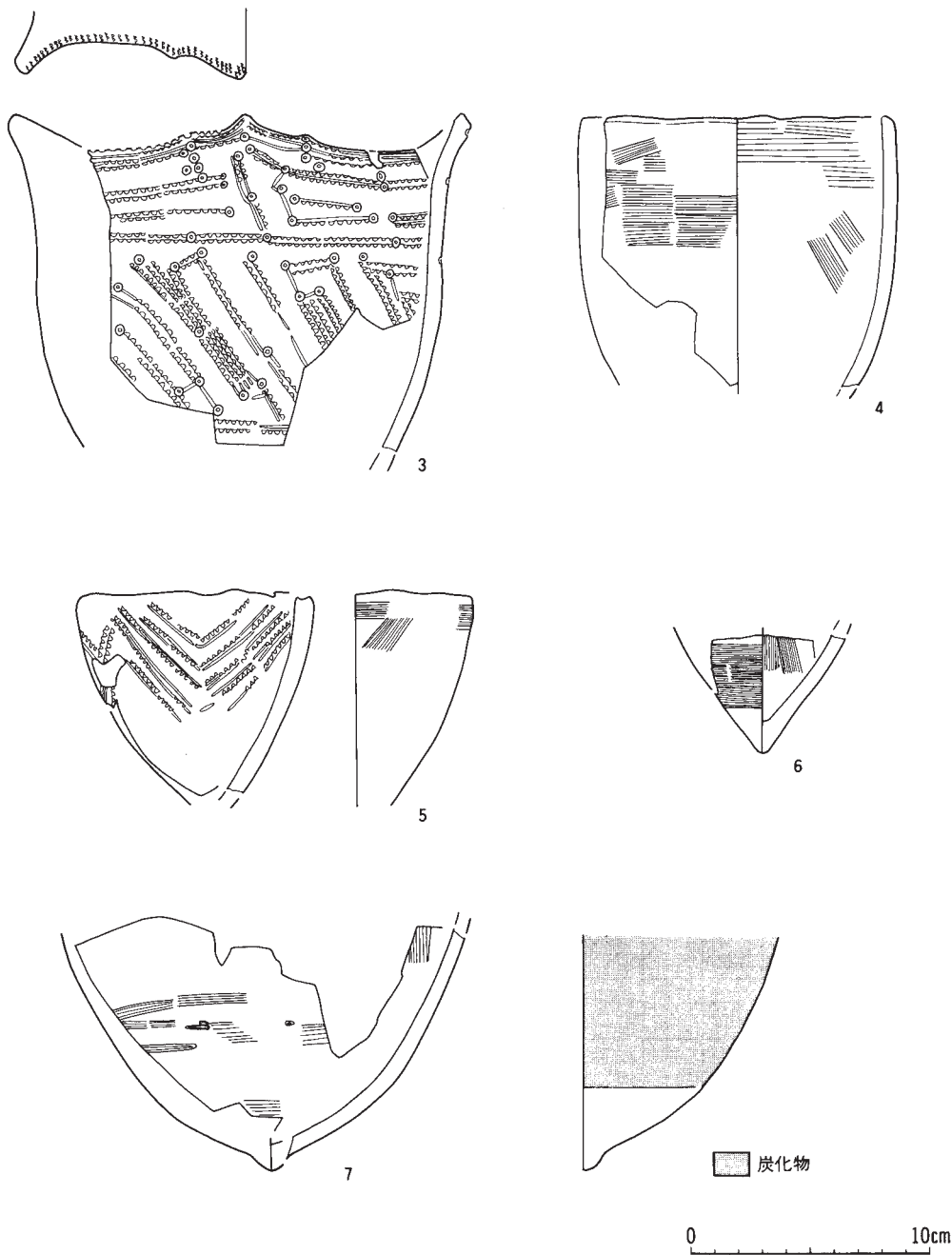
第37図 第4号住居跡



第4号住居跡出土土器観察表(1)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
1	4H 床面	深鉢	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突・鋸歯状沈線、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
2	4H 床面	深鉢	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	貝殻条痕	I群2類A種

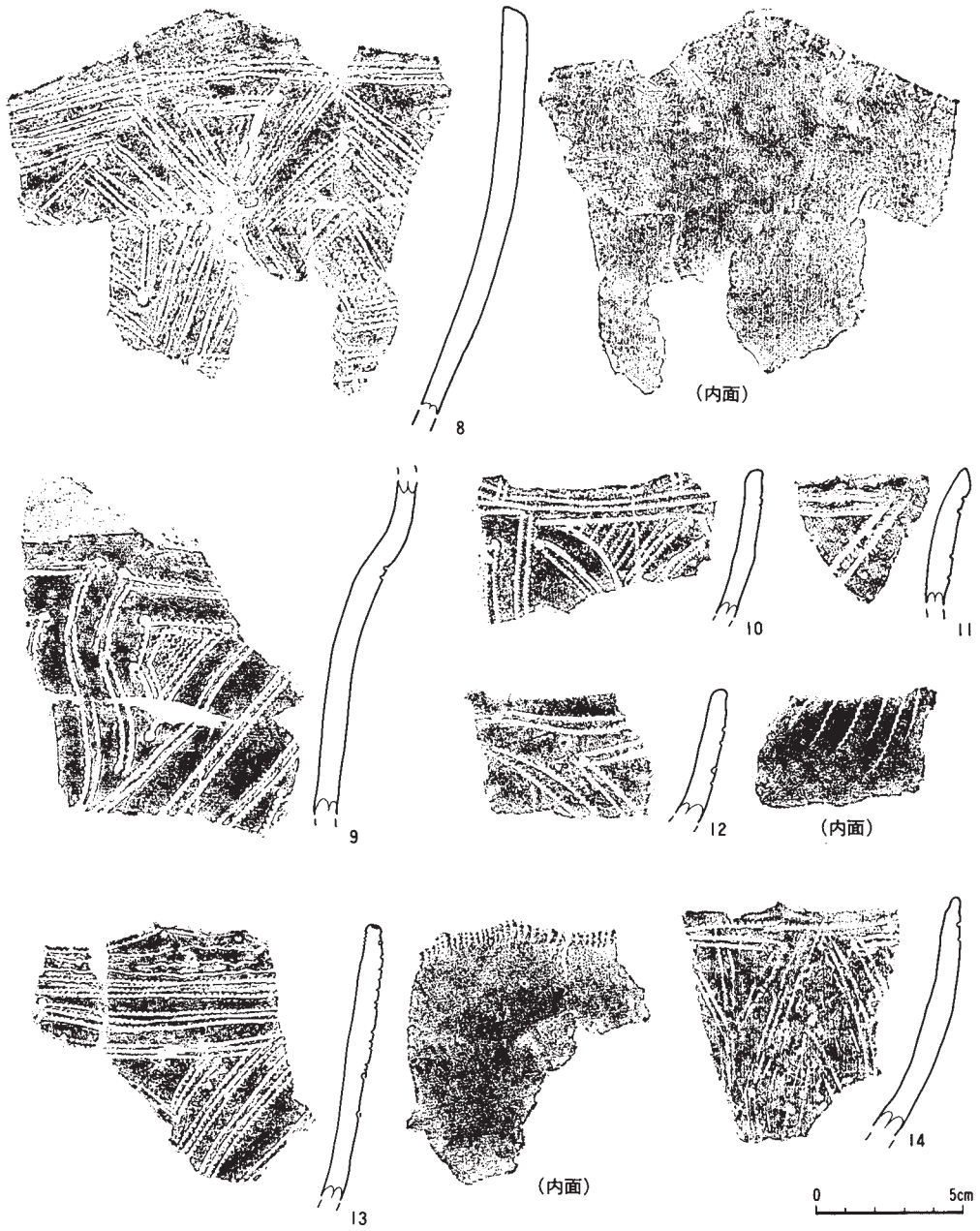
第38図 第4号住居跡出土遺物(1)



第4号住居跡出土土器観察表(2)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
3	4H 床面	深鉢	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
4	4H 床直	鉢	貝殻条痕、平口縁	貝殻条痕	I群2類D種
5	4H 床直	鉢	山形状文(貝殻腹縁)、平口縁	貝殻条痕	I群2類A種
6	4H 床直	底	貝殻条痕	貝殻条痕	I群2類F種
7	4H 床面	底	貝殻条痕、乳房状突起	貝殻条痕	I群2類F種

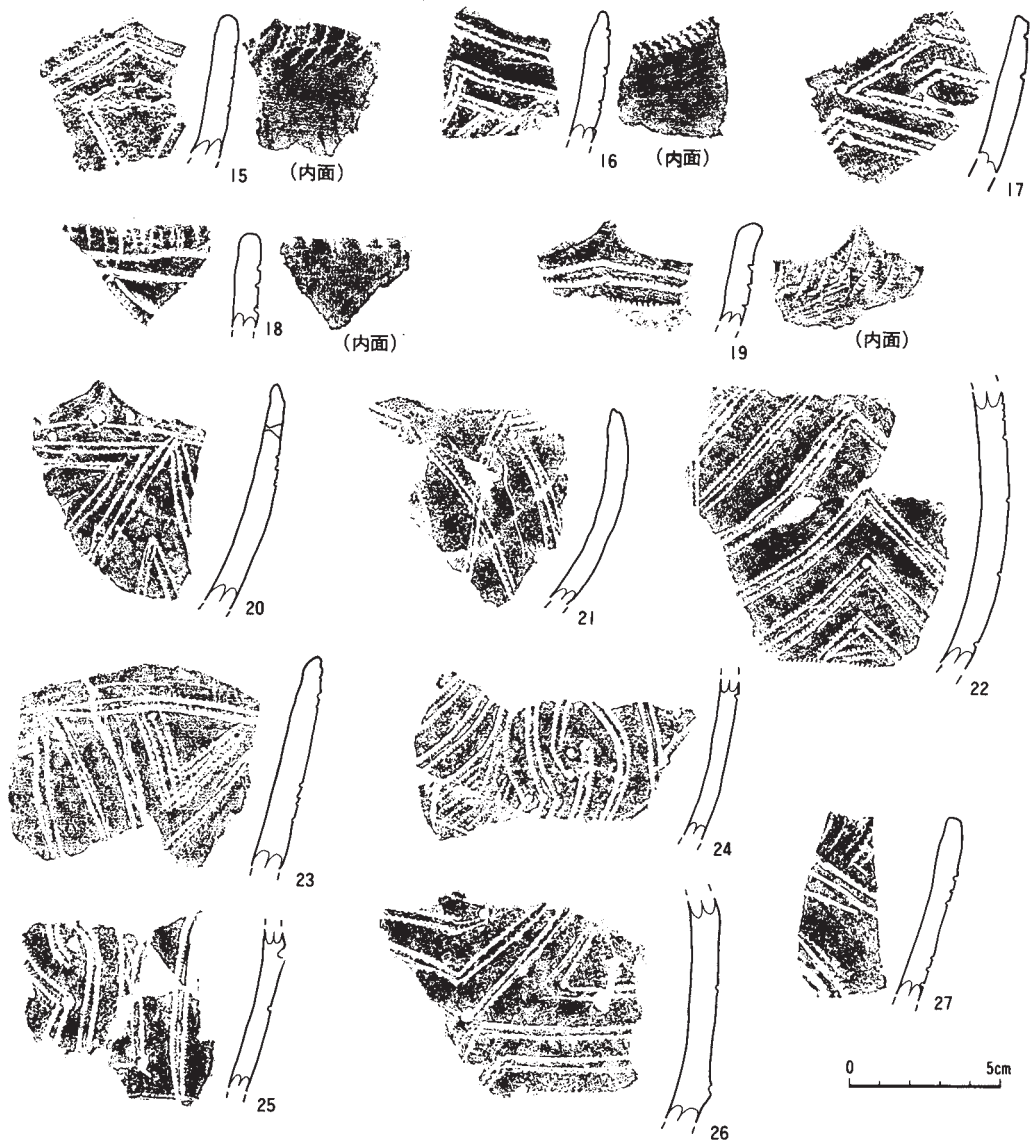
第39図 第4号住居跡出土遺物(2)



第4号住居跡出土土器観察表(3)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
8	4H 床直	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
9	4H 床直	口頸	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
10	4H 1層	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種
11	4H 床面	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
12	4H 2号 ツト裏土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
13	4H 床直	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
14	4H 床直	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種

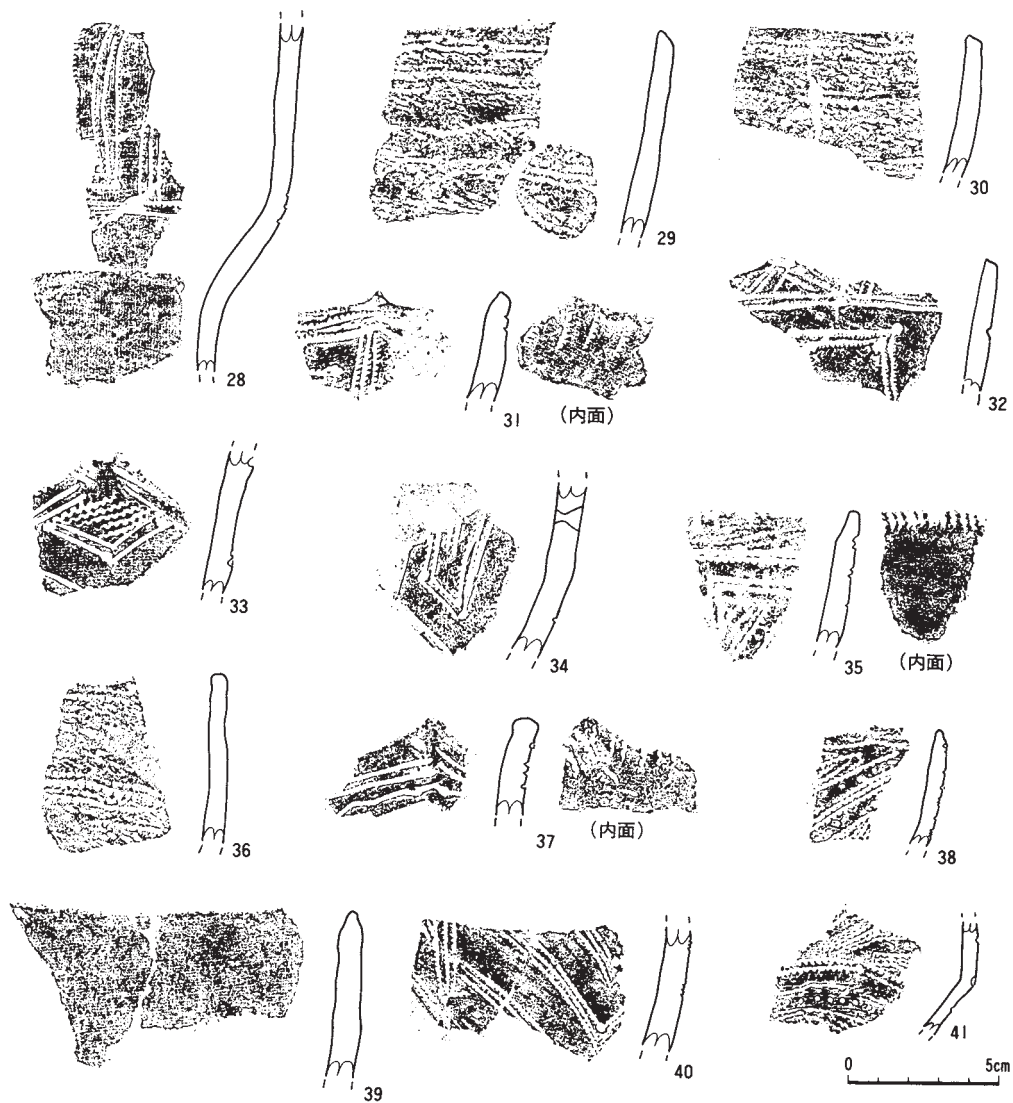
第40図 第4号住居跡出土遺物(3)



第4号住居跡出土土器観察表(4)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
15	4 H 床面	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、鋸齒状沈線、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
16	4 H 床面	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
17	4 H 床直	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種
18	4 H 覆土	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
19	4 H 覆土	口縁	貝殻腹縁文・沈線、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
20	4 H 覆土	口縁	山形状文(貝殻腹縁文)、補修孔、波状口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種
21	4 H 床直	口縁	方形状文(貝殻腹縁文)、鋸齒状沈線、円形刺突、波状口縁	ナデ調整	I群2類A種
22	4 H 床直	胴	山形状文(貝殻腹縁文)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
23	4 H 床直	口縁	山形状文(貝殻腹縁文)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
24	4 H 床面	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁文)、円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
25	4 H 床面	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁文)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
26	4 H 床面	胴	山形状文(貝殻腹縁文)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
27	4 H 2層	口縁	斜位状文(貝殻腹縁文)、波状口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種

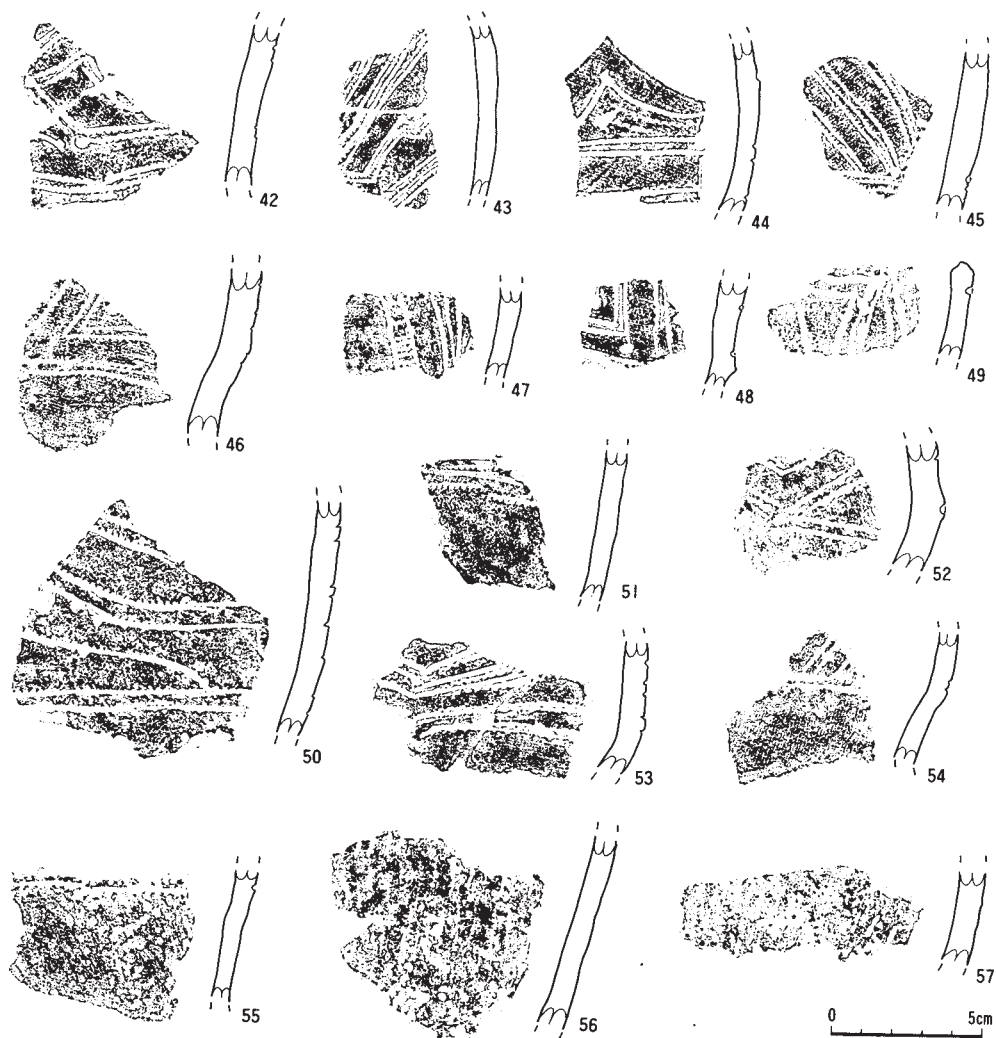
第41図 第4号住居跡出土遺物(4)



第4号住居跡出土土器観察表(5)

番号	地区・層位	部位	外面施文	文様	内面	分類
28	4 H 床面	胴	方形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
29	4 H 覆土	口縁	貝殻腹縁文		ナデ調整	I群2類
30	4 H 覆土	口縁	貝殻腹縁文		ナデ調整	I群2類
31	4 H 床面	口縁	貝殻腹縁文・沈線・円形刺突	波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
32	4 H 床面	口縁	方形状文(貝殻腹縁)	円形刺突・波状口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種
33	4 H 床面	胴	菱形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
34	4 H 床直	胴	方形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
35	4 H 覆土	口縁	方形状文(貝殻腹縁)	円形刺突・平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
36	4 H 覆土	口縁	貝殻腹縁文		ナデ調整	I群2類
37	4 H 床直	口縁	沈線・鋸歯状沈線	円形刺突・波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
38	4 H 覆土	口縁	方形状文(貝殻腹縁)	円形刺突・波状口縁	貝殻条痕	I群2類A種
39	4 H 床直	口縁	無文	波状口縁	ナデ調整	I群2類B種
40	4 H 覆土	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
41	4 H 覆土	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	円形刺突・鋸歯状沈線	貝殻条痕	I群2類A種

第42図 第4号住居跡出土遺物(5)

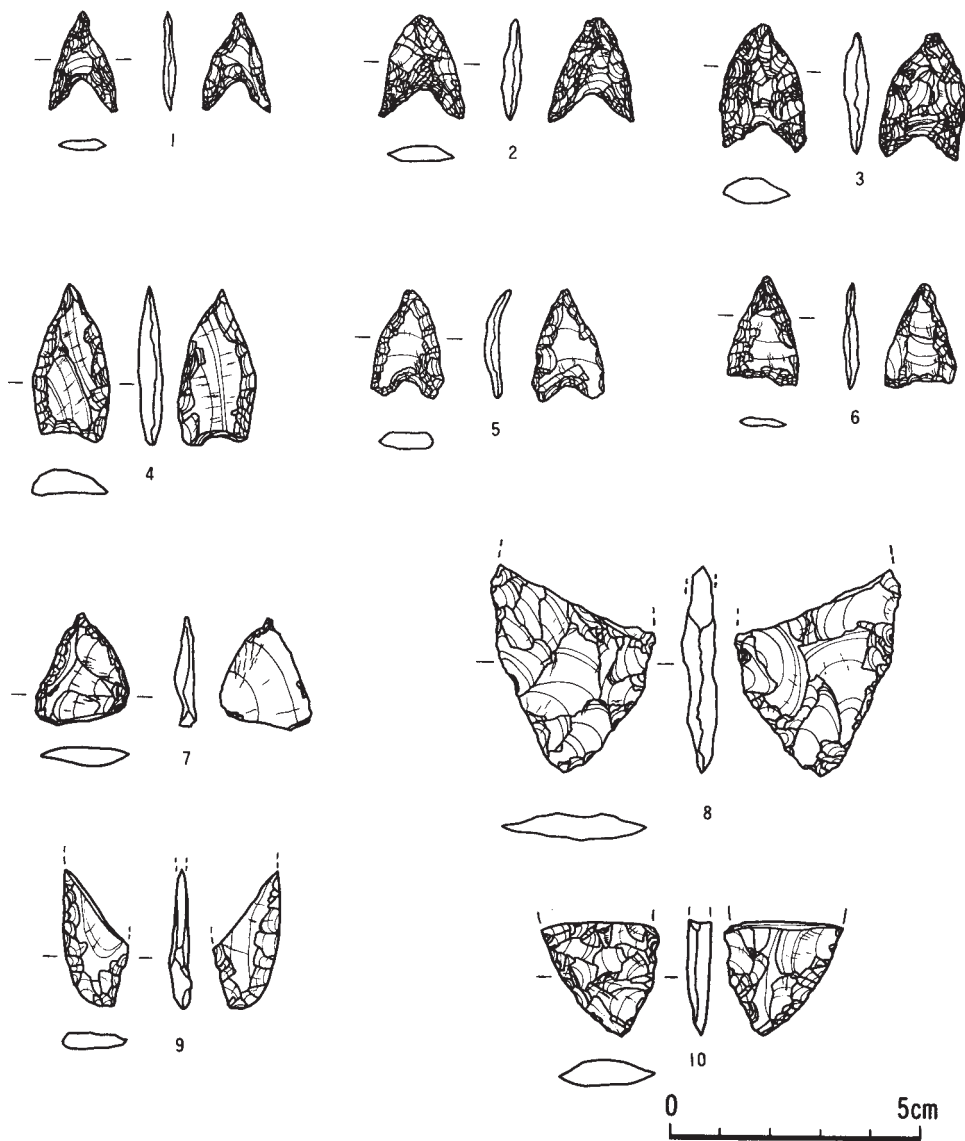


第4号住居跡出土土器観察表(6)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
42	4 H 床直	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ミガキ	I群2類A種
43	4 H 覆土	胴	弧状文(貝殻腹縁)	貝殻灸痕	I群2類A種
44	4 H 2層	胴	横位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
45	4 H 床面	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
46	4 H 1層	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
47	4 H 覆土	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
48	4 H 覆土	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
49	4 H 覆土	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
50	4 H 床直	胴	横位弧状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I群2類A種
51	4 H 1号ピット覆土	胴	貝殻腹縁文・沈線	ナデ調整	I群2類A種
52	4 H 2層	胴	山形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
53	4 H 覆土	胴	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
54	4 H 床直	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
55	4 H 床面	胴	貝殻腹縁文・沈線・刺突	ナデ調整	I群2類A種
56	4 H 覆土	胴	貝殻腹縁文	ヘラナデ調整	I群2類A種
57	4 H 1層	胴	貝殻腹縁文	ヘラナデ調整	I群2類A種

第43図 第4号住居跡出土遺物(6)

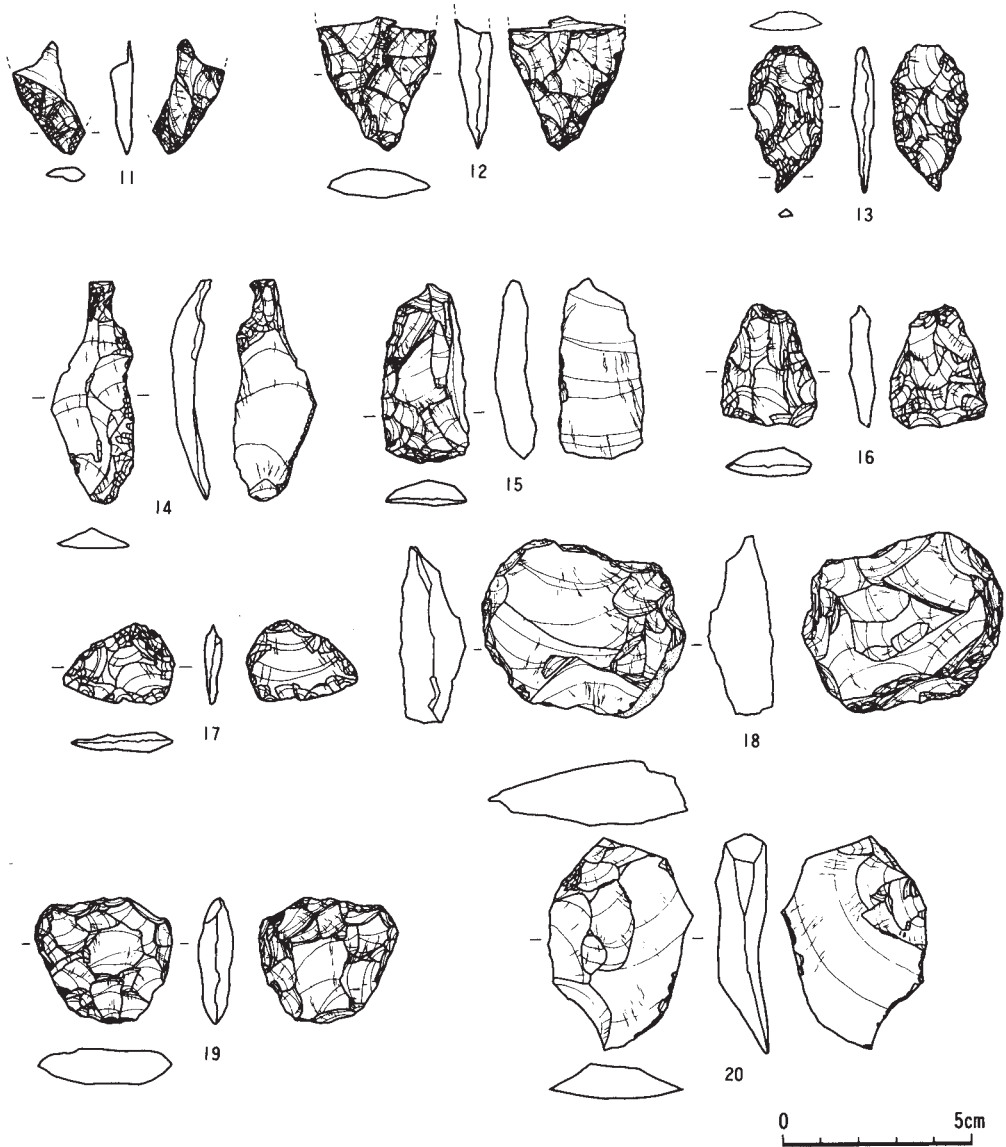




第4号住居跡出土石器計測表(1)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第44図-1	4 H	覆土	19	14	3	0.4	珪	A-I a	97	
第44図-2	4 H	床直	21	17	4	0.9	珪	A-I a	102	
第44図-3	4 H	覆土	25	17	6	2.0	珪	A-I b	98	
第44図-4	4 H	床直	31	15	4	1.8	珪	A-I b	105	
第44図-5	4 H	1	22	14	3	1.0	珪	A-I b	107	
第44図-6	4 H	床直	21	15	3	0.8	珪	A-II a	104	
第44図-7	4 H	覆土	21	18	4	1.2	珪	A-II a	113	
第44図-8	4 H	床直	(42)	(33)	7	(6.8)	珪	B-I a	101	尖頭部欠損
第44図-9	4 H	床面	(28)	(13)	3	(1.0)	珪	A-III	126	尖頭部欠損
第44図-10	4 H	床直	(23)	(23)	5	(2.7)	珪	B-I a	119	基部欠損

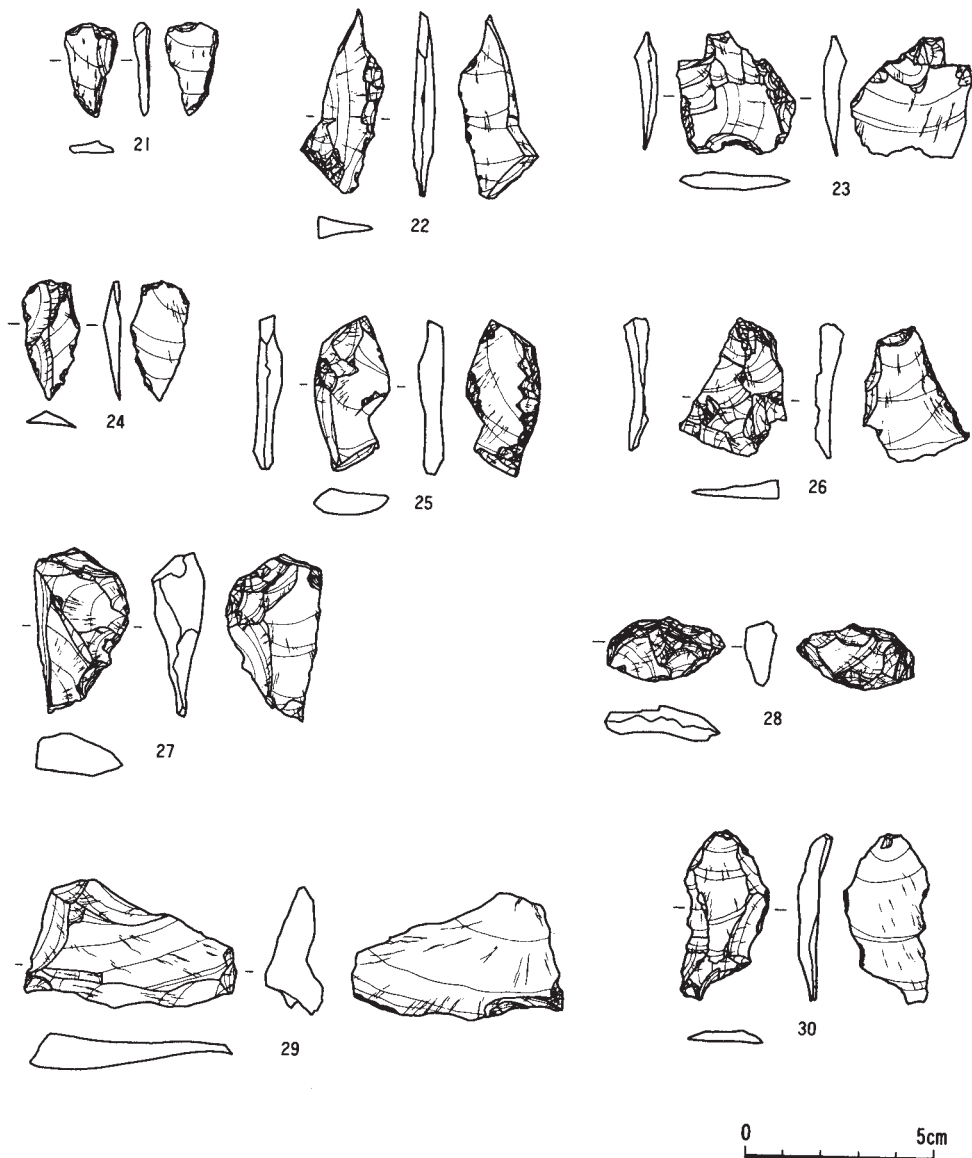
第44図 第4号住居跡出土遺物(7)



第4号住居跡出土石器計測表(2)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第45図-11	4 H	床面	(29)	13	5	(1.2)	珪	B-Ⅲ	120	基部残存
第45図-12	4 H	床面	(35)	(32)	8	(2.2)	珪	B-I b	125	尖頭部欠損
第45図-13	4 H	床直	39	20	5	3.3	珪	C	108	
第45図-14	4 H	覆土	58	19	7	6.1	珪	D-Ⅳ	110	
第45図-15	4 H	床面	47	22	7	7.7	珪	E-Ⅲ c	103	
第45図-16	4 H	床面	32	25	6	4.3	珪	E-I b	106	
第45図-17	4 H	床直	21	28	5	2.2	珪	F-I a	99	
第45図-18	4 H	2	50	53	16	39.9	粘	F-I d	111	
第45図-19	4 H	2	38	33	9	11.5	珪	F-I a	115	
第45図-20	4 H	2	57	40	12	23.5	珪	F-II a	116	

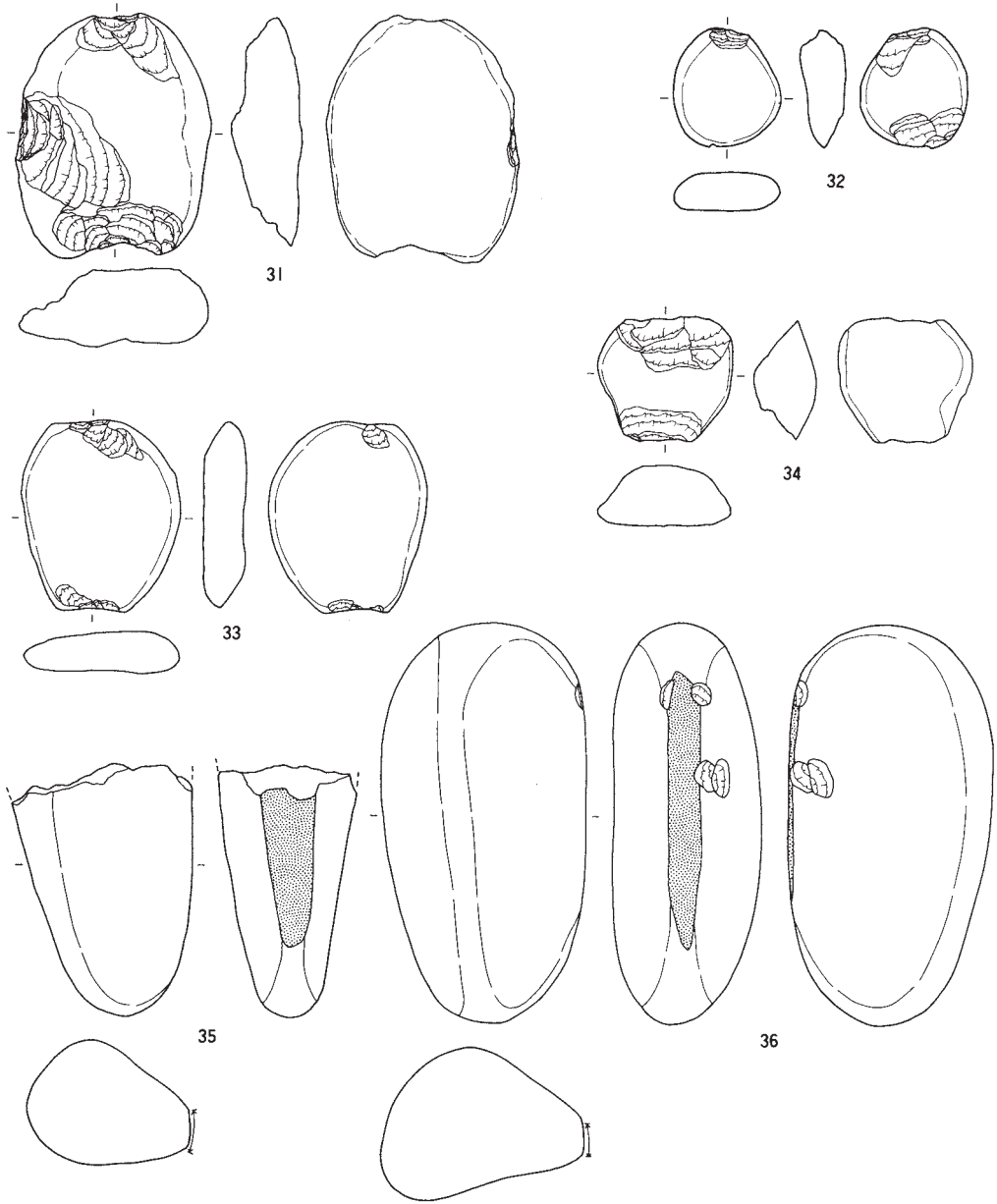
第45図 第4号住居跡出土遺物(8)



第4号住居跡出土石器計測表(3)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第46図-21	4 H	床面	25	13	4	0.9	珩	F-II a	124	
第46図-22	4 H	床面	49	17	5	3.2	珩	F-II a	117	
第46図-23	4 H	2	34	33	5	3.7	珩	F-II a	128	
第46図-24	4 H	床面	31	14	4	1.3	珩	F-II a	122	
第46図-25	4 H	床面	42	19	6	4.4	珩	F-II a	123	
第46図-26	4 H	床面	34	23	7	3.8	珩	F-II a	127	
第46図-27	4 H	覆土	43	24	13	13.1	珩	F-II b	112	
第46図-28	4 H	床面	17	32	6	3.4	珩	F-III	109	
第46図-29	4 H	床面	55	31	9	12.6	珩	F-IV	118	
第46図-30	4 H	床面	45	22	4	4.0	珩	F-IV	100	

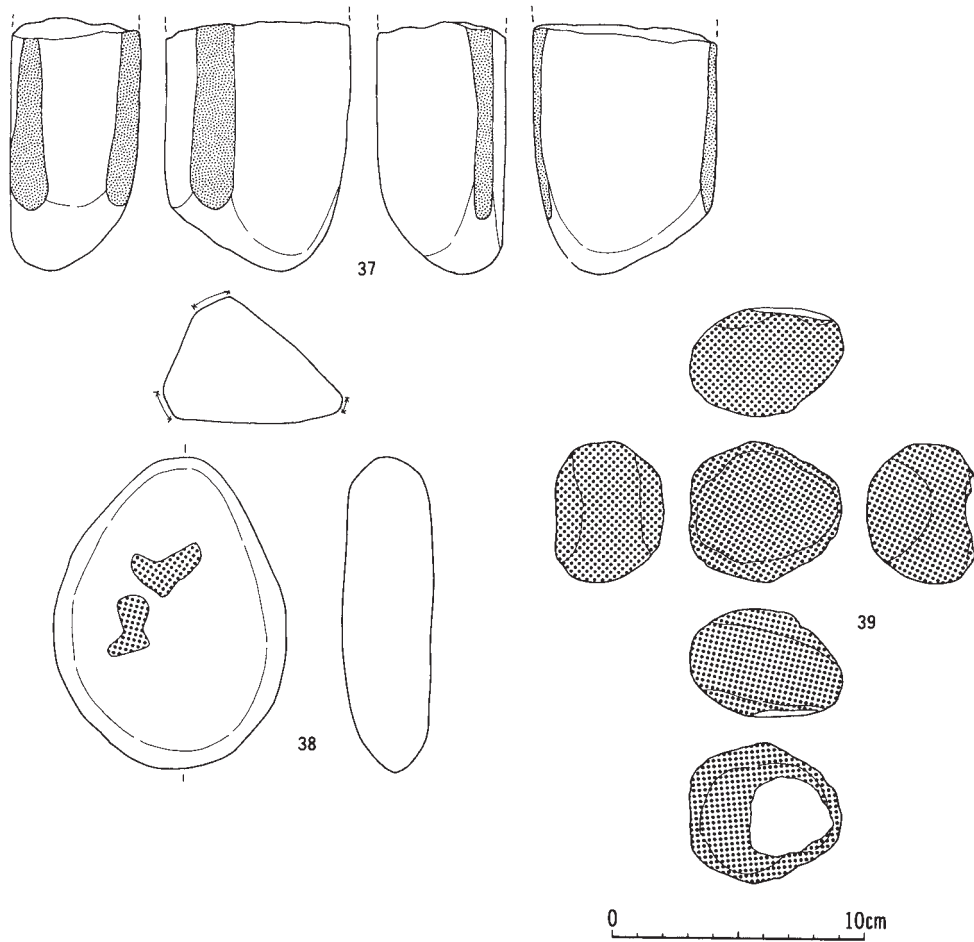
第46図 第4号住居跡出土遺物(9)



第4号住居跡出土石器計測表(4)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第47図-31	4 H	床直	101	76	31	291	チャ	J-I	26	
第47図-32	4 H	4	47	44	18	47	チャ	J-II b	23	
第47図-33	4 H	4	77	64	18	135	安	J-II c	24	
第47図-34	4 H	床直	54	51	27	86	チャ	J-II c	22	
第47図-35	4 H	床面	(101)	(66)	(51)	(471)	安	K-I c	25	欠損 スリ1面
第47図-36	4 H	床直	160	83	58	1,058	安	K-I a	28	スリ1面

第47図 第4号住居跡出土遺物(10)



第4号住居跡出土石器計測表(5)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第48図-37	4 H	覆土	(97)	70	52	(537)	安	K-I c	29	欠損、スリ3面
第48図-38	4 H	床直	240	190	70	4,600	安	L	30	
第48図-39	4 H	床直	62	54	43	171	安	K-II b	27	タキキほぼ全面

第48図 第4号住居跡出土遺物(1)

(2) 土壌

第1号土壌 (第49図)

〈位置と確認〉 調査区B J - 346 グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 本遺構東側で第1号溝状ピットと重複しており、新旧関係は本遺構が新しい。

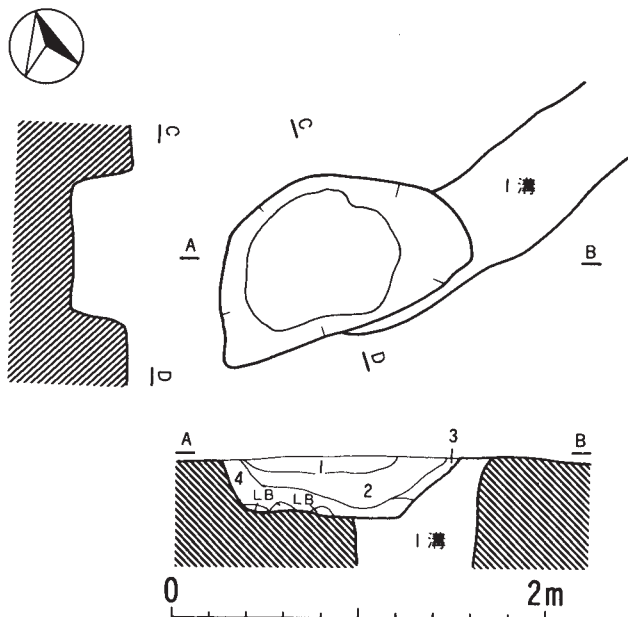
〈平面形・規模〉 所平面形は、西側が張り出す不整楕円形を呈する。規模は、開口部で長径152 cm・短径81 cm、底面で長径86 cm・短径64 cmである。

〈壁〉 壁は、東壁が底面から緩やかに立ち上がり、他壁はすべて

てほぼ垂直に立ちあがる。壁高は、東壁32 cm・西壁28 cm・南壁30 cm・北壁32 cmである。すべての壁は軟らかい。

〈底面〉 底面はほぼ平坦で、軟らかい。

〈堆積土〉 4層に分層できた。暗褐色土・褐色土を基調としており、第1層にローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。



第49図 第1号土壌

第1号土壌土層注記

第1層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /3	ローム粒少量混入。しまりやや強く、粘性もややあり。
第2層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	しまりやや強く、粘性少しあり。
第3層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	しまりやや強く、粘性ややあり。
第4層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	しまりやや強く、粘性強い。

〈出土遺物〉 遺物は出土しなかった。

第2号土壌 (第50～51図)

〈位置と確認〉 調査区B L - 313グリッドに位置する。第1号住居跡の土層断面を観察したところ、本遺構を確認した。

〈重複〉 第1号住居跡と重複しており、新旧関係は本遺構が新しい。

〈平面形・規模〉 第1号住居跡の土層断面を観察した際に本遺構を確認したため、平面形の全

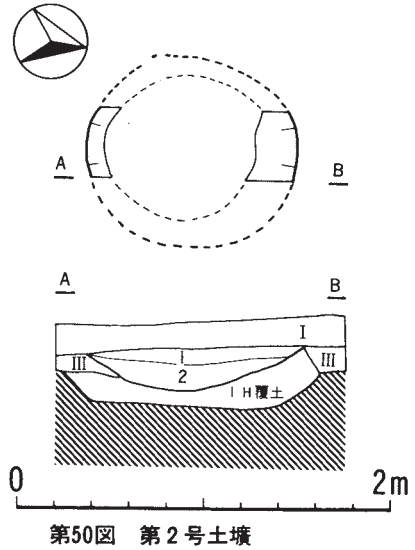
容を把握できなかった。残存部分から推定して、径112 cmの円形を呈すると思われる。

〈壁〉基本層序第IV層を掘り込んで壁面とし、北・南壁は底面から緩やかに立ち上がる。壁高は、南壁17 cm・北壁20 cmで、壁は軟らかい。

〈底面〉底面は中央部が凹んでおり、軟らかい。

〈堆積土〉2層に分層できた。黒褐色土を基調としており、炭化物及びローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

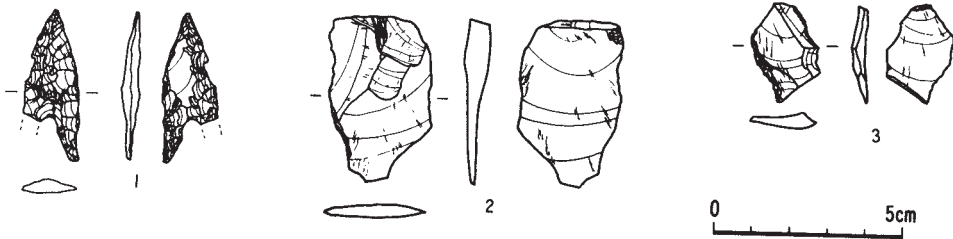
〈出土遺物〉遺物は2層から不定形石器が2点出土した。



第50図 第2号土坑

第2号土坑土層注記

第1層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	炭化物及びローム粒を若干含む。しまりややあり、粘性なし。
第2層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	炭化物及びローム粒を少量含む。しまり・粘性ややあり。



第51図 第2号土坑出土遺物

第2号土坑出土石器計測表

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第51図-1	2土	1	(39)	14	4	(1.4)	珩	A-I a	208	基部欠損
第51図-2	2土	2	43	28	6	5.7	珩	F-IV	247	
第51図-3	2土	2	26	20	4	1.2	珩	F-II a	210	

### 第3号土壌 (第52図)

〈位置と確認〉 調査区B I -313 グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。



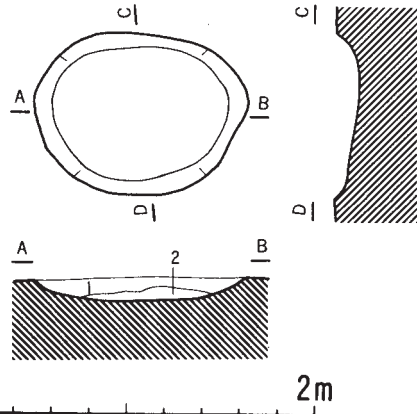
〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 平面形は、東側がやや張り出す楕円形を呈する。規模は、開口部で長径114cm・短径86cm、底面で長径94cm・短径72cmである。

〈壁〉 壁は、すべて底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は、東壁10cm・西壁9cm・南壁7cm・北壁9cmである。

〈底面〉 平坦で、南側が若干高くなっており、軟らかい。

〈堆積土〉 2層に分層できた。各層にローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。



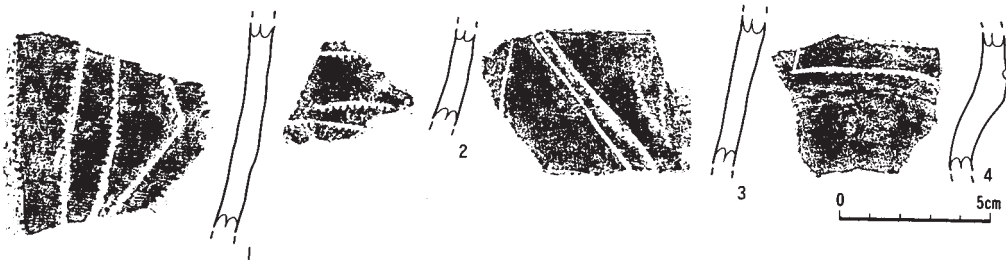
#### 第3号土壌土層注記

第1層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /3	1~5mm大のローム粒、ロームブロックを多量、黒褐色土粒をやや多量に含み、黄褐色土を少量に混入。
第2層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	2mm大のローム粒を少量に含み、黄褐色土をやや多量に混入する。しまりなし、粘性あり。

〈出土遺物〉 遺物は出土しなかった。

### 第5号土壌 (第53・54図)

〈位置と確認〉 調査区B J -313 グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面でローム土と黒



第5号土壌出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
1	5土 4層	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
2	5土 4層	胴	貝殻腹縁文	ナデ調整	I群2類A種
3	5土 4層	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
4	5土 4層	胴	貝殻腹縁文	ナデ調整	I群2類A種

第53図 第5号土壌出土遺物



色土の落ち込みを確認した。

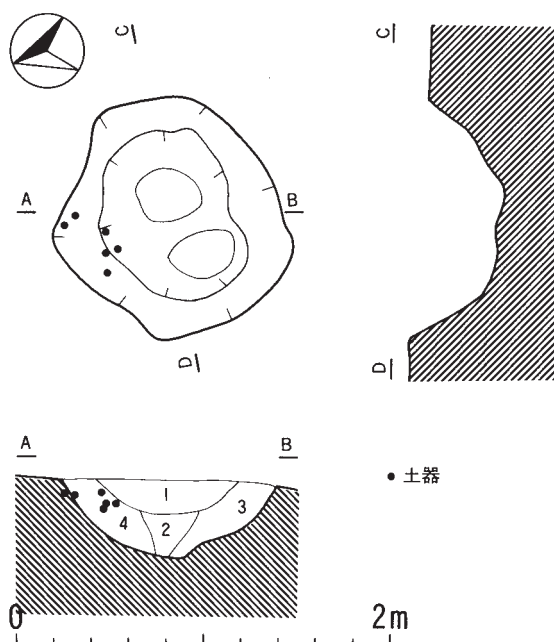
〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は不整形を呈する。規模は、開口部で長径 126 cm・短径 115cm、底面で長径83cm・短径74cmである。

〈壁〉すべての壁は、底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は、東壁 34 cm・西壁 42 cm・南壁 26 cm・北壁 36 cmである。

〈底面〉凹凸がみられ、中央部が若干高くなっている。また、軟らかい。

〈堆積土〉4層に分層できた。第1層上面にロームが集中的に包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。



第54図 第5号土坑

#### 第5号土坑土層注記

第1層	橙	色	7.5Y R <sup>6</sup> /8	ローム・黒色土を含む。しまりあり、粘性なし。
第2層	暗	褐色	7.5Y R <sup>3</sup> /4	2~5mm大のロームブロック、ローム粒を含む。しまり・粘性なし。
第3層	黒	色	7.5Y R <sup>2</sup> /1	3~10mm大のロームブロックを含む。しまり・粘性なし。
第4層	黒	褐色	7.5Y R <sup>3</sup> /2	2~8mm大のロームブロックを含む。ローム粒を少量含む。しまり・粘性3層と同じ。

〈出土遺物〉遺物は北壁寄りの4層から土器片が6点出土した。土器は、沈線と貝殻腹縁文を組み合わせた第I群2類土器である。

#### 第6号土坑 (第55図)

〈位置と確認〉調査区BK-313グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は、ほぼ円形を呈する。規模は、開口部で長径66cm・短径60cm、底面で長径10cm・短径9cmである。

〈壁〉すべての壁は、底面からほぼ急激に立ち上がっており、軟らかい。壁高は、東壁34cm・西壁36cm・南壁30cm・北壁33cmである。

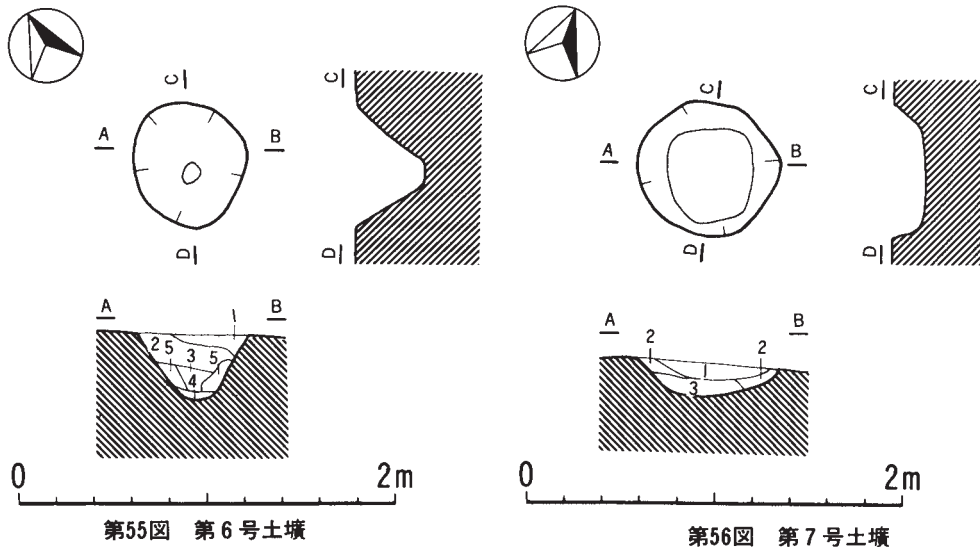
〈底面〉底面はほぼ平坦で、軟らかい。

〈堆積土〉5層に分層できた。褐色土を基調としており、第1層に千曳浮石、第2層にローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

## 第6号土層土層注記

第1層	暗褐色	10Y R <sup>9</sup> /4	黒褐色土、千曳浮砂のブロックを少量に混入する。しまりややあり、粘性あり。
第2層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	黒褐色土を少量、ローム粒をやや多量に含む。しまり・粘性1層よりなし。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	黄褐色土を少量に混入する。しまりなし、粘性あり。
第4層	黄褐色	10Y R <sup>9</sup> /8	褐色土粒を微量に混入する。しまり・粘性あり。
第5層	黄褐色	10Y R <sup>9</sup> /6	暗褐色土をやや多量に混入する。しまりなし、粘性あり。

〈出土遺物〉 遺物は出土しなかった。



### 第7号土層（第56図）

〈位置と確認〉 調査区B O-315グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 平面形は、不整な円形を呈する。規模は、開口部で長径76cm・短径72cm、底面で長径53cm・短径46cmである。

〈壁〉 南壁はほぼ垂直に、他壁は底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は、東壁12cm・西壁18cm・南壁16cm・北壁14cmである。

〈底面〉 底面はほぼ平坦で、軟らかい。

〈堆積土〉 3層に分層できた。褐色土を基調としており、第1・2層にローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

### 第7号土壌土層注記

第1層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒を微量に含む。しまりなし、粘性ややあり。
第2層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	ローム粒を少量含む。しまり・粘性ややあり。
第3層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /6	しまりややあり、粘性あり。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。

### 第8号土壌 (第57図)

〈位置と確認〉調査区BQ - 314グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で褐色土の落ち込みを確認した。

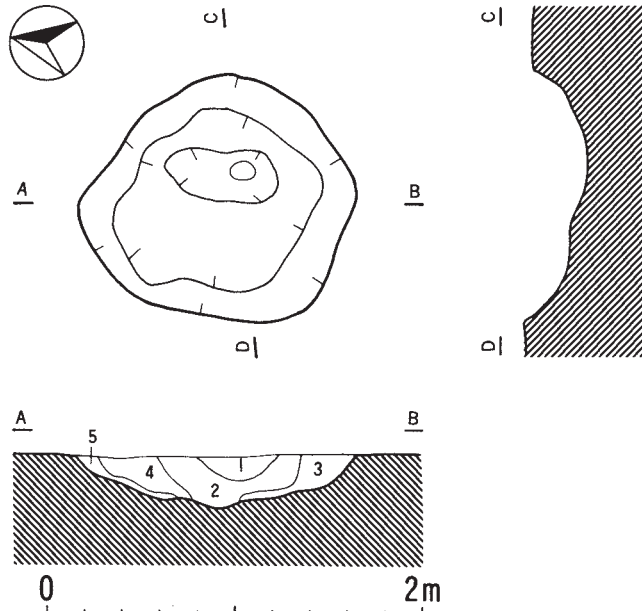
〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は、北側にやや張り出す不整楕円形を呈する。規模は、開口部で長径148cm・短径134cm、底面で長径115cm・短径98cmである。

〈壁〉東壁はやや急激に、他壁は底面から緩やかに立ち上がっており、堅緻である。壁高は、東壁26cm・西壁21cm・南壁18cm・北壁14cmである。

〈底面〉凹凸があり、東側が若干低くなっている。また、堅緻である。

〈堆積土〉5層に分層できた。褐色土を基調としており、各層にローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。



第57図 第8号土壌

### 第8号土壌土層注記

第1層	暗褐色	7.5Y R <sup>3</sup> /3	ローム粒を少量含む。しまり少しあり、粘性なし。
第2層	褐色	7.5Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒少量、1~3mm大のロームブロックも少量含む。しまり・粘性ややあり。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	3~5mm大のロームブロックが少量、ローム粒を多く含む。しまり・粘性ややあり。
第4層	褐色	7.5Y R <sup>4</sup> /6	ローム粒はやや多く、ロームブロックは少量含む。しまり・粘性ややあり。
第5層	明褐色	7.5Y R <sup>5</sup> /6	ロームを多量に含む。しまり・粘性あり。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。

### 第10号土壙（第58図）

〈位置と確認〉 調査区BM-318グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒色土の落ち込みを確認した。

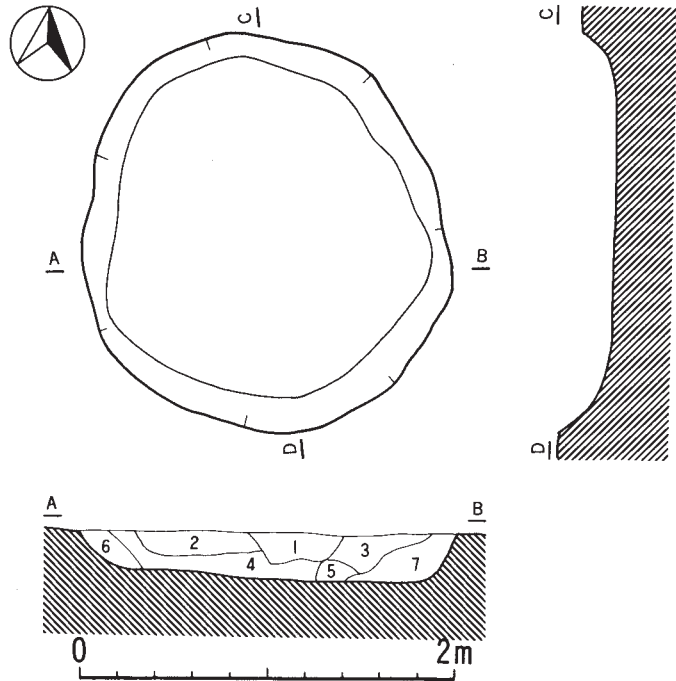
〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 平面形は、不整な円形を呈する。規模は、開口部で長径216cm・短径197cm、底面で長径184cm・短径169cmである。

〈壁〉 各壁ともに底面から緩やかに立ち上がっており、堅緻である。壁高は、東壁24cm・西壁20cm・南壁23cm・北壁18cmである。

〈底面〉 平坦で、堅緻である。

〈堆積土〉 7層に分層できた。黒褐色土を基調としており、第1～3・5・7層にはローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。



第58図 第10号土壙

### 第10号土壙土層注記

第1層	黒色	7.5Y R <sup>2</sup> /1	1～2mm大のローム粒を少量含む。しまり・粘性なし。
第2層	黒褐色	7.5Y R <sup>2</sup> /2	焼土を少量に混入し、2～3mm大のローム粒を少量に含む。しまり・粘性なし。
第3層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	1～2mm大のローム粒をやや多量に含む。しまりなし、粘性ややあり。
第4層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	黄褐色土をやや多量に混入する。しまりなし、粘性あり。
第5層	暗褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	5～10mm大のロームブロックを多量に混入する。しまりややあり、粘性なし。
第6層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	黄褐色土を多量に混入する。しまり・粘性なし。
第7層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	5mm大のロームブロックを少量、黄褐色土を多量に混入する。しまりなし、粘性あり。

〈出土遺物〉 遺物は出土しなかった。

### 第11号土壙（第59図）

〈位置と確認〉 調査区BO-321グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 平面形は、不整な円形を呈する。規模は、開口部で長径70cm・短径68cm、底面で長径33cm・短径31cmである。

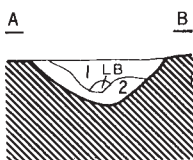
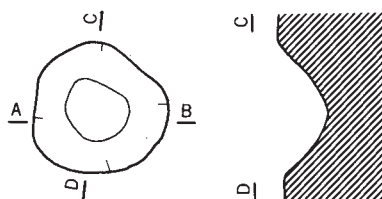
〈壁〉すべての壁は底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は、東壁20cm・西壁20cm・南壁18cm・北壁22cmである。



〈底面〉凹凸があり、中央部が最も低くなっている。また、軟らかい。

〈堆積土〉2層に分層できた。各層に炭化物が混入されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。



第59図 第11号土壌

### 第11号土壌土層注記

第1層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム少量混入。炭化物微量。しまりあり、粘性ややあり。
第2層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	炭化物多量混入。しまり・粘性ややあり。

### 第12号土壌 (第60・61図)

〈位置と確認〉調査区BK-332グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

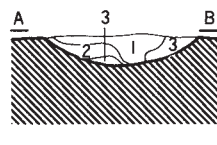
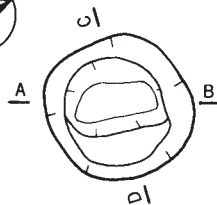
〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は、ほぼ円形に近い形状を呈する。規模は、開口部で長径80cm・短径74cm、底面で長径50cm・短径46cmである。

〈壁〉各壁ともに底面から緩やかに立ち上がる。また、東壁は中端に段を有している。壁高は、東壁14cm・西壁16cm・南壁13cm・北壁13cmである。すべての壁は軟らかい。

〈底面〉中央部が最も低い丸底で、軟らかい。

〈堆積土〉3層に分層できた。第1・2層にローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

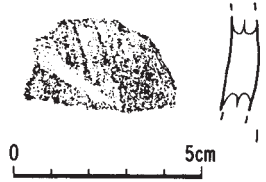


第60図 第12号土壌

### 第12号土壌土層注記

第1層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒を微量含む。しまり・粘性なし。
第2層	褐色	7.5Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒を微量含む。しまり・粘性なし。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	しまりややあり、粘性あり。

〈出土遺物〉遺物は2層中から土器が1点出土した。土器は貝殻条痕文を施文した第I群土器である。



第61図 第12号土層出土遺物

第12号土層出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
1	12土 2層	胴	貝殻条痕	ナデ調整	I群2類

第13号土層 (第62・63図)

〈位置と確認〉調査区B J-322グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉認められなかった。

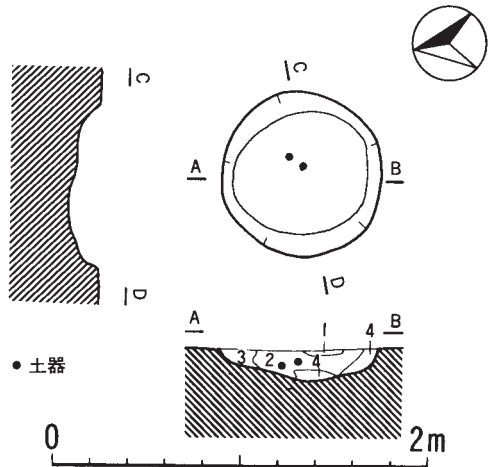
〈平面形・規模〉平面形は円形を呈する。規模は、開口部で長径86cm、底面で長径75cm・短径64cmである。

〈壁〉北・東壁が底面から緩やかに立ち上がり、南・西壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁は軟らかい。壁高は、東壁11cm・西壁16cm・南壁13cm・北壁9cmである。

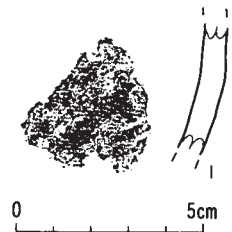
〈底面〉ほぼ平坦であるが中央部が若干凹んでおり、軟らかい。

〈堆積土〉4層に分層できた。第1・3層にはロームが含まれている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉遺物は2層中より土器片が2点出土した。土器は胴部下半部で第I群土器に相当すると思われる。



第62図 第13号土層



第63図 第13号土層出土遺物

第13号土層土層注記

第1層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	ローム粒を少量含む。しまり・粘性なし。
第2層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	黄褐色土を混入。しまり・粘性ともに1層と同じ。
第3層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /3	ロームブロックを少量含む。しまりややあり、粘性なし。
第4層	黄褐色	10Y R <sup>5</sup> /8	しまりなし、粘性あり。

### 第13号土壌出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	分類
1	13土 1層	胴	無文			ナデ調整	I群2類

#### 第14号土壙（第64図）

〈位置と確認〉 調査区B E-322グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

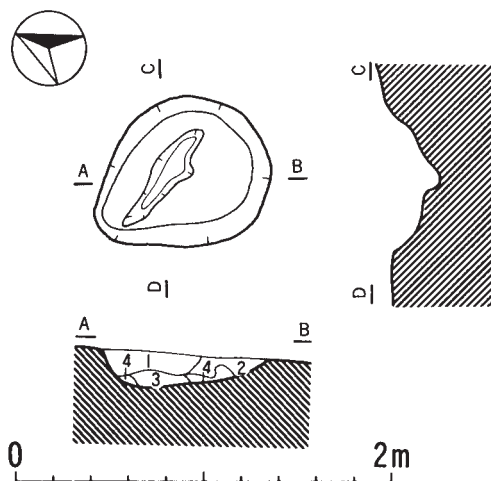
〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 平面形は、北側に張り出した楕円形を呈する。規模は、開口部で長径98cm・短径80cm、底面で長径85cm・短径60cmである。

〈壁〉 北壁はほぼ垂直に、他壁は底面から緩やかに立ち上がり、軟らかい。壁高は、東壁21cm・西壁16cm・南壁13cm・北壁18cmである。

〈底面〉 中央部に溝状の凹があり、軟らかい。

〈堆積土〉 4層に分層できた。第1・2層にはローム粒が混入されている。土層断面の観察より、人為堆積と思われる。



第64図 第14号土壙

#### 第14号土壙土層注記

第1層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	1～5mm大のローム粒微量。しまりなし、粘性ややあり。
第2層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒少量。しまり・粘性ややあり。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	しまりなし、粘性あり。
第4層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	しまりなし、粘性あり。

〈出土遺物〉 遺物は出土しなかった。

#### 第15号土壙（第65図）

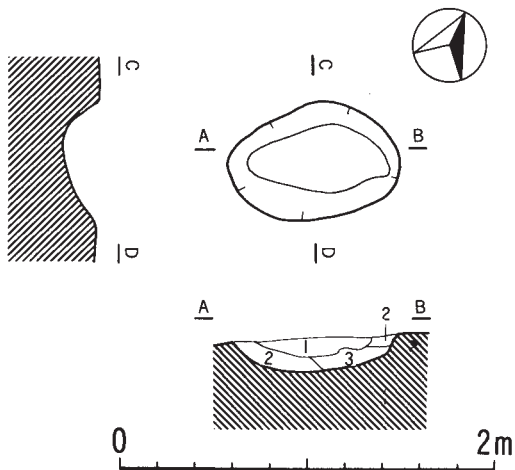
〈位置と確認〉 調査区B E-323グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 平面形は、楕円形を呈する。規模は、開口部で長径91cm・短径63cm、底面で長径76cm・短径36cmである。

〈壁〉 各壁ともに底面から緩やかに立ち上がり、軟らかい。壁高は、東壁15cm・西壁14cm・南壁14cm・北壁17cmである。

〈底面〉 ほぼ平坦で、軟らかい。  
 〈堆積土〉 3層に分層できた。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。  
 〈出土遺物〉 遺物は出土しなかった。



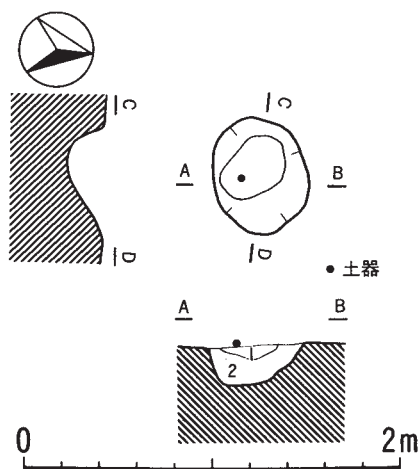
第65図 第15号土壌

第15号土壌土層注記

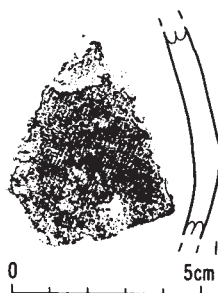
第1層	暗 褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	ローム粒を微量含む。しまりなし、粘性ややあり。
第2層	褐 色	10Y R <sup>4</sup> /4	しまりなし、粘性あり。
第3層	黄 褐色	10Y R <sup>5</sup> /6	しまり・粘性あり。

第16号土壌（第66・67図）

〈位置と確認〉 調査区BF-320グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。



第66図 第16号土壌



第67図 第16号土壌出土遺物



〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は楕円形を呈する。規模は、開口部で長径63cm・短径51cm、底面で長径39cm・短径27cmである。

〈壁〉北・東壁は底面から緩やかに立ち上がり、南・西壁はほぼ垂直に立ち上がる。各壁とも軟らかい。壁高は、東壁16cm・西壁18cm・南壁20cm・北壁18cmである。

〈底面〉ほぼ平坦で、軟らかい。

〈堆積土〉2層に分層できた。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

#### 第16号土壌土層注記

第1層	黒褐色	10Y R <sup>3</sup> /2	ローム粒少量。しまり・粘性ややあり。
第2層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	しまりややあり、粘性あり。

〈出土遺物〉遺物は、第2層上面より土器片が1点出土した。土器は胴部破片で第I群土器に相当すると思われる。

#### 第16号土壌出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	分類
1	16土 覆土	底辺	貝殻条痕			ナデ調整	I群2類F種

#### 第17号土壌（第68図）

〈位置と確認〉調査区BN・BO-318グリッドに位置する。

〈重複〉認められなかった。

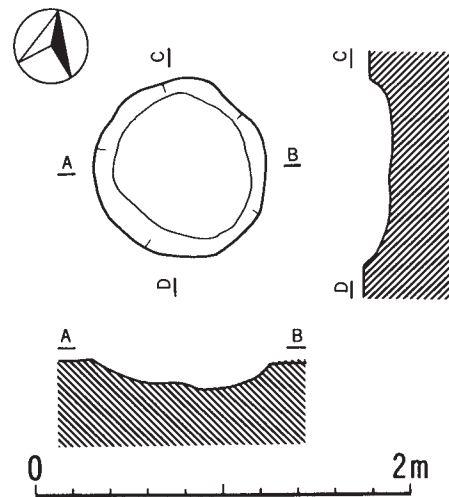
〈平面形・規模〉平面形は不整な円形を呈する。規模は、開口部で長径96cm・短径89cm、底面で長径78cm・短径68cmである。

〈壁〉すべての壁は底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は、東壁11cm・西壁11cm・南壁12cm・北壁10cmである。

〈底面〉若干の凹凸があり、軟らかい。

〈堆積土〉確認が遅れたため、土層は不明である。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。



第68図 第17号土壌

第18号土壙（第69図）

〈位置と確認〉調査区B J-319グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。

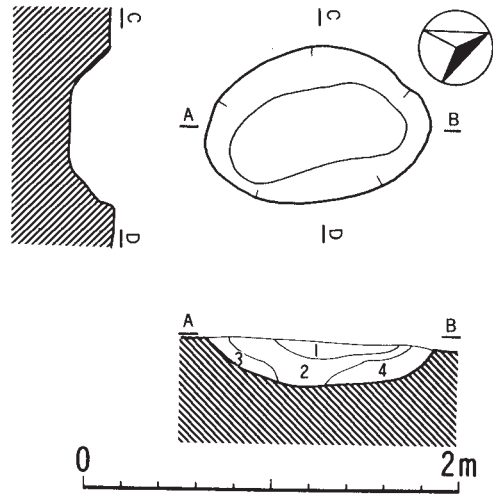
〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は楕円形を呈する。規模は、開口部で長径121cm・短径81cm、底面で長径94cm・短径40cmである。

〈壁〉すべての壁は底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は、東壁25cm・西壁20cm・南壁22cm・北壁20cmである。

〈底面〉ほぼ平坦で、軟らかい。

〈堆積土〉4層に分層できた。1層・4層にはロームが混入されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。



第69図 第18号土壙

第18号土壙土層注記

第1層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒少量混入。しまり・粘性ややあり。
第2層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	しまりあり、粘性ややあり。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /6	しまり・粘性あり。
第4層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	ロームブロック混入。しまりあり、粘性ややあり。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。

(3) 溝状ピット

第1号溝状ピット (第70~72図)

〈位置と確認〉 調査区B J-316 グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

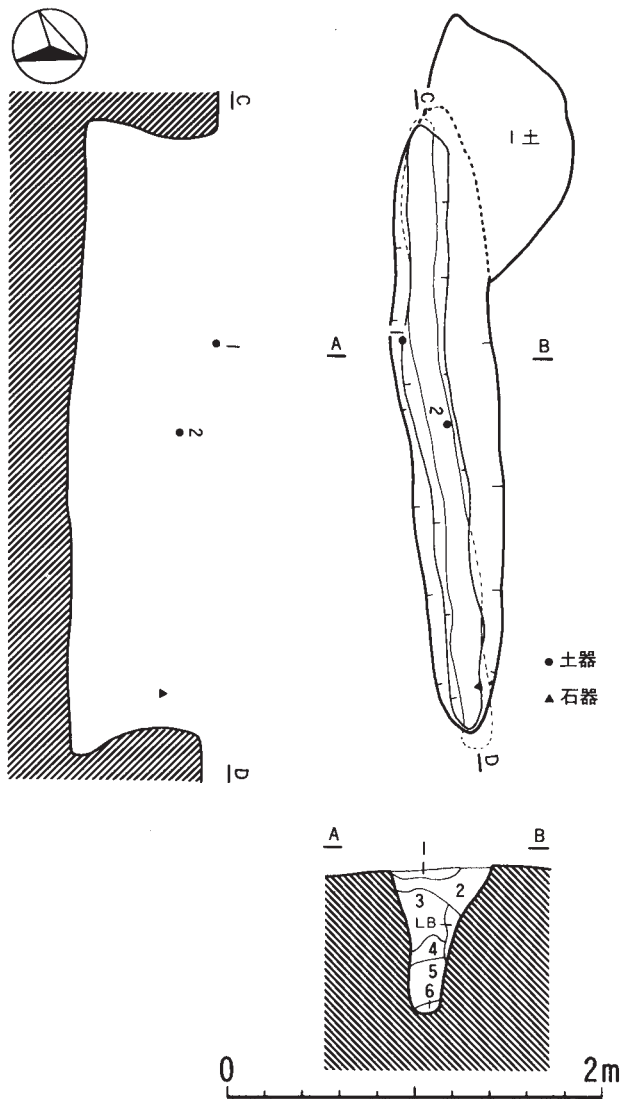
〈重複〉 第1号土壙と重複しており、新旧関係は本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 平面形は、側縁部が直線的で、両端部が若干の丸味を帯びた溝状を呈する。規模は、開口部で長軸(322 cm)・短軸49 cm、底面で長軸334cm、短軸10cmである。また、最深部の深さは、確認面から73cmである。主軸方向はN-78° - Eである。

〈壁〉 側縁部の南壁は、底面から開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がるが、北壁は底面から中端にかけて垂直に立ち上がり、中端から開口部にかけては若干反して立ち上がる。また、両端部の東・西壁は、底面から中端にかけて垂直に、中端から開口部にかけて内傾して立ち上がる。壁面は堅い。

〈底面〉 平坦で、堅い。

〈堆積土〉 6層に分層できた。堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

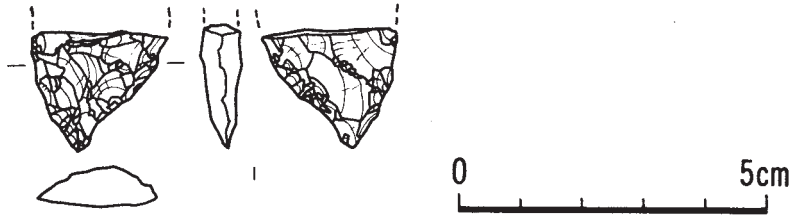


第70図 第1号溝状ピット(1)

第1号溝状ピット出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	分類
1	1溝 3層	口縁	縄文(LR)、器内外面に炭化物付着、平口縁			ナデ調整	第Ⅲ群
2	1溝 覆土	胴	鋸歯状沈線			ナデ調整	I群2類B種

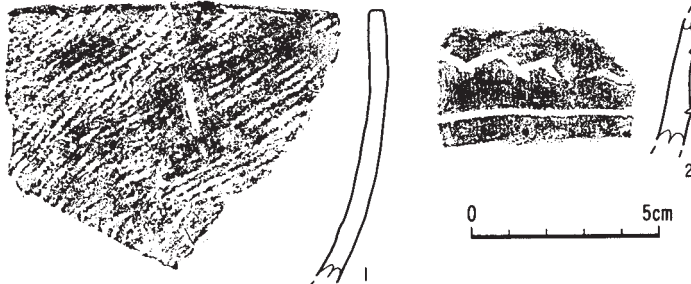
〈出土遺物〉 遺物は覆土中から土器片と石槍が1点出土した。土器は、山形状文様(2)が第Ⅰ群2類土器に、また、粗製縄文(1)が第Ⅲ群土器に相当すると思われる。



第71図 第1号溝状ピット出土遺物(1)

第1号溝状ピット出土石器計測表

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第71図-1	1溝	3	(21)	(21)	6	(2.2)	玉珪	B-I b	206	尖頭部欠損



第72図 第1号溝状ピット出土遺物(2)

第1号溝状ピット土層注記

第1層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> / <sub>3</sub>	ローム粒を少量含む。しまりややあり、粘性なし。
第2層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> / <sub>4</sub>	ロームブロック、ローム粒を少量含む。しまりなし、粘性あり。
第3層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> / <sub>3</sub>	ロームブロックを含み黒色土混入。しまりなし、粘性あり。
第4層	褐色	10Y R <sup>4</sup> / <sub>4</sub>	ロームブロック混入。しまり・粘性なし。
第5層	黒褐色	7.5Y R <sup>3</sup> / <sub>2</sub>	ローム粒少量を含む。しまり・粘性なし。
第6層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> / <sub>2</sub>	しまりややあり、粘性あり。

第2号溝状ピット (第73図)

〈位置と確認〉 調査区BH-313・314グリッドに位置する。基本層序第Ⅳa層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 本遺構の東側で風倒木と重複しており、新旧関係は不明である。

〈平面形・規模〉 平面形は、側縁部が直線的で、両端部が若干丸味を帯びた溝状を呈する。規模は、開口部で長軸(264cm)・短軸90cm、底面で長軸(135cm)・短軸6.2cmである。また、最深部の深さは、確認面から34cmである。主軸方向はN-82°-Wである。

〈壁〉 側縁部の南・北壁は、底面から開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がっており、端部の西

壁は、底面から開口部にかけて緩やかに立ち上がる。壁面は軟らかく、南壁は崩落がみられる。

〈底面〉中央部から西側にかけて緩やかに傾斜し、平坦で、軟らかい。

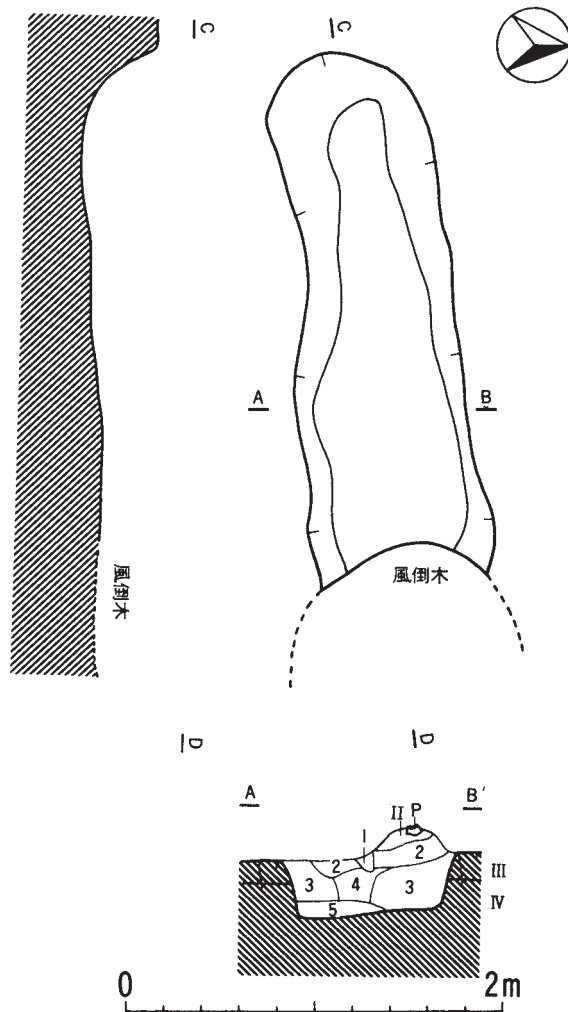
〈堆積土〉5層に分層できた。各層にロームが混入されている。堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。

(成田・奈良)

第2号溝状ピット土層注記

第1層	黒褐色	7.5Y R <sup>2</sup> /2	ローム粒が少量含まれる。しまりなく、粘性なし。
第2層	褐色	7.5Y R <sup>4</sup> /3	ロームブロックを多量に含む。しまりあり、粘性なし。
第3層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒を多量に含む。しまりややあり、粘性なし。
第4層	暗褐色	7.5Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒混入。しまりなく、粘性なし。
第5層	褐色	7.5Y R <sup>4</sup> /4	ロームブロックを少量含む。しまり・粘性あり。

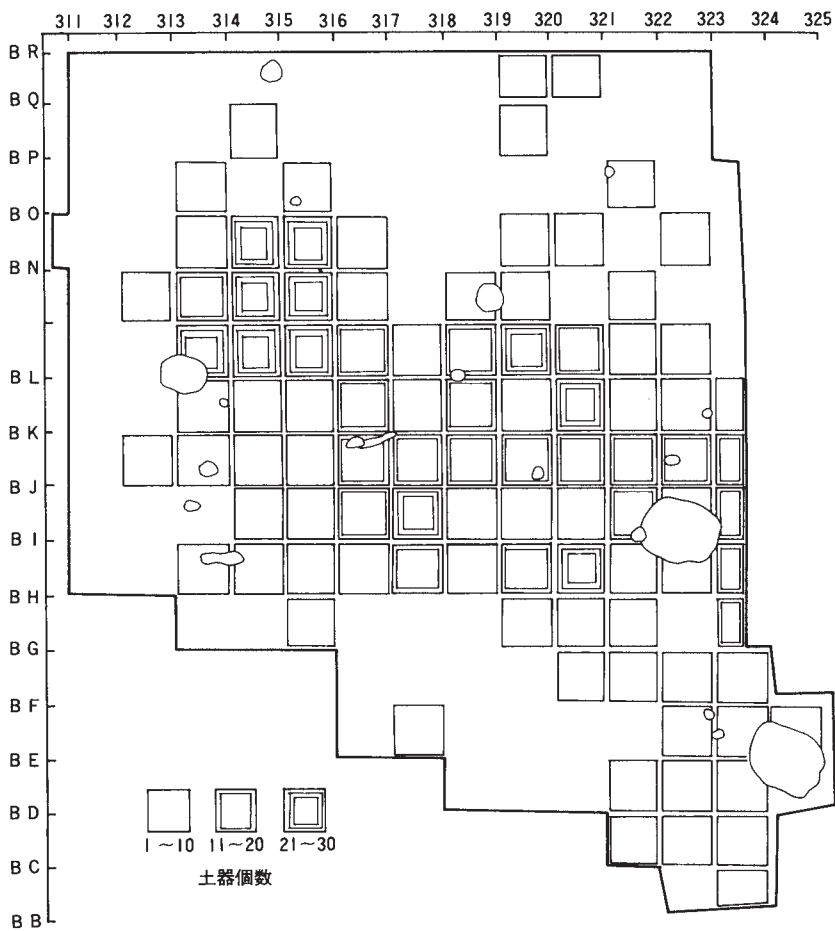


第73図 第2号溝状ピット

## 第2節 遺構外出土遺物

### 1. 土器

本地区では、縄文時代早期の物見台式を主体にして土器が出土した。本節では各時期毎に群を用いて分類し更に類別を行った。又、類別の中で種を用いて細別を行っている。



第74図 I地区土器分布

#### 第I群土器

縄文時代早期に相当するものである。

#### 第I群1類土器

白浜式に相当するものであるが、本地区では、出土しなかった。

#### 第I群2類土器（第74図～90図）

縄文時代早期の物見台式に相当するもので、本地区の主体をなす土器である。文様施文の差異でA種（貝殻腹縁文を主体とするもの）・B種（沈線文を主体とするもの）・C種（沈線と刺突を施文するもの）・D種（貝殻条痕を施文するもの）・E種（無文のもの）・F種（底部破片のもの）と6種に細別した。

#### 第I群2類土器の特徴

##### 《胎土・色調・焼成》

胎土中には、細礫（石英・火山ガラス・チャート）を主体に多く含む。細礫はすべての土器に含まれるが、その含有量にはばらつきがみられる。植物繊維は含まれていない。色調は明褐色及び暗褐色が主体で、底辺部に明褐色の明るい色調が多くみられる。焼成は一般に良好な土器が多く、器表面がザラザラしているものは加熱か調整時の悪化の両者が考えられるが、胴部下半部に多く集中し加熱による変化と考えられる。

##### 《器形・形状》

土器のプロポーションは、胴部が全体的に張りだすいわゆるキャリパー形（他遺跡出土の物見台式土器と比較すると張り出し部は弱い）と口唇部寄りが内傾するもの、口頸部が内反するものの3タイプとに別れる。口縁部は平口縁と波状口縁があり、波状は4個で波状の左右に副次突起を有するものが多い。副次突起を有する土器は波頂部が鋭角な角度を有し、副次突起を有しないものは、波頂部が鈍角でなだらかな波状を呈する。口唇部の整形は、口形で上面を平坦にしてナデている。

##### 《文様要素・文様要素の組み合わせ》

器面に施文される文様要素は、沈線・貝殻腹縁・貝殻条痕・円形竹管である。沈線－沈線の幅は太く、断面形は弧状形とV字形があり、弧状形の断面が主体を占める。貝殻腹縁－使用方法として刺突文と押し引き文が見られる。

刺突文 A 器面に対して直角に押し当てたもの（60～90度）

B 器面に対して寝かせぎみのもの（A以外の各度）

押し引文 連続的に引きずったもので、文様内部に充填している。

貝殻条痕－内面の調整時に多く使用される。また、貝殻条痕施文後に器表面をナデているため無文土器に近い様相を呈している。

円形竹管刺突－器面に対して直角に押し当てたものが主体である。刺突は文様の終始点に施すものが多い。また、口唇部寄りに1条巡らすものと文様帯内部に充填するものもみられるが出土例は少ない。

粘土紐－キャリパー形の胴部下半に一条横位に巡らしているものと文様の交点に使用するものがみられるが、使用頻度は低い。

### 《文様要素の組み合わせ》

単独の使用－B種は沈線のみによる文様構成であるが類例は少ない。また、貝殻腹縁文のみの文様構成のものもわずかである。

複数の使用－文様の組み合わせで多くみられるものは沈線と貝殻腹縁文の組み合わせで、本遺跡の主体となるA種の文様である。特に沈線施文後に貝殻腹縁でなぞる手法が特徴的である。

沈線・刺突・貝殻腹縁文－刺突は沈線の終始点に施す例が多い。

### 《文様帯区画文》

沈線(1～2条)を巡らして区画するものと、一条の粘土紐を巡らし粘土紐の側縁部を沈線でなぞるものが多い。口頸部が主体で狭義の文様帯区画を構成するものが主体である。胴部下半部に区画帯を有しているものもみられるが例は少ない。

### 《文様構成》

山形・斜位・横位弧状文・菱形文・方形文・弧状文等の文様構成があり、山形文・方形文が多く使用される。又横位方向に展開するものが多い。

### 《器内面文様・内面調整・補修孔》

口唇部寄りに縦位及び左下がりの貝殻腹縁文を施文している。

内面の調整は貝殻条痕の調整が多いが調整痕は明瞭でない。

補修孔は口唇部よりに多く位置し、穿孔の仕方として器外面のみのものと器外面と内面から穿孔しているものがみられる。補修孔は2個対のものが多い。

## A種(第75～88図)

貝殻腹縁文を主体に施文している土器を一括した。本類の主体をなすものである。

形状は口頸部が張り出すキャリパー形・口唇部に向かって内傾する形・胴部から口唇部に向かって外反する形の3タイプがみられる。口縁は波状口縁あるいは平口縁を呈する。波状口縁の波頂部は、つまみ出した鋭角的なものである。また、沈状口縁の両脇には副次突起を有するものが多い。副次突起は波状間隔の広いものと狭いものがみられる。口唇部の形状は、□形で上面をナデて平坦にしているものが主体であり、他に∩形の円みをもつものや内傾するものがみられる。器内面には、口唇部寄りに貝殻刺突を縦位及び斜位(左下がりが多い)方向に巡らしている。(7)は器内面に貝殻刺突がみられないものである。

復元実測土器(第75図－1、2)

(1) 器形は、口唇部に向かって内傾する深鉢形土器である。口縁は波状口縁で4個の鋭角的な波状を有する。文様は、口唇部寄りに横位の沈線を巡らし、下位に鋸歯状沈線を施文している。



主体になる菱形文様は多段に構成し菱形文の中心部に縦位の弧状文様を施文している。貝殻腹縁は沈線をなぞって施文し、器内面には貝殻刺突が施文されていない。

(2) 器形は、口唇部寄りが内反する深鉢形土器である。口縁は平口縁、口唇部の整形は冂形で上面は平坦である。文様は、縦位方向に展開する弧状文様と台形状文様の組み合わせである。貝殻腹縁文は、沈線の脇に施文するとともに文様の内部に充填し、更に口唇部寄りに縦位に巡らしている。また、器内面には口唇部寄りに貝殻刺突を巡らしている。円形刺突は文様のコーナー部に多く施文される。

#### 拓影土器

次に本種は貝殻腹縁を主に用い種々の文様構成を行っているため文様構成毎に記載する。

#### 《山形・斜位・横位弧状の文様構成》(第76～80図)

文様は、2条の沈線を1単位として山形・斜位・弧状に文様構成している。貝殻腹縁文は沈線施文後に貝殻の腹縁でなぞる手法が主体である。(14)(26)は文様帯内部に充填し、(11・16)は口唇部寄りに縦位に施文している。円形刺突は、山形文様の頂部に刺突を施すものが多い。(19・23)は波頂部の垂下部に短沈線と組み合わせて施文している。

#### 《菱形の文様構成》(第81図)

文様は、2条の沈線を1単位として菱形文を構成し横位方向に連結して展開している。又菱形文の内部にも同様な文様を施文している。文様帯区画帯として胴部の張り出し部に2条の沈線を巡らしている。貝殻腹縁文は池線文をなぞる手法が主体であり、(86)は菱形文様の内部に充填している。円形刺突は、文様の終始点に施している。粘土粒は文様の内部(93)と文様帯区画画上(89)に張り付けており、沈状口縁の垂下部に位置するものが多い。

#### 《方形の文様構成》(第82～83図)

文様は、台形状で縦位方向に展開するもの(96・99・102・106)・横位方向に展開するもの(95)がある。方形文様の内部には、更に方形文様(106・109)を施文するものや三角形文(96・102)を施文するものもみられる。円形刺突は、(102)が文様の内部に刺突しているが、方形文様のコーナー部に刺突するものが多い。(99)は方形文様の脇に縦位方向の鋸歯状沈線を施文している。

#### 《弧状の文様構成》(第84図)

文様は、縦位方向(115・116)と横位方向(117・118)に展開する。(119・120)は、左右の弧状文を対象させて弧状文様を構成している。貝殻腹縁は、沈線をなぞって寝かせぎみに押圧しており、(116)が文様の内部に充填している。(115)は波状口縁の垂下部に3条の縦位の貝殻刺突があるが、器内面にはみられない。

#### 《縦位弧状の文様構成》(第85図)

文様は、2条の沈線を1単位として施文し、直線上に施文するものと弧状ぎみに施文しているものがある。文様帯区画文は、胴部の張り出し部に2条の横位沈線を巡らしているもの(126)と、これをもたないものがある。円形刺突は、文様の内部に刺突するもの(132)がみられるが、多くは文様の終始点に施す。鋸歯状沈線は文様の内部に縦位・横位に施文されている。

《文様構成が明瞭でないもの》(第86図-155・156、第87・88図)

文様は横位を基本としている。(157)は沈線間に貝殻刺突を枕木状に刺突し、下部に貝殻腹縁文を施文している。(155)は波状の垂下部に縦位の沈線があり下位の平行沈線と接している。

#### B種(第89図)

沈線文のみを施文している土器を一括した。本種の土器は復元し得た土器はなく、またA種と比較すると出土量は少ない。

胎土・焼成及び形状は前記のA種と変わらない。口縁部は平口縁(197)であり、器内面には貝殻刺突がみられる。文様は、(198)が>状に横位に展開し、(201)は方形状の文様を構成しているが、2条の沈線を1単位として山形状に文様を構成するものが主体を占める。(197)は文様帯の内部に一部が途切れた円環状の文様を施文し、(206)は鋸歯状沈線の終始点に刺突を施文している。

文様帯区画文として胴部のくびれ部に二条の横位沈線(194)・鋸歯状沈線(203・207)を巡らしている。また、(195)は文様帯区画文を有していない。

#### C種(第90図208~209)

沈線と刺突を施文している土器を一括した。本種の土器は、2片しか出土しなかった。

文様は、(208)が山形状沈線の終始点に円形刺突を施文しており、(209)が2条の鋸歯状沈線に沿って1列の円形刺突を施文している。(209)が小さい円形の刺突であり、他の円形刺突と施文具に差異がみられる。

#### D種(第90図210)

貝殻条痕を施文している土器を一括した。本種の土器は1片しか出土しなかった。

口縁は、平口縁で、口唇部上面には整形時に付けられた1条の沈線がみられる。器外面は貝殻条痕(横位方向)を施文後にナデており、ナデ面は光沢を有する。貝殻条痕は一部より残存していない。

#### E種(第90図211・212)

無文の土器を一括した。本種の土器は2片しか出土しなかった。

口縁は、(211)が平口縁で、口唇部が∩形を呈し、(212)は∟形を呈する。両者ともに焼成は良く、(211)は器内外面に炭化物の付着がみられる。

#### F種(第75図3～5、第90図213～217)

底部破片を一括したが、少ない。

形状には、底面に突起を有し突起部から底辺部にかけて張り出す乳房状(4)(216)、突起部を有し突起部から底辺部にかけて緩やかに立ち上がる砲弾形(3)(213・214・217)、平底(215)の三つの形状がみられ砲弾形が主体を占める。

文様は、貝殻条痕とナデの調整痕のみの土器が多いが、(217)は胴部に方形文様を施文し底辺部寄りに2条の沈線を巡らし貝殻腹縁を施文している。

#### 第I群3類土器(第90図218～220)

本類は、東釧路Ⅳ式に相当するものを一括したが、3片しか出土しなかった。

器形は、平口縁の深鉢形土器である。口唇部の断面形は∩形の丸みを有し、上面には整形時に於ける凸凹を有する。器外面には0段多条の原体を施文し、器内面は荒い調整が施文されており調整時の擦痕がみられる。

#### 第II群土器

縄文時代中期末葉～後期前葉の時期に相当するものである。

##### 1類土器(第90図220～224)

縄文を主体として施文した土器を一括したが、すべて同一個体の破片と思われる。

胎土には細砂粒を多く含み、焼成が粗雑なつくりである。器外面には縄文を施文し、底面にも文様(剥落が著しく縄文か網代痕かは判断できなかった)がみられる。

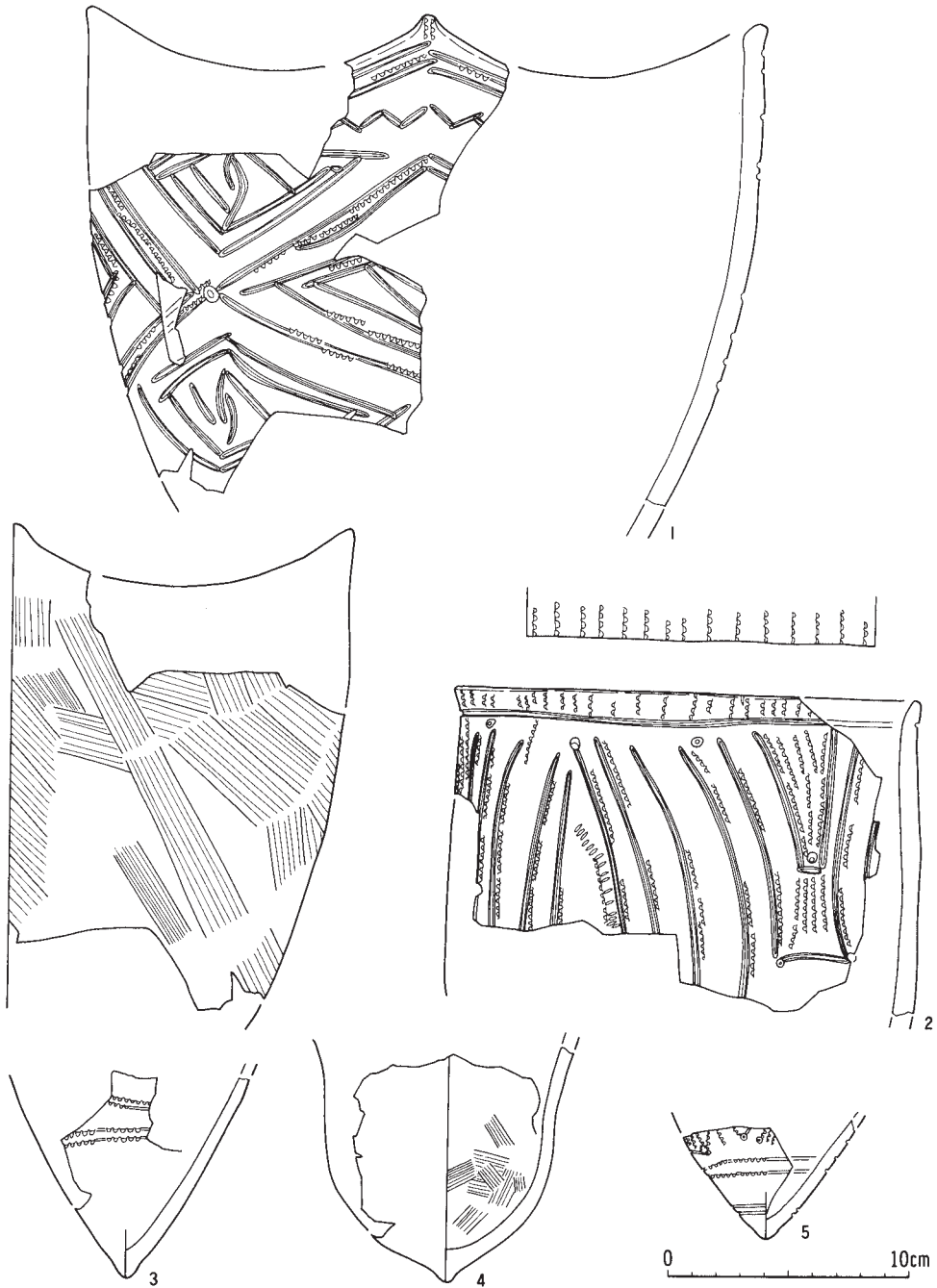
#### 第III群土器

縄文時代晩期の時期に相当するものである。

##### 1類土器

本類土器は、第1号溝状ピットの覆土から出土した土器片1片のみであり、遺構外からは出土しなかった。

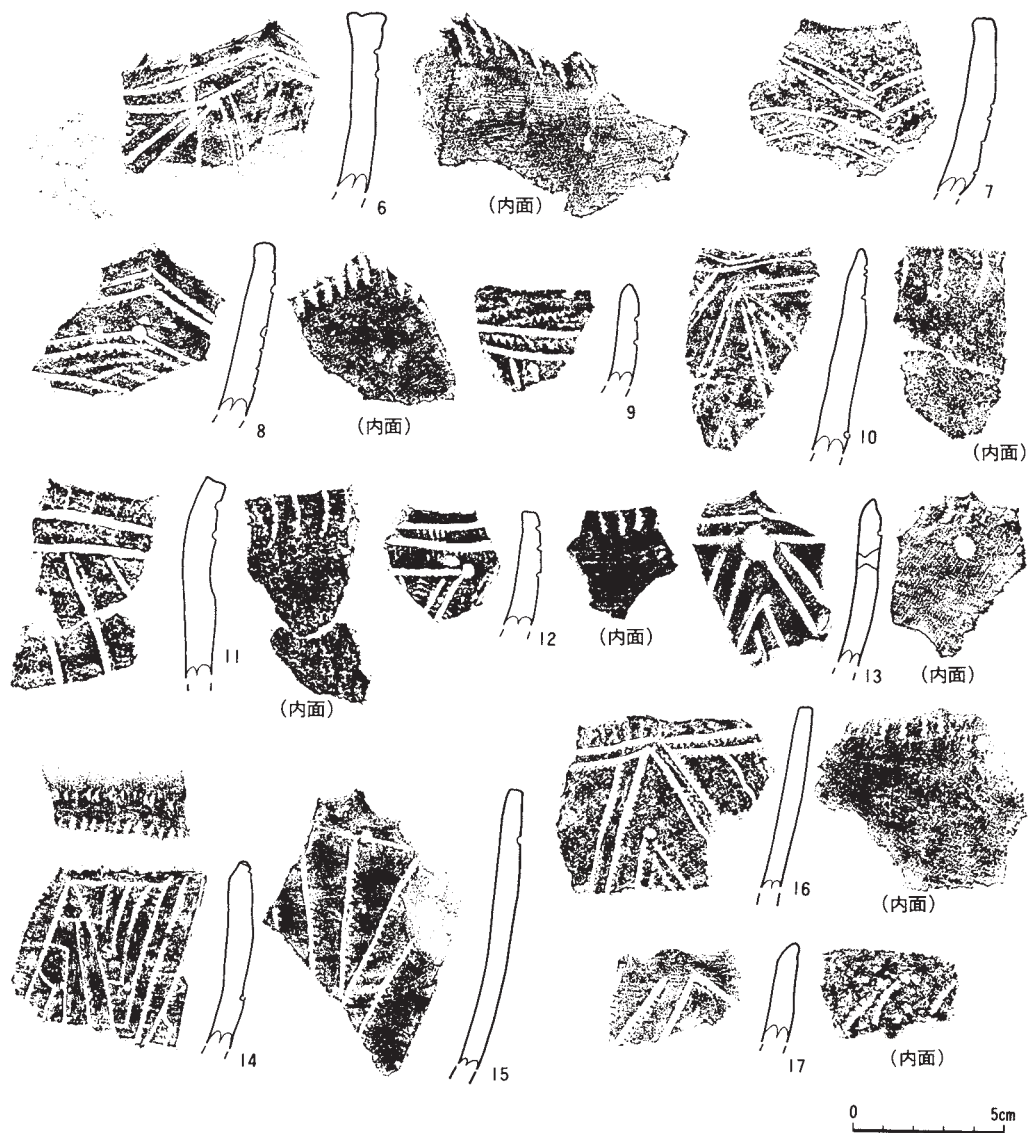
(成田)



I 地区出土土器観察表(1)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
1	BL-319 I	深鉢	弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒・鋸歯状沈線、波状口縁	貝殻条痕	I群2類A種
2	BN-314 IV a	深鉢	縦位弧状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
3	表採	底部	貝殻腹縁文	ナデ調整	I群2類A種
4	BH-314 I	底部	ナデ調整、乳房状突起	貝殻条痕	I群2類F種
5	BK-320 IV a	底部	貝殻腹縁文・円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種

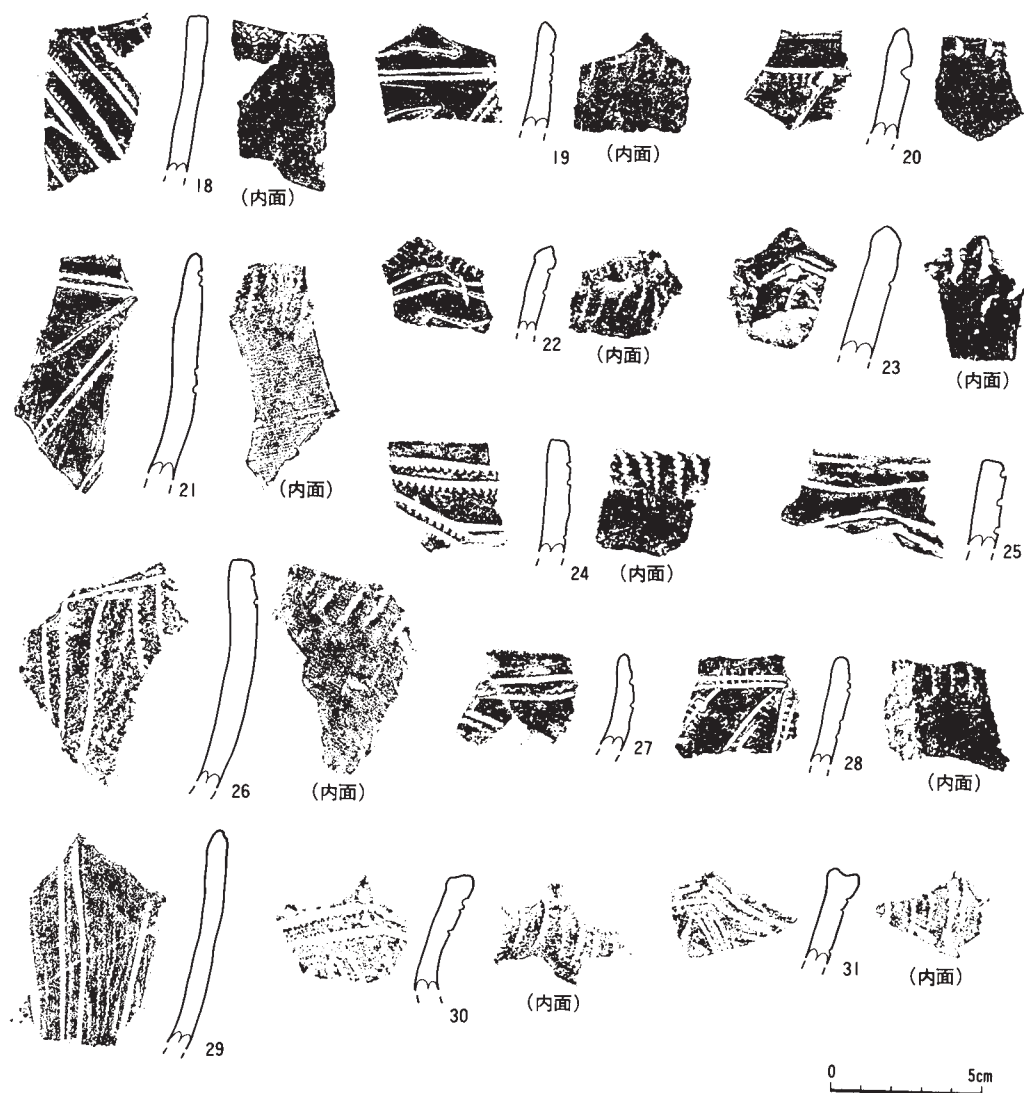
第75図 I 地区遺構外出土土器(1)



I 地区出土土器観察表(2)

番号	地区・層位	部位	外面 施文 文様	内面	分類
6	BK-318 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
7	BL-317 I	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、波状口縁	ナデ調整	I群2類A種
8	BM-315 I	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
9	BN-316 IV	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	ナデ調整	I群2類A種
10	BH-318 II	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
11	BN-314 IV a	口縁	斜位状文(沈線)、貝殻腹縁文、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
12	BL-320 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
13	BJ-321 I	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、補修孔、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
14	BJ-316 I b	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
15	BN-323 II	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
16	BM-315 I a	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
17	BL-313 I	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種

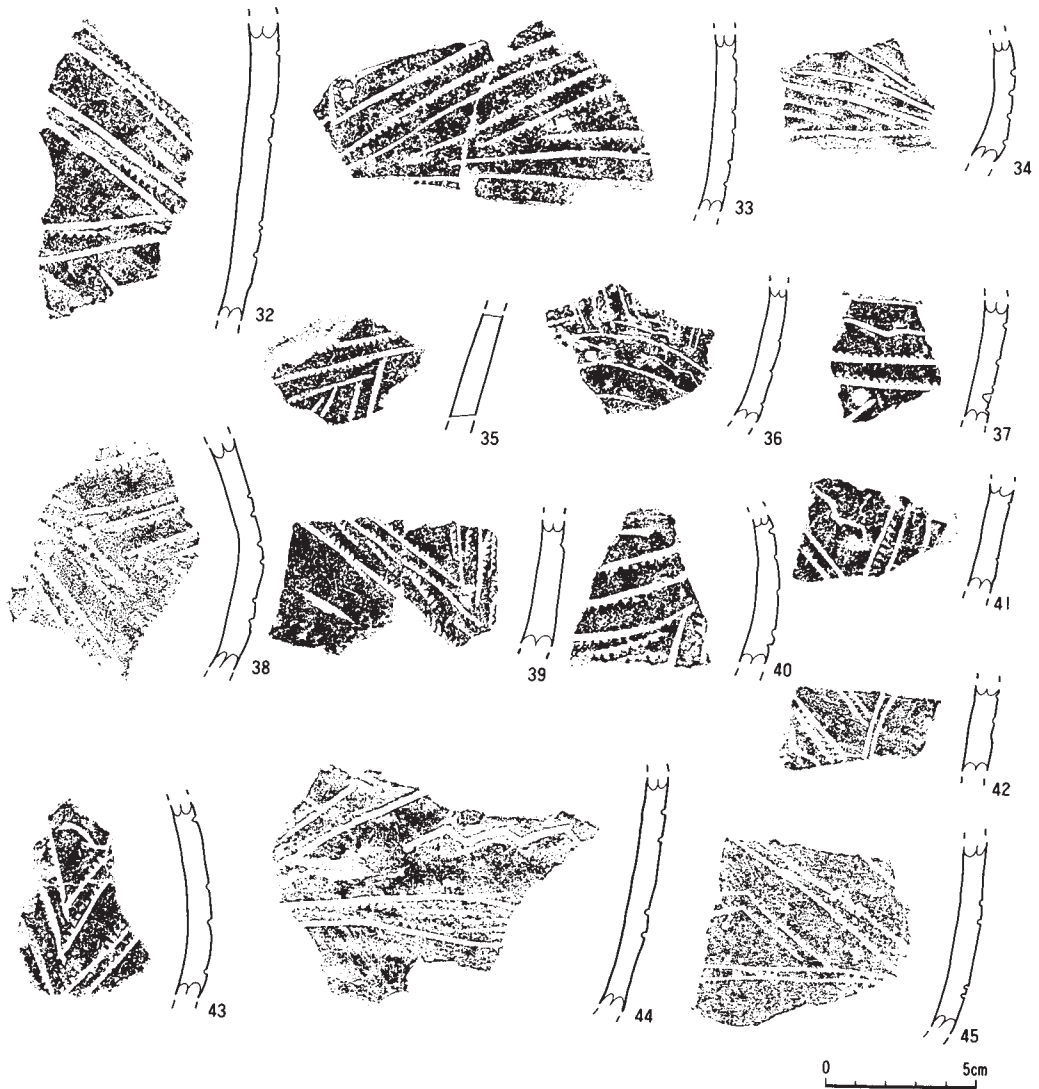
第76図 I 地区遺構外出土土器(2)



I 地区出土土器観察表(3)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
18	BH-315 II	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
19	BJ-320 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
20	BN-314 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
21	BH-317 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
22	BH-317 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
23	BK-313 I b	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
24	BM-315 I	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
25	BL-319 I b	口縁	山形状文(貝殻腹縁)、平口縁	ヘラナデ調整	I群2類A種
26	BK-320 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、平口縁	貝殻刺突	I群2類A種
27	BK-320 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	ナデ調整	I群2類A種
28	BK-320 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
29	BJ-316 I b	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
30	BL-314 I	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
31	表採	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種

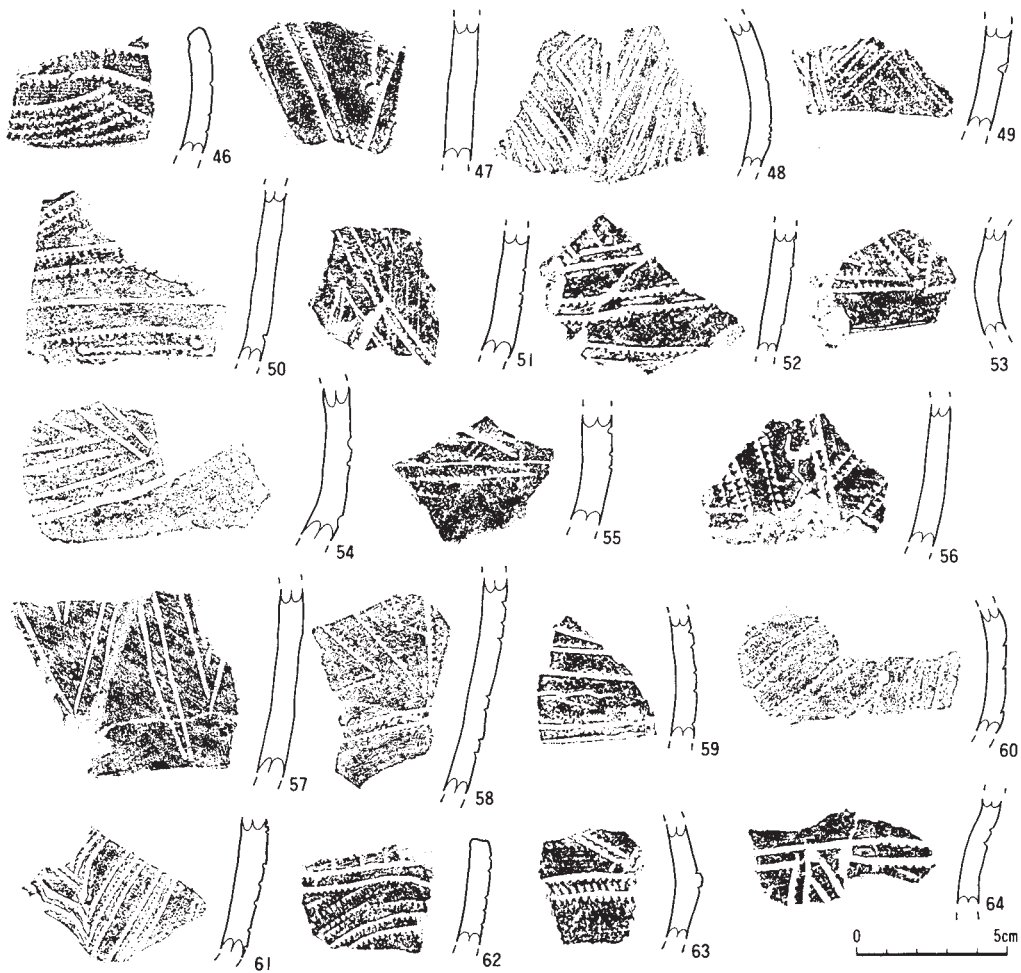
第77図 I 地区遺構外出土土器(3)



I 地区出土土器観察表(4)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
32	B L-320 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
33	B H-320 IV a	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
34	B I-321 II	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
35	B L-314 I b	胴	横位山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
36	B M-314 I b	胴	横位山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、鋸歯状沈線	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
37	表探	胴	斜位状文(沈線)、貝殻腹縁文・円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
38	B G-323 IV a	胴	横位山形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
39	B I-317 IV b	胴	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
40	B K-316 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
41	B K-318 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
42	B K-318 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
43	B J-321 II	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
44	B L-320 I	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突・鋸歯状沈線	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
45	B H-320 IV	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種

第78図 I 地区遺構外出土土器(4)

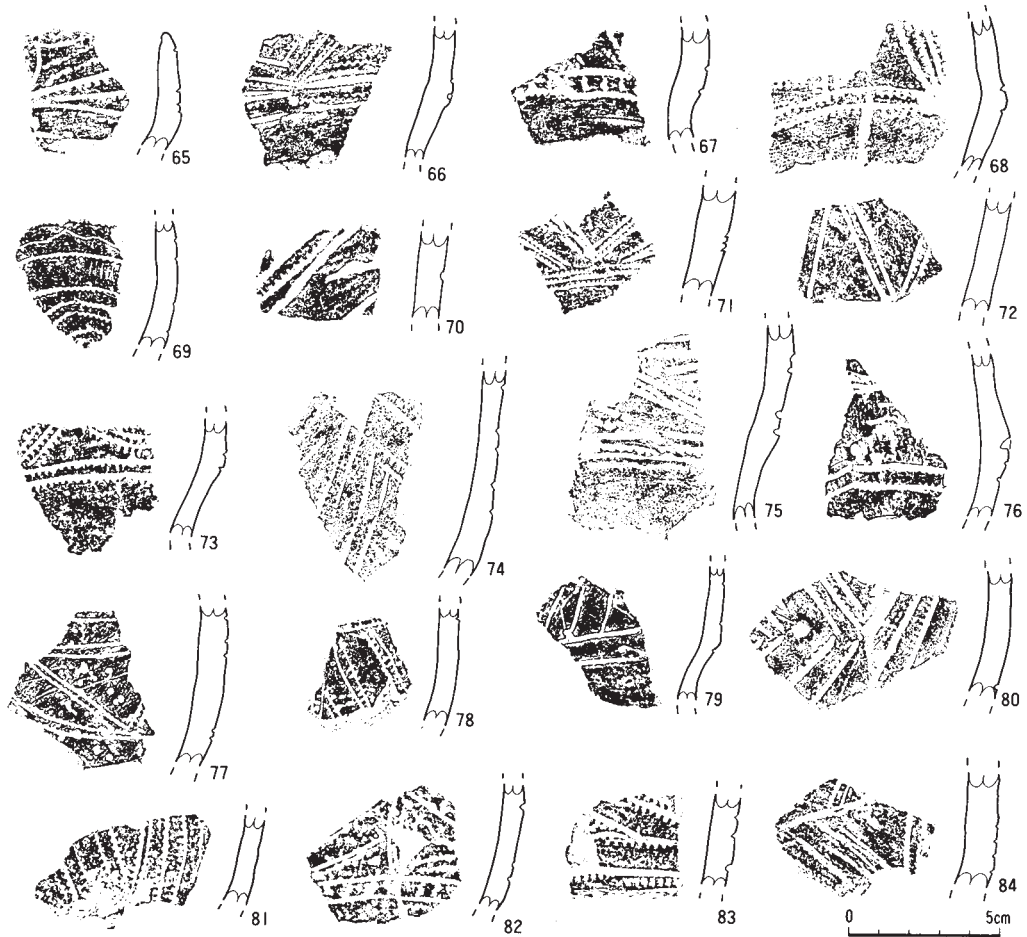


I 地区出土土器観察表 (5)

番号	地区・層位	部位	外面施文	文様	内面	分類
46	B J - 321 II	口縁	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
47	B L - 314 I	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
48	表探	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突、粘土粒	ナデ調整	I群2類A種
49	B D - 321 V	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
50	B J - 318 IV a	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
51	B H - 317 I	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
52	B L - 316 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
53	B J - 317 IV b	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
54	B L - 318 I	胴	横位山形状文(貝殻腹縁)		ナデ調整	I群2類A種
55	B I - 316 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)		ナデ調整	I群2類A種
56	B J - 318 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
57	B E - 322 I b	胴	山形状文(貝殻腹縁)		ナデ調整	I群2類A種
58	B H - 319 IV a	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
59	B J - 323 IV a	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	鋸齒状沈線	ナデ調整	I群2類A種
60	B G - 321 IV a	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
61	表探	胴	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
62	B N - 319 IV a	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)	波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
63	表探	胴	斜位状文(貝殻腹縁)		ナデ調整	I群2類A種
64	B J - 321 II	口縁	山形状文(貝殻腹縁)	円形刺突、波状口縁	ナデ調整	I群2類A種

第79図 I 地区遺構外出土土器(5)

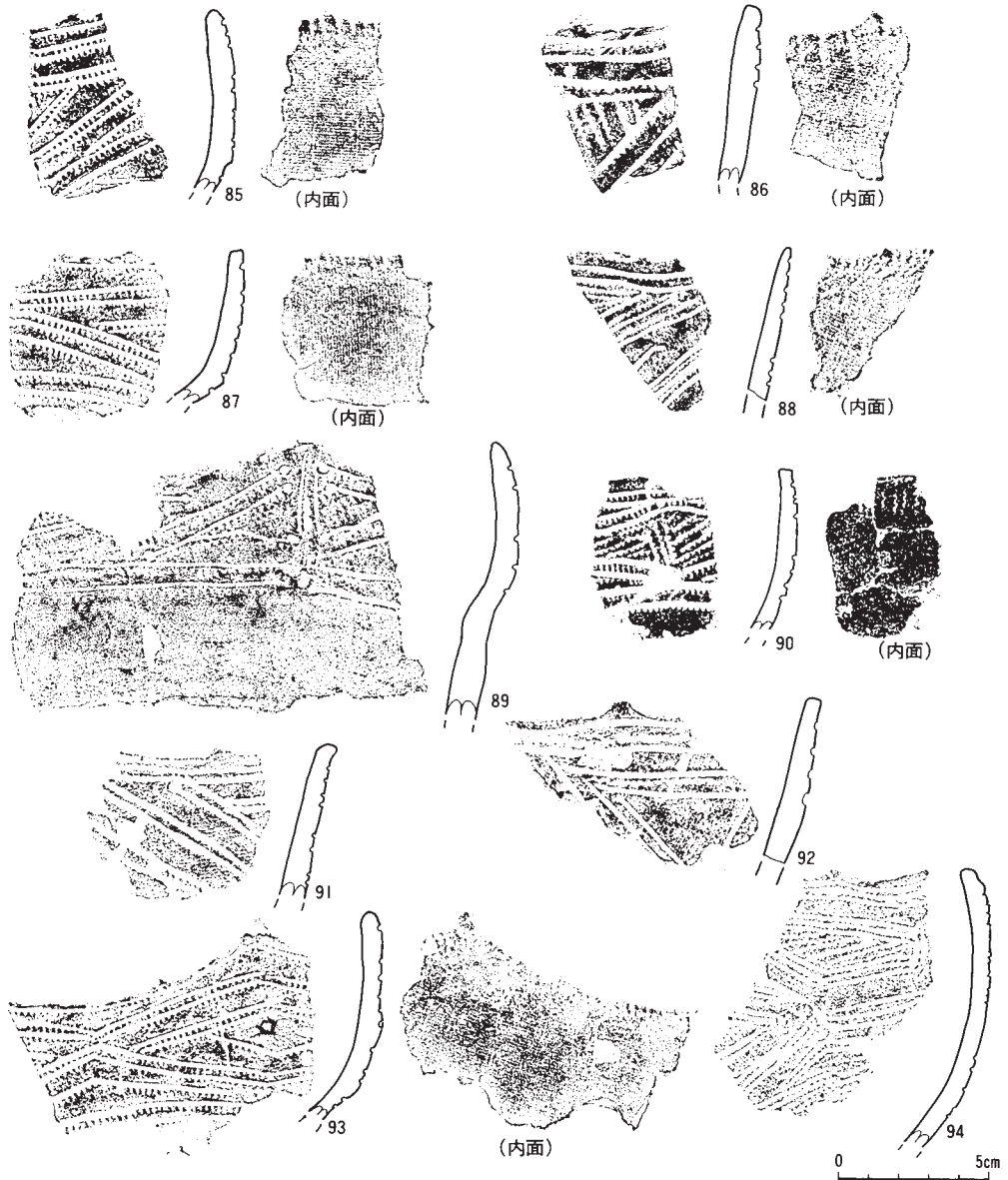




I 地区出土土器観察表(6)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
65	B J - 317 I b	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
66	B K - 316 I b	胴	山形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
67	B L - 313 IV	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
68	B G - 323 IV a	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類A種
69	B H - 314 I b	底辺	山形状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
70	B L - 314 IV a	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
71	B H - 318 IV b	胴	山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
72	B F - 323 IV b	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
73	B H - 319 IV a	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
74	B I - 323 IV a	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I群2類A種
75	B J - 315 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
76	B J - 322 II	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
77	B H - 317 I	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
78	B K - 319 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
79	B K - 320 IV a	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
80	表採	胴	山形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I群2類A種
81	B J - 320 IV a	胴	山形状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
82	B F - 322 II	胴	斜位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
83	B M - 315 I a	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種
84	B K - 318 I b	胴	斜位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I群2類A種

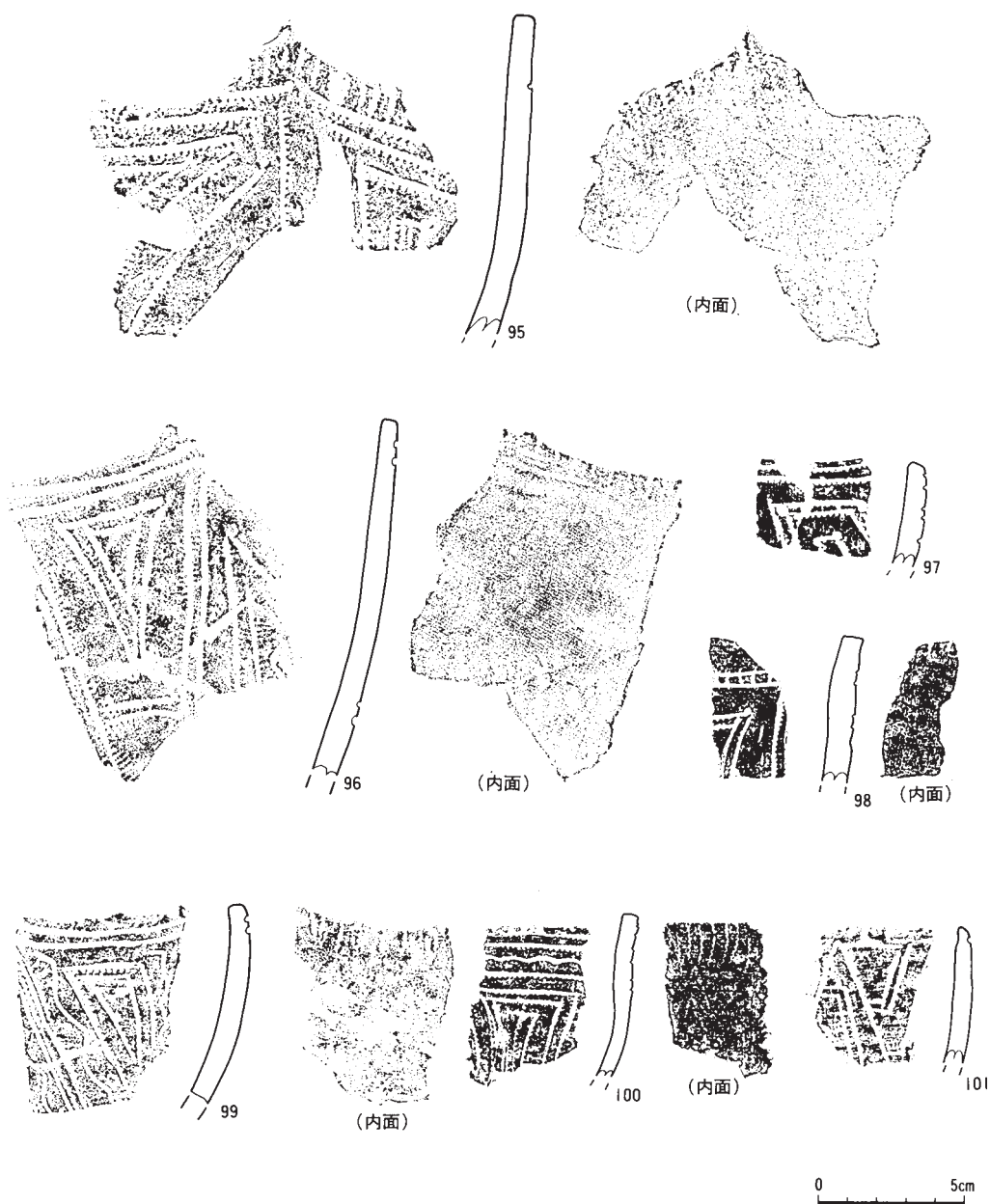
第80図 I 地区遺構外出土土器(6)



I 地区出土土器観察表(7)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
85	BL-319 I	口縁	横位山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
86	BH-320 IV b	口縁	横位山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
87	BK-320 IV a	口縁	横位山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
88	表探	口縁	横位山形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
89	BF-324 IV b	口縁	菱形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
90	表探	口縁	菱形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	貝殻刺突	I群2類A種
91	BL-320 I	口縁	菱形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	貝殻刺突	I群2類A種
92	BH-323 IV	口縁	斜位状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I群2類A種
93	BL-320 IV a	口縁	菱形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種
94	表探	口縁	菱形状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種

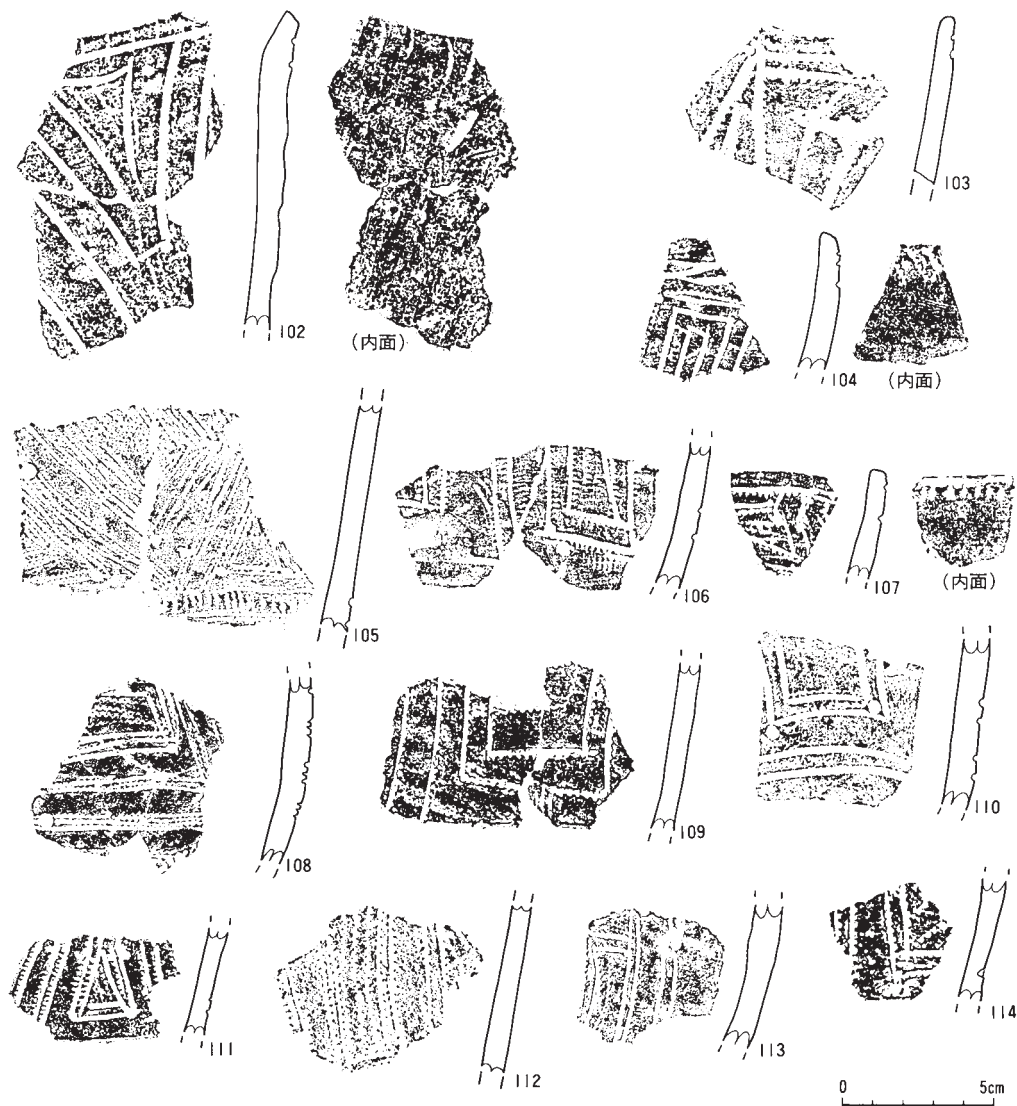
第81図 I 地区遺構外出土土器(7)



I 地区出土土器観察表(8)

番号	地区・層位	部位	外 面 施 文 文 様	内 面	分 類
95	B J - 321 II	口 縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
96	B J - 321 II	口 縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
97	B I - 317 I b	口 縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
98	B C - 322 I	口 縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、平口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
99	B J - 320 IV a	口 縁	方形状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、波状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
100	B N - 314 I b	口 縁	方形状文(貝殻腹縁)、鋸歯状沈線、円形刺突	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
101	B L - 320 IV a	口 縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種

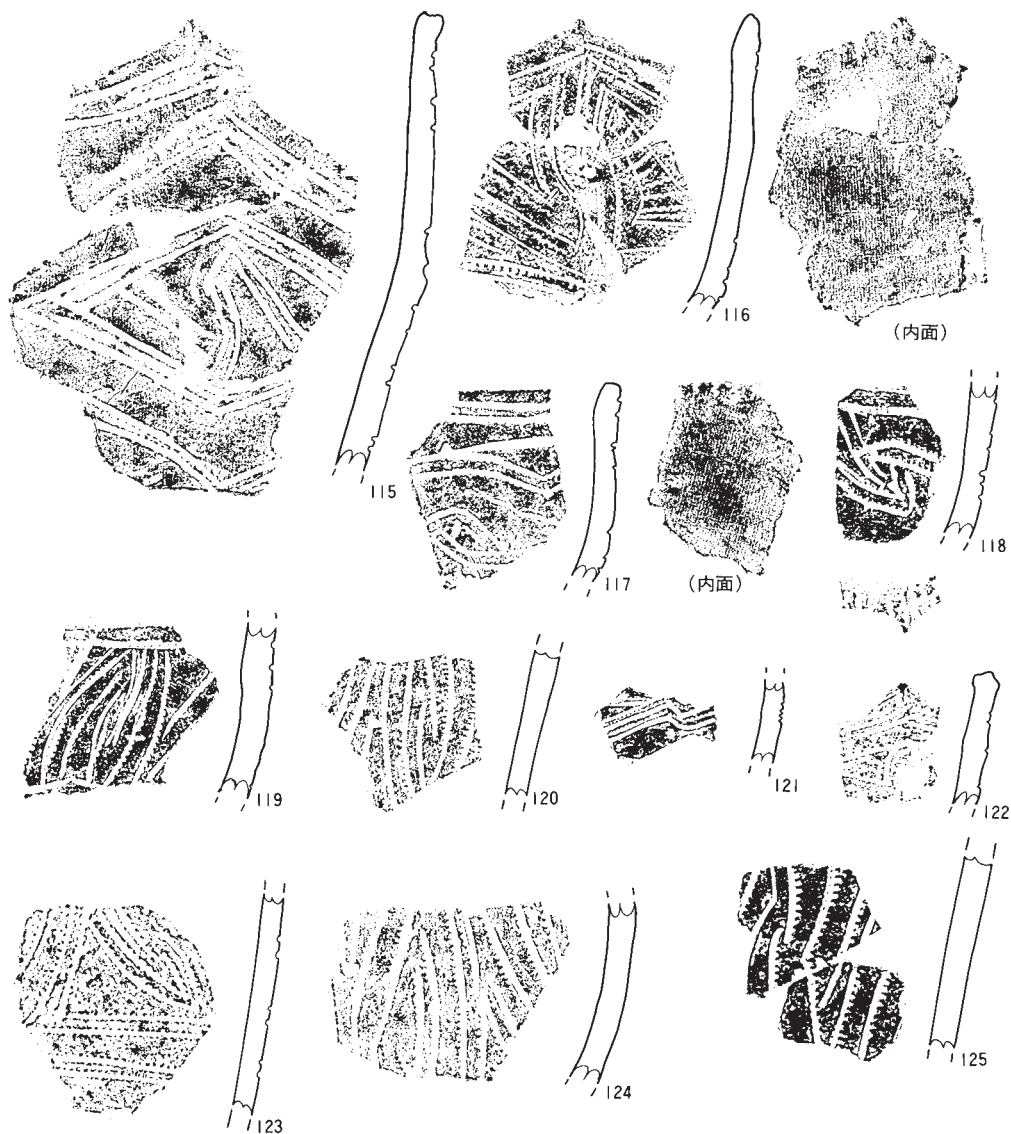
第82図 I 地区遺構外出土土器(8)



I地区出土土器観察表(9)

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	分類
102	BN-314 IV b	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
103	BD-323 IV a	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁			ナデ調整	I群2類A種
104	BJ-318 I b	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁			貝殻刺突	I群2類A種
105	BN-320 IV a	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ナデ調整	I群2類A種
106	BJ-320 IV a	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ナデ調整	I群2類A種
107	BM-318 I b	口縁	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			貝殻刺突	I群2類A種
108	BH-323 II	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ナデ調整	I群2類A種
109	BI-321 II	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ヘラナデ調整	I群2類A種
110	BJ-316 I b	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ナデ調整	I群2類A種
111	BJ-322 II	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ヘラナデ調整	I群2類A種
112	BJ-324 IV a	胴	方形状文(貝殻腹縁)			ヘラナデ調整	I群2類A種
113	BG-323 IV	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ヘラナデ調整	I群2類A種
114	BL-316 IV b	胴	方形状文(貝殻腹縁)、円形刺突			ナデ調整	I群2類A種

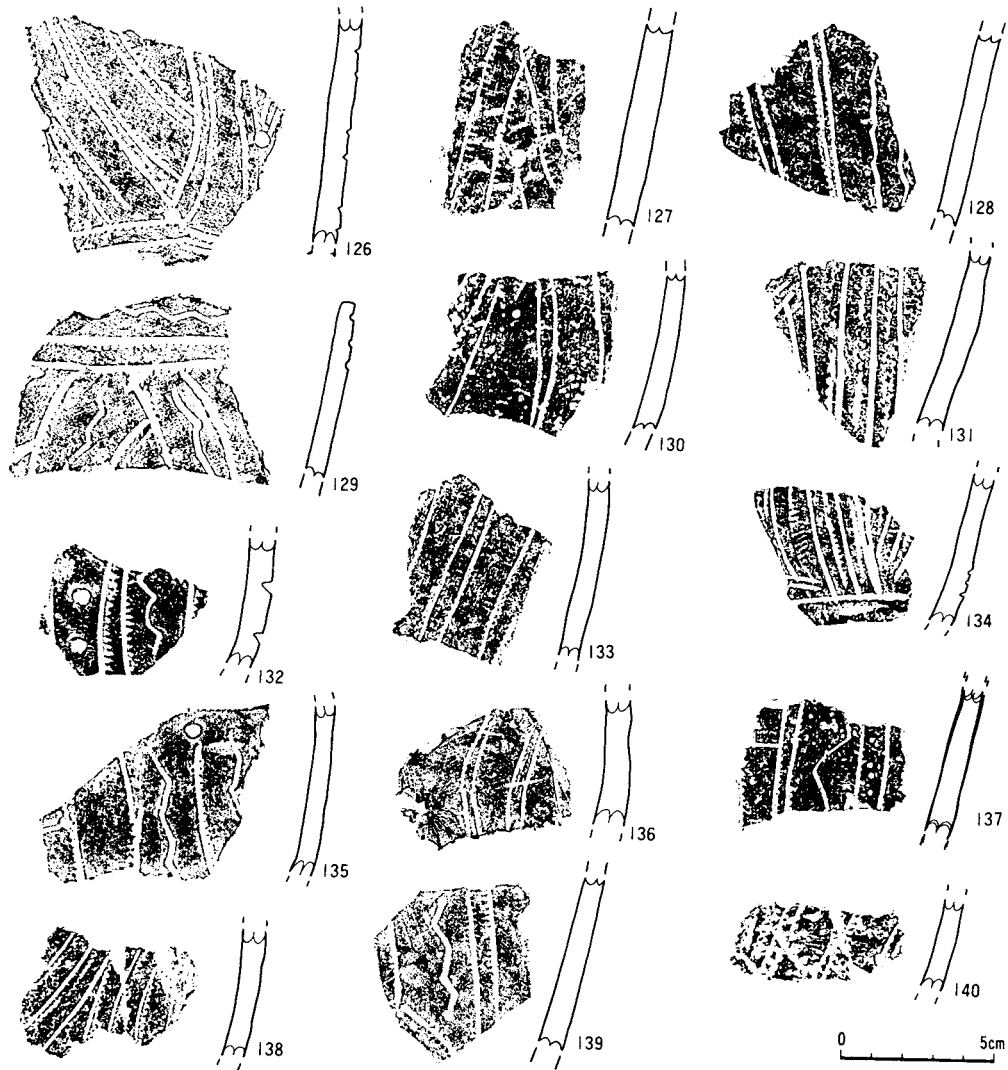
第83図 I地区遺構外出土土器(9)



I 地区出土土器観察表(10)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
115	B L-320 I b	口 縁	縦位弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒、波状口縁	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
116	B J-320 IV a	口 縁	縦位弧状文(貝殻腹縁)、円形刺突、波状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
117	B J-322 II	口 縁	縦位弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒、円形刺突、波状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
118	B G-319 IV	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
119	B K-318 IV b	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
120	B K-322 IV a	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
121	B H-319 IV b	胴	連続弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
122	B H-320 IV a	口 縁	弧状文(貝殻腹縁)、波状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
123	B L-316 IV b	胴	弧状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
124	B I-319 IV b	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
125	B I-321 III	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種

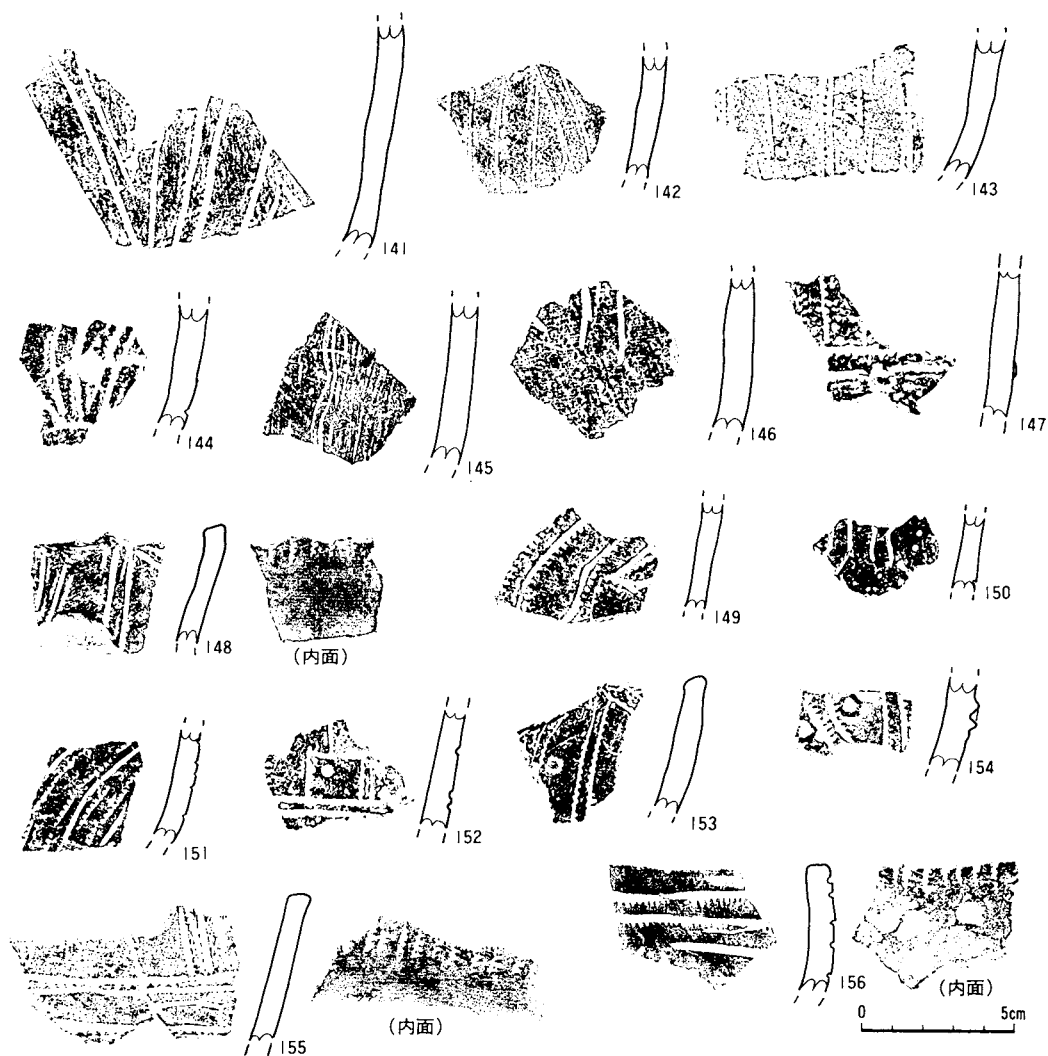
第84図 I 地区遺構外出土器(10)



I 地区出土土器観察表(11)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
126	BM-315 I b	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
127	BM-314 I b	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
128	BN-314 IV a	胴	貝殻腹縁、鋸齒状沈線	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
129	BO-313 I b	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、鋸齒状沈線、波状口縁	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
130	BF-321 IV	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
131	BE-321 I	胴	縦位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
132	BL-315 I	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、鋸齒状沈線	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
133	BM-314 I b	胴	縦位状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
134	BM-319 I b	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
135	BL-316 I	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、円形刺突、鋸齒状沈線	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
136	表探	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
137	BL-313 I	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、連続刺突、鋸齒状沈線	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
138	表探	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
139	BK-320 IV a	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、鋸齒状沈線、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
140	BH-319 IV a	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種

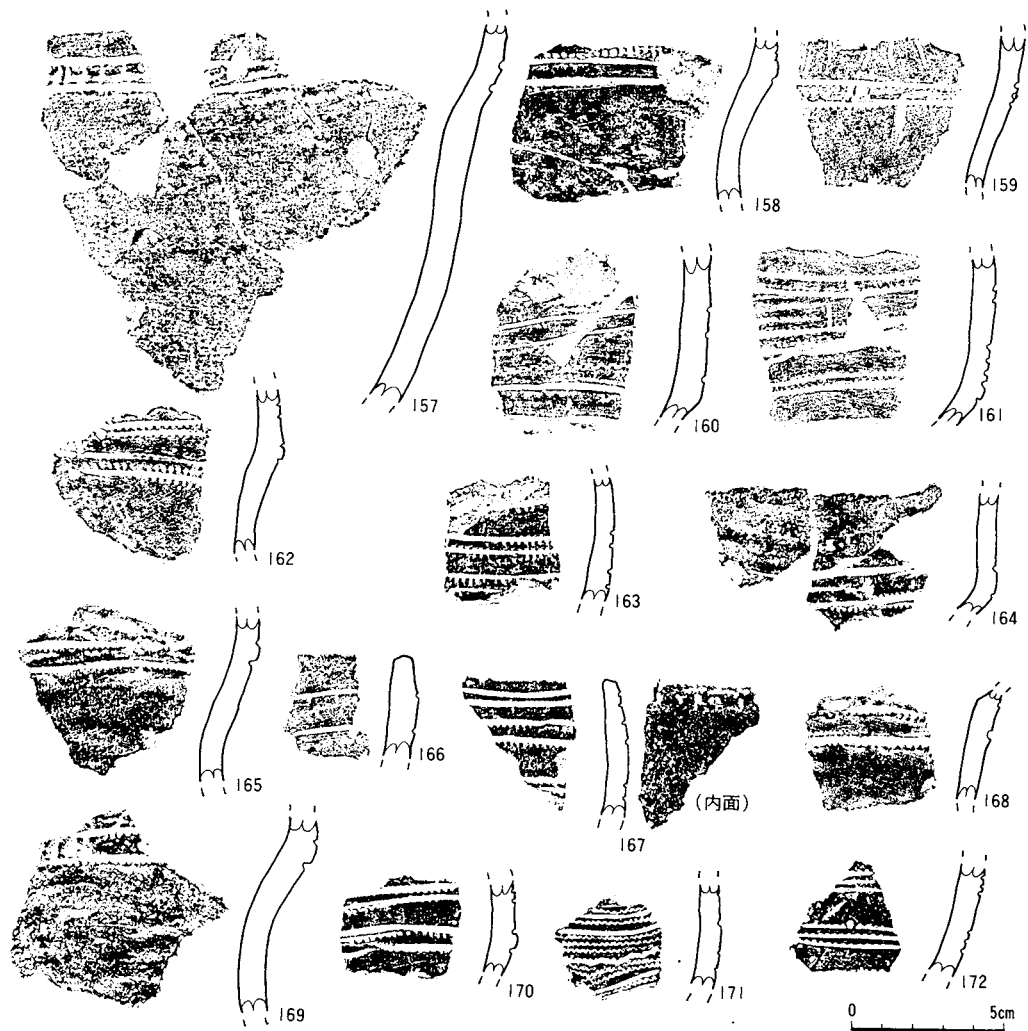
第85図 I 地区遺構外出土土器(1)



I 地区出土土器観察表(12)

番号	地区・層位	部位	外 面 施 文 文 様	内 面	分 類
141	B I - 317 I b	胴	縦位状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
142	表採	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
143	B M - 313 I b	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
144	B I - 319 IV a	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
145	B H - 317 IV a	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
146	B N - 314 I b	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
147	B L - 316 IV b	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
148	B J - 316 I b	口 縁	縦位状文(貝殻腹縁)、液状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
149	B J - 321 II	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
150	B L - 314 I	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、連続刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
151	B H - 320 IV a	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
152	B M - 313 I b	胴	縦位状文(貝殻腹縁)、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
153	B G - 321 IV a	口 縁	縦位状文(貝殻腹縁)、液状口縁	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
154	B L - 315 I	胴	縦位弧状文(貝殻腹縁)、粘土粒(刺突)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
155	B J - 315 I	口 縁	貝殻腹縁文、筈歯状沈線、液状口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種
156	B H - 323 II	口 縁	貝殻腹縁文、平口縁	貝 殻 刺 突	I 群 2 類 A 種

第86図 I 地区遺構外出土土器(12)

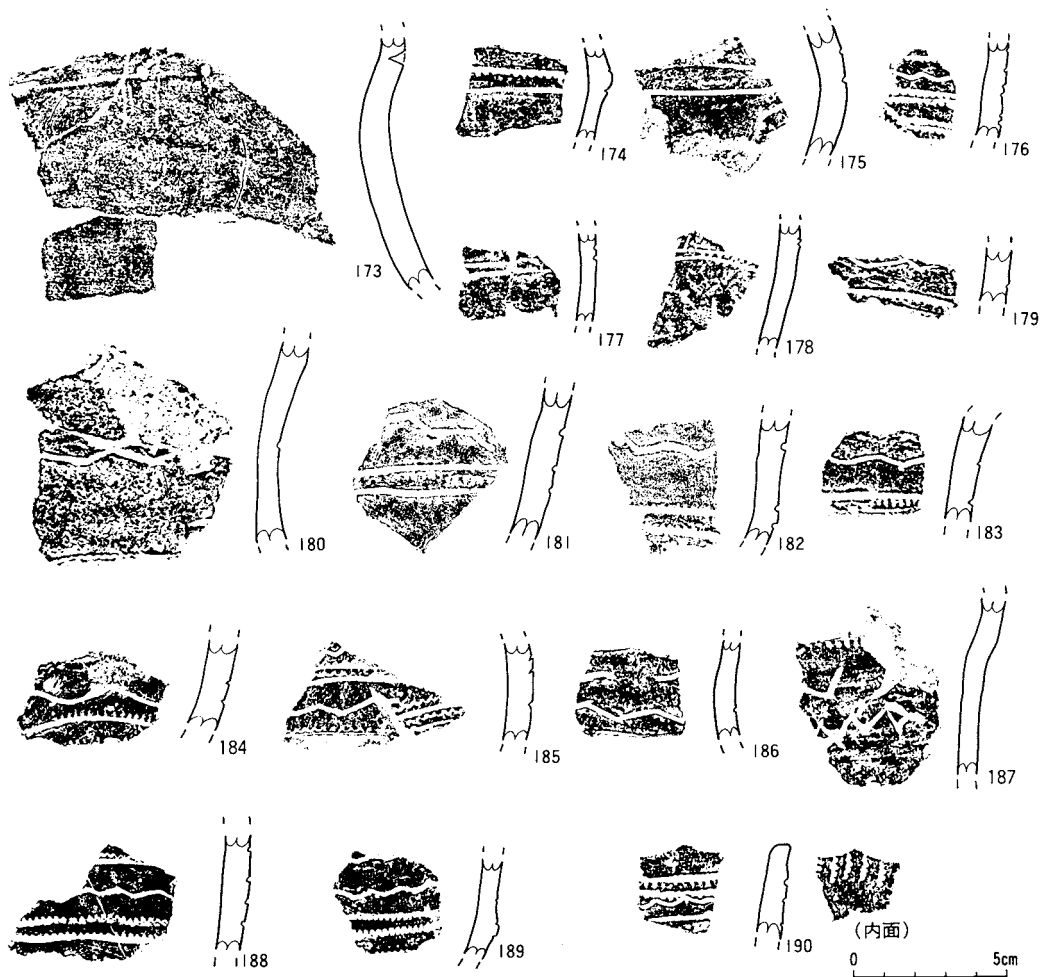


I 地区出土土器観察表(13)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
157	B I - 321 II	口頭	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
158	B L - 316 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	貝殻条痕	I 群 2 類 A 種
159	B M - 313 I b	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、連続刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
160	B L - 318 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
161	B J - 316 I b	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
162	B I - 323 IV a	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、円形刺突	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
163	B I - 319 I b	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
164	B K - 320 IV a	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
165	B K - 320 IV a	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
166	B L - 318 I	口縁	貝殻腹縁文、横位(沈線)、平口縁	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
167	B I - 316 I b	口縁	貝殻腹縁文、横位(沈線)、平口縁	貝殻刺突	I 群 2 類 A 種
168	B L - 313 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ヘラナデ調整	I 群 2 類 A 種
169	B I - 321 II	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
170	B I - 316 I b	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
171	表探	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I 群 2 類 A 種
172	B N - 315 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I 群 2 類 A 種

第87図 I 地区遺構外出土土器(13)

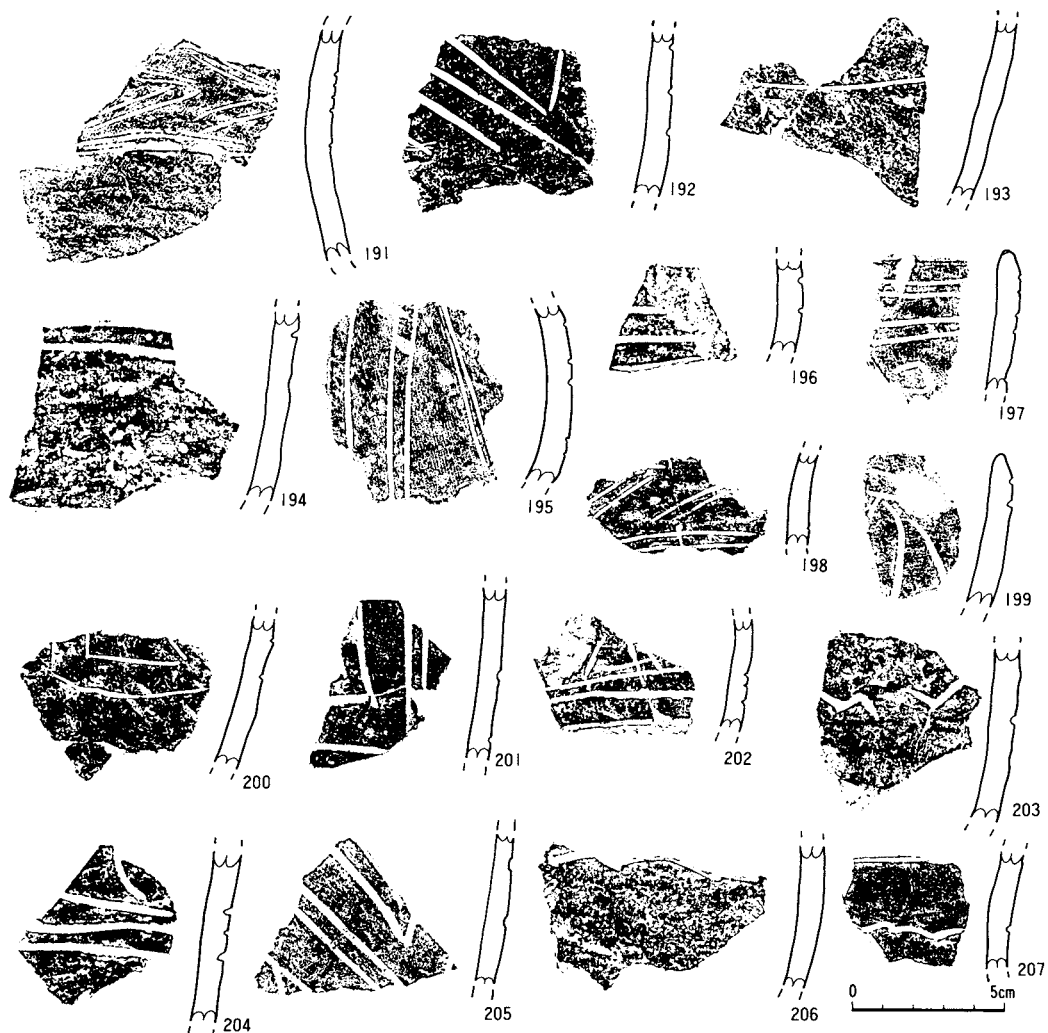




I 地区出土土器観察表(14)

番号	地区・層位	部位	外面 施文 文様	内面	分類
173	BM-319 Ib	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
174	BH-320 IVb	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I群2類A種
175	BL-318 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I群2類A種
176	BM-315 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
177	表採	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)	ナデ調整	I群2類A種
178	BL-316 IVb	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、円形刺突	ナデ調整	I群2類A種
179	BI-317 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
180	BO-313 Ib	胴	貝殻腹縁文、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
181	BL-319 Ib	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、円形刺突、鋸歯状沈線	ヘラナデ調整	I群2類A種
182	BM-312 Ib	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
183	BF-322 IVb	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
184	BL-315 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
185	BI-317 Ib	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ヘラナデ調整	I群2類A種
186	BH-317 IVb	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
187	BJ-317 Ib	胴	貝殻腹縁文、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
188	BL-314 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
189	BK-313 I	胴	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線	ナデ調整	I群2類A種
190	BI-317 I	口縁	貝殻腹縁文、横位(沈線)、鋸歯状沈線、波状口縁	貝殻刺突	I群2類A種

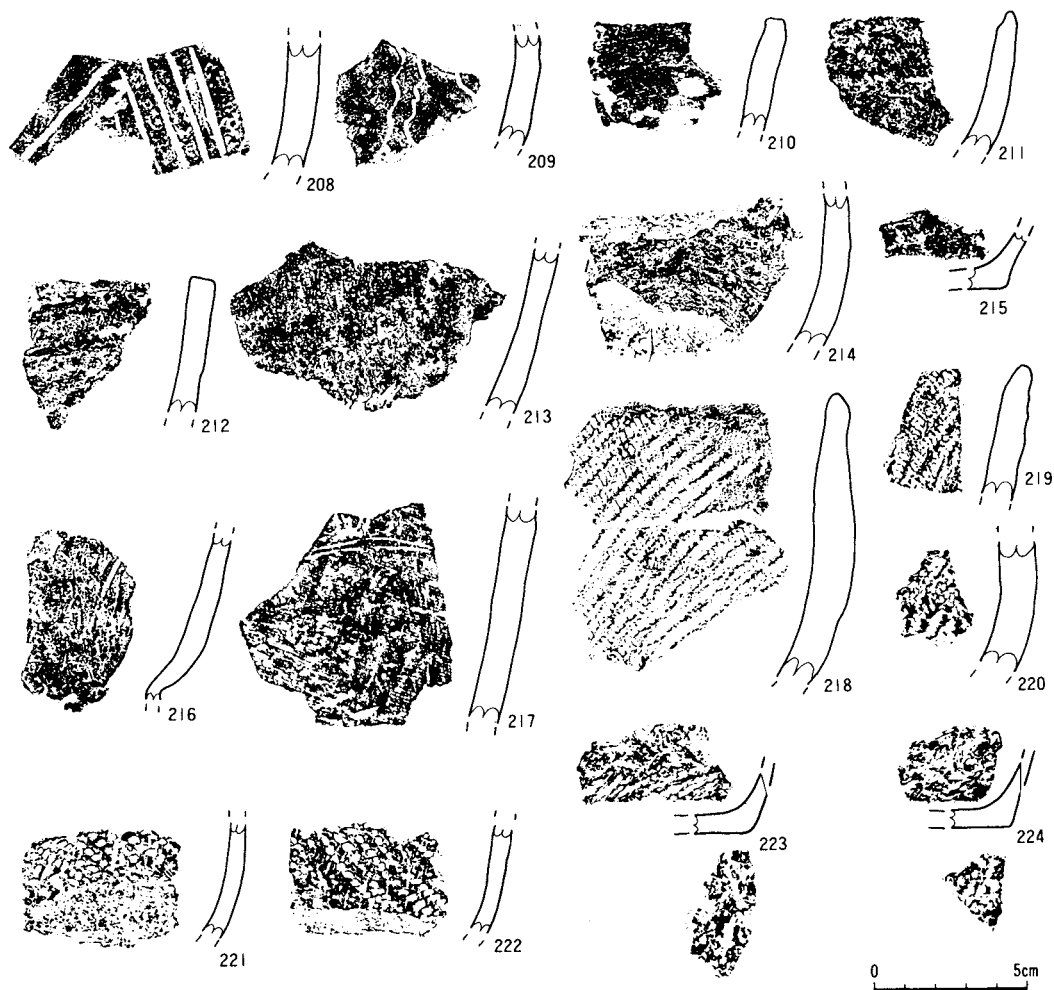
第88図 I 地区遺構外出土土器(14)



I 地区出土土器観察表(15)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
191	B L-319 IV a	胴	横位山形状文(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
192	B H-316 IV b	胴	山形状文(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
193	B G-321 IV	胴	横位(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
194	B I-321 II	胴	横位(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
195	B P-314 I b	胴	山形状文(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
196	B I-317 I b	胴	横位(沈線)	貝殻刺突	I群2類B種
197	B C-321 I	口縁	横位・円環状(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
198	B I-319 IV	胴	横・斜位(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
199	B L-314 I	口縁	縦位弧状文(沈線)、平口縁	ナデ調整	I群2類B種
200	B J-323 IV a	胴	方形状文(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
201	B C-321 I	胴	方形状文(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
202	B J-319 IV a	胴	方形状文(沈線)	貝殻条痕	I群2類B種
203	B K-319 IV b	胴	鋸歯状(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
204	B L-320 I b	胴	横・弧状(沈線)	ヘラナデ調整	I群2類B種
205	B K-320 IV a	胴	斜位状文(沈線)	ヘラナデ調整	I群2類B種
206	B N-315 I b	胴	鋸歯状(沈線)	ナデ調整	I群2類B種
207	表探	胴	鋸歯状(沈線)	ナデ調整	I群2類B種

第89図 I 地区遺構外出土土器(15)



I 地区出土土器観察表(16)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	分類
208	B O-321 I	胴	山形状文(沈線)、円形刺突	ナデ調整	I群2類C種
209	B L-314 I	胴	鋸歯状(沈線)、連続円形刺突	ヘラナデ調整	I群2類C種
210	B J-320 IV a	口縁	貝殻条痕、平口縁	ナデ調整	I群2類D種
211	表採	口縁	無文、平口縁	ナデ調整	I群2類E種
212	B L-319 I	口縁	無文、平口縁	ナデ調整	I群2類E種
213	B I-317 IV a	底辺	ナデ調整	貝殻条痕	I群2類F種
214	B D-323 IV a	底辺	ナデ調整	ナデ調整	I群2類F種
215	B I-317 IV b	底	無文、平底	ナデ調整	I群2類F種
216	表採	底辺	ナデ調整、乳房状突起	ナデ調整	I群2類F種
217	B B-323 IV b	底辺	横位(沈線)、貝殻条痕	ナデ調整	I群2類F種
218	B J-324 IV a	口縁	0段多条(L R)、平口縁	ナデ調整	I群3類
219	B J-330 IV a	口縁	0段多条(L R)、平口縁	ナデ調整	I群3類
220	B I-320 IV a	胴	0段多条(L R)	ナデ調整	I群3類
221	B Q-320 I	胴	縄文	ヘラナデ調整	第II群土器
222	B Q-320 I	胴	縄文	ヘラナデ調整	第II群土器
223	B Q-320 I	底	縄文(L R)、底面(縄文?)	ナデ調整	第II群土器
224	B Q-320 I	底	縄文(L R)、底面(縄文?)	ナデ調整	第II群土器

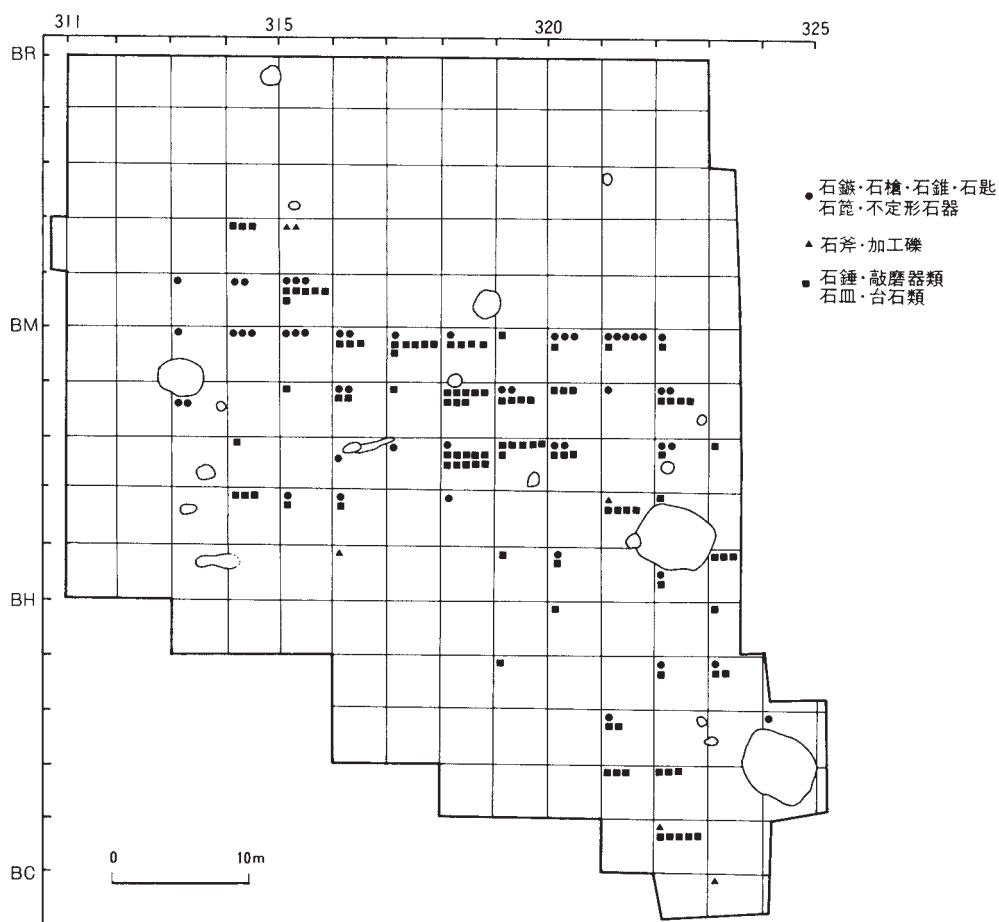
第90図 I 地区遺構外出土土器(16)

## (2) 石 器

I 地区より出土した石器は11種341点である。(第1表)。分布状況はB J～BM-315～323グリッドに集中しており、また、基本層序第IV a 層からの出土が多い。

第1表 I 地区 出土石器一覧表

	石 鏃	石 槍	石 錐	石 ヒ	石 鏑	不定形 石 器	石 核	石 斧	加工礫	石 錘	敲磨器類	石皿・ 台石類	合 計
遺構内	23	9	2	8	10	89	0	0	0	12	17	1	171
遺構外	1	0	0	4	14	35	0	2	4	84	25	1	170
合 計	24	9	2	12	24	124	0	2	4	96	42	2	341



第91図 I 地区石器分布図

A類 石鏃(第12図-1~6、28図-1~7・9、44図-1~7・9、51図-1、92図-1図)  
石鏃は24点出土した。遺構内23点、遺構外1点である。また、完形品15点、欠損品9点である。

I類は16点出土した。このうちI a類が11点（第12図-1～4、28図-1～4、44図-1・2、51図-1）、I b類が4点（第28図-5、44図-3～5）、I c類が1点（第28図-6）である。

II類は6点出土しており、II a類が4点（第12図-5、44図-6・7、92図-1）、II b類が2点（第12図-6、28図-7）である。また、III類は1点、IV類は1点出土した。

調整は、全般的に両面調整が施され、しかも丁寧で規則正しい剝離調整である。しかし、両面に第1次剝離面を残存させ、その縁辺に丁寧な調整を施しているものが5点見られる。

大きさは、完形品を対象とするが、長さは最大で3.3cm、最小は1.9cm、平均値は2.5cmである。幅は最大で2.0cm、最小で1.4cm、平均値は1.7cmである。厚さは最大で0.6cm、最小で0.2cm、平均値は0.35cmである。重さは最大で2.0g、最小で0.3g、平均値は1.2gである。

石質は、珪質頁岩が23点、黒曜石1点である。

#### B類 石槍（第28図-8・10、29図-11・12、44図-8・10、45図-11・12、71図-1）

石槍は遺構内からのみ9点出土し、すべて尖頭部を欠損している。

I a類が5点（第28図-8・10、第29図-11、44図-8・10）、I b類が3点（第29図-12、45図-12、71図-1）、III類が1点（第45図-11）の出土である。

調整は、すべて両面調整が施されており、比較的丁寧な調整である。第29図-12は、片面縁辺部に丁寧な調整が施されているが、第1次剝離面を残存させている。

石質は、珪質頁岩8点、玉髄質の珪質頁岩1点である。

#### C類 石錐（第29図-13、45図-13）

石錐は2点出土した。いずれも遺構内からの出土である。

いずれもつまみ状の頭部が作出されている。第45図-13は、錐部に丁寧な調整が施されている。

石質はいずれも珪質頁岩である。

#### D類 石匙（第12図-7・8、29図-14～18、45図-14、92図-2～5）

石匙は12点出土し、遺構内8点、遺構外4点である。また、完形品11点、欠損品1点である。すべて縦型石匙である。分類はI類2点（第92図-2・3）、II類3点（第12図-7、29図-14・15）、III類1点（第92図-4）、IV類5点（第12図-8、29図-16～18、45図-14）、V類1点（第92図-5）である。

調整は、両面に丁寧な剝離調整を施しているものが2点（第29図-2・3）、表面に丁寧な

調整を施すが裏面の主要剥離面には、その縁辺部に微細な剥離を施しているものが5点（第12図-8、29図-14・16・18、92図-4）、主要剥離面の縁辺部に微細な剥離を施しているものが4点（第12図-7、29図-17、45図-14、92図-5）である。第29図-15は表面に原石面を残存させており、縁辺部に簡単な調整を施している。また、つまみの部分を浅く抉り、つまみ部を作出しているものが2点みられる。

石質はすべて珪質頁岩である。

**E類 石筥**（第12図-9、13図-10~13、29図-19~21、45図-15・16、92図-6・7、93図、94図-14~19）

石筥は24点出土した。遺構内10点、遺構外14点である。また、完形品16点、欠損品8点である。

分類は、I a類3点（第92図-6・7、93図-8）、I b類6点（第12図-9、13図-10、29図-19、45図-16、93図-9・10）、I c類8点（第13図-11・13、29図-20、93図-11~13、94図-14・15）、II a類1点（第94図-16）、II c類1点（第94図-19）、III c類2点（第45図-15、94図-18）、IV b類1点（第94図-17）、V a類1点（第13図-12）、VI類1点（第29図-21）である。

調整は、全面調整のものが大部分である。中には、表面が全面調整で、裏面が縁辺調整のもの5点（第13図-13、45図-15、93図-11・13、94図-15）、表面が全面調整で、裏面が無調整に近いもの1点（第13図-11）、両面に主要剥離面を残存させ、縁辺部に調整を施したものが1点（第94図-18）見られる。

また、刃部の形態は、円刃で片刃のもの3点（第93図-10、94図-16・19）、直刃で両刃のもの4点（第13図-13、29図-20、45図-16、94図-17）、直刃で片刃のもの9点（第12図-9、29図-19、45図-15、92図-6、93図-11~13、94図-14・18）である。

石質は、珪質頁岩24点である。

**F類 不定形石器**（第13図-14~18、14図・15図、29図-22、30~33図、45図-17~20、46図、51図-2・3、94図-20、95・96図、97図-44~47）

I類は合計38点で、そのうちI a類10点、I b類1点、I c類4点、I d類23点の出土である。

第95図-23は裏面の二側縁部につぶれの痕跡が見られ、平面形が尖頭状を呈するため石鈎の可能性が考えられる。第95図-27の刃部は微細な剥離調整が施され、急傾斜となっている。第45図-19はほぼ全周に調整が施されている。第95図-25は刃部が抉入状を呈する。

大きさは、長さが最大で8.1cm、最小で2.0cm、平均値は4.1cmである。幅は最大で6.0cm、最小で1.6cm、平均値は3.5cmである。重さは最大で58.5g、最小は2.0g、平均値は15.4gである。石質は粘板岩2点、珪質頁岩36点である。

また、Ⅱ類は43点で、Ⅱa類29点、Ⅱb類14点出土した。Ⅱa類は、主要剥離面の縁辺部に極浅形調整が施され、一側縁部ないし二側縁部に及ぶものが大部分である。第46図-21は縁辺部に微細な調整が施され、形状・大きさなどから石鏃の可能性もある。Ⅱb類は、剥離調整の部分が器体の1/4以下で、大まかな調整のものが大部分である。

大きさは、長さが最大で5.9cm、最小で1.8cm、平均値は3.6cmである。幅は最大で5.9cm、最小で1.0cm、平均値は2.8cmである。また、重さは最大で23.7g、最小で0.4g、平均値は6.5gである。石質は、玉髄質の珪質頁岩1点、珪質頁岩42点である。

Ⅲ類は、大ざっぱな剥離によって器体が成形されたもので、5点出土した。定形石器に近い形状を呈するものがあるが、微細な調整剥離は施されていない。石質は、粘板岩2点、珪質頁岩3点である。

Ⅳ類は使用痕の見られる剥片を一括した。38点出土した。大きさは、長さが最大で7.9cm、最小で1.7cm、平均値は4.2cmである。幅は最大で7.1cm、最小で1.9cm、平均値は3.4cmである。重さは最大で70.0g、平均値は13.0gである。石質は、粘板岩1点、珪質頁岩37点である。

#### H類 石斧 (第97図-48・49)

石斧は2点で、すべて遺構外の出土である。

いずれもⅡ類に属し、基部残存が1点、刃部残存が1点である。49は頭頂部に敲打痕が見られる。

石質は砂岩1点、緑色ホルンフェルス1点である。

#### I類 加工礫 (第98図-50~52・54)

4点出土した。Ⅱ類3点(50・51・54)、Ⅲ類1点(52)である。大きさは、長さが最大で10.0cm、最小で7.0cm、平均値は7.9cmである。また、重さは最大で239g、最小で69g、平均値は159.2gである。

石質は輝緑岩1点、チャート3点である。

#### J類 石錘 (第34図、47図-31~34、98図-53~57、99~107図、108図-131~137)

石錘は96点で、遺構内12点、遺構外84点である。

分類はI類4点、Ⅱa類24点、Ⅱb類26点、Ⅱc類28点、Ⅱd類3点、Ⅲ類6点、Ⅳ類5点

で器体の長軸方向の打ち欠きが圧倒的に多い。

また、大きさは完形品を対象とするが、長さは最大で11.0cm、最小で4.3cm、平均値は7.1cmである。幅は最大で8.0cm、最小で4.0cm、平均値は6.2cmである。また、重さは最大で452g、最小で31g、平均値は140.2gである。重さについてみれば、平均値より小さいものの数がやや多い傾向にある。

石質は、チャート51点、砂岩24点、安山岩11点、頁岩2点、閃緑岩2点、礫岩2点、凝灰岩3点、緑色ホルンフェルス1点である。

**K類 敲磨器類**（第15図-34、34図-68、35・36図、47図-35・36、48図-37・39、108図-138、109~110図、111図-151~155）

I類は26点で、遺構内9点、遺構外17点出土した。I類は、I a類7点、I b類5点、I c類8点、I d類2点、I e類4点である。

142・145は器体側縁部全体に擦痕が見られる。また、断面形が三角形を呈する、いわゆる三角柱状磨石が3点出土している。

II類は15点で、遺構内7点、遺構外8点の出土である。この内II a類3点、II b類5点、II c類5点、II d類2点である。

III類は1点出土している。両面に研磨痕、側縁部に敲打痕が見られる。両面はいずれも磨耗し内湾していることから、使用頻度が高いと思われる。

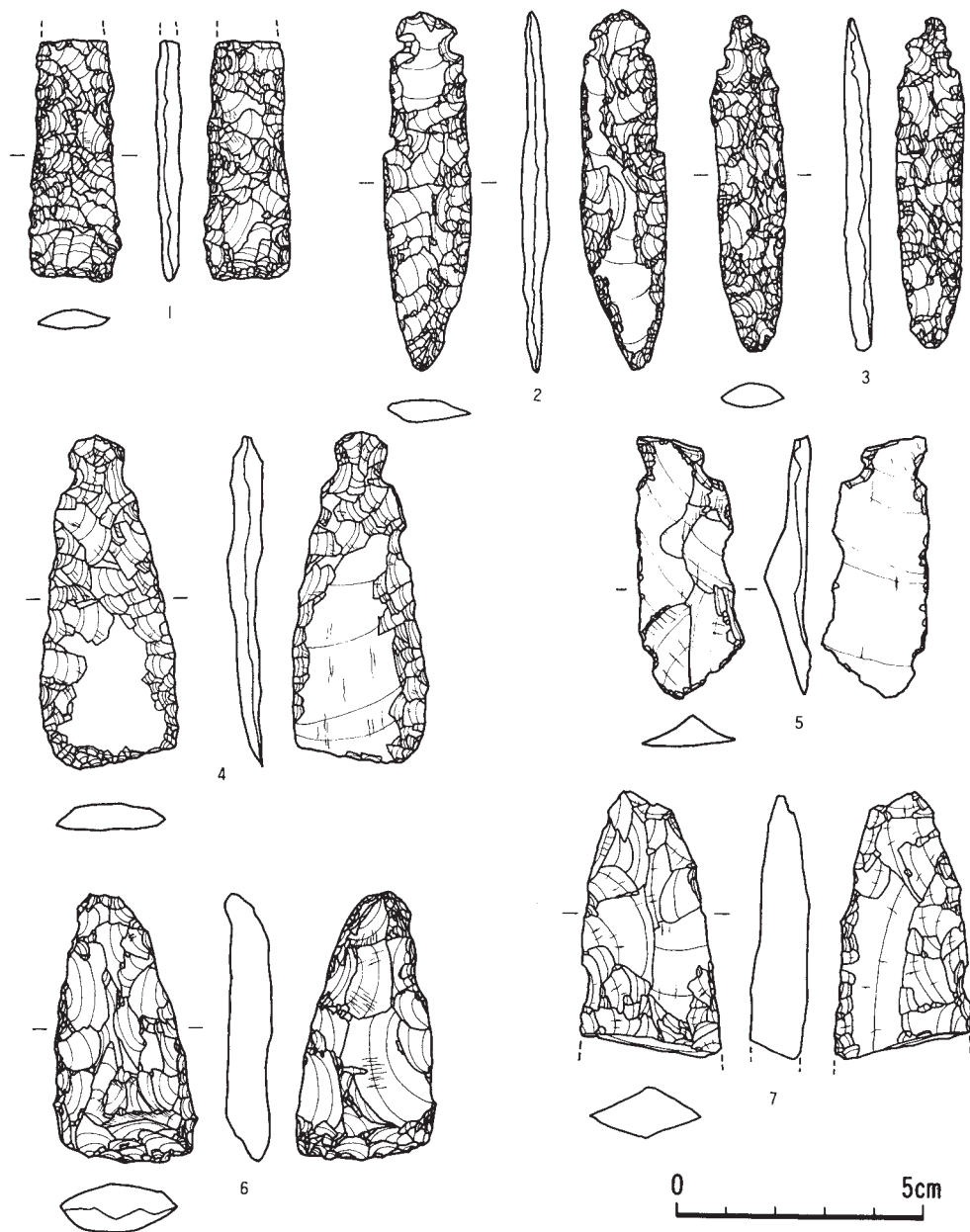
石質は、安山岩25点、チャート6点、凝灰岩3点、砂岩3点、石英斑岩1点、礫岩1点、頁岩1点、閃緑岩2点である。

**L類 台石・石皿類**（第48図-38、第111図-156）

2点出土した。遺構内1点、遺構外1点である。いずれも自然礫の平坦面を利用しており、敲打痕を有するもの1点、擦痕を有するものが1点である。石質はすべて安山岩である。

（奈良）

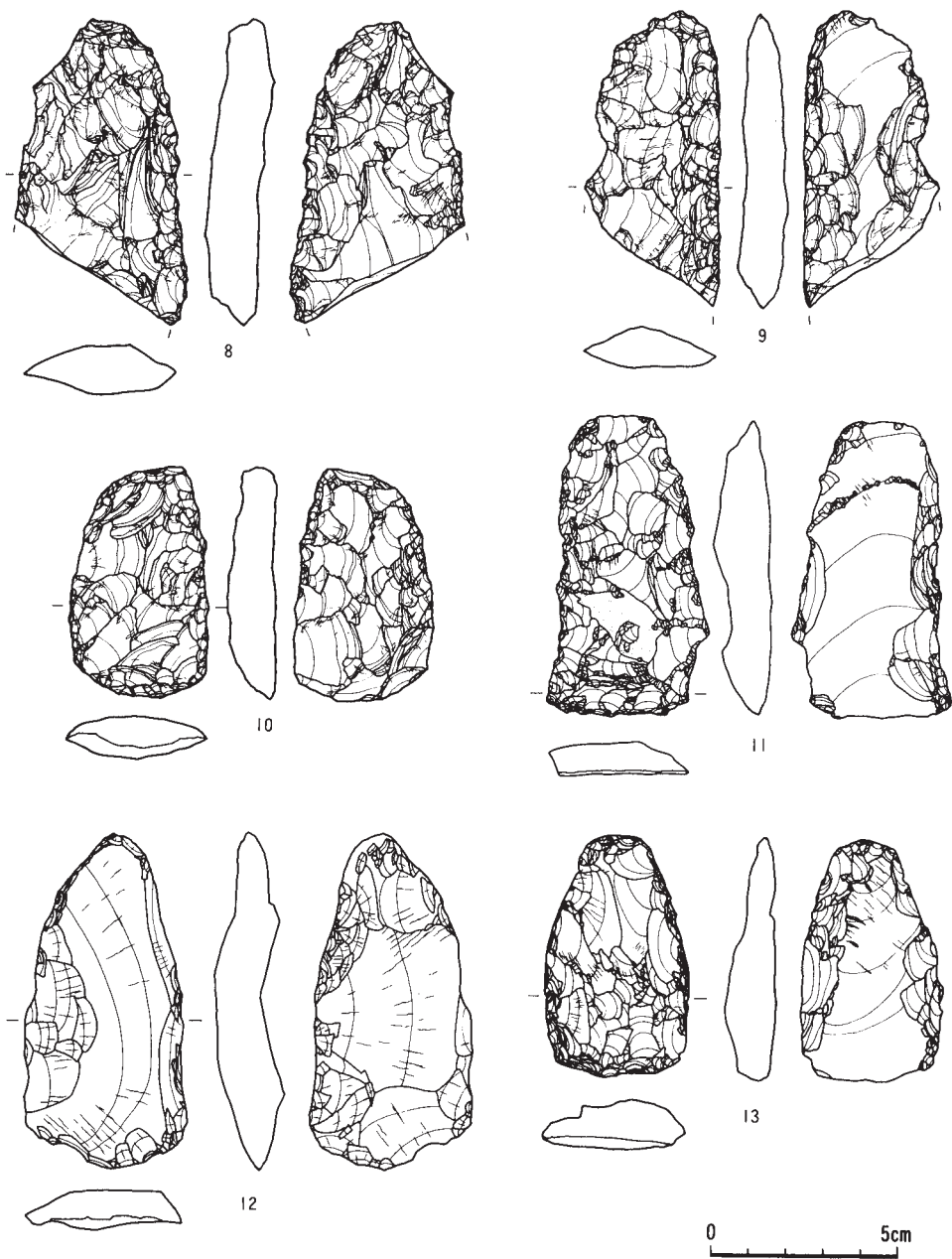




I 地区遺構外出土石器計測表(1)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第92図-1	BL-315	IV b	(47)	18	5	(4.8)	珪	A-II a	211	尖頭部欠損
第92図-2	BL-315	I	73	17	5	6.6	珪	D-I	171	
第92図-3	BF-322	V	68	13	5	5.7	珪	D-I	175	
第92図-4	BJ-322	IV a	65	28	6	11.4	珪	D-III	169	
第92図-5	BM-315	IV b	52	19	8	5.6	珪	D-V	178	
第92図-6	BM-314	I b	56	28	10	17.4	珪	F-I a	176	
第92図-7	BH-322	I	(53)	(27)	11	(16.1)	珪	E-I a	198	刃部欠損

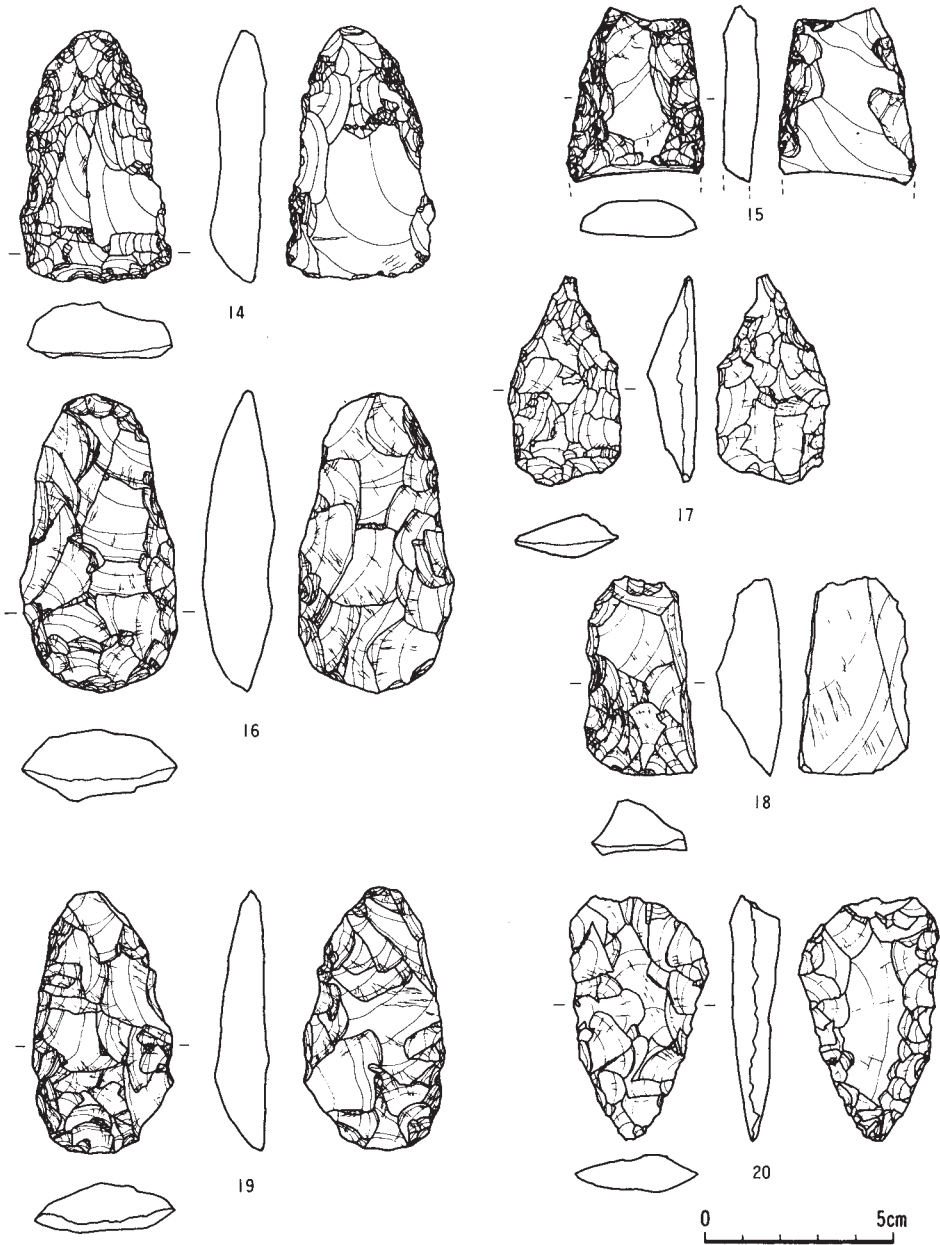
第92図 I 地区遺構外出土石器(1)



I 地区遺構外出土石器計測表(2)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第93図-8	B L-322	IV a	(83)	(43)	16	(55.7)	珪	E-I a	214	欠損
第93図-9	B K-313	I b	(79)	(35)	12	(29.6)	珪	E-I b	219	欠損
第93図-10	B I-318	I b	60	36	12	25.3	珪	E-I b	220	
第93図-11	B K-316	I b	79	39	15	48.2	珪	E-I c	167	
第93図-12	B K-322	IV b	89	44	13	48.5	珪	E-I c	174	
第93図-13	B K-322	IV b	64	40	14	37.5	珪	E-I c	172	

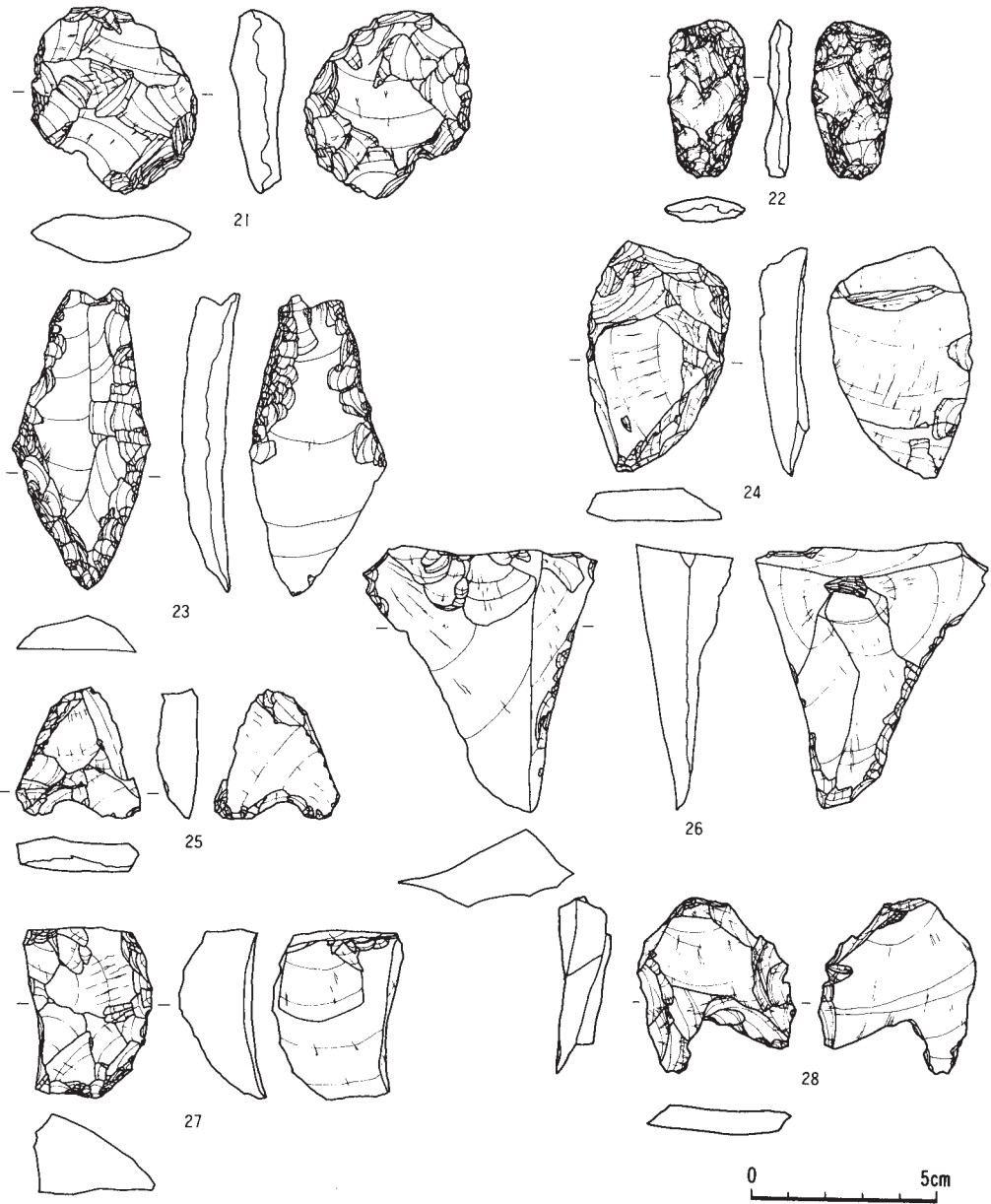
第93図 I 地区遺構外出土石器(2)



I 地区遺構外出土石器計測表(3)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第94図-14	B I - 316	I	67	39	14	37.7	珪	E - I c	177	
第94図-15	B J - 322	Ⅲ	(45)	(37)	1	(20.1)	珪	E - I c	221	欠損
第94図-16	表採		79	41	17	54.6	珪	E - II a	222	
第94図-17	B K - 319	Ⅳ a	54	29	12	14.5	珪	E - IV b	223	
第94図-18	B L - 316	I b	53	28	17	27.7	珪	E - III c	199	
第94図-19	表採		70	37	13	34.3	珪	E - II c	202	
第94図-20	B F - 323	Ⅳ b	65	36	13	23.9	珪	F - I a	173	

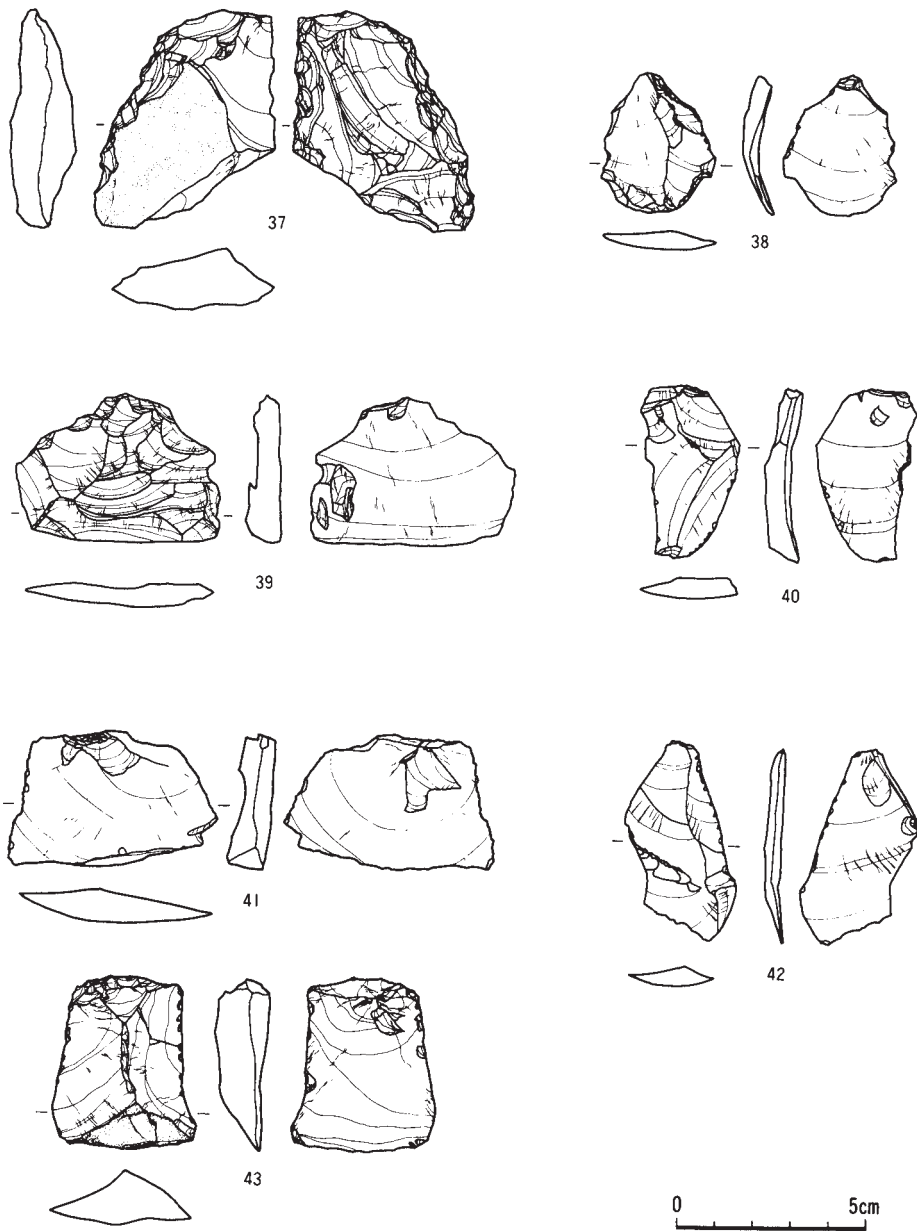
第94図 I 地区遺構外出土石器(3)



I 地区遺構外出土石器計測表(4)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第95図-21	B H - 320	IV a	59	40	12	26.4	珪	F - I a	182	
第95図-22	表探		41	20	6	5.7	珪	F - I a	212	
第95図-23	B J - 317	I b	81	37	11	31.0	珪	F - I c	170	
第95図-24	B J - 320	IV a	61	45	12	32.8	粘	F - I d	168	
第95図-25	B L - 313	I	35	33	11	12.2	珪	F - I d	196	
第95図-26	B K - 319	IV a	75	60	29	58.3	珪	F - I d	183	
第95図-27	B K - 316	I a	45	32	19	32.7	珪	F - I d	184	
第95図-28	B L - 314	I	45	42	10	19.2	珪	F - I d	185	

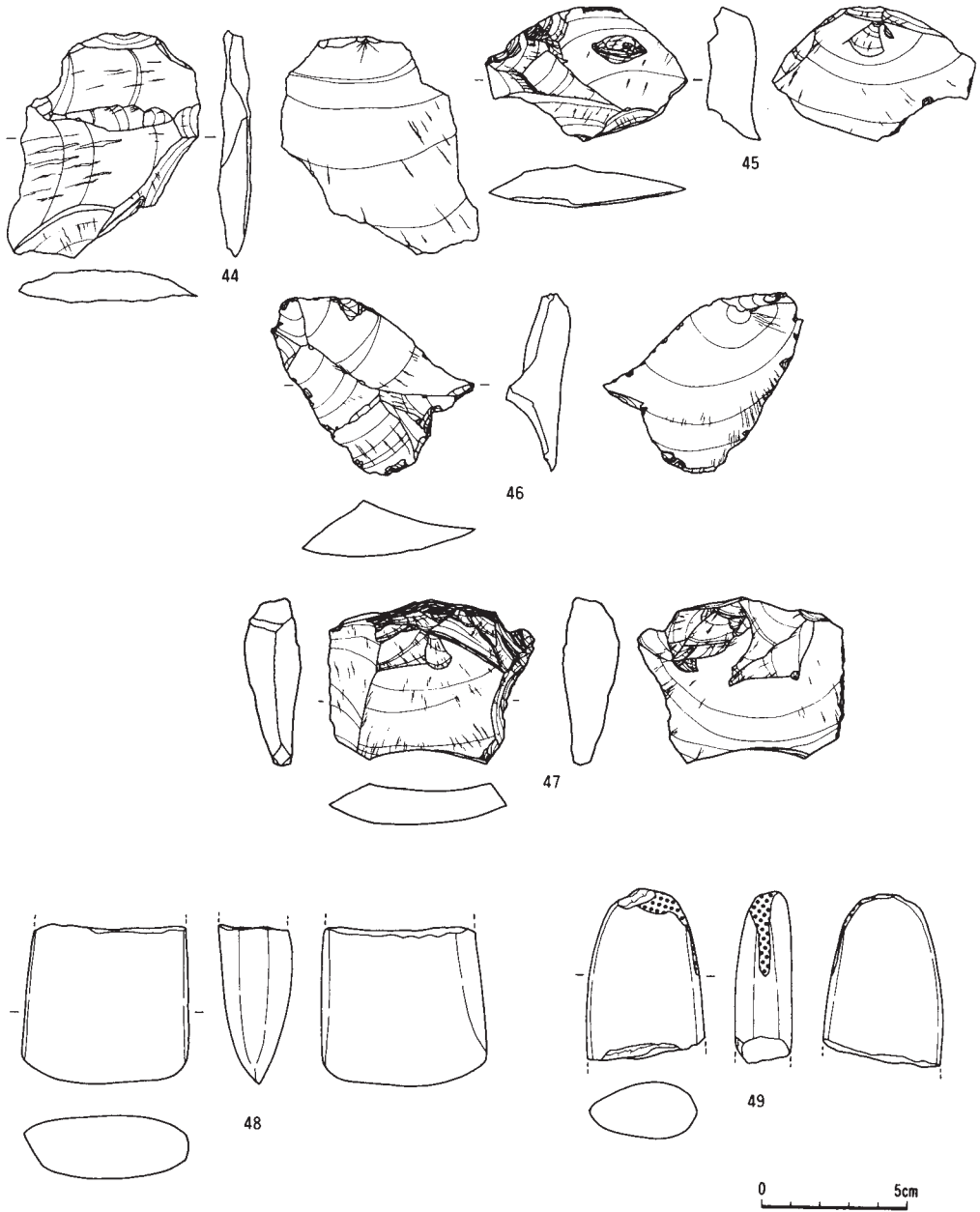
第95図 I 地区遺構外出土石器(4)



I 地区遺構外出土石器計測表(5)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第96図-37	BE-321	V	40	70	15	38.2	粘	F-III	215	
第96図-38	BJ-318	I	37	30	5	4.7	珪	F-IV	179	
第96図-39	BJ-320	IV a	39	54	6	12.5	珪	F-IV	190	
第96図-40	BE-324	I	45	25	6	6.9	珪	F-IV	194	
第96図-41	BJ-316	IV a	34	55	10	18.8	珪	F-IV	191	
第96図-42	BM-315	I a	45	29	5	5.3	珪	F-IV	193	
第96図-43	BM-313	I b	45	35	14	21.0	珪	F-IV	217	

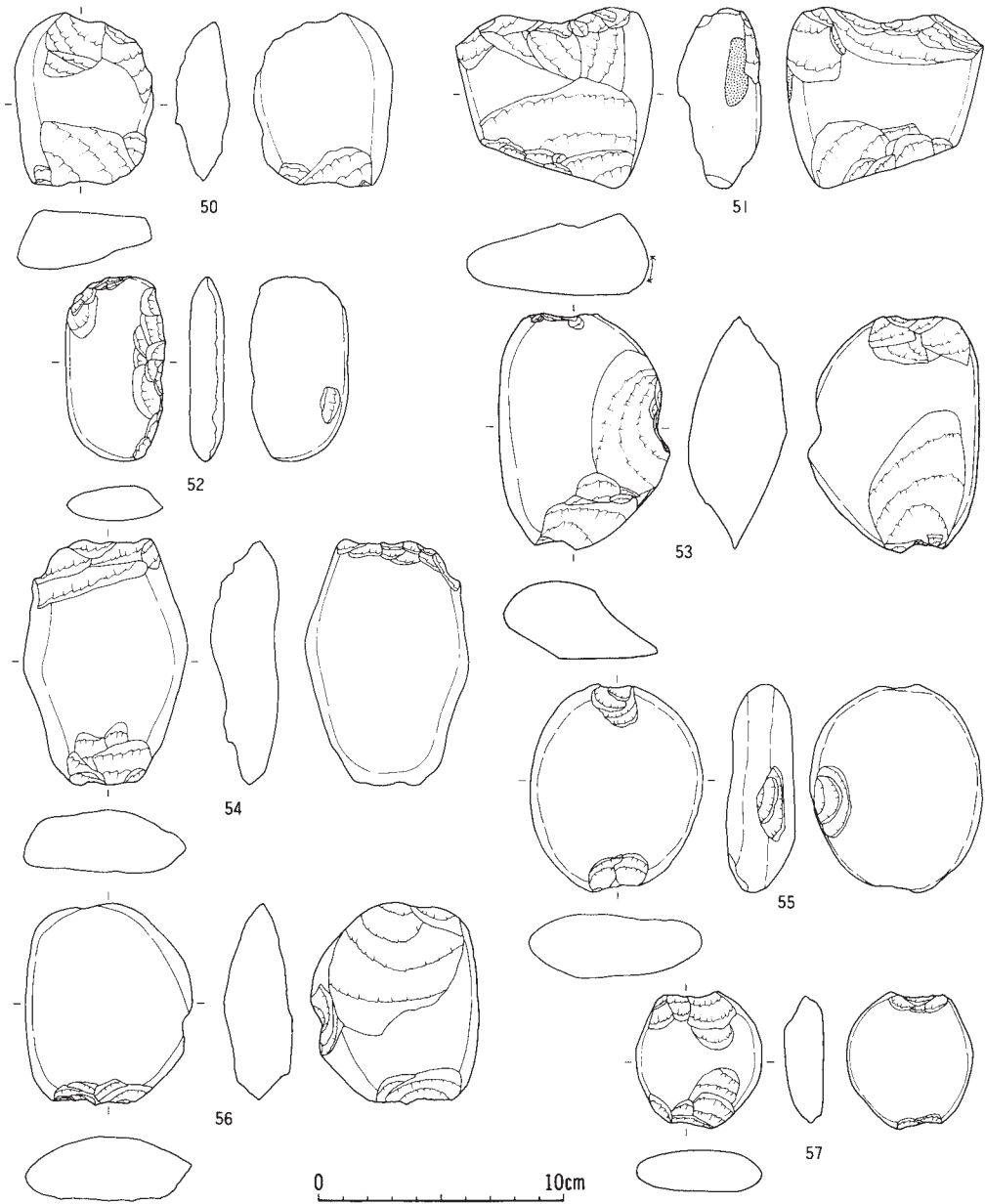
第96図 I 地区遺構外出土石器(5)



I 地区遺構外出土石器計測表(6)

図版	出地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第97図-44	B K - 321	I b	79	58	10	47.8	粘	F - IV	189	
第97図-45	B L - 321	I	47	71	13	38.1	珪	F - IV	200	
第97図-46	B L - 317	I a	62	53	20	46.9	珪	F - IV	187	
第97図-47	B L - 321	I	54	70	18	70.0	珪	F - IV	201	
第97図-48	B H - 316	IV b	(53)	56	23	(117)	輝	H - II	172	刃部残存
第97図-49	B N - 315	I b	(57)	41	20	(78)	緑水	H - II	171	基部残存 クマキあり

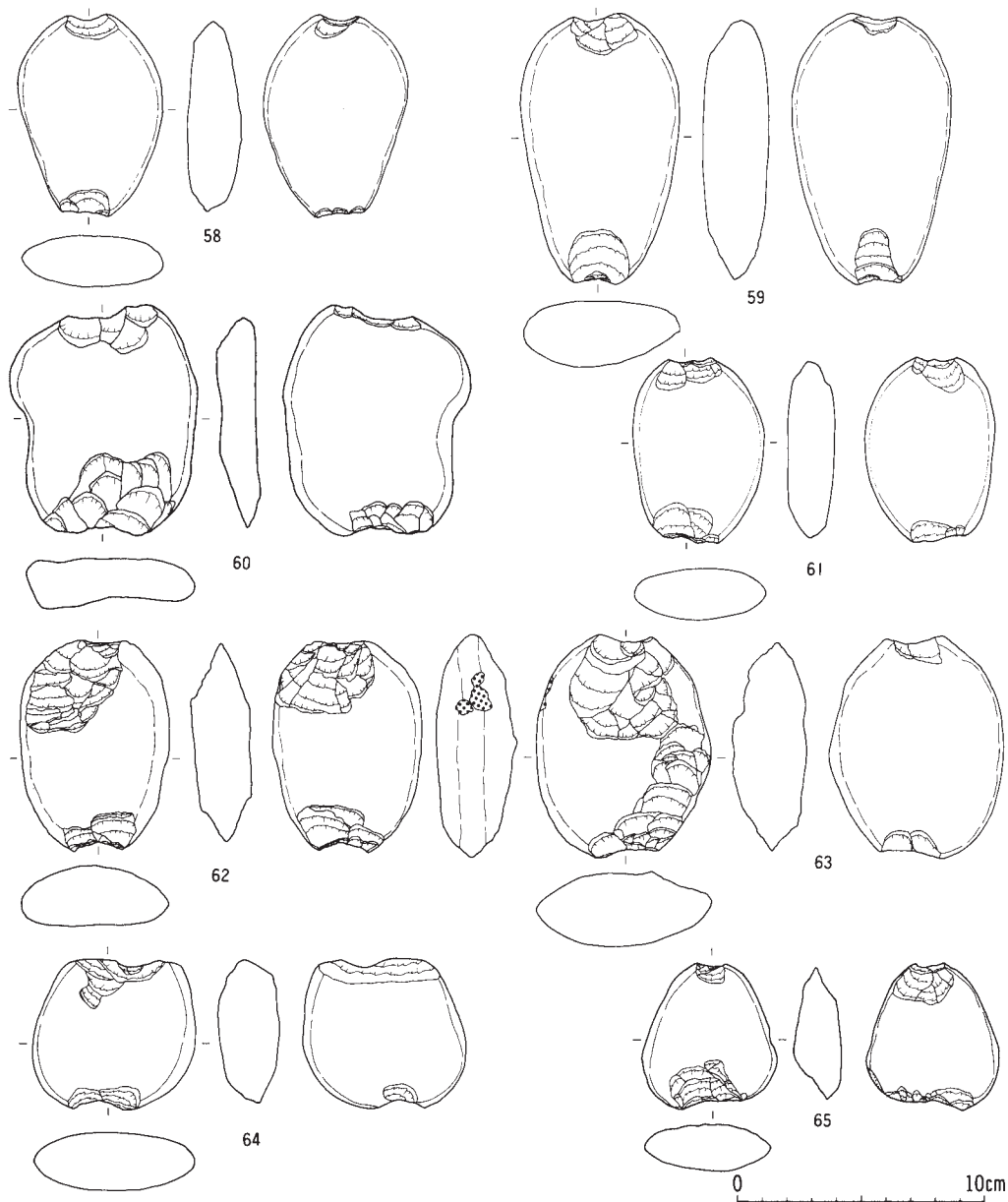
第97図 I 地区遺構外出土石器(6)



I 地区遺構外出土石器計測表(7)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第98図-50	B B-323	IV b	70	55	25	118	チャ	I-II	132	
第98図-51	B N-315	I b	73	78	32	(211)	チャ	I-II	91	スリあり
第98図-52	B L-321	I	74	40	14	69	輝	I-III	109	
第98図-53	B M-315	I a	95	67	36	298	砂	J-I	104	
第98図-54	B C-322	IV a	100	66	27	239	チャ	I-II	122	
第98図-55	B L-317	I	85	71	28	218	安	J-I	73	
第98図-56	表採		81	67	29	218	チャ	J-I	167	
第98図-57	B J-319	IV a	55	52	17	67	砂	J-II a	57	

第98図 I 地区遺構外出土石器(7)

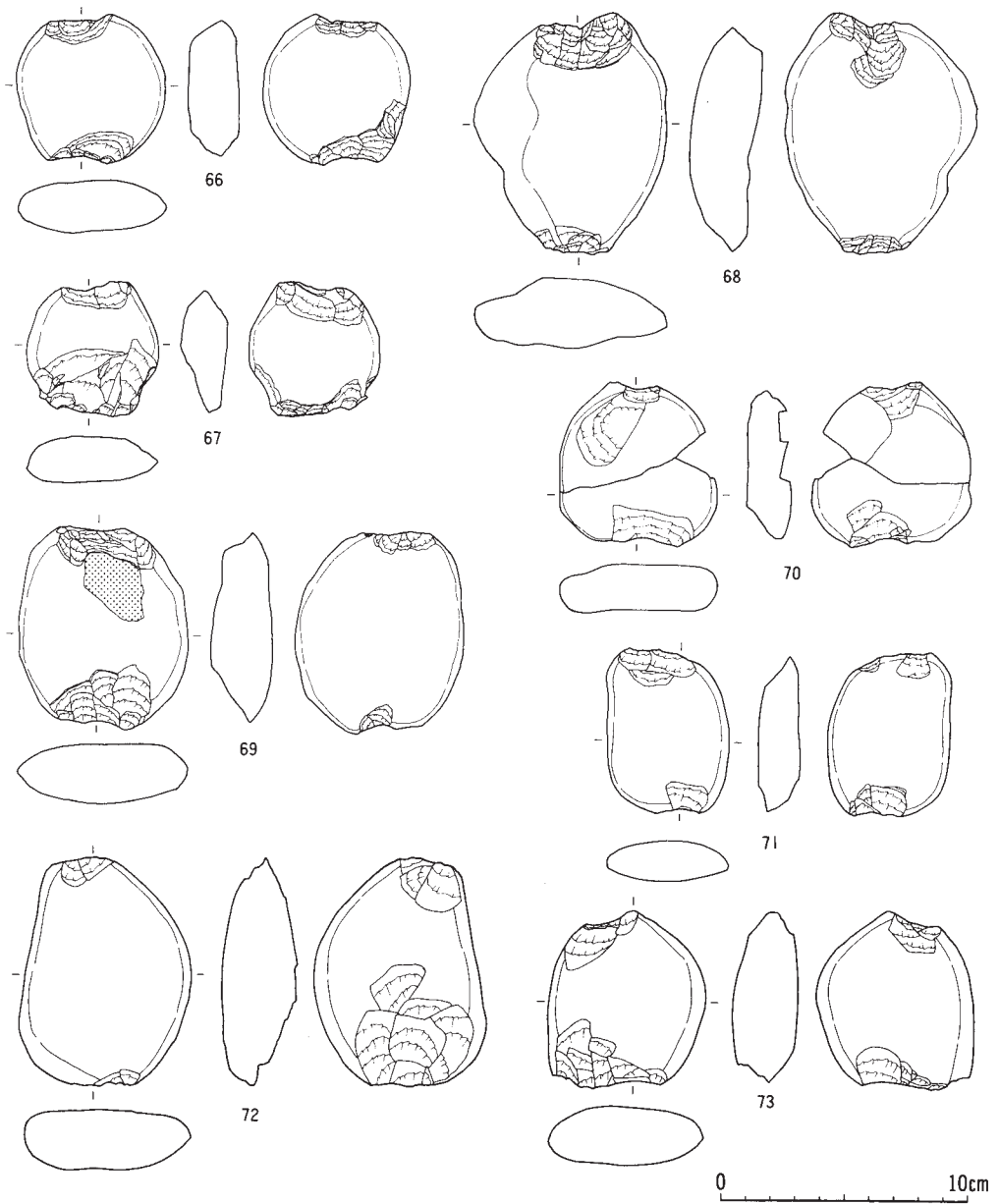


I 地区遺構外出土石器計測表(8)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第99図-58	B L-318	I	69	56	26	138	砂	J-II a	60	
第99図-59	B L-316	I b	110	65	27	269	砂	J-II a	67	
第99図-60	B J-322	II	93	76	22	228	チャ	J-II a	68	
第99図-61	B L-317	I a	75	53	21	122	砂	J-II a	70	
第99図-62	B L-317	I	85	60	26	172	チャ	J-II a	72	
第99図-63	B K-316	I a	90	71	32	281	砂	J-II a	76	タタキあり
第99図-64	B J-318	I a	(64)	66	24	(145)	砂	J-II a	84	
第99図-65	B J-318	I b	59	54	20	77	砂	J-II a	79	ヌリあり

第99図 I 地区遺構外出土石器(8)

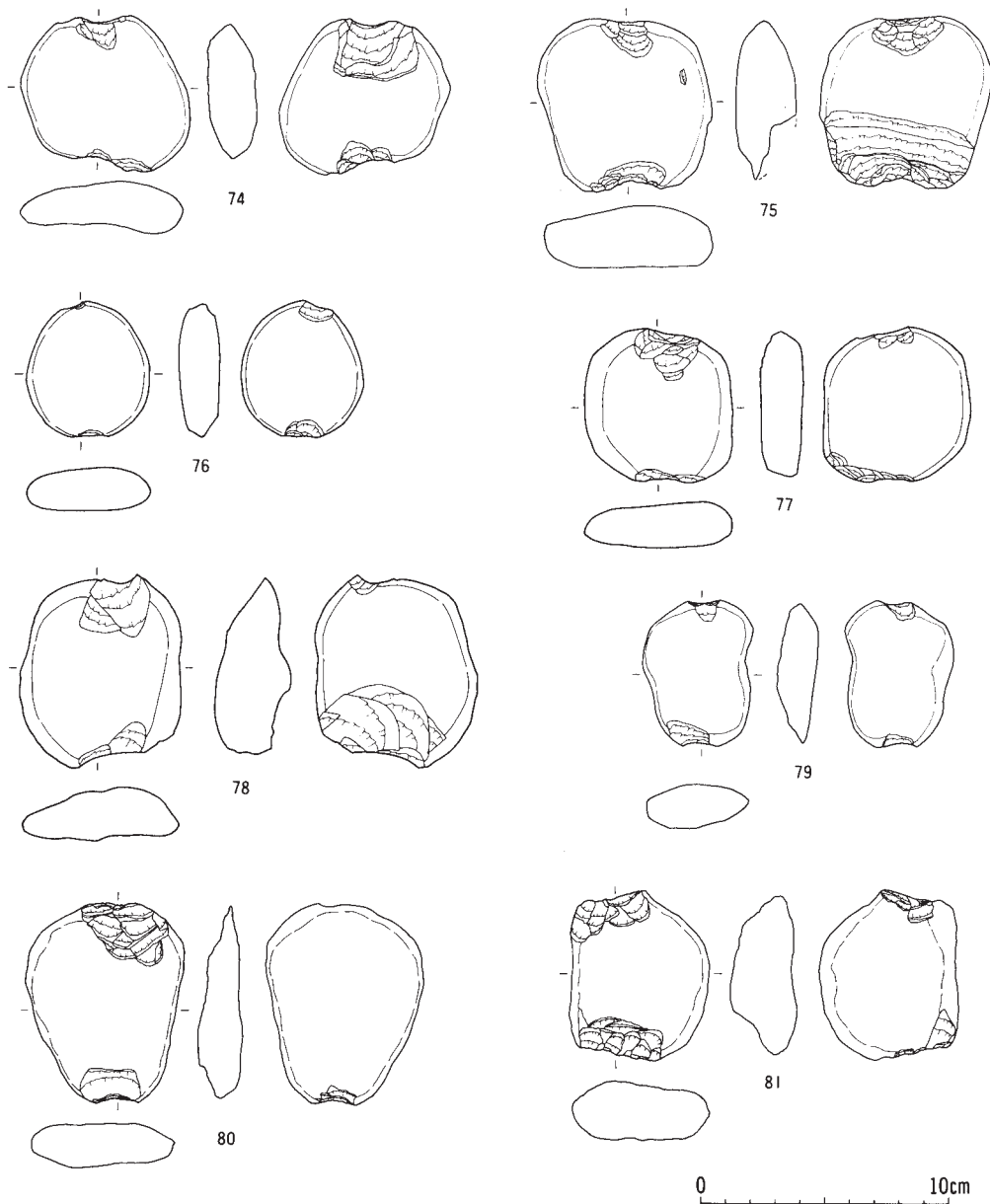




I 地区遺構外出土石器計測表(9)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第100図-66	B K - 319	I b	60	59	21	110	砂	J - II a	93	
第100図-67	B L - 316	I	98	78	29	283	チャ	J - II a	99	
第100図-68	B K - 318	I b	54	53	19	71	チャ	J - II a	134	
第100図-69	B L - 318	I	64	64	17	95	チャ	J - II a	111	接合
第100図-70	B C - 322	IV a	82	69	26	210	礫	J - II a	117	
第100図-71	表探		8	50	16	79	安	J - II a	114	
第100図-72	B C - 322	IV a	90	70	32	283	安	J - II a	103	
第100図-73	B J - 320	IV a	71	63	27	177	礫	J - II a	137	

第100図 I 地区遺構外出土石器(9)



I 地区遺構外出土石器計測表(10)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第101図-74	B K-318	I b	69	67	23	124	凝	J-II a	144	
第101図-75	B K-318	I b	70	70	26	152	チャ	J-II a	150	
第101図-76	B K-322	I b	54	50	16	63	砂	J-II a	158	
第101図-77	B F-323	IV b	61	60	19	115	チャ	J-II a	162	
第101図-78	B K-320	IV a	75	66	29	184	チャ	J-II a	166	
第101図-79	B J-319	IV a	58	45	18	67	チャ	J-II b	56	
第101図-80	B L-317	I	81	64	24	145	チャ	J-II b	75	
第101図-81	B I-315	I b	74	54	21	133	チャ	J-II b	66	

第101図 I 地区遺構外出土石器(10)



I 地区遺構外出土石器計測表(11)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第102図-82	B L - 316	I	81	67	27	191	チャ	J - II b	97	
第102図-83	B K - 316	I b	59	55	25	98	チャ	J - II b	77	
第102図-84	B K - 318	I b	73	58	20	121	頁	J - II b	83	
第102図-85	B E - 321	V	69	49	24	128	チャ	J - II b	82	
第102図-86	B J - 318	I b	60	51	22	84	チャ	J - II b	78	
第102図-87	B L - 321	I	76	62	24	167	チャ	J - II b	98	
第102図-88	B M - 315	I a	104	60	26	242	チャ	J - II b	119	
第102図-89	B C - 322	IV a	83	72	23	197	チャ	J - II b	116	

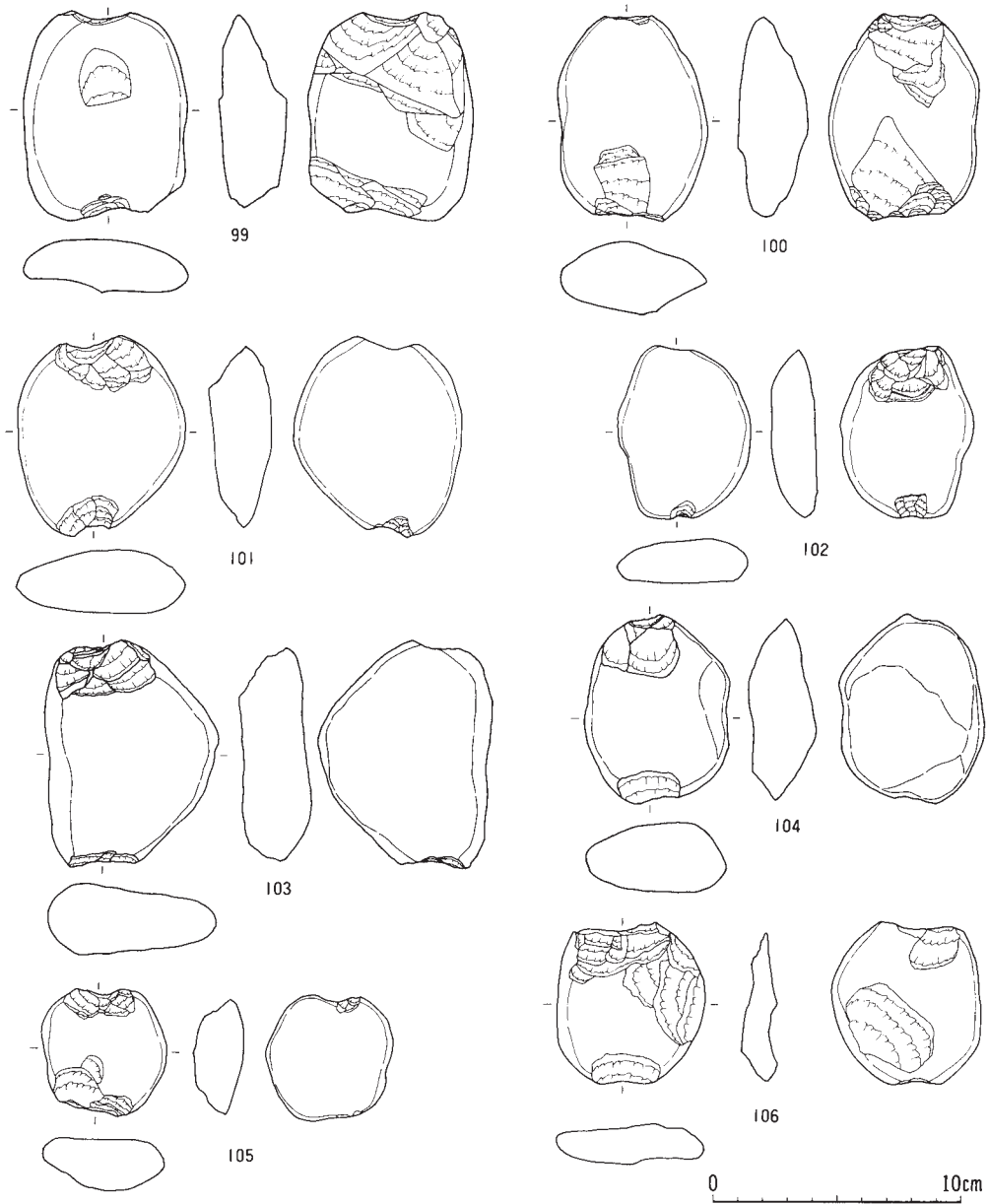
第102図 I 地区遺構外出土石器(11)



I 地区遺構外出土石器計測表(12)

図版	出地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第103図-90	B D-321	IV a	92	76	20	208	砂	J-II b	121	
第103図-91	B K-318	I b	75	74	21	183	砂	J-II b	126	
第103図-92	B K-318	I b	60	58	20	105	チャ	J-II b	148	
第103図-93	B K-318	I b	78	58	28	180	チャ	J-II b	128	
第103図-94	B J-319	IV a	44	44	15	38	チャ	J-II b	135	
第103図-95	B H-323	III	50	48	15	52	砂	J-II b	130	
第103図-96	B K-320	I b	78	63	26	192	チャ	J-II b	153	
第103図-97	B H-323	II	65	49	13	57	緑水	J-II a	154	
第103図-98	B I-322	I	69	62	22	127	安	J-II b	155	

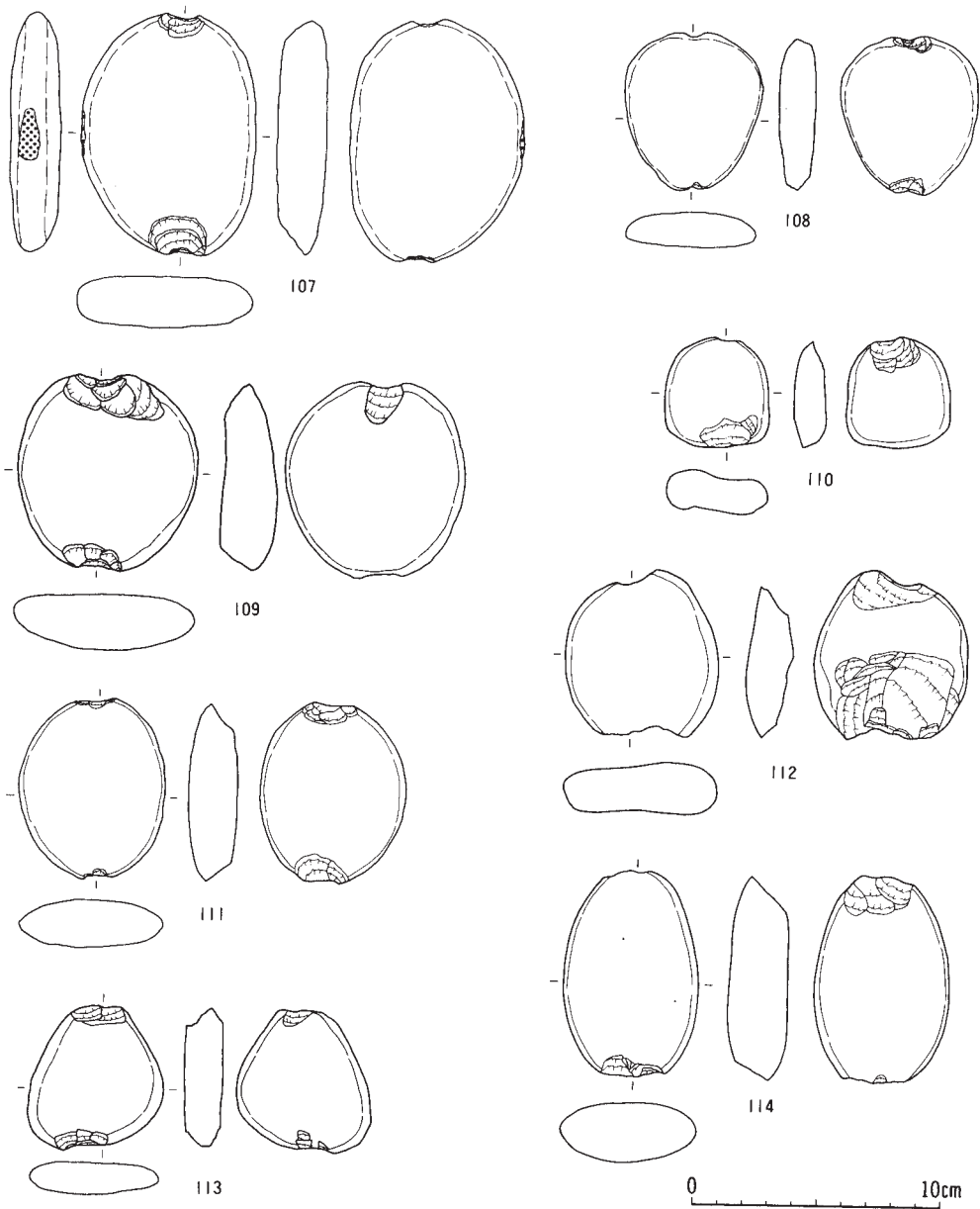
第103図 I 地区遺構外出土石器(12)



I地区遺構外出土石器計測表(13)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第104図-99	B I - 321	Ⅲ	83	65	28	215	チャ	J - II b	160	
第104図-100	B I - 321	Ⅱ	83	60	27	168	チャ	J - II b	161	
第104図-101	B F - 323	Ⅳ b	83	67	28	192	砂	J - II b	163	
第104図-102	表採		70	54	21	106	チャ	J - II b	168	
第104図-103	B M - 315	I a	90	69	34	262	チャ	J - II c	58	
第104図-104	B M - 315	I a	76	58	30	176	チャ	J - II c	59	
第104図-105	B K - 319	I b	50	50	22	70	チャ	J - II c	63	
第104図-106	B J - 319	Ⅳ a	66	59	17	90	チャ	J - II c	61	

第104図 I地区遺構外出土石器(13)



I 地区遺構外出土石器計測表(14)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第105図-107	B D-322	V	97	70	21	237	砂	J-II c	64	側縁部にタタキ
第105図-108	B L-317	I	63	55	15	82	安	J-II c	74	
第105図-109	B J-318	I b	78	73	24	199	閃	J-II c	81	
第105図-110	B K-319	I b	43	42	15	40	チャ	J-II c	92	
第105図-111	B K-318	I b	71	58	20	124	砂	J-II c	124	
第105図-112	B L-319	I	67	61	21	99	チャ	J-II c	110	
第105図-113	B J-320	IV a	56	55	16	68	砂	J-II c	125	
第105図-114	B M-315	I a	82	54	23	157	砂	J-II c	118	

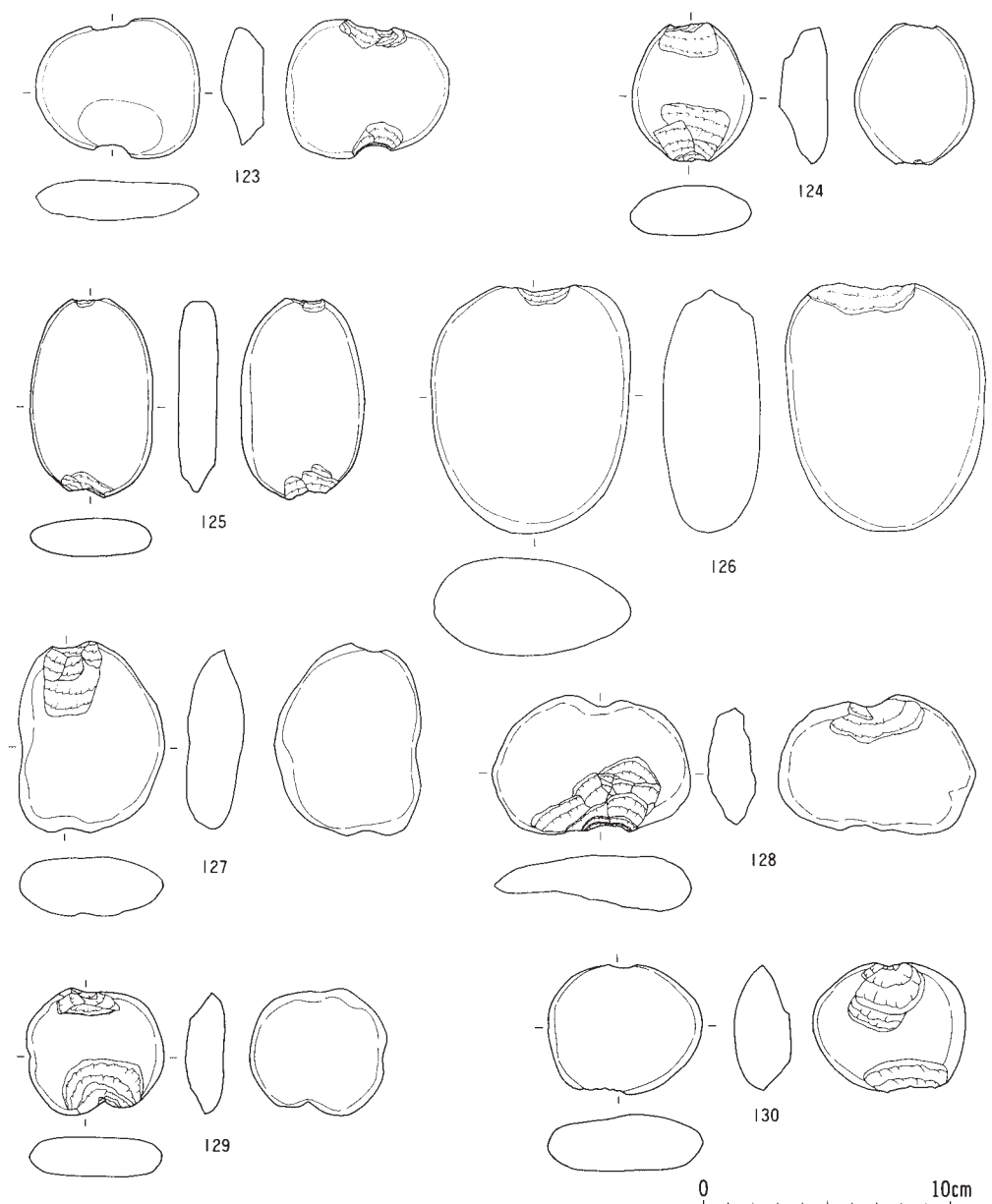
第105図 I 地区遺構外出土石器(14)



I 地区遺構外出土石器計測表(15)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第106図-115	B J - 319	IV b	44	44	17	38	チャ	J - II c	127	
第106図-116	B J - 314	I b	66	61	24	119	チャ	J - II c	133	
第106図-117	B J - 320	IV a	72	68	18	116	凝	J - II c	138	
第106図-118	B L - 318	I b	76	72	23	175	チャ	J - II c	141	
第106図-119	B D - 321	IV b	84	66	29	226	砂	J - II c	147	
第106図-120	B D - 321	IV b	60	57	22	91	凝	J - II c	146	
第106図-121	B H - 323	II	74	69	26	172	チャ	J - II c	156	
第106図-122	B K - 317	I b	73	55	20	114	チャ	J - II c	157	

第106図 I 地区遺構外出土石器(15)



I 地区遺構外出土石器計測表(16)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第107図-123	B K-320	I b	65	56	18	94	砂	J-II c	164	
第107図-124	表探		56	48	20	73	チャ	J-II c	169	
第107図-125	B N-314	IV a	81	49	16	107	閃	J-II d	139	
第107図-126	B J-318	I b	96	80	38	452	安	J-II d	87	
第107図-127	B H-320	IV a	78	59	25	160	チャ	J-II d	69	
第107図-128	B D-322	V	79	55	24	134	チャ	J-III	65	
第107図-129	B J-318	IV a	55	51	17	72	チャ	J-III	71	
第107図-130	B I-314	I b	60	51	23	95	砂	J-III	94	

第107図 I 地区遺構外出土石器(16)

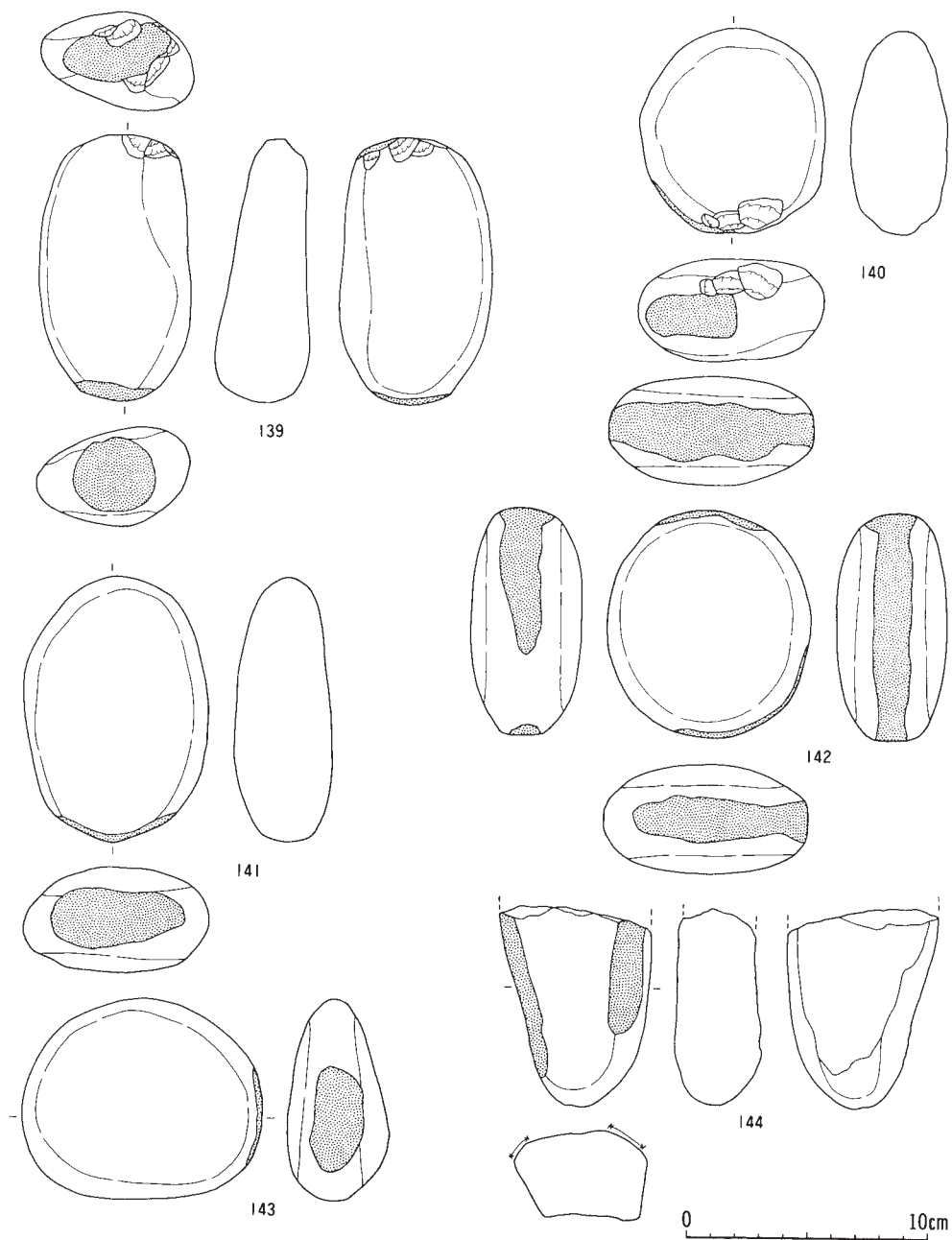




I 地区遺構外出土石器計測表(17)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第108図-131	B M-315	I a	84	75	27	236	チャ	J-III	120	
第108図-132	B K-322	IV a	61	47	13	55	砂	J-III	152	
第108図-133	B J-319	IV a	63	57	20	80	チャ	J-IV	62	一部欠損
第108図-134	B J-318	IV b	61	55	(12)	(62)	チャ	J-IV	80	欠損
第108図-135	B L-320	I b	(40)	62	17	(62)	安	J-IV	129	欠損
第108図-136	B K-318	I b	(53)	53	17	(72)	砂	J-IV	145	欠損
第108図-137	B J-318	IV a	(52)	67	22	(90)	チャ	J-IV	140	欠損
第108図-138	B K-315	I b	68	50	33	178	チャ	K-I a	142	スリ2面

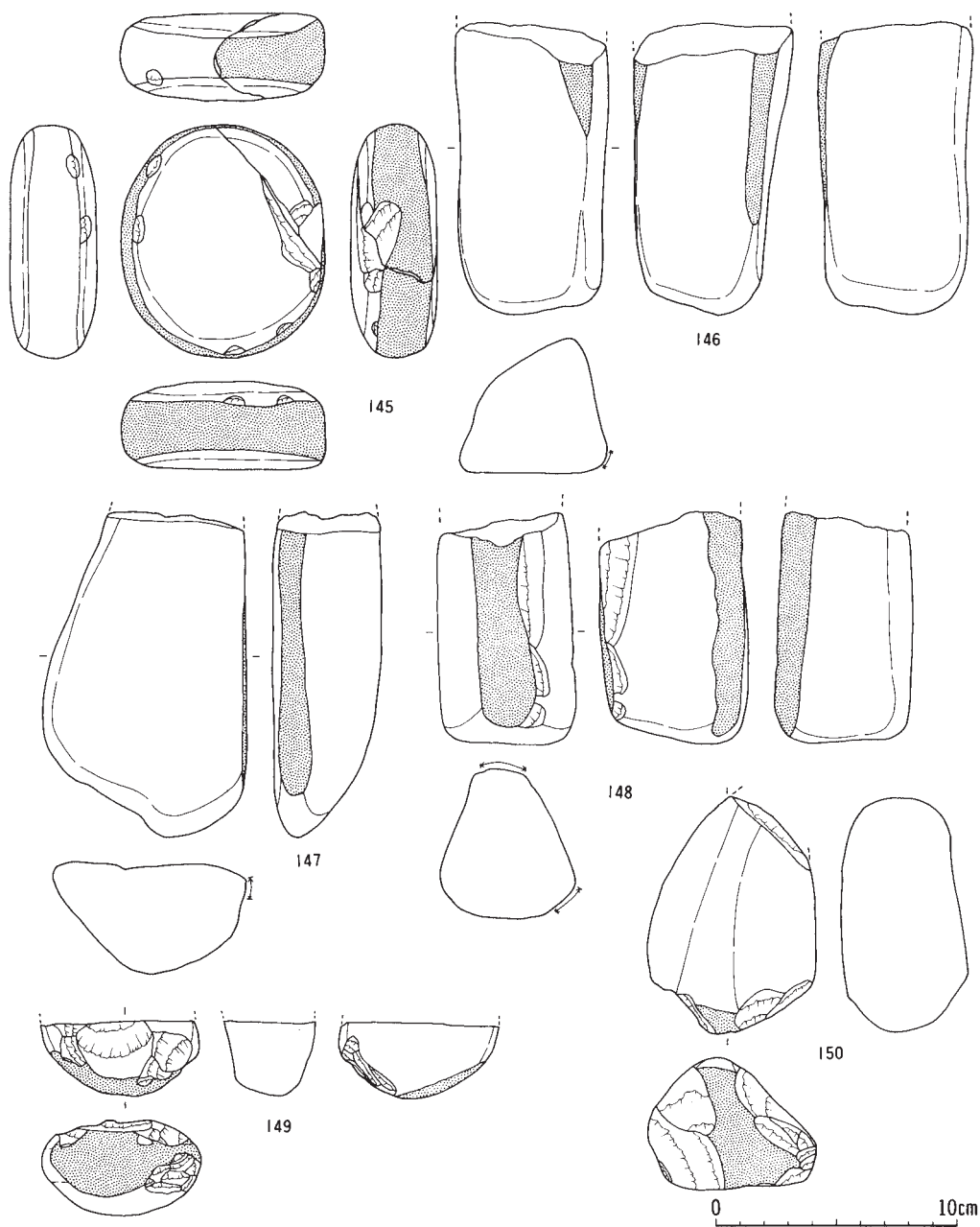
第108図 I 地区遺構外出土石器(17)



I 地区遺構外出土石器計測表(18)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第109図-139	B N-314	IV a	110	64	40	406	頁	K-I a	102	スリ2面
第109図-140	表探		83	77	41	377	チャ	K-I b	100	スリ1面
第109図-141	B L-322	I b	108	75	42	497	チャ	K-I a	159	スリ1面
第109図-142	B F-319	I a	91	84	44	529	安	K-I b	89	スリ1面
第109図-143	B N-314	IV a	98	81	42	495	安	K-I a	105	スリ1面
第109図-144	B G-320	IV a	80	60	35	232	安	K-I c	101	欠損、スリ2面

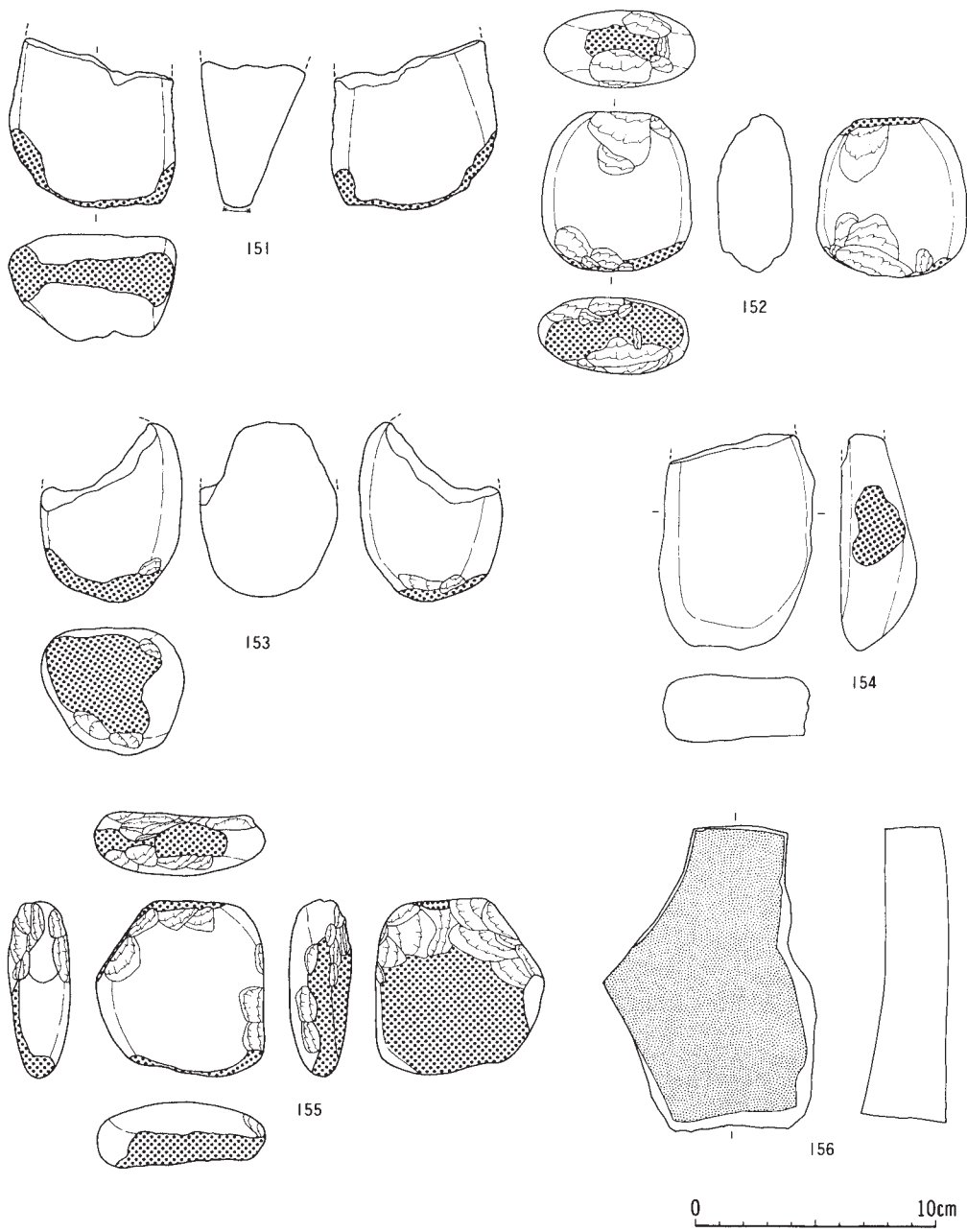
第109図 I 地区遺構外出土石器(18)



I 地区遺構外出土石器計測表(19)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第110図-145	B J - 318	I b	(95)	85	36	(525)	閃	K-I b	143	接合、スリ1面
第110図-146	表採		(114)	73	60	(748)	安	K-I c	112	欠損、スリ2面
第110図-147	B G - 323	IV a	(134)	85	45	(769)	安	K-I c	151	欠損、スリ1面
第110図-148	B K - 322	I b	(94)	64	54	(530)	安	K-I c	131	欠損、スリ2面
第110図-149	B E - 321	V	(32)	65	37	(103)	凝	K-I e	95	欠損、スリ1面
第110図-150	B I - 314	I b	98	67	58	450	砂	K-I d	86	欠損、スリ2面

第110図 I 地区遺構外出土石器(19)



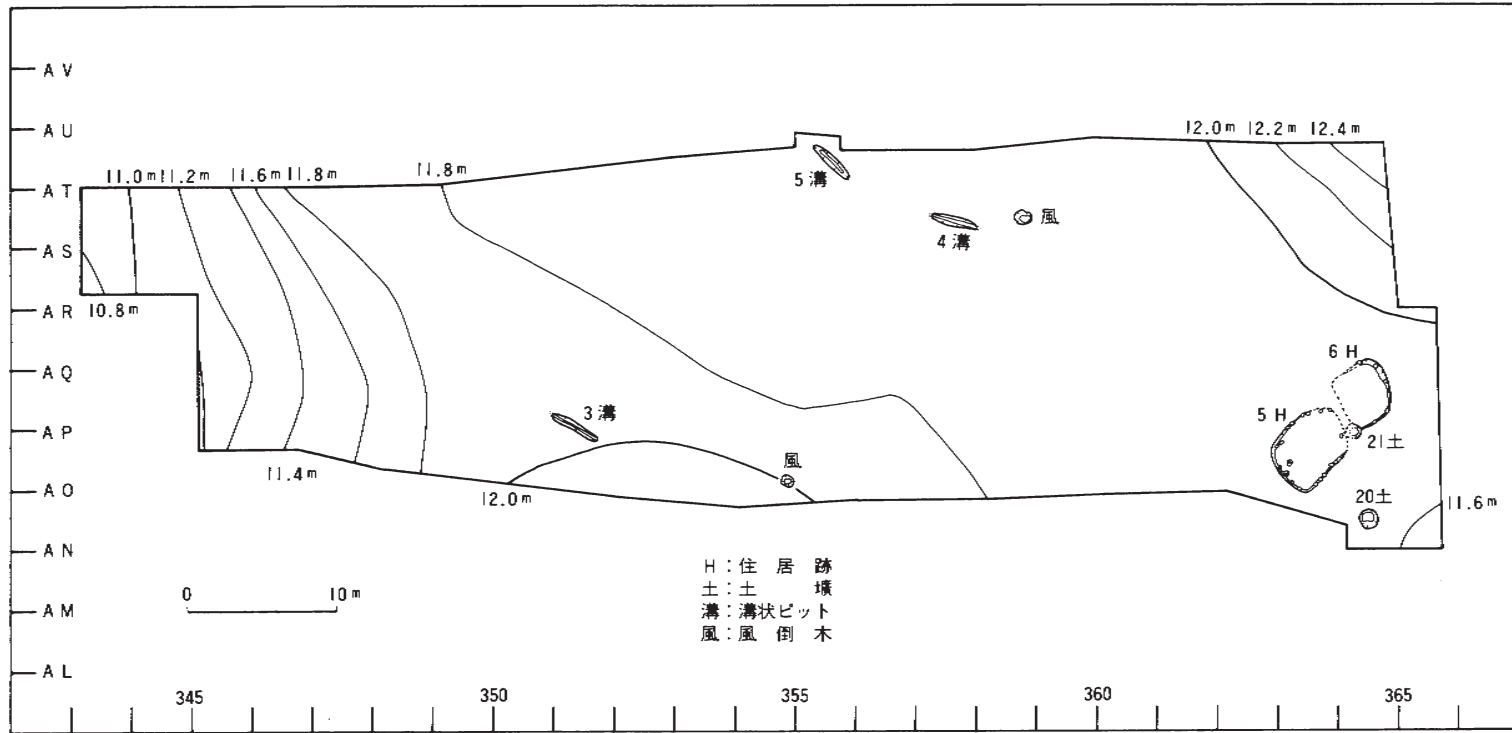
I 地区遺構外出土石器計測表(20)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第111図-151	B K-319	IV a	(64)	(63)	(47)	(229)	安	K-II c	88	欠損、タタキ1面
第111図-152	表採		66	61	32	196	砂	K-II b	170	タタキ2面
第111図-153	B I-316	I	(54)	60	53	(278)	チャ	K-II c	85	欠損、タタキ1面
第111図-154	B C-322	IV a	(88)	63	32	(251)	安	K-II c	136	欠損、タタキ1面
第111図-155	B J-323	IV a	75	75	25	171	安	K-II c	96	タタキ半面
第111図-156	B F-322	V	245	165	54	4,000	安	L	115	

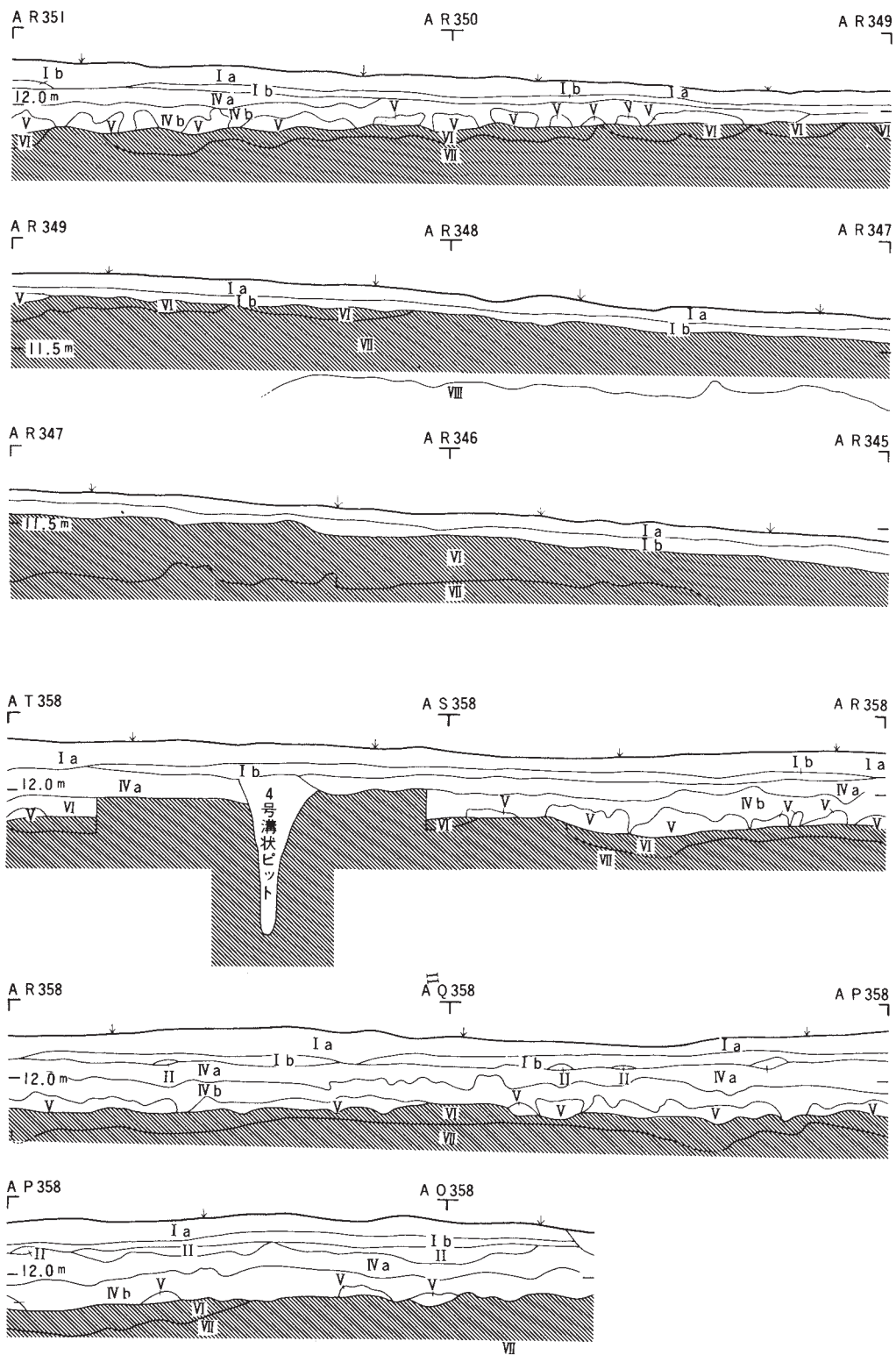
第111図 I 地区遺構外出土石器(20)

# 表館( 1 )遺跡Ⅱ地区





第112図 II地区遺構配置図



第113図 II地区基本層序



## 第2節 表館(1)遺跡Ⅱ地区の検出遺構と出土遺物

### 1. 検出遺構と遺構内出土遺物

本地区で検出された遺構は、住居跡2軒・土壇2基・溝状ピット3基である。

#### (1)住居跡

##### 第5号住居跡（第114図）

〈位置と確認〉調査区A O・A P-363・364グリッドに位置する。基本層序第IV a層で確認した。住居跡の掘り込みが浅く、削平し過ぎたために北壁を確認できなかった。

〈重複〉本遺構と第6号住居跡が隣接しているが、本遺構の北東側が削平されたため、重複しているかどうかは不明である。

〈平面形・規模〉北壁を確認できなかったため、全体の形状を把握できないが、残存部分から推定して不整な楕円形を呈すると思われる。規模は、長径(4m90cm)・短径(4m30cm)で、床面積は(18.35)㎡である。

〈壁〉基本層序第IV b層を掘り込み、壁面としている。掘り込みの確認面から底面までの深さは15cmと浅い。壁は、床面から確認面にかけて緩やかに立ち上がっており軟らかい。

〈床面〉基本層序第IV b層を削平し、直接床面として使用している。ほぼ平坦で、住居跡の南壁側は堅く踏み固められている。

〈柱穴〉検出できたピットは19個である。これらのピットは大部分壁側に位置するが、柱痕跡は検出できなかった。

#### ピット計測表

No	形 態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形 態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形 態	規模(cm)	深さ(cm)
1	楕円形	35×22	28.0	2	円形	24×24	14.0	3	円形	22×22	19.8
4	楕円形	32×18	14.0	5	楕円形	23×19	13.0	6	楕円形	25×22	17.5
7	楕円形	20×16	14.2	8	不整円形	21×21	12.0	9	楕円形	22×16	12.3
10	楕円形	28×22	11.1	11	楕円形	20×14	4.2	12	円形	20×20	4.0
13	不整円形	18×16	4.6	14	楕円形	24×16	6.3	15	楕円形	20×10	2.4
16	楕円形	18×14	13.3	17	円形	12×12	15.0	18	不整形	36×20	20.1
19	楕円形	22×16	19.0								

〈炉〉確認できなかった。

〈堆積土〉5層に区分できた。人為堆積か自然堆積か判断できなかった。

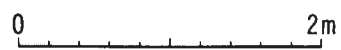
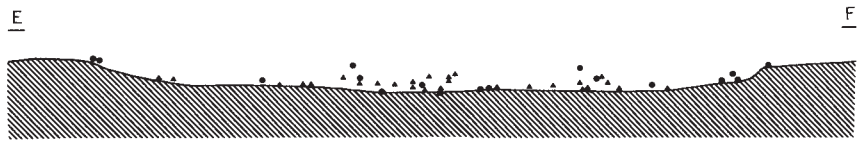
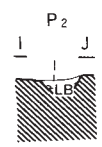
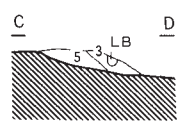
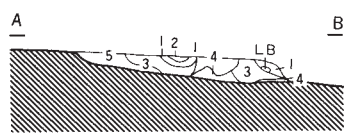
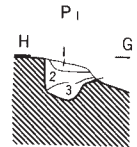
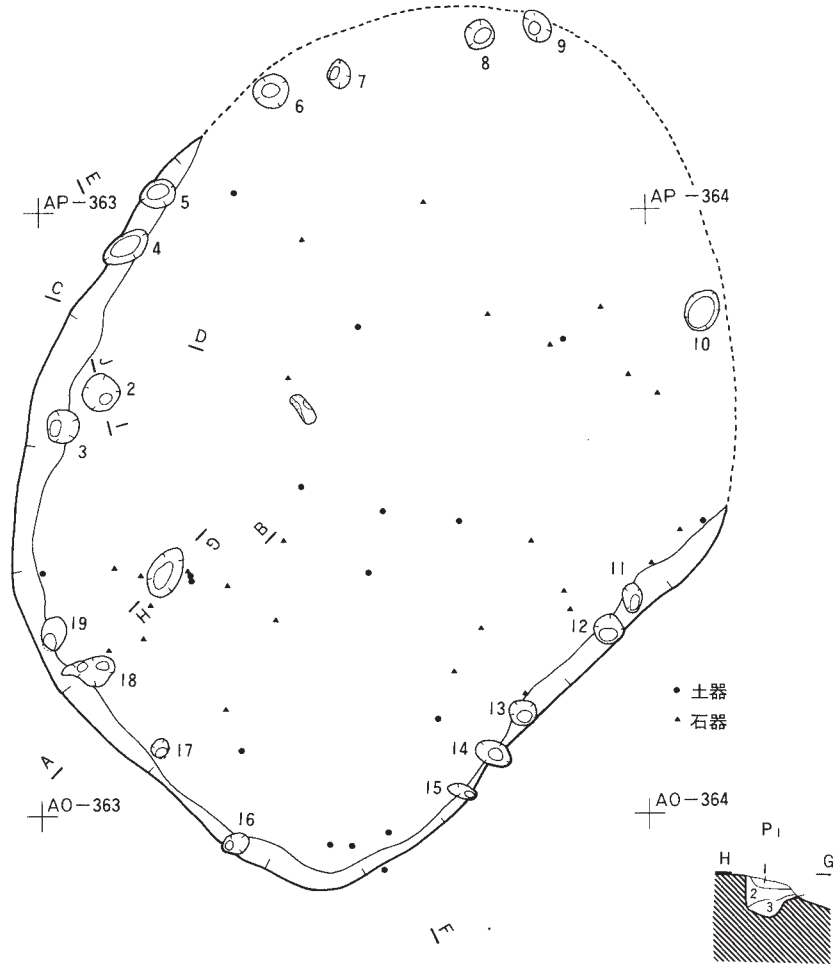
#### 第5号住居跡土層注記

第1層	黒色	10Y R <sup>2</sup> /1	ローム粒を少量含む。しまりあり。
第2層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	ローム粒を少量含む。しまりあり。
第3層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	ローム粒を多量に含む。しまりあり。
第4層	褐色	10Y R <sup>1</sup> /4	黒色土混入。しまりなし、粘性あり。
第5層	暗褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	千曳浮石をブロック状に含む。しまりあり。

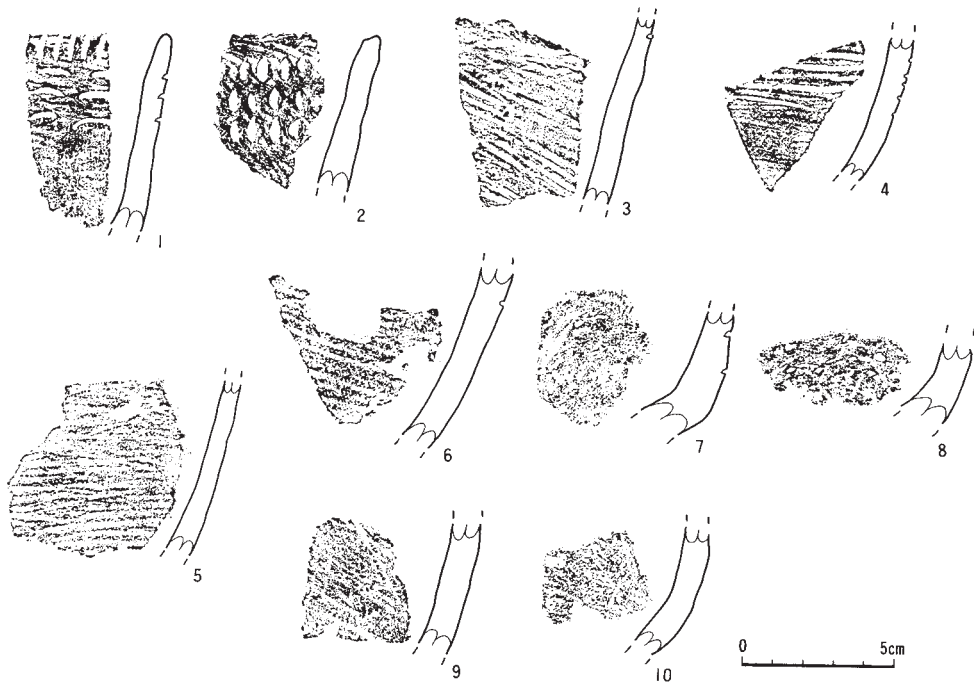
#### 〈出土遺物〉（第115～116図）

土器の出土状況は、床面全体にばらばらに分散しており、床面からの出土が大部分である。

復元のできた個体はなく、すべて破片である。口縁部破片は4点で、施文文様は爪形状刺突



第114图 第5号住居跡



第115図 第5号住居跡出土遺物(1)

第5号住居跡出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第115図-1	5 H 床面	口縁	貝殻圧痕文+爪形状刺突文、スズ状炭付	条痕文	含	褐色	第I群1類B種
第115図-2	5 H 覆土	口縁	貝殻圧痕文+爪形状刺突文	条痕文	含	黒褐色	第I群1類B種
第115図-3	5 H 床面	口縁	爪形状刺突文		含	にぶい 黄褐色	第I群1類B種
第115図-4	5 H 床面	口縁	貝殻圧痕文		含	褐色	第I群1類C種
第115図-5	5 H 床面	胴	条痕文(横位)	条痕文	含	に黄い 橙	第I群1類D種
第115図-6	5 H 床面	胴	条痕文(斜位)	ヘラナデ・ ミガキ	含	に黄い 黄褐色	第I群1類D種
第115図-7	5 H 床面	底辺	爪形状刺突文		含	にぶい 黄褐色	第I群1類B種
第115図-8	5 H 床面	底辺	爪形状刺突文		含	にぶい 黄褐色	第I群1類B種
第115図-9	5 H 床面	胴	条痕文(斜位)			橙色	第I群1類D種
第115図-10	5 H 床面	底辺	条痕文(横位)			にぶい 褐色	第I群1類D種

文が2点、貝殻圧痕文が2点である。2は口唇部に貝殻の圧痕が見られ、口縁部に爪形状の刺突文が3段に横位に施文されている。胴部破片は3点で、すべて貝殻条痕文が横位・斜位に施文されている。また、底辺部の破片は3点で、7・8は爪形状刺突文が施文されている。

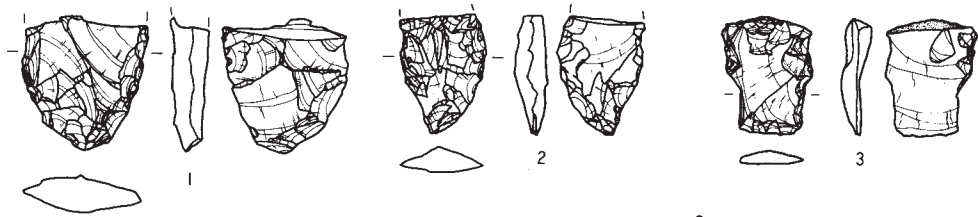
石器は、石槍2点・不定形石器1点が出土している。

第I群1類土器が出土しており、縄文時代早期の白浜式期に構築されたと思われる。

#### 第6号住居跡(第117図)

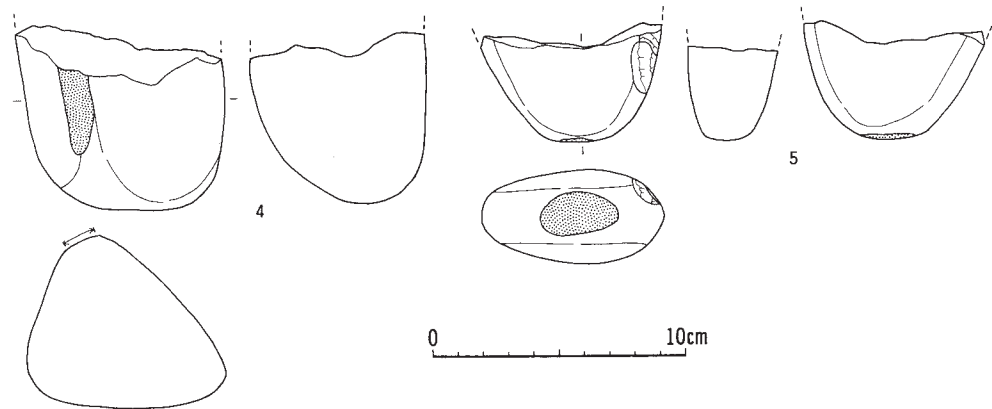
〈位置と確認〉調査区AP・AQ-364グリッドに位置する。基本層序第IV a層で住居跡を確認した。

〈重複〉本遺構と第5号住居跡が隣接しているが、本遺構の南西側が削平されたため、重複し



第5号住居跡出土石器計測表

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第116図-1	5 H	覆土	(35)	(32)	8	(9.5)	珪	B-II	132	尖頭部欠損
第116図-2	5 H	床面	(30)	(23)	7	(5.0)	珪	B-I b	130	尖頭部欠損
第116図-3	5 H	床面	29	23	6	3.9	珪	F-I d	131	



第5号住居跡出土石器計測表

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第116図-4	5 H	床面	(72)	87	69	(538)	安	K-I e	32	欠損、スリ1面
第116図-5	5 H	床面	(40)	(71)	35	(128)	砂	K-I e	31	欠損、スリ1面

第116図 第5号住居跡出土遺物(2)

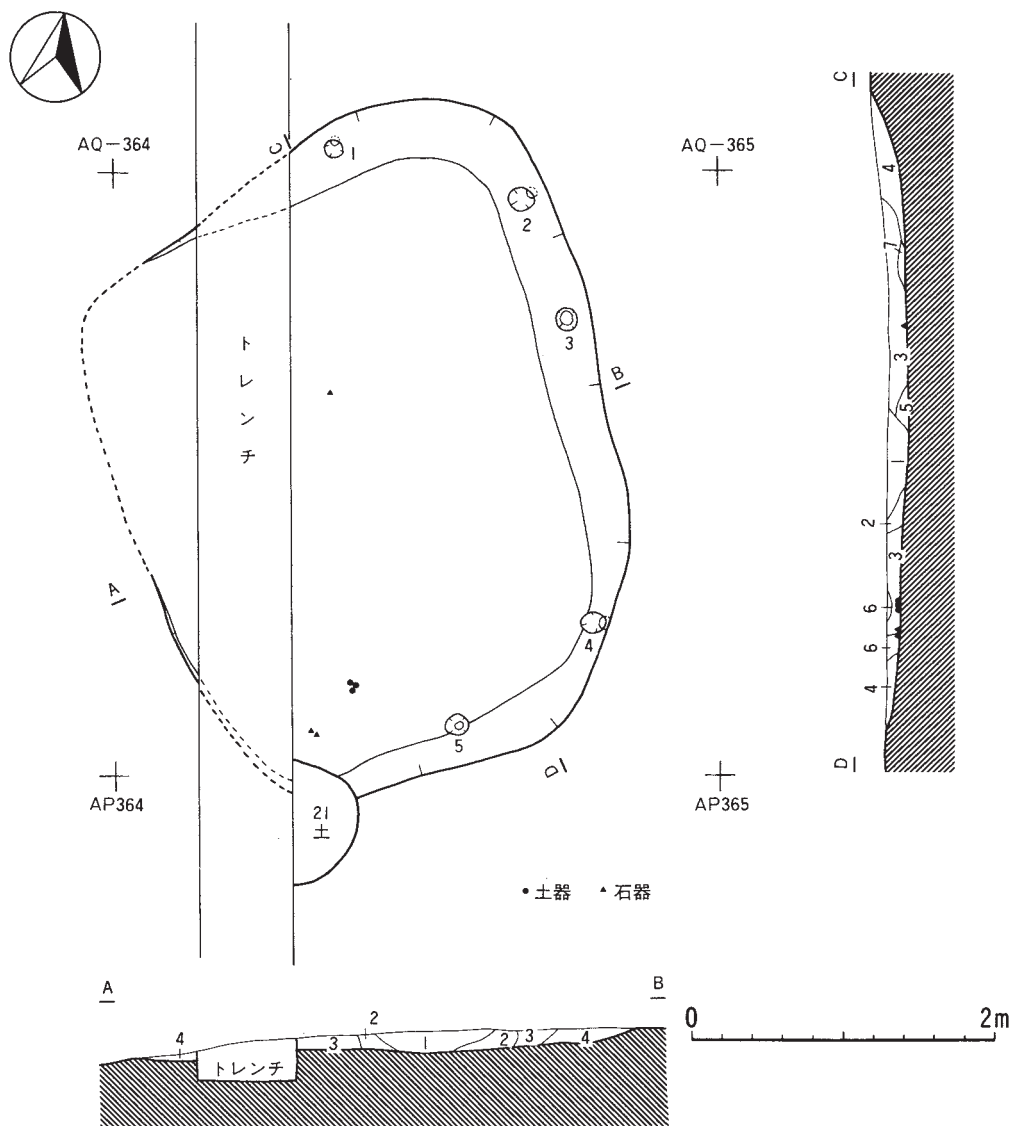
ているかどうかは不明である。

〈平面形・規模〉長径(4m32cm)・短径(3m20cm)の隅丸長方形を呈するが、西側の壁は確認できなかったため、残存部から推定したものである。床面積は(9.92)㎡である。

〈壁〉基本層序第IV b層を掘り込んで壁面としている。掘り込みの確認面から床面までの深さは10~14cmと浅い。

〈床面〉基本層序第IV b層を削平し、直接床面として使用している。ほぼ平坦で、堅く固められた痕跡はない。

〈柱穴〉住居内で検出されたピットは5個である。これらのピットは大部分壁際に位置するが、柱痕跡は検出できなかった。



第117図 第6号住居跡

ピット計測表

No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)	No	形態	規模(cm)	深さ(cm)
1	円形	14×12	13.6	2	円形	18×16	14.0	3	円形	16×16	17.7
4	円形	18×16	20.1	5	楕円形	17×14	8.2				

〈炉〉確認できなかった。

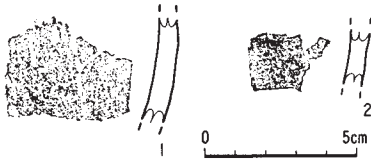
〈堆積土〉7層に区分できた。その堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉(第118図)

遺物は本住居跡の南壁寄りに分布し、床面及び床面直下からの出土である。土器片が2点出

### 第6号住居跡土層注記

第1層	黒	褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	千曳浮石を微量に、又、炭化物を少量含む。しまりあり、粘性なし。
第2層	黒	褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	千曳浮石・ローム粒を微量に含む。しまりあり、粘性なし。
第3層	黒	褐色	10Y R <sup>2</sup> /3	ローム粒を少量含む。しまりあり、粘性なし。
第4層	暗	褐色	10Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒を少量含む。しまりあり、粘性なし。
第5層	褐	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒をやや多めに含む。しまりなし、粘性あり。
第6層	黒	褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	ローム粒を微量に含む。しまり・粘性なし。
第7層	暗	褐色	10Y R <sup>3</sup> /3	ローム粒をやや多めに含む。しまりなし、粘性あり。



第118図 第6号住居跡出土遺物

土しており、いずれも胴部片で無文である。石器は出土していない。

第I群1類土器が出土しており、本住居跡は縄文時代早期・白浜式期に構築されたものと思われる。

(奈良)

### 第6号住居跡出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第118図-1	6 H 床面	胴	無文		含	暗褐色	第I群1類E種
第118図-2	6 H 床面	胴	無文		含	暗褐色	第I群1類E種

(2) 土壌

第20号土壌 (第119~121図)

〈位置と確認〉 調査区AN-364グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉 認められなかった。

〈平面形・規模〉 平面形は円形に近い形状を呈する。規模は、開口部で長径128cm・短径123cm、底面で長径100cm・短径71cmである。

〈壁〉 すべて壁は底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は東壁10cm・西壁11cm・南壁12cm・北壁20cmである。

〈底面〉 ほぼ平坦で、軟らかい。

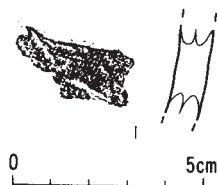
〈堆積土〉 3層に分層できた。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

第20号土壌土層注記

第1層	黒褐色	10Y R <sup>3</sup> /2	降下火山灰微量、径1~2mmの炭化物少量。しまり・粘性なし。
第2層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	ローム粒少量。しまりあり、粘性なし。
第3層	褐色	10Y R <sup>4</sup> /4	径2~5mmの炭化物微量。しまりあり、粘性なし。

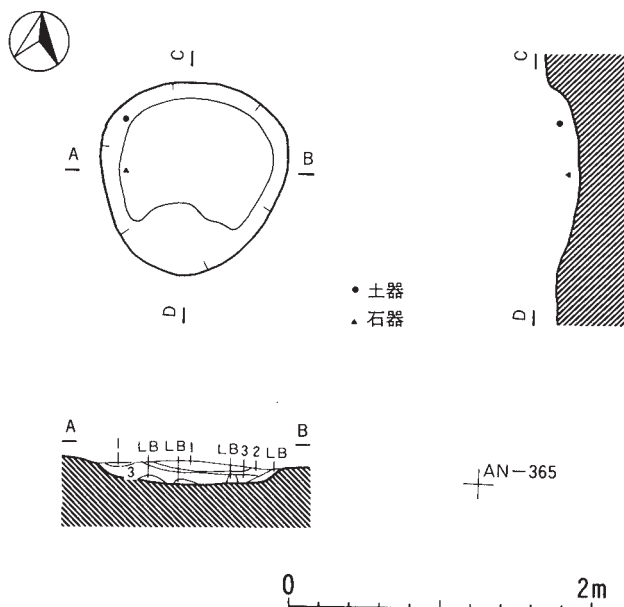
第20号土壌出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	繊維	色調	分類
第120図-1	20 土覆土	胴	無文					褐色	第1群1類E種

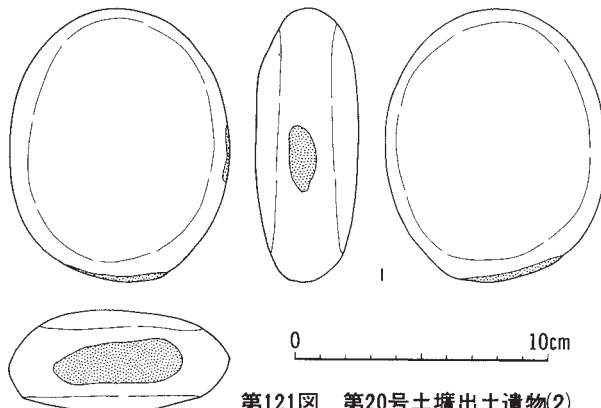


第120図 第20号土壌出土遺物(1)

〈出土遺物〉 3層中から土器片1点、石器1点出土した。土器は無文で第I群土器に相当する



第119図 第20号土壌



第121図 第20号土壌出土遺物(2)

第20号土壌出土石器計測表

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第121図-1	20土	底直	108	86	41	569	砂	K-I a	33	スリ2面

と思われる。また、石器は擦痕のある敲磨器類である。

(工藤・奈良)

第21号土壌 (第122~123図)

〈位置と確認〉調査区A O - 364グリッドに位置する。第6号住居跡を精査中に本遺構を確認した。

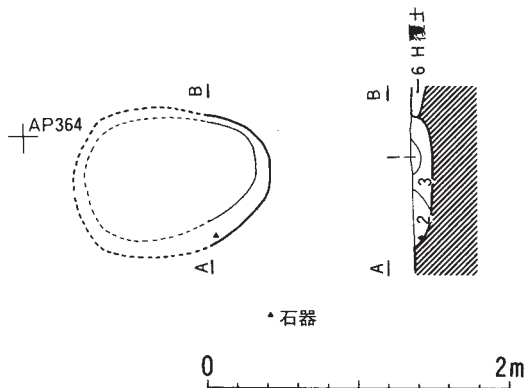


〈重複〉第6号住居跡と重複しており、本遺構が新しい。

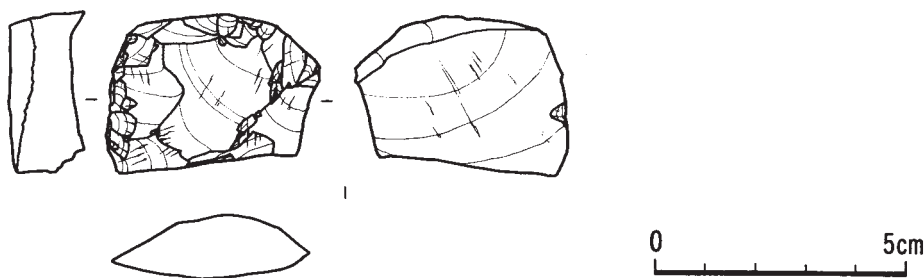
〈平面形・規模〉平面形は、本遺構の確認が遅れたため全容を把握できないが、残存部分から推定して、円形を呈すると思わ

れる。規模は、残存部分の開口部径88cm・底面径68cmである。

〈壁〉壁は底面から緩やかに立ち上がっており、軟らかい。壁高は、南壁12cm・北壁12cmである。



第122図 第21号土壌



第123図 第21号土壌出土遺物

第21号土壌出土石器計測表

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第123図-1	21土	壁面	31	42	15	23.9	珪	F-I d	207	

〈底面〉ほぼ平坦で、軟らかい。



第21号土壌土層注記

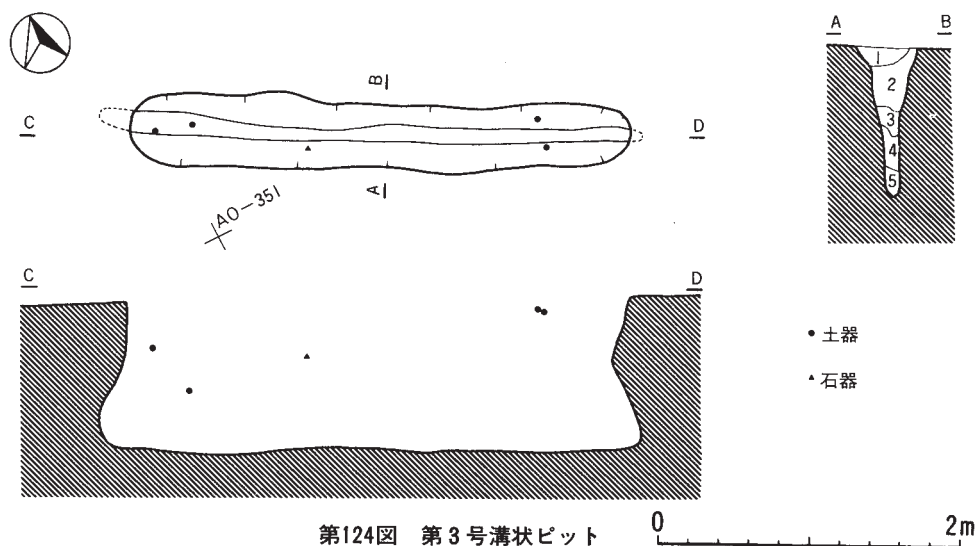
第1層	黒色	10Y R <sup>2</sup> /1	ローム粒少量。しまりあり、粘性なし。
第2層	黒褐色	10Y R <sup>2</sup> /2	ローム粒微量。しまり・粘性なし。
第3層	黒褐色	10Y R <sup>3</sup> /2	ローム粒微量。径2mmの焼土粒あり。しまりあり、粘性なし。

〈堆積土〉3層に分層できた。すべての層にローム粒が包含されている。土層断面の観察より、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉遺物は、不定形石器が1点出土した。(工藤・奈良)

(3)溝状ピット

第3号溝状ピット (第124～126図)



第124図 第3号溝状ピット

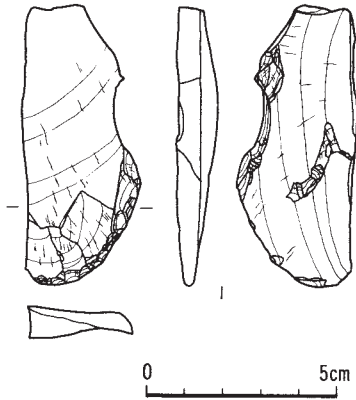
〈位置と確認〉調査区AN・AO-351グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で暗褐色



第125図 第3号溝状ピット出土遺物(1)

第3号溝状ピット出土土器観察表

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第125図-1	3 T 覆土	口縁	貝殻任痕文+爪形状刺突文	条痕文		明赤褐色	第I群1類B種
第125図-2	3 T 覆土	胴	条痕文			橙褐色	第I群1類D種
第125図-3	3 T 覆土	胴	条痕文			橙褐色	第I群1類D種



第126図 第3号溝状ピット出土遺物(2)

土の落ち込みを確認した。

〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は、側縁部が直線で、両端部が若干の丸味を帯びた溝状を呈する。規模は、開口部で長軸330cm・短軸41cm、底面で長軸350cm・短軸11cmである。また、最深部の深さは、確認面から103cmである。主軸方向はN-54°-Wである。

〈壁〉側縁部の壁は、底面から開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がっており、両端部の壁は、底面から開口部にかけて内傾して立ち上がる。壁面は固い。

〈底面〉平坦で堅い。

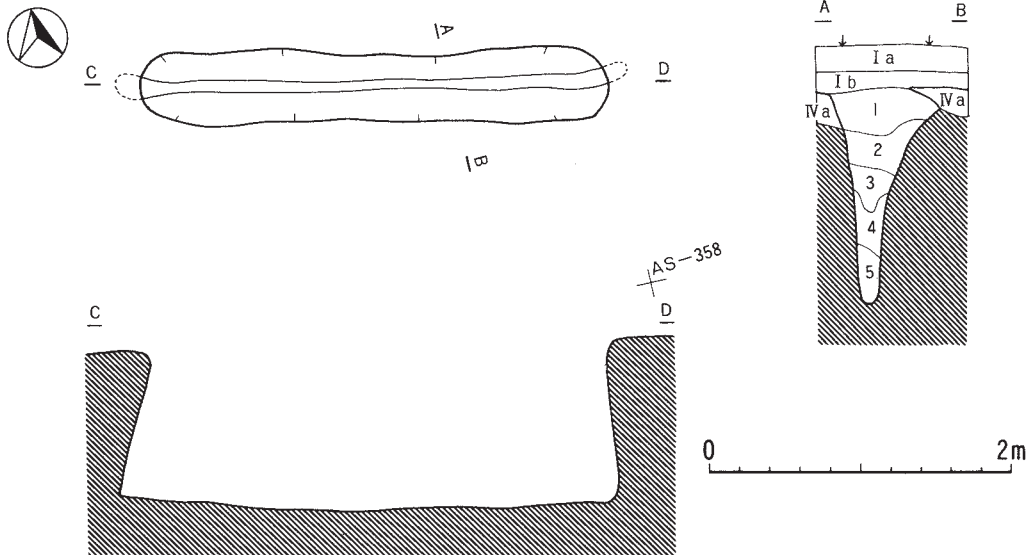
〈堆積土〉5層に分層できた。堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

第3号溝状ピット出土石器計測表

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第126図-1	3溝	覆土	63	39	9	20.2	珪	F-I d	205	

第3号溝状ピット土層注記

第1層	暗褐色	7.5Y R <sup>3</sup> /3	ローム粒を含む。しまり・粘性なし。
第2層	褐色	7.5Y R <sup>4</sup> /3	ローム粒を多量に含む。しまり・粘性あり。
第3層	褐色	7.5Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒を多量に含む。しまりあり、粘性なし。
第4層	暗褐色	7.5Y R <sup>3</sup> /4	ローム粒を多量に含む。しまり・粘性あり。
第5層	黒褐色	7.5Y R <sup>3</sup> /2	ローム粒を少量含む。しまり・粘性なし。



第127図 第4号溝状ピット

〈出土遺物〉遺物は覆土中から土器片3点、石器1点出土した。土器は、1が口縁部破片で、口唇部直上に刻目と口縁部に1段の爪形状刺突文が施文されている。他の2片は胴部片で条痕文が施文されている。また、石器は不定形石器である。

#### 第4号溝状ピット（第127図）

〈位置と確認〉調査区A S-357グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は、側縁部が直線で、両端部が若干の丸味を帯びた溝状を呈する。規模は、開口部で長軸308cm・短軸42cm、底面で長軸337cm・短軸6cmである。また、最深部の深さは、確認面から110cmである。主軸方向はN-69°-Wである。

〈壁〉側縁部の南・北壁は、底面から中端にかけて垂直に立ち上がり、中端から開口部にかけては若干外反して立ち上がる。また、端部の西壁は、底面から開口部にかけて内傾して立ち上がっており、東壁は底面から開口部にかけて垂直に立ち上がる。壁面は堅い。

〈底面〉平坦で堅い。

〈堆積土〉5層に分層できた。堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

〈底面〉平坦で堅い。

〈堆積土〉5層に分層できた。堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

#### 第4号溝状ピット土層注記

第1層	黒	色	10Y R <sup>1.7</sup> /1	ローム粒を少量含む。しまり・粘性なし。
第2層	黒	色	7.5Y R <sup>2</sup> /1	ローム粒を少量含む。しまり・粘性なし。
第3層	褐	色	7.5Y R <sup>4</sup> /4	ローム粒を多量に含む。しまりあり、粘性なし。
第4層	褐	色	7.5Y R <sup>4</sup> /3	ローム粒を多量に含む。しまり・粘性なし。
第5層	褐	色	7.5Y R <sup>4</sup> /6	ローム粒を多量に含む。しまり・粘性なし。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。

#### 第5号溝状ピット（第128図）

〈位置と確認〉調査区A T-355グリッドに位置する。基本層序第IV a層上面で黒色土の落ち込みを確認した。

〈重複〉認められなかった。

〈平面形・規模〉平面形は、側縁部が直線で、両端部が若干丸味を帯びた溝状を呈する。規模は、開口部で長軸314cm・短軸42cm、底面で長軸227cm・短軸4cmである。また、最深部の深さは、確認面から106cmである。主軸方向はN-41°-Wである。

〈壁〉側縁部の東・西壁は、底面から開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。端部の北壁は底

面から開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がっており、南壁は底面から開口部にかけて若干外反しながら立ち上がる。壁面は堅い。

〈底面〉南壁から北壁にかけて緩やかに傾斜し、平坦で堅い。

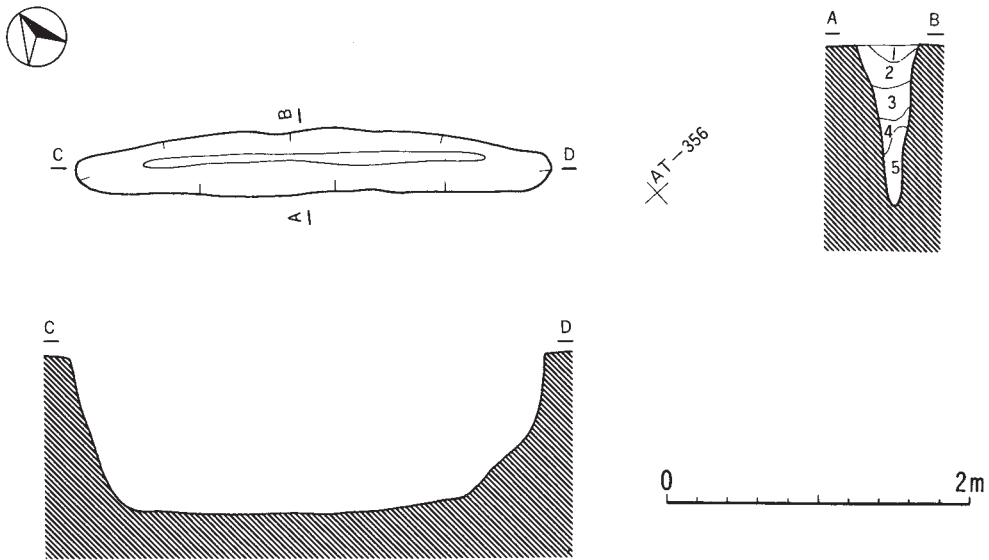
〈堆積土〉5層に分層できた。堆積状況はレンズ状を呈しており、自然堆積と思われる。

### 第5号溝状ピット土層注記

第1層	黒色	7.5YR <sup>1</sup> /1	ローム粒を少量含む。しまり・粘性あり。
第2層	暗褐色	7.5YR <sup>3</sup> /3	ローム粒を含む。しまりあり、粘性なし。
第3層	黒褐色	7.5YR <sup>2</sup> /2	ローム粒を少量含む。しまり・粘性なし。
第4層	暗褐色	7.5YR <sup>3</sup> /4	ローム粒を多量に含む。しまり・粘性なし。
第5層	褐色	7.5YR <sup>4</sup> /6	ローム粒を多量に含む。しまり・粘性なし。

〈出土遺物〉遺物は出土しなかった。

(奈良)

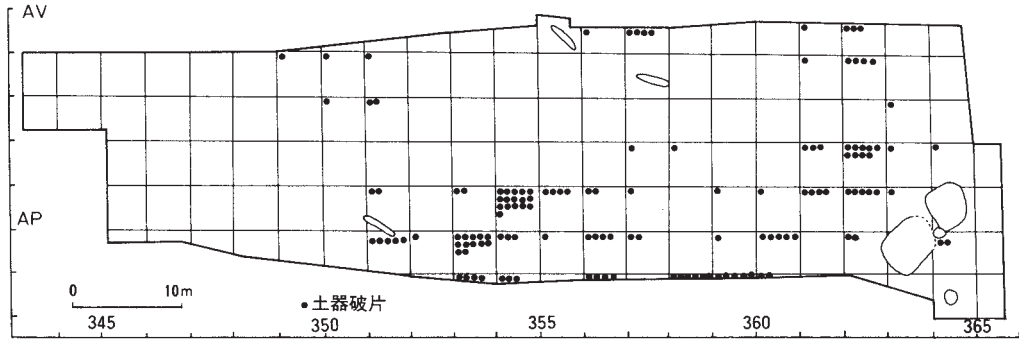


第128図 第5号溝状ピット

## 第2節 遺構外出土遺物

### 1. 土器

本地区では、縄文時代早期中葉の白浜・小舟渡平式期及び物見台式期の土器が出土した。本節では、各時期毎に群を用いて分類し、更に類別を行なった。



第129図 白浜・小舟渡平式土器分布図

#### 第I群1類土器（第130図～139図140図-100～109）

本群土器は白浜・小舟渡平式期の土器群である。土器の分布状況はII地区全体に分散しているが、特にAO・AP-351～365グリッドに比較的高い密度で出土している。また、基本層序第IV a層中から主として出土している。

完形土器は出土せず、比較的大きな土器片から図上復原できた個体は11点である。

本群土器は、器形・胎土・整形等において以下のような特徴があり、また、文様から以下のように分類した。

##### <器形>

口縁部はすべて平縁である。胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものや若干外反気味に立ち上がるものが大部分である。中には、極端に外反するもの(33)、口縁部が肥厚するもの(64)が見られる。

口唇部断面形態は、丸味をもつものと平坦なものが大部分である。中には、内傾するもの41・74)が見られるが、外傾するものは見られなかった。

口唇部に刻目をもつものは全体の27%を占めており、このうち、口唇部直上に有するものが83%、口縁部寄りに有するものが17%で、口唇部直上に刻目を有するものが多い。口唇部の施文文様は、ヘラ状工具による沈線及び貝殻による圧痕である。

##### <胎土・焼成・色調>

胎土に植物性繊維を含むものが全体の77%を占めている。また、ほぼ大半の土器片に細礫(石

英・火山ガラス・チャートなどが含まれている)が混入されており、中には2mm程度の小礫が含まれているものもある。

焼成は、比較的硬く緻密なものと若干脆弱なものがあるが、大部分は普通の焼成である。さらに、色調は橙色系及び褐色系のものが多い。

#### <調整>

地文は貝殻で横位・斜位方向に条痕を施文し、器面を調整している。このうえに、刺突文・貝殻圧痕文・沈線文等を施文し、文様を展開している。土器内面の調整は、ヘラナデのものもあるが、大部分は条痕文によるものが多い。

#### <補修孔>

補修孔の見られるものが6点出土している。穿孔の断面形は円錐状で、外面が広く内面が狭くなっている。108は補修孔が貫通しておらず、器外面からの穿孔で途中で終了している。

#### <文様>

文様は貝殻条痕文・刺突文(爪形状・円形状)・沈線文・貝殻圧痕文等が見られるが、爪形刺突文を主体とする文様が全体の32%を占めている。昭和54年度の表館遺跡の発掘調査区域は本遺跡に隣接しており、本群土器に極めて類似する土器が出土している。したがって、ここでは、今までの調査成果をふまえて、以下の分類を行なった。

#### A. 沈線文施文を主体とするもの(第134図-14~26)

施文されている沈線は、細く浅いものと幾分太く断面形が丸味をもつものが見られる。

##### 1. 沈線のみのももの(21~23)

縦位・横位・斜位に沈線が施文され、縦位の沈線は細く浅いものである。胎土・色調・沈線の太さ等から爪形状刺突文の見られる25と同一個体の可能性もある。

##### 2. 沈線と刺突文のもの(14~20、24~26)

22・24・25は、縦位・横位の沈線とその直下に爪形状の刺突文が横位に1段施文されている。いずれも文様構成が類似しているが、25は地文が条痕文であり、胎土も相違する。

15・18・19は同一個体で、口縁部に沈線が縦位と横位に4段と施文され、横位の沈線間には器面に対して直角の刺突文が深く施文されている。刺突の工具は縄の先端部とも考えられるが、断定できない。16は斜位の沈線文と貝殻による爪形状の刺突文が施文されている。

#### B. 刺突文を主体とするもの(第115図-1~3・7・8、125図-1、130図、131図-5・6、134図-27~30、135図、136図-47~57・61~63)

##### 1. 刺突文のみのももの(第115図-3・7・8、130図、131図-5、134図-27~30、135図-31~36・39~46、136図-47~52・55~58)

刺突文には、爪形状と円形状のものがある。このうち、爪形状の刺突文が全体の32%を占

めている。施文工具は、爪または爪形状の工具、篋状工具、棒状工具、竹管状工具及び貝殻等である。爪形状刺突文の施文方法としては、爪形の長軸が横位のものは上方から下方への刺突、縦位のものは左方から右方への刺突、斜位のものは、左上方から右下方への刺突が大部分である。また、文様の構成には、一定方向からの刺突のみのもの、あるいは縦位・横位・斜位方向の刺突を組み合わせたものがある。さらに、刺突によってできる「めくれ」が大半のものに見られる。

地文は貝殻の条痕文で、その上に刺突文を展開している。施文部位は口唇部寄りの口縁部ないし胴部上半から口縁部までである。前者は一定方向の刺突であり、後者は縦位・横位・斜位方向の刺突の組み合わせのものが大部分である。

48は胴部破片で、篋状工具を用いて円形に爪形状刺突文を施文している。30・31は同一個体で、先端部の丸い篋状の工具で横位に3段施文している。35は底辺部にまで刺突文が施文されており、第115図-7・8と同一個体と思われる。

56・59は棒状工具による刺突がみられ、57は爪形状刺突文を横位に2段施文し、その間に1cm程度の間隔で棒状工具による刺突が施文されている。

2. 刺突文と貝殻圧痕文のもの(第115図-1・2、125図-1、135図-37・38、136図-53・54)

62は、貝殻圧痕文を横位と斜位に区画し、その間に、棒状工具による刺突が密集して施文されている。また、63は貝殻の条痕文を地文とし、横位・斜位に貝殻の腹縁を若干寝かせ気味に施文し、その間に、竹管状工具による刺突と連続した貝殻圧痕文が見られる。さらに、剥落してはいるが粘土瘤かないしは隆帯の痕跡がみられる。

C. 貝殻文を主体とするもの(第115図-4、131図-7、136図-58・59、137図)

貝殻を縦位・横位・斜位に圧痕して文様を展開している。

64は口縁部が折り返し気味に肥厚しており、口縁部から胴部上半にかけて貝殻圧痕文を縦位・横位・斜位にそれぞれ数段連続して施文している。

D. 条痕文のもの(第115図-5・6・9・10、125図-2・3、132図-9、133図、137図-74・77、138・139図、140図-100・101・106・107)

口縁部破片のうち、器内面に条痕文のあるものと条痕文のないものがみられる。80の口唇部には刻目がみられ、また、81には補修孔がみられる。

胴部破片は、器内面に条痕文のあるものが極めて少ない。

E. 無文のもの(第118・120図、140図-102・104・105・108・109)

篋状工具によって器面を調整しているものが大部分である。このうち、口唇部に刻目を有するもの(109)、未貫通の補修孔を有するもの(108)が見られる。

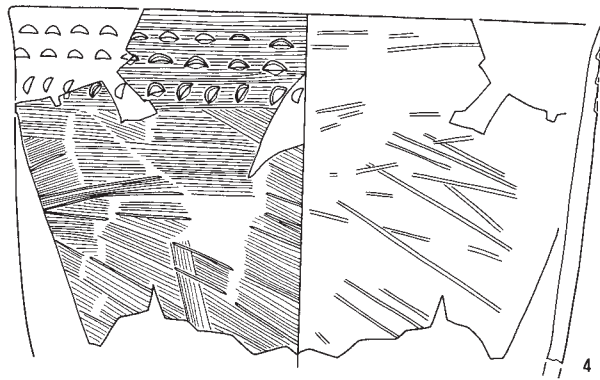
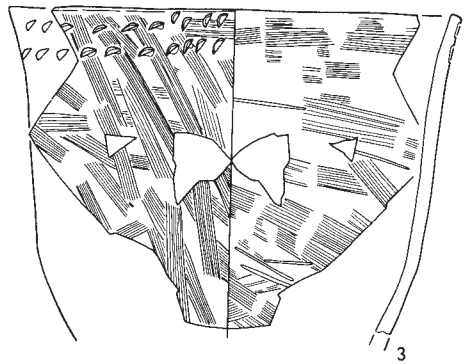
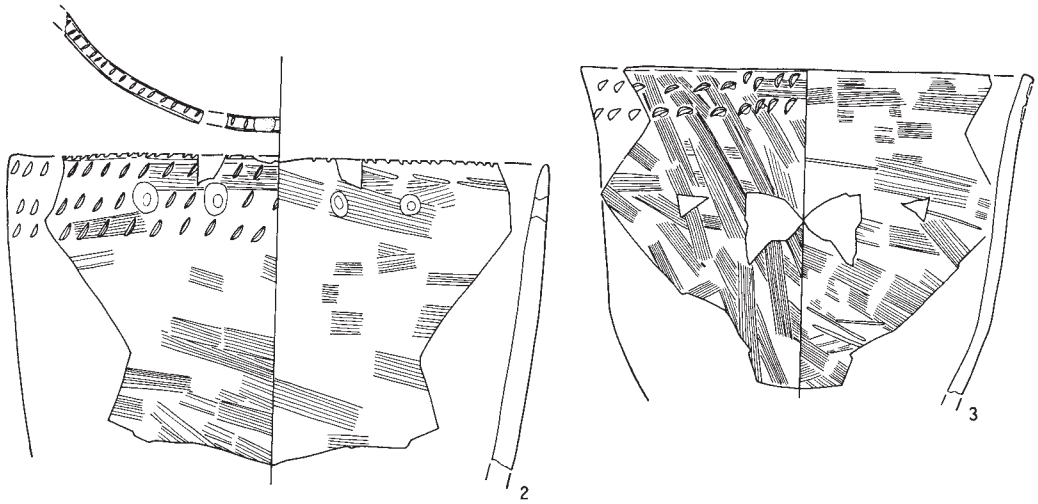
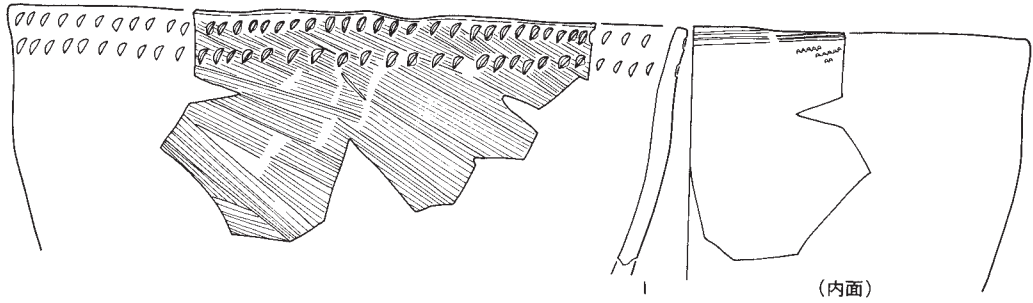
## 第I群2類土器（第140図—110～113）

物見台式期に属する土器群である。

いずれも波状口縁である。内面口縁部から口唇部にかけては貝殻圧痕文が施文されている。文様は、沈線文・貝殻圧痕文等で方形状・三角形状に幾何学的に構成されている。胎土は細礫（石英・火山ガラス・チャートなど）が包含されている。

（奈良）



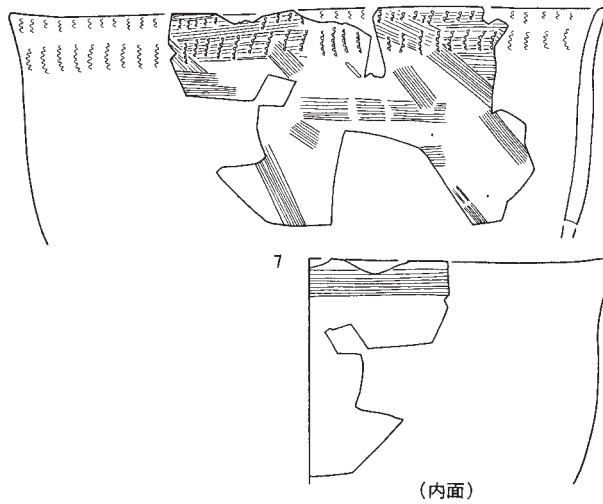
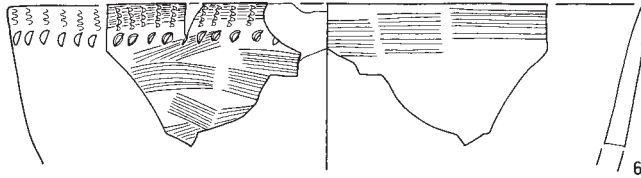
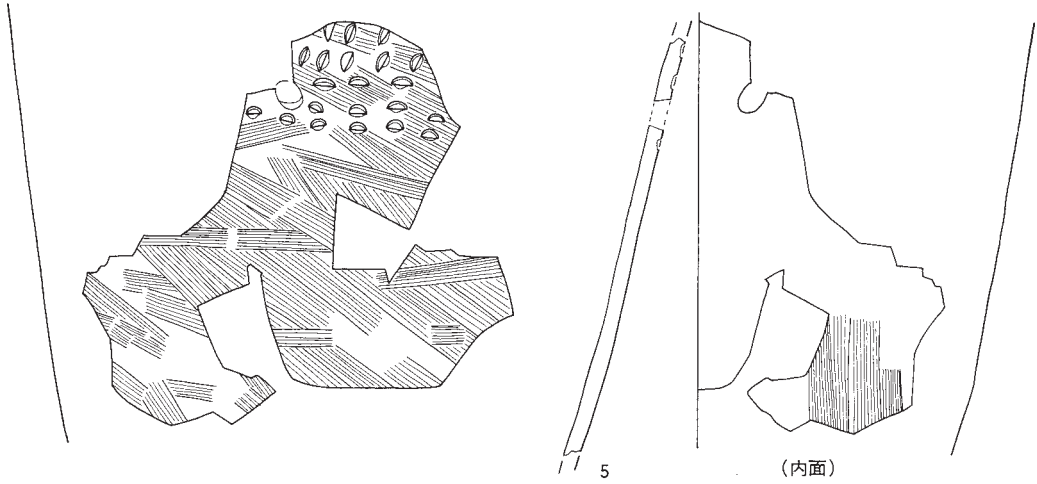


0 10cm

II地区遺構外出土器観察表(1)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第130図-1	A N-358	IV a	口縁-胴 爪形状刺突文			暗褐色	第I群1類B種
第130図-2	A N-353	IV a	口縁-胴 口唇部刻目+爪形状刺突文 補修孔あり	条痕文	含	褐色	第I群1類B種
第130図-3	A N-356	IV a	口縁-胴 口唇部刻目+爪形状刺突文	条痕文	含	褐色	第I群1類B種
第130図-4	A T-362	IV a	口縁-胴 爪形状刺突文		含	にぶい 橙色	第I群1類B種

第130図 II地区遺構外出土器(1)

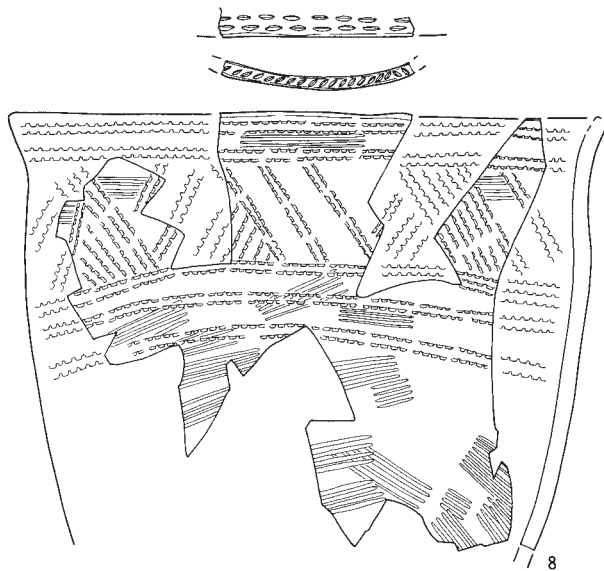


0 10cm

Ⅱ地区遺構外出土土器観察表(2)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第131図-5	A O-353	Ⅳ a 口縁-胴	爪形状刺突文 補修孔あり		含	褐色	第Ⅰ群Ⅰ類B種
第131図-6	A P-356	Ⅳ a 口縁	貝殻圧痕文-爪形状刺突文	条痕文	含	灰黄	第Ⅰ群Ⅰ類B種
第131図-7	A O-353	Ⅳ a 口縁	貝殻圧痕文		含	にぶい赤褐色	第Ⅰ群Ⅰ類C種

第131図 Ⅱ地区遺構外出土土器(2)

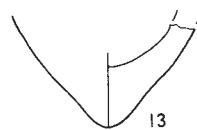
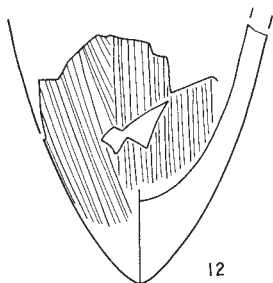
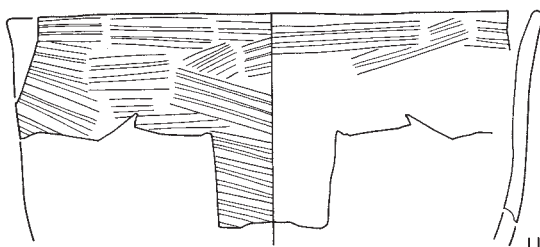
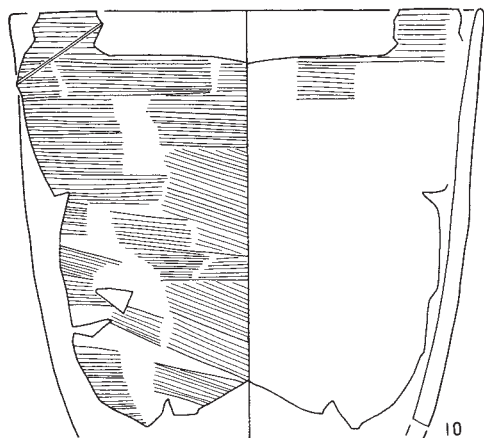


0 10cm

II地区遺構外出土土器観察表(3)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第132図-8	AQ-362 IV a	口縁~胴	口唇部刻目+貝殻圧痕文	爪形状刺突文	含	褐色	第I群1類C種
第132図-9	AO-353 IV a	胴	条痕文		含	にぶい褐色	第I群1類D種

第132図 II地区遺構外出土土器(3)

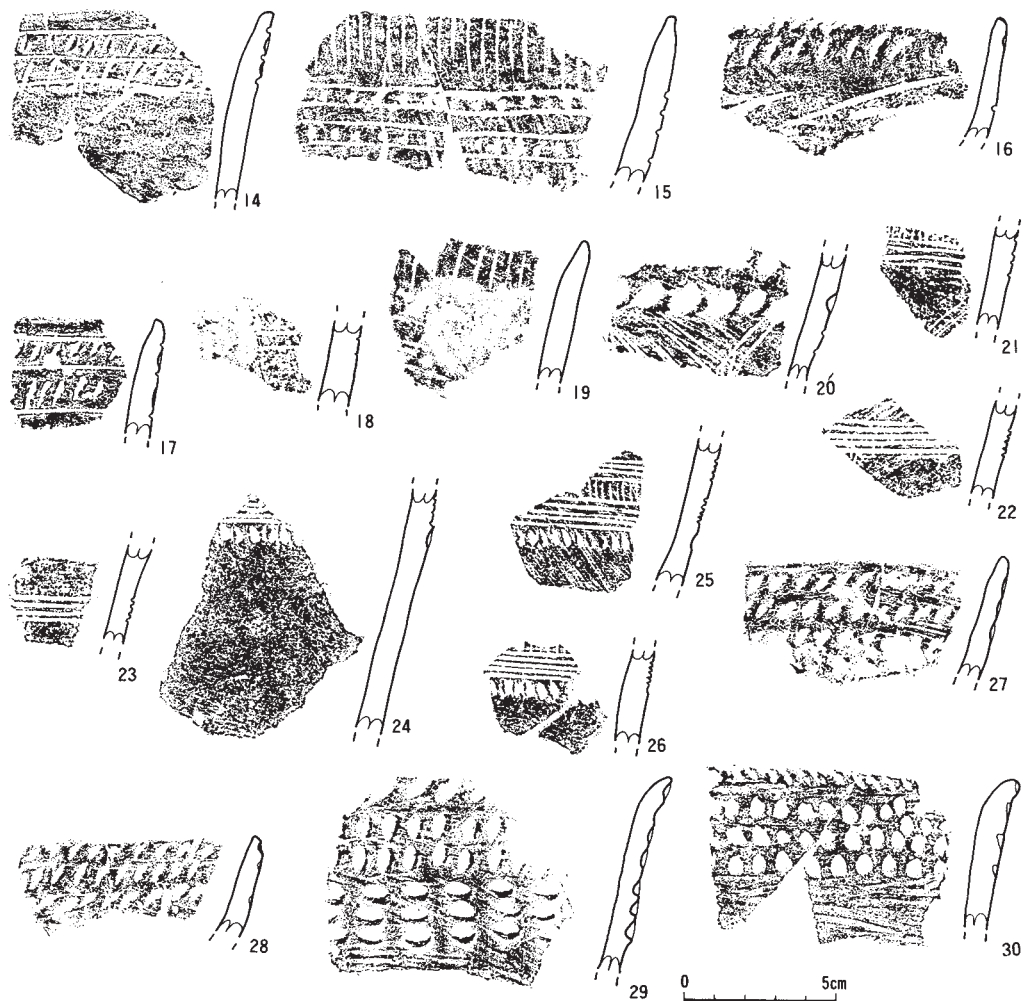


0 10cm

II地区遺構外出土土器観察表(4)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第133図-10	A O - 360	IV a 口縁~胴	条痕文	条痕文	含	いぶいぶに褐色	第I群1類D種
第133図-11	A O - 353	IV a 口縁	条痕文	条痕文	含	いぶいぶに黄褐色	第I群1類D種
第133図-12	A O - 351	IV a 底	条痕文		含	いぶいぶに褐色	第I群1類D種
第133図-13	A O - 357	IV a 底	条痕文		含	いぶいぶに褐色	第I群1類D種

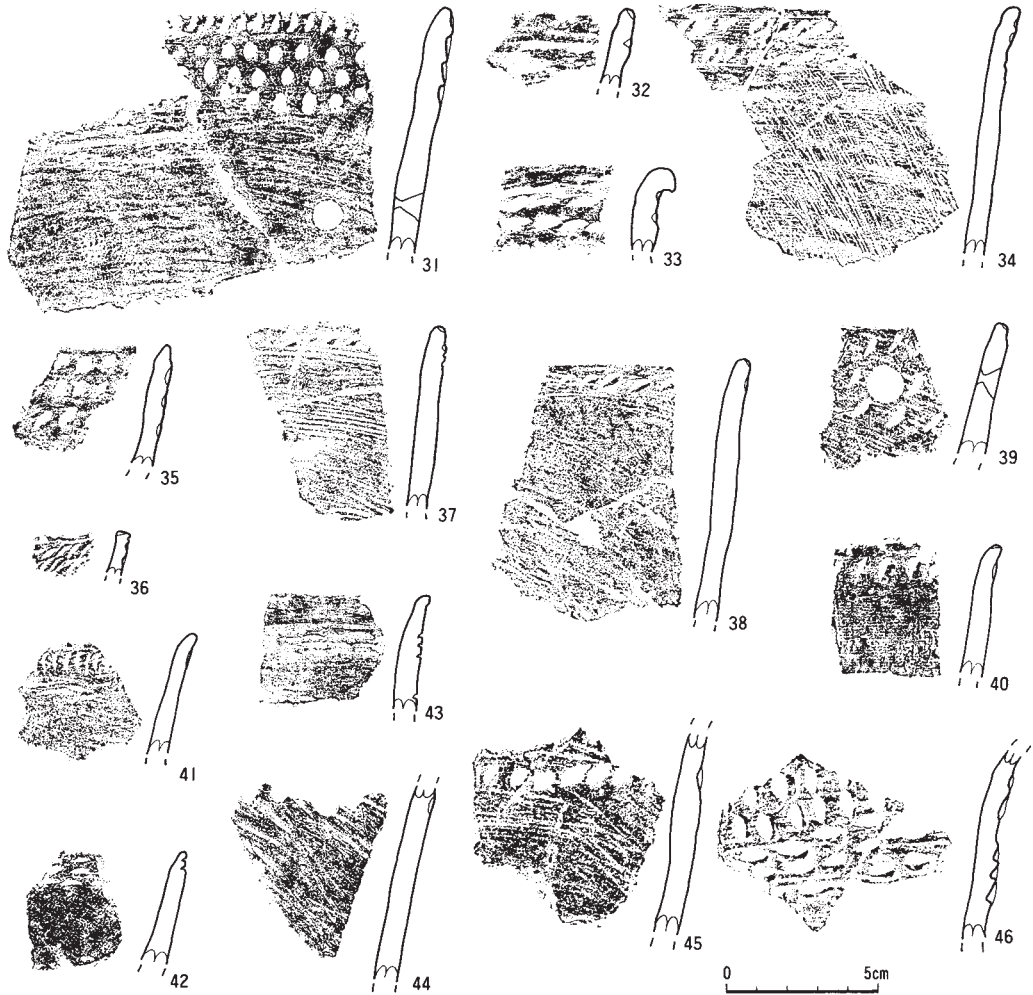
第133図 II地区遺構外出土土器(4)



II地区遺構外出土土器観察表(5)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第134図-14	A O - 354	IV a	口 縁 沈線(横位)+爪形状刺突文		含	にぶい 橙色	第I群1類A種
第134図-15	A Q - 362	IV b	口 縁 貝殻圧痕文(縦位)+沈線(横位)+刺突文		含	暗褐色	第I群1類A種
第134図-16	A Q - 354	IV a	口 縁 口唇部刻目+爪形状刺突文+沈線(斜位)	条痕文(横位)	含	灰黄褐色	第I群1類A種
第134図-17	A Q - 361	IV a	口 縁 沈線(横位)+爪形状刺突文		含	にぶい 橙色	第I群1類A種
第134図-18	A Q - 362	IV a	口 縁 沈線(横位)+刺突文 剝落あり		含	にぶい 橙色	第I群1類A種
第134図-19	A Q - 362	IV b	口 縁 貝殻圧痕文(縦位)+沈線(横位)+刺突文		含	暗褐色	第I群1類A種
第134図-20	A R - 363	IV b	口 縁 爪形状刺突文+沈線(斜位)			に黄 橙色	第I群1類A種
第134図-21	A P - 357	IV b	胴 沈線(横・縦位)			橙 色	第I群1類A種
第134図-22	A T - 357	I	胴 沈線(横・斜位)			橙 色	第I群1類A種
第134図-23	A P - 351	IV b	胴 沈線(横位)			橙 色	第I群1類A種
第134図-24	A Q - 358	IV	胴 沈線(横位)+爪形状刺突文			橙 色	第I群1類A種
第134図-25	A P - 359	IV a	胴 沈線(横・縦位)+爪形状刺突文+条痕文		含	橙 色	第I群1類A種
第134図-26	A Q - 357	IV b	胴 沈線(横・縦位)+爪形状刺突文			橙 色	第I群1類A種
第134図-27	A O - 356	IV a	口 縁 爪形状刺突文	条痕文(横位)	含	に黄 ぶい 橙色	第I群1類B種
第134図-28	A O - 356	IV a	口 縁 爪形状刺突文	条痕文(横位)	含	に黄 ぶい 橙色	第I群1類B種
第134図-29	A O - 353	IV a	口 縁 爪形状刺突文	条痕文(横位)	含	暗褐色	第I群1類B種
第134図-30	A T - 357	IV a	口 縁 口唇部刻目+刺突文	ヘラによるナデ (横位)	含	褐灰色	第I群1類B種

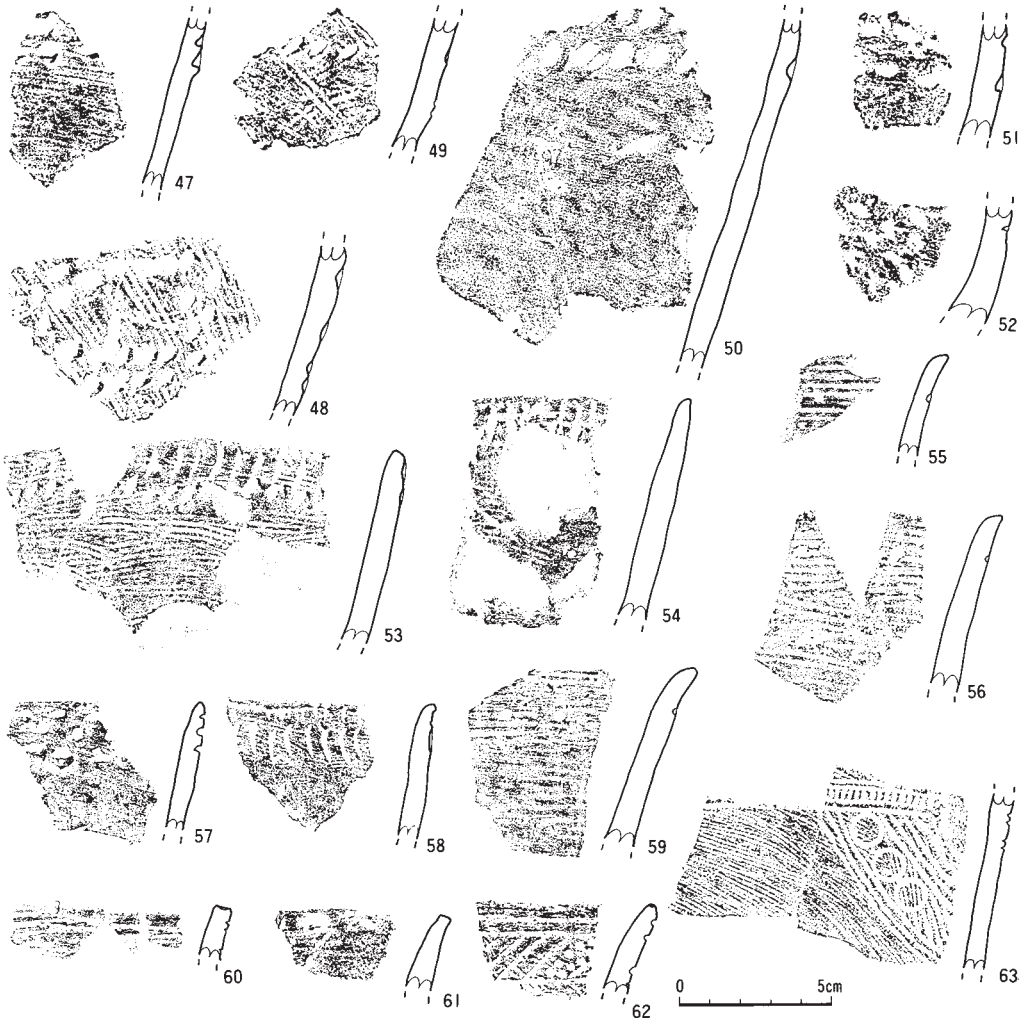
第134図 II地区遺構外出土土器(5)



II 地区遺構外出土土器観察表 (6)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第135図-31	A Q - 361 IV a	口縁-胴	口唇部刻目+刺突文	ヘラによるナデ (横位)	含	黒褐色	第I群1類B種
第135図-32	A O - 351 IV a	口縁部	口唇部刻目+爪形状刺突文	条痕文(横位)	含	にぶい 褐色	第I群1類B種
第135図-33	A O - 353 IV a	口縁	爪形状刺突文		含	にぶい 褐色	第I群1類B種
第135図-34	A N - 356 IV a	口縁	爪形状刺突文	条痕文 (斜・縦位)	含	褐色	第I群1類B種
第135図-35	A O - 357 IV a	口縁	爪形状刺突文	条痕文(横位)	含	暗褐色	第I群1類B種
第135図-36	A P - 361 IV a	口縁	口唇部刻目+爪形状刺突文		含	暗褐色	第I群1類B種
第135図-37	A P - 354 IV a	口縁	貝殻圧痕文+爪形状刺突文	条痕文(横位)		褐色	第I群1類B種
第135図-38	A O - 351 IV a	口縁-胴	貝殻圧痕文+爪形状刺突文		含	暗褐色	第I群1類B種
第135図-39	A P - 353 IV a	口縁	口唇部+爪形状刺突文 補修孔あり	条痕文(横位)	含	褐色	第I群1類B種
第135図-40	A S - 350 IV b	口縁	口唇部刻目+爪形状刺突文 スス状炭付		含	褐色	第I群1類B種
第135図-41	A P - 354 IV a	口縁	爪形状刺突文			明赤褐色	第I群1類B種
第135図-42	A T - 362 IV b	口縁	爪形状刺突文			に黄 褐色	第I群1類B種
第135図-43	A O - 353 IV a	口縁	爪形状刺突文	ヘラナデ・ミガキ		暗褐色	第I群1類B種
第135図-44	A S - 362 IV a	口縁	爪形状刺突文	条痕文(斜位)		にぶい 褐色	第I群1類B種
第135図-45	A N - 358 IV a	口縁	爪形状刺突文	条痕文(斜位)		に赤 褐色	第I群1類B種
第135図-46	A O - 353 IV a	口縁	爪形状刺突文		含	橙色	第I群1類B種

第135図 II地区遺構外出土土器(6)



II地区遺構外出土土器観察表(7)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第136図-47	A P - 354	IV b	口 縁 爪形状刺突文、スズ状炭付		含	橙 色	第I群1類B種
第136図-48	A O - <sup>362</sup> / <sub>363</sub>	IV a	口 縁 爪形状刺突文		含	にぶい 橙 色	第I群1類B種
第136図-49	A N - 354	IV b	口 縁 爪形状刺突文		含	にぶい 橙 色	第I群1類B種
第136図-50	A S - 362	IV a	口 縁 爪形状刺突文		含	にぶい 黄 色	第I群1類B種
第136図-51	A P - 361	IV b	口 縁 爪形状刺突文			にぶい 黄 色	第I群1類B種
第136図-52	A S - 361	IV a	底 辺 爪形状刺突文			橙 色	第I群1類B種
第136図-53	A P - 355	IV a	口 縁 貝殻圧痕文(縦位)+爪形状刺突文	条痕文(横位)	含	灰黄褐色	第I群1類B種
第136図-54	A P - 354	IV a	口 縁 貝殻圧痕文(縦位)+爪形状刺突文、 剝落あり		含	にぶい 橙 色	第I群1類B種
第136図-55	A P - 354	IV a	口 縁 円形状刺突文	条痕文(横位)	含	にぶい 橙 色	第I群1類B種
第136図-56	A O - 364	IV a	口 縁 円形状刺突文	条痕文(横位)	含	明赤褐色	第I群1類B種
第136図-57	A Q - 354	IV a	口 縁 爪形状刺突文+円形状刺突文		含	にぶい 黄 色	第I群1類B種
第136図-58	A Q - 362	IV a	口 唇部 爪形文+貝殻圧痕文(横位)	爪形文(2段)		灰褐色	第I群1類C種
第136図-59	A O - 359	IV a	口 縁 貝殻圧痕文	条痕文(横位)	含	黒褐色	第I群1類C種
第136図-60	A N - 359	IV a	口 縁 貝殻圧痕文	条痕文(横位)	含	黒褐色	第I群1類C種
第136図-61	A P - 354	IV a	口 縁 円形状刺突文	条痕文(横位)	含	にぶい 橙 色	第I群1類B種
第136図-62	A P - 361	IV a	口 唇部 貝殻圧痕文+貝殻圧痕文 +円形状刺突文	条痕文(横位)	含	にぶい 橙 色	第I群1類B種
第136図-63	A P - 360	IV a	口 縁 貝殻圧痕文(斜・横位)+円形刺突文	条痕文(横位)	含	にぶい 赤 褐色	第I群1類B種

第136図 II地区遺構外出土土器(7)



II地区遺構外出土土器観察表(8)

番号	地区・層位	部位	外面	施文	文様	内面	繊維	色調	分類
第137図-64	A T - 357 IV a	口縁~胴	貝殻圧痕文				含	褐灰色	第I群1類C種
第137図-65	A T - 357 IV a	口縁	口唇部圧痕文+貝殻圧痕文		条痕文		含	暗褐色	第I群1類C種
第137図-66	A P - 362 IV a	口縁	貝殻圧痕文				含	灰褐色	第I群1類C種
第137図-67	A P - 362 IV a	胴	貝殻圧痕文				含	に褐ぶ 色茶い	第I群1類C種
第137図-68	A P - 362 IV a	胴	貝殻圧痕文				含	に褐ぶ 色茶い	第I群1類C種
第137図-69	A P - 362 IV a	口縁	貝殻圧痕文		条痕文		含	灰褐色	第I群1類C種
第137図-70	A O - 360 IV a	胴	条痕文+貝殻圧痕文				含	に褐ぶ 色茶い	第I群1類C種
第137図-71	A P - 362 IV a	口縁	貝殻圧痕文		条痕文		含	灰褐色	第I群1類C種
第137図-72	A N - 359 IV a	胴	貝殻圧痕文		条痕文		含	に赤に 褐ぶ 色茶い	第I群1類C種
第137図-73	A O - 354 IV a	口縁	貝殻圧痕文		条痕文		含	に赤に 褐ぶ 色茶い	第I群1類C種
第137図-74	A S - 349 I	口縁	条痕文(斜位・横位)					黒褐色	第I群1類D種
第137図-75	A N - 359 IV a	口縁~胴	貝殻圧痕文(斜位・横位)		条痕文			黒褐色	第I群1類C種
第137図-76	A O - 362 IV a	胴	貝殻圧痕文(斜位)					に褐ぶ 色茶い	第I群1類C種
第137図-77	A N - 360 IV a	口縁	条痕文(斜位)		条痕文		含	に赤に 褐ぶ 色茶い	第I群1類D種

第137図 II地区遺構外出土土器(8)

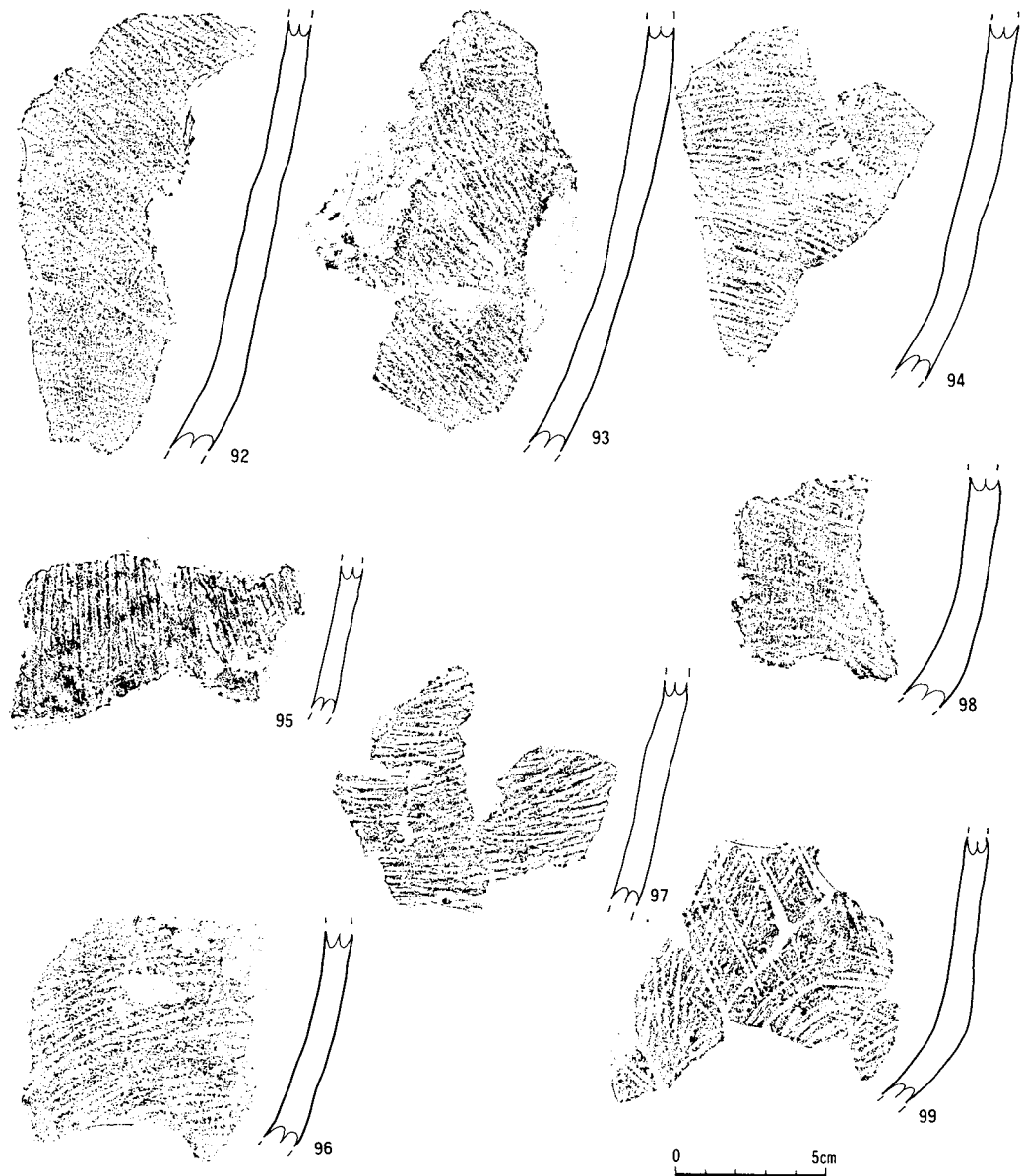




II地区遺構外出土土器観察表(9)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第138図-78	A P-362 I	口縁	条痕文(横位)	条痕文		に 橘 ぶ い 色 い	第I群1類D種
第138図-79	A P-354 IV a	口縁	条痕文(横位)、スス状炭付	条痕文		に 黄 ぶ い 色 い	第I群1類D種
第138図-80	A O-360 IV a	口縁	口唇部刻目+条痕文、スス状炭付	条痕文	含	に 橘 ぶ い 色 い	第I群1類D種
第138図-81	A N-360 IV a	口縁	条痕文(斜位)、補修孔あり	条痕文	含	黒 褐 色	第I群1類D種
第138図-82	A N-353 IV a	胴	条痕文(横位)		含	に 橘 ぶ い 色 い	第I群1類D種
第138図-83	A O-354 IV a	口縁	条痕文(斜位)	条痕文		橙 色	第I群1類D種
第138図-84	A P-355 IV a	口縁	条痕文(斜位)	条痕文		橙 色	第I群1類D種
第138図-85	A P-354 IV a A O-353 IV a	口縁	条痕文(横・斜位)	条痕文	含	に 黄 ぶ い 色 い	第I群1類D種
第138図-86	A O-353 IV a	胴	条痕文		含	に 橘 ぶ い 色 い	第I群1類D種
第138図-87	A P-354 IV a	口縁	条痕文	条痕文	含	灰 黄 褐 色	第I群1類D種
第138図-88	A Q-354 IV a	胴	条痕文(斜位方向で交差)		含	に 黄 ぶ い 色 い	第I群1類D種
第138図-89	A P-354 IV a	胴	条痕文(斜位)	ヘラナデ	含	灰 黄 褐 色	第I群1類D種
第138図-90	A N-353 IV a	胴	条痕文(横位)		含	明 赤 褐 色	第I群1類D種
第138図-91	A N-359 IV a	胴	条痕文(横位)		含	に 赤 ぶ い 色 い	第I群1類D種

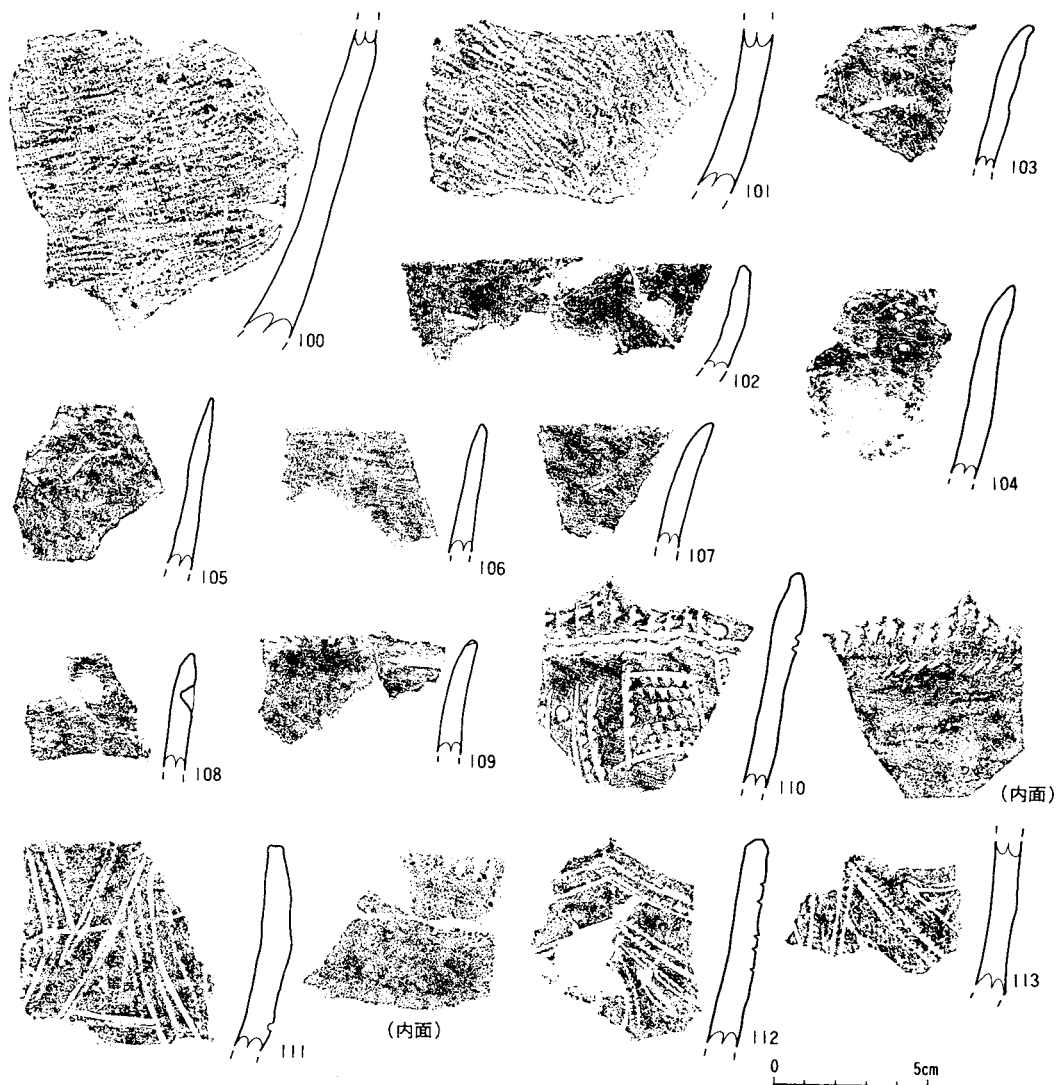
第138図 II地区遺構外出土土器(9)



II地区遺構外出土土器観察表(10)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第139図-92	A Q - 363	IV a	胴~底辺	条痕文(斜位)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種
第139図-93	A O - 351	IV a	胴	条痕文(斜位)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種
第139図-94	A P - 353	IV a	胴	条痕文(斜位)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種
第139図-95	A Q - 354	IV a	胴	条痕文(縦位)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種
第139図-96	A S - 362	IV a	底 辺	条痕文(斜位・右上)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種
第139図-97	A O - 360	IV b	胴	条痕文(斜位)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種
第139図-98	A O - 353	IV a	底 辺	条痕文(斜位→縦位)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種
第139図-99	A Q - 354	IV a	底 辺	条痕文(斜位で交差)	含	に ぶ い 色 色 色	第I群1類D種

第139図 II地区遺構外出土土器(10)



II 地区遺構外出土土器観察表(11)

番号	地区・層位	部位	外面施文文様	内面	繊維	色調	分類
第140図-100	A N - 354	IV b 胴-底辺	条痕文(斜位)	条痕文(斜位)	含	橙 色	第I群1類D種
第140図-101	A O - 355	IV a 底 辺	条痕文(斜位)	条痕文(斜位)	含	に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類D種
第140図-102	A R - 351	IV a 口 縁	無文		含	に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類E種
第140図-103	A P - 355	IV a 口 縁	条痕文(斜位と縦位の交差)	条痕文(横位)		に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類D種
第140図-104	A S - 351	IV a 口 縁	無文		含	灰黄褐色	第I群1類E種
第140図-105	A Q - 362	IV a 口 縁	無文	ヘラナデ(横位)	含	に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類E種
第140図-106	A P - 356	IV a 口 縁	条痕文(横位)	条痕文(横位)	含	に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類D種
第140図-107	A R - 351	IV a 口 縁	条痕文(斜位)	条痕文(横位)	含	に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類D種
第140図-108	A P - 354	IV a 口 縁	無文、補修孔?	条痕文(横位)	含	に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類E種
第140図-109	A T - 356	IV b 口 縁	口唇部刻目+無文		含	に ぶ 橙に 色 ぶ い 色 色 い	第I群1類E種
第140図-110	A P - 354	IV b 口 縁	貝殻圧痕文(横位・縦位)	貝殻圧痕文		灰黄褐色	第I群2類
第140図-111	A P - 357	IV a 口 縁	沈線+貝殻圧痕文	貝殻圧痕文	含	橙 色	第I群2類
第140図-112	A P - 356	IV a 口 縁	沈線+貝殻圧痕文	貝殻圧痕文	含	明赤褐色	第I群2類
第140図-113	A Q - 356	IV a 胴	沈線+貝殻圧痕文		含	に ぶ 赤に 色 ぶ い 褐色 色 い	第I群2類

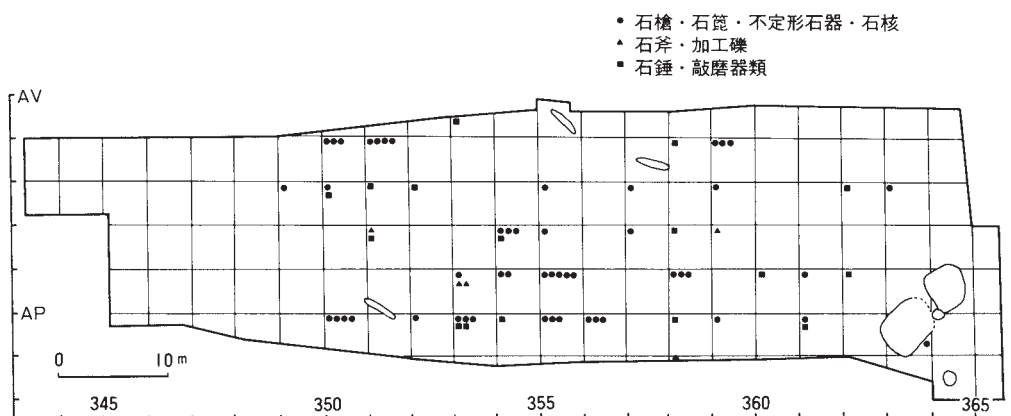
第140図 II 地区遺構外出土土器(1)

## (2) 石器

Ⅱ地区より出土した石器は8種80点である（第2表）。分布状況はAO・AP-350~356グリッドに集中しており、また、基本層序第Ⅳa層からの出土が多い。

第2表 Ⅱ地区 出土石器一覧表

	石 鏃	石 槍	石 錐	石 ヒ	石 筥	不定形 石 器	石 核	石 斧	加工礫	石 錘	敲磨器類	石皿・ 台石類	合 計
遺構内	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	8
遺構外	0	2	0	0	4	36	2	10	2	6	10	0	72
合 計	0	4	0	0	4	39	2	10	2	6	13	0	80



第141図 Ⅱ地区石器分布図

### B類 石槍（第116図-1・2、142図-1・2）

石槍は4点出土し、すべて尖頭部を欠損している。遺構内から2点、遺構外から2点出土した。Ⅰa類1点（第142図-2）、Ⅰb類2点（第116図-2、第142図-1）、Ⅱ類1点（第116図-1）である。

調整は両面調整で比較的丁寧であるが、第142図-1は幾分両面の調整が大ざっぱである。

石質は、珪質頁岩12点、玉髄質の珪質頁岩1点である。

### E類 石筥（第142図-3~6）

石筥は4点出土した。すべて遺構外である。また、完形品3点、欠損品1点である。分類は、Ⅰc類1点（3）、Ⅲa類1点（4）、Ⅲc類2点（5・6）である。

調整は、全面調整のもの3点（3・4・5）、表面に主要剥離面が残存し、裏面が縁辺調整のもの1点（6）が見られる。

また、刃部の形態は、直刃で両刃のもの1点（4）、直刃で片刃のもの2点（3・6）である。

石質は、粘板岩1点、珪質頁岩3点である。

## F類 不定形石器（第116図－3、123・126・143～145図）

39点出土した。遺構内3点、遺構外36点である。

I類は19点で、そのうちI a類3点、I b類2点、I c類1点、I d類13点である。第143図－9は縁辺部に規則正しい調整が施されている。

大きさは、長さが最大で7.1cm、最小で2.5cm、平均値で4.5cmである。幅は最大で7.3cm、最小で2.0cm、平均値は3.9cmである。また、重さは最大で47.1g、最小で2.9g、平均値は18.5gである。

石質は、頁岩1点、珪質頁岩38点である。

また、II類は10点の出土で、その内II a類3点、II b類7点である。大きさは、長さが最大で5.8cm、最小で2.9cm、平均値は4.1cmである。幅は最大で10.2cm、最小で2.4cm、平均値は4.4cmである。重さは最大で52.1g、最小で4.3g、平均値は18.3gである。

石質は、頁岩1点、珪質頁岩9点である。

III類は3点で、石質はすべて珪質頁岩である。また、IV類は7点で、石質は粘板岩1点、珪質頁岩6点である。

## G類 石核（第146図－30・31）

2点出土した。すべて遺構外である。規則正しい剥離の方向が見られない。石質は、頁岩1点、珪質頁岩1点である。

## H類 石斧（第146図－29・32～35、147図－37～39）

石斧は10点出土したが、すべて遺構外である。また、完形品1点、欠損品9点である。

I類は1点(32)、II類は8点(29・32～38・40)、III類は1点(39)である。

I類の32は残存部分は少ないが、擦切痕が一側縁に認められる。また、使用痕が残存部分全体に見られる。

II類に属するものはすべて欠損品である。残存部分が少なく、全体形を把握できないものが3点(33・35・40)、刃部の一部分が残存しているもの3点(34・36・37)、刃部の残存しているものが1点(29)、刃部の一部を欠損しているものが1点(38)である。36は裏面を大ざっぱに打ち欠いている。38は器体両側縁部及び刃部片面に擦痕が見られ、また、頭頂部及び基部の片面と一側縁部に敲打痕が観察される。

III類の39は完形品である。扁平の礫の長軸方向の一端部を大ざっぱに打ち欠いている。また、表面刃部の極く一部分には研磨痕が、また基部の片面には敲打痕が見られる。

石質は砂岩1点、緑色ホルンフェルス9点である。

#### I類 加工礫（第147図-41・42）

2点出土したがいずれもI類に属する。器体長軸の一端部の片面を打ち欠いて、刃部を作出している。

石質は、砂岩1点、チャート1点である。

#### J類 石錘（第148図-43~48）

石錘は6点出土し、すべて遺構外である。分類は、Ⅱa類2点、Ⅱb類2点、Ⅱc類2点である。大きさは、長さが最大で8.3cm、最小で4.4cm、平均値は6.7cmである。また、重さは最大で274g、最小で32g、平均値は106.5gである。

石質は安山岩5点、凝灰岩1点である。

#### K類 敲磨器類（第116・121図、148図-49、149図）

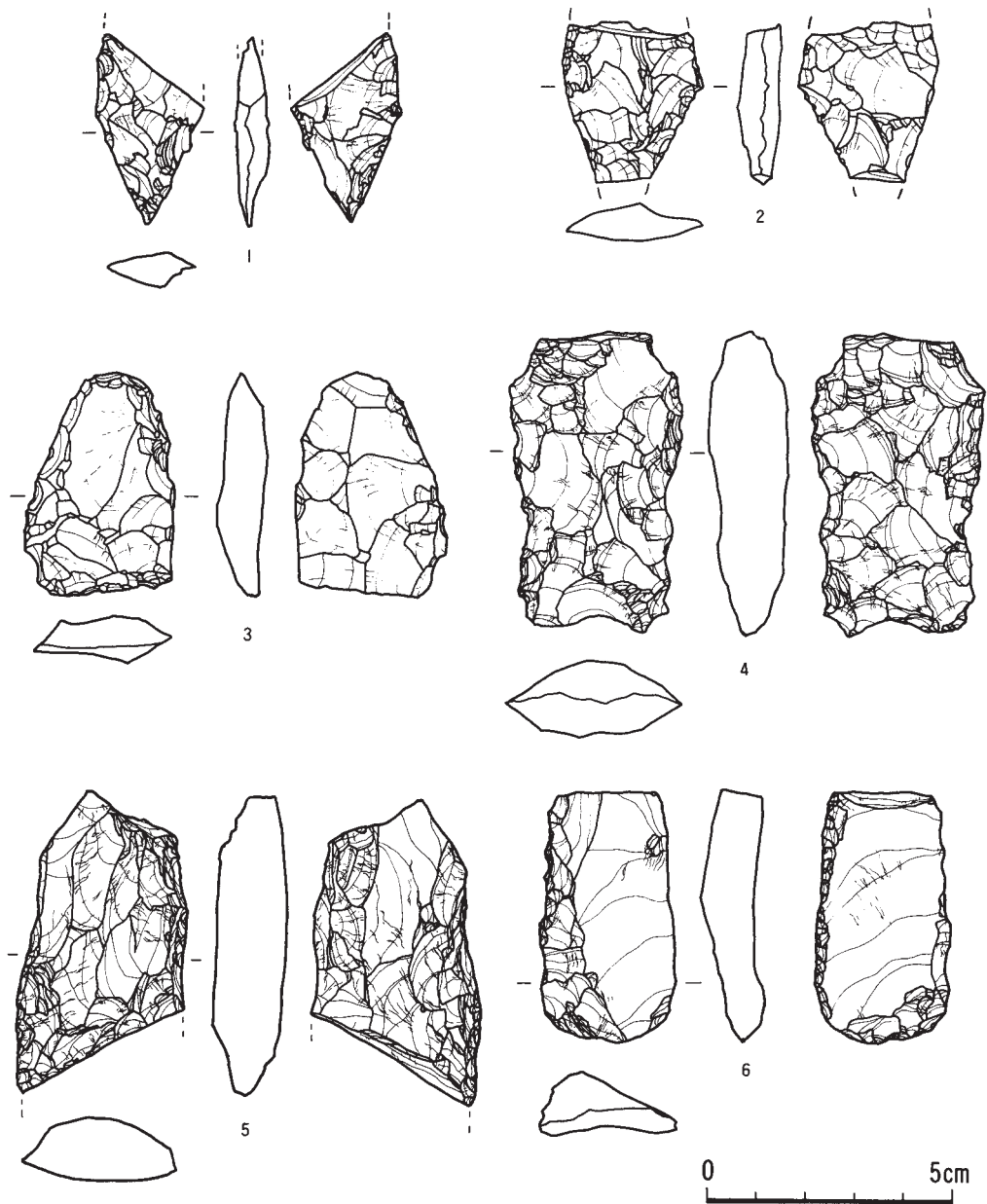
I類は11点出土したが、遺構内が3点、遺構外が8点である。

I類はさらに、Ia類1点、Ic類6点、Id類2点、Ie類2点に分類できる。Ic類には、断面形が三角形状を呈する、いわゆる三角柱状磨石が2点出土している。

Ⅱ類は2点で、遺構外からの出土である。

石質は、安山岩9点、チャート1点、凝灰岩1点、砂岩2点である。

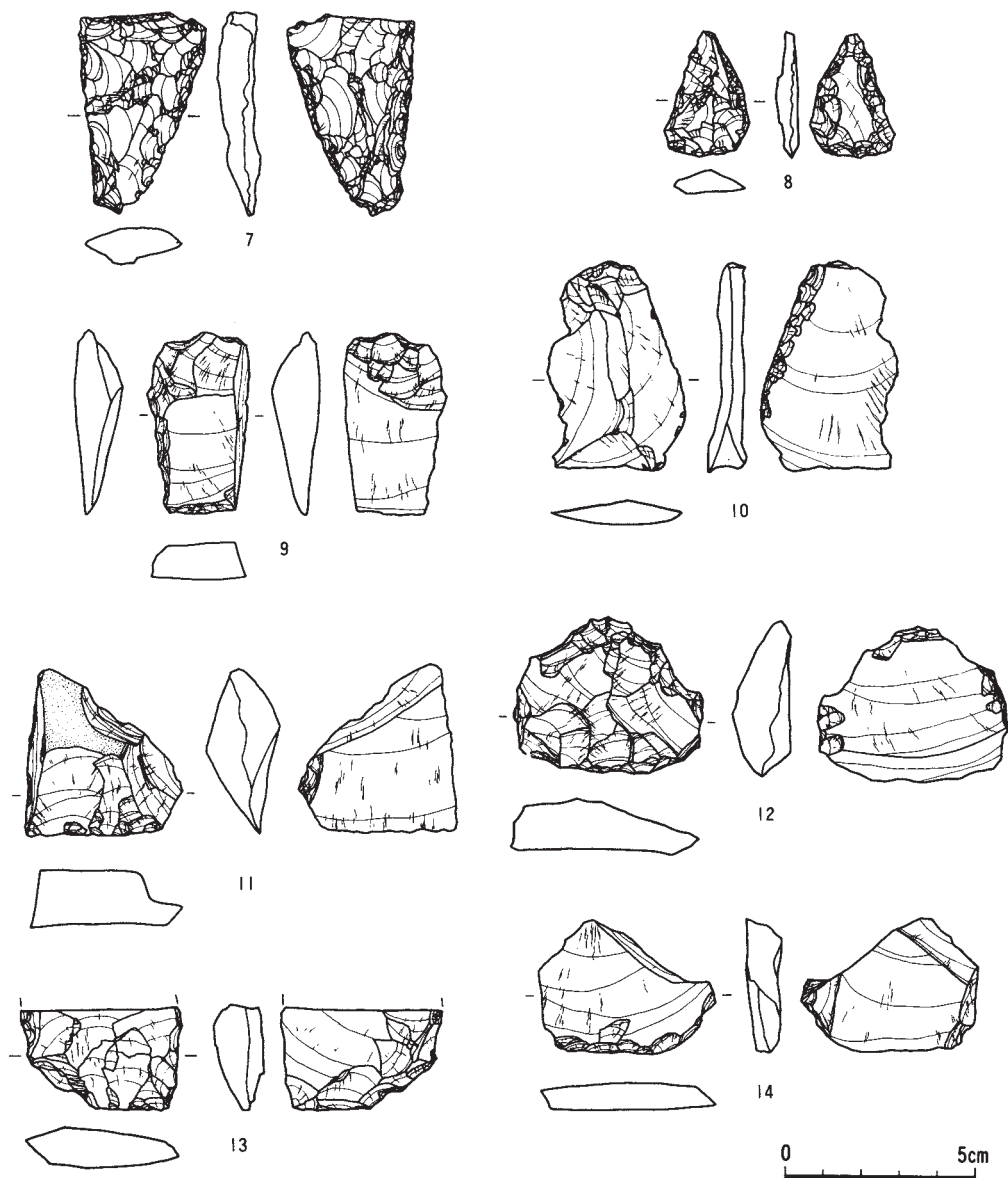
（奈良）



II地区遺構外出土石器計測表(1)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第142図-1	A P-354	IV a	(39)	22	8	(4.2)	珪	B-I b	135	尖頭部欠損
第142図-2	A S-351	IV a	(32)	(28)	8	(7.5)	珪	B-I a	145	基部・尖頭部欠損
第142図-3	A P-355	IV a	45	31	9	13.5	珪	E-I c	134	
第142図-4	A O-350	IV a	61	34	15	34.3	珪	E-III a	213	
第142図-5	A O-352	IV a	(64)	(34)	14	(34.5)	粘	E-III c	216	欠損
第142図-6	A P-353	IV a	52	27	9	14.5	珪	E-III c	218	

第142図 II地区遺構外出土石器(1)

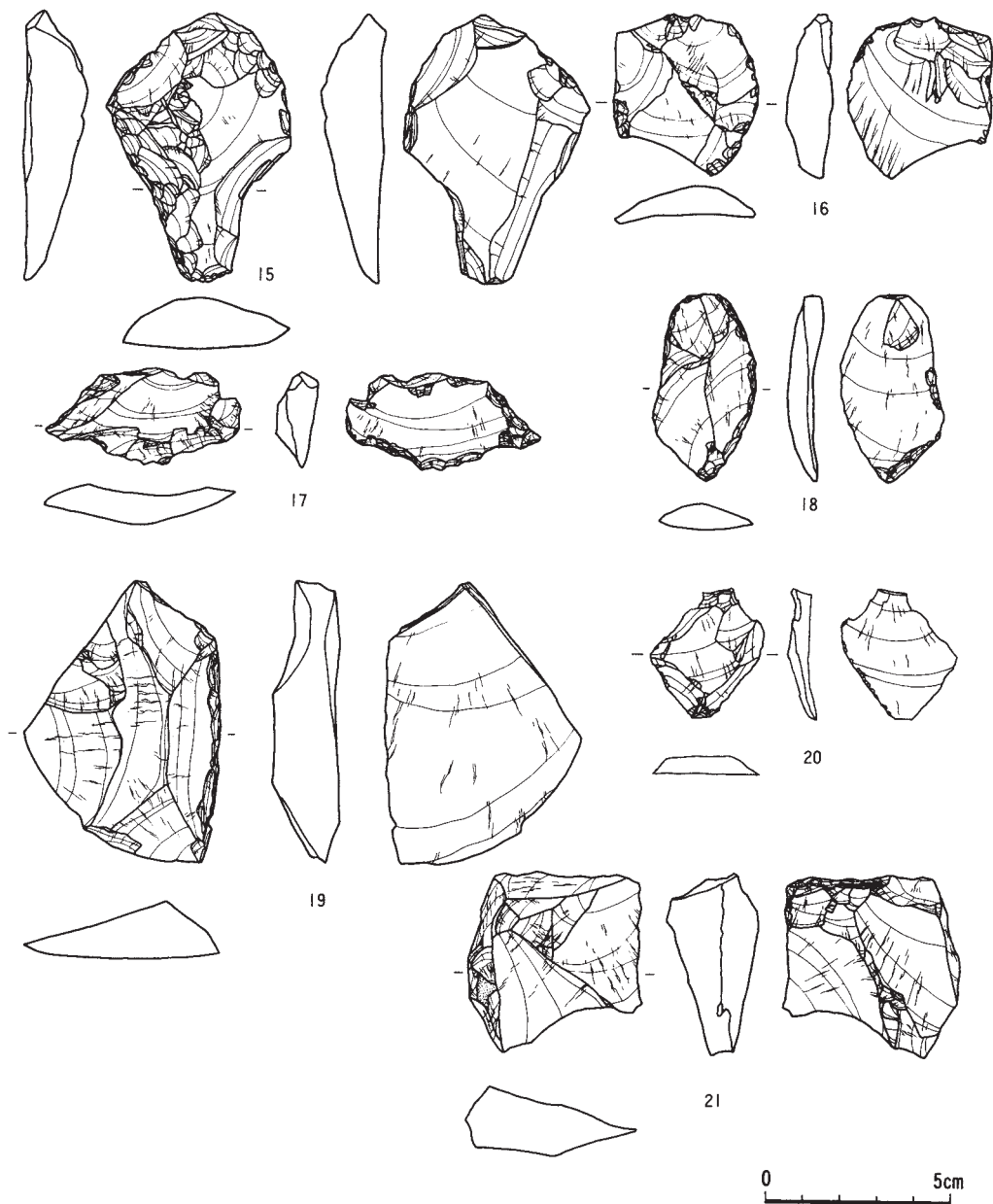


II地区遺構外出土石器計測表(2)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第143図-7	A P-361	IV a	53	33	9	17.3	珪	F-I a	133	
第143図-8	A R-350	I	33	23	5	2.9	珪	F-I a	153	
第143図-9	A S-350	I	48	27	10	15.6	珪	F-I c	154	
第143図-10	A O-359	IV a	56	37	10	14.8	珪	F-I d	136	
第143図-11	A R-363	IV a	53	38	17	25.5	珪	F-I d	137	
第143図-12	A P-355	IV a	41	50	14	27.8	珪	F-I d	149	
第143図-13	A O-363	IV a	27	42	12	17.2	珪	F-I d	146	
第143図-14	A O-353	IV a	47	36	8	14.7	珪	F-I d	148	

第143図 II地区遺構外出土石器(2)

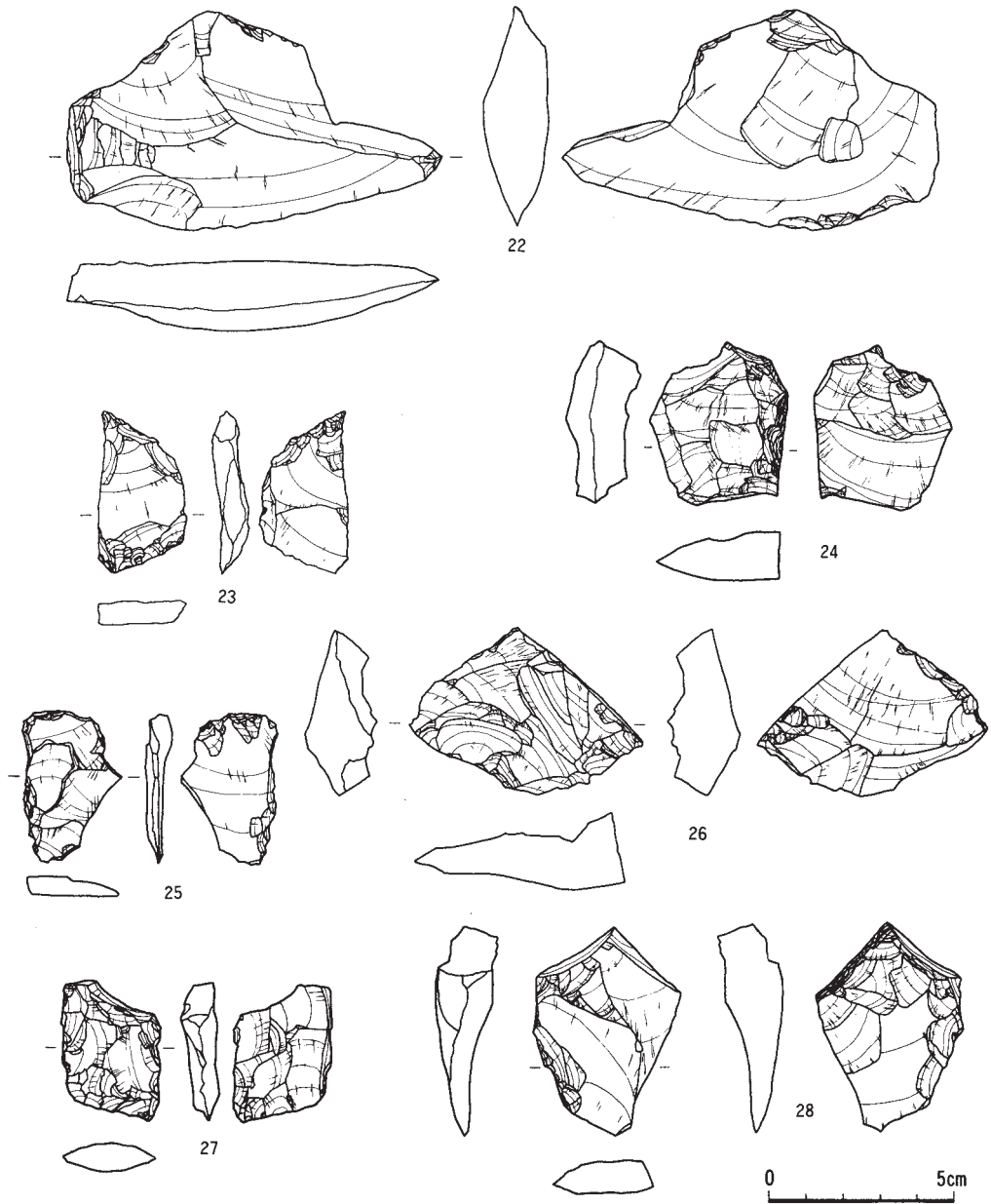




Ⅱ地区遺構外出土石器計測表(3)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第144図-15	A S-351	Ⅳ a	50	73	15	47.1	珪	F-I d	152	
第144図-16	A P-358	Ⅳ a	45	40	10	14.5	珪	F-I d	164	
第144図-17	A Q-354	Ⅳ a	25	53	8	10.5	珪	F-I d	155	
第144図-18	A Q-355	Ⅳ a	51	26	7	9.9	珪	F-I d	165	
第144図-19	A S-359	Ⅳ a	71	57	17	37.9	頁	F-I d	162	
第144図-20	A O-350	I	34	30	6	4.7	珪	F-II a	142	
第144図-21	A R-357	Ⅳ a	51	59	21	38.4	珪	F-Ⅳ	141	

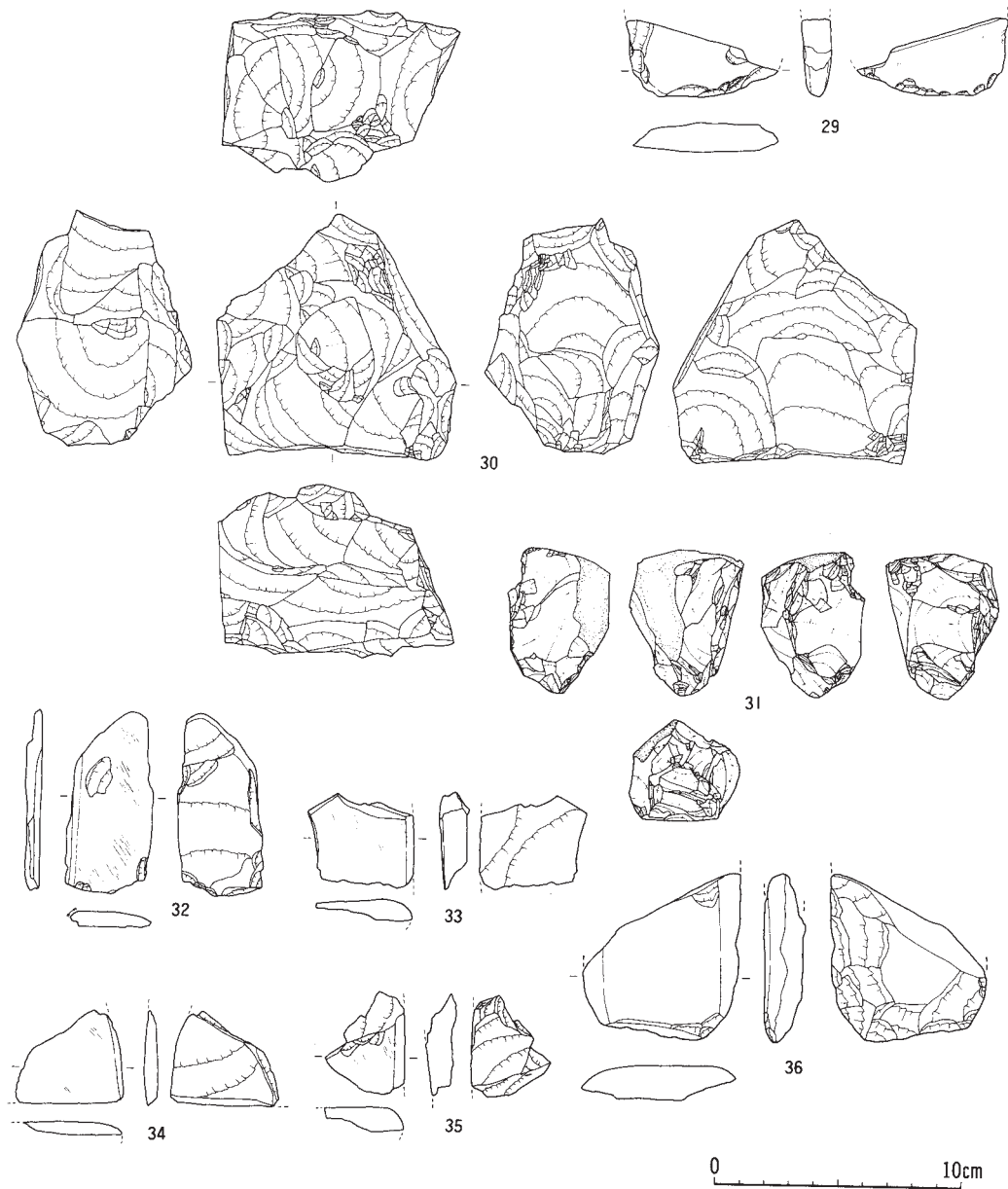
第144図 Ⅱ地区遺構外出土石器(3)



II地区遺構外出土石器計測表(4)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第145図-22	A O-361	IV a	58	102	18	52.1	頁	F-II a	163	
第145図-23	A P-355	IV a	43	24	8	8.6	珪	F-II b	140	
第145図-24	A N-358	IV a	45	42	16	26.2	珪	F-II b	143	
第145図-25	A R-359	IV a	41	26	6	5.9	珪	F-II b	157	
第145図-26	A P-355	IV a	44	62	21	32.4	珪	F-II b	150	
第145図-27	A O-356	I	26	34	9	10.0	珪	F-II b	151	
第145図-28	A O-356	IV a	56	39	16	27.7	珪	F-II b	160	

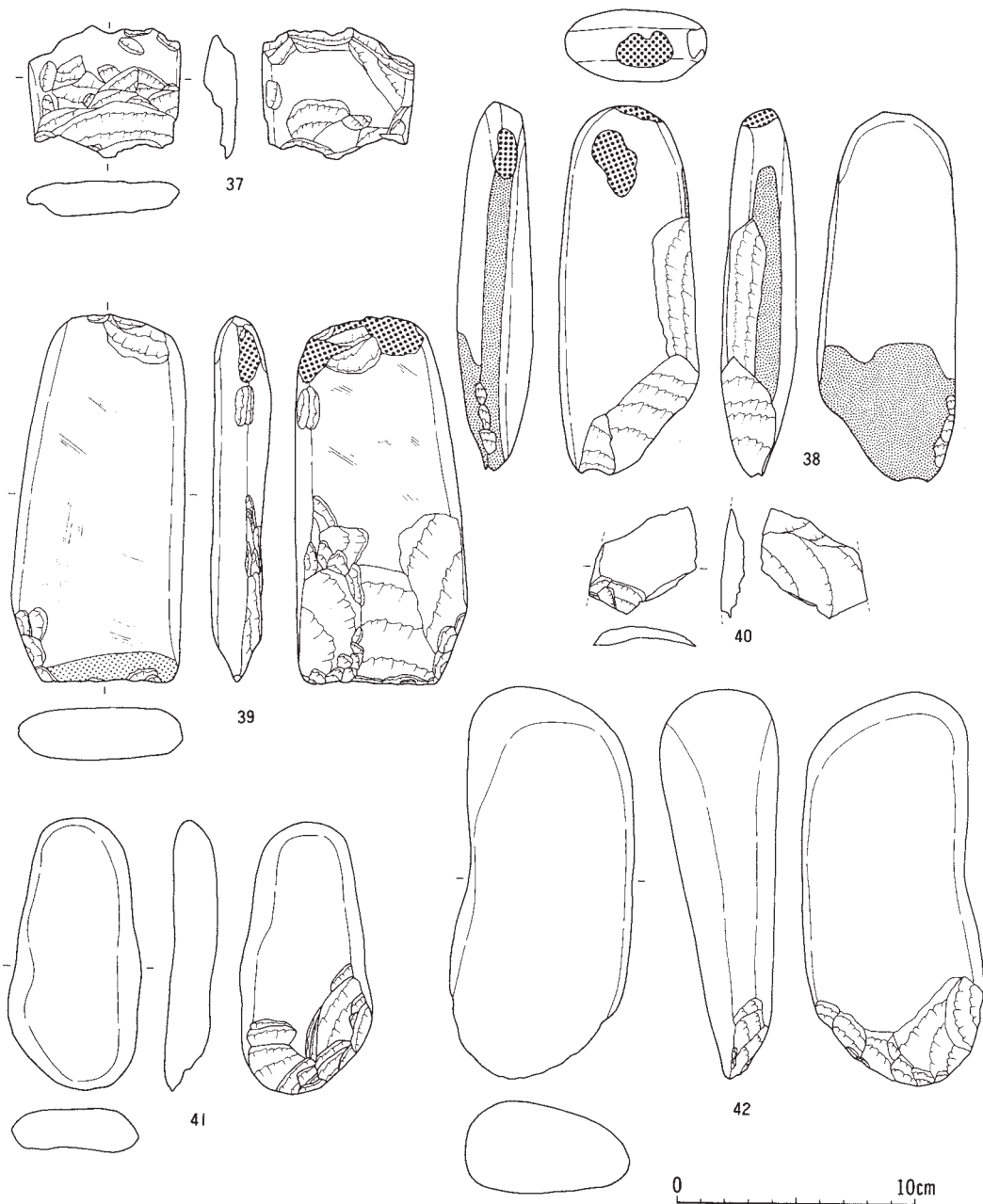
第145図 II地区遺構外出土石器(4)



II地区遺構外出土石器計測表(5)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第146図-29	A T-361	IV a	(59)	(30)	(12)	(26)	緑木	H-II	175	刃部残存、 敲打痕あり
第146図-30	A R-349	I	97	95	68	725	頁	G	55	
第146図-31	A O-353	IV a	40	55	40	112	珪	G	184	
第146図-32	A P-351	IV a	(74)	(34)	(7)	(24)	緑木	H-I	174	擦切痕あり
第146図-33	A P-362	IV a	(36)	(39)	(10)	(20)	緑木	H-II	183	欠損
第146図-34	A O-357	IV a	(43)	(38)	(6)	(12)	緑木	H-II	177	刃部残存
第146図-35	A Q-361	IV a	(41)	(31)	(13)	(12)	緑木	H-II	173	欠損
第146図-36	A Q-358	IV a	(69)	(61)	(16)	(78)	緑木	H-II	176	刃部残存

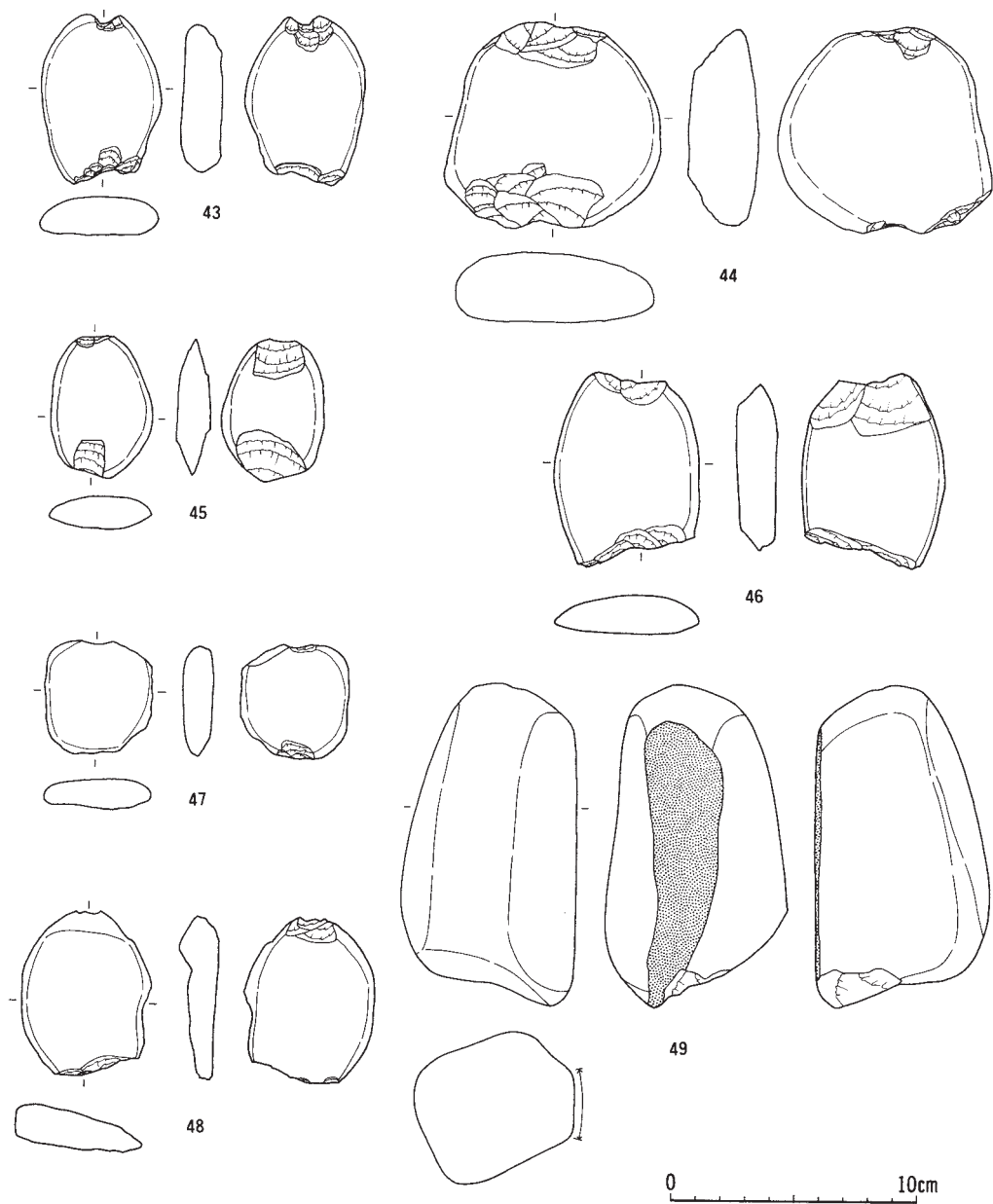
第146図 II地区遺構外出土石器(5)



Ⅱ地区遺構外出土石器計測表(6)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第147図-37	A R-354	Ⅳ b	(55)	(64)	(15)	(71)	緑ホ	H-Ⅱ	178	欠損
第147図-38	A P-353	Ⅳ a	153	59	30	401	砂	H-Ⅱ	53	スリ・タタキあり
第147図-39	A Q-351	Ⅳ a	155	72	26	496	緑ホ	H-Ⅲ	54	タタキあり
第147図-40	A O-361	Ⅳ a	(55)	(31)	(7)	(13)	緑ホ	H-Ⅱ	180	欠損
第147図-41	A P-353	Ⅳ a	114	55	20	185	チャ	I-Ⅰ	35	
第147図-42	A Q-359	Ⅳ a	164	74	47	771	砂	I-Ⅰ	52	

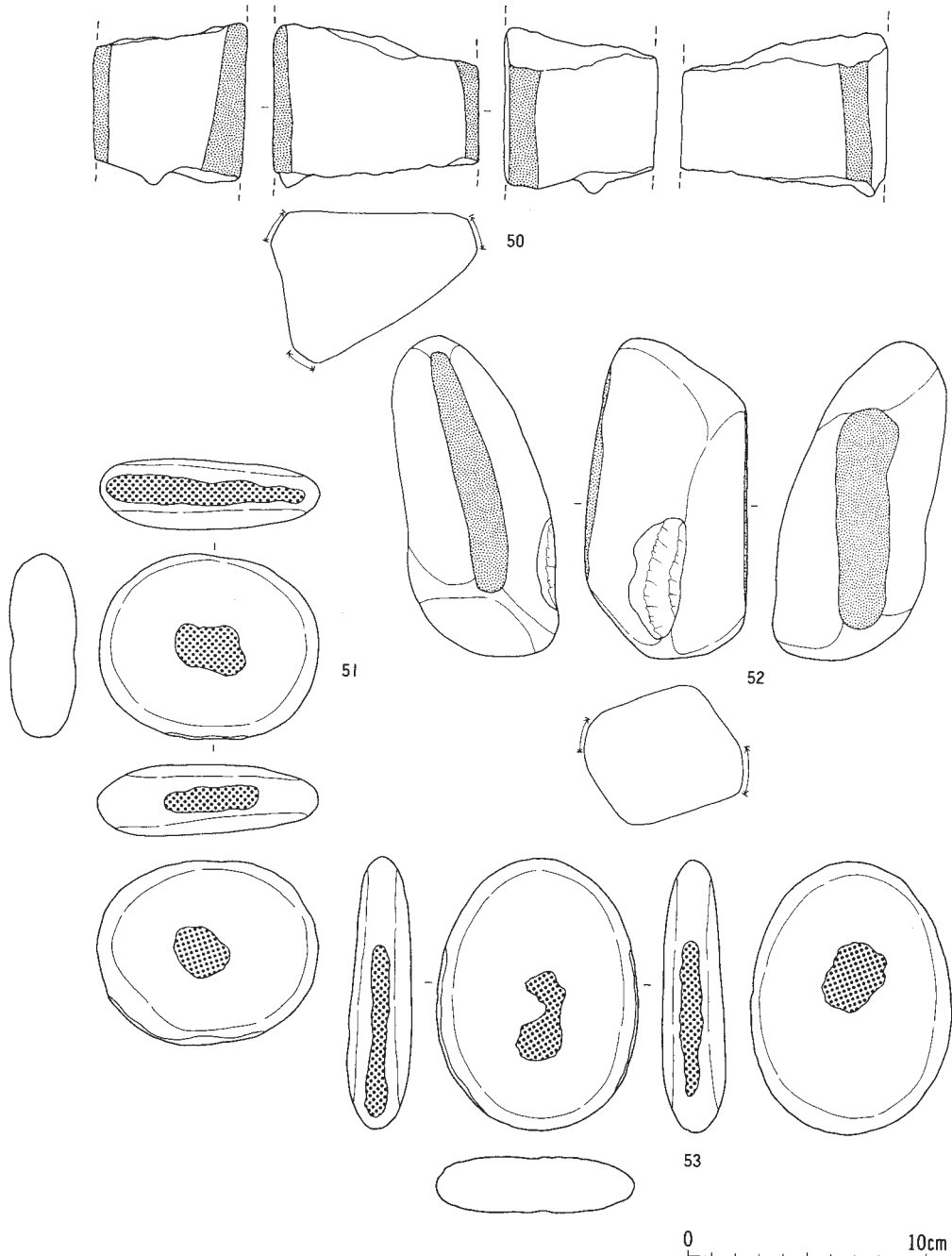
第147図 Ⅱ地区遺構外出土石器(6)



II地区遺構外出土石器計測表(7)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第148図-43	A P-362	IV a	68	48	16	72	凝	J-II a	38	
第148図-44	A T-353	IV a	83	85	27	274	安	J-II b	39	
第148図-45	A O-361	IV a	57	41	15	51	安	J-II a	43	
第148図-46	A R-352	IV a	80	59	19	133	安	J-II b	51	
第148図-47	A S-358	IV a	44	42	12	32	安	J-II c	44	
第148図-48	A O-354	IV a	68	54	20	77	安	J-II c	47	
第148図-49	A R-350	I	127	80	59	823	安	K-I c	36	スリ1面

第148図 II地区遺構外出土石器(7)



II地区遺構外出土石器計測表(8)

図版	出土地点	層	最大計測値				石質	分類	整理番号	備考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)				
第149図-50	A Q-358	IV b	(62)	88	63	(498)	安	K-I c	50	欠損、スリ3面
第149図-51	A P-360	I	92	73	29	323	凝	K-II a	45	タタキ4面
第149図-52	A O-353	IV a	139	65	57	696	安	K-I c	42	スリ2面
第149図-53	A O-358	IV a	114	84	25	349	安	K-II a	40	タタキ4面

第149図 II地区遺構外出土石器(8)

# 第 V 章 調査の成果

## 第 1 節 遺 構

### 1. 住居跡

本遺跡では、縄文時代早期中葉の白浜式期の住居跡が 2 軒、物見台式期の住居跡が 3 軒検出された。前者 2 軒はⅡ地区南東側の平坦面に、また、後者 3 軒はⅠ地区中央部の平坦面に位置している。

これからの住居跡については、白浜式期と物見台式期に分けて、若干のまとめを行いたい。

#### 白浜式期の住居跡

青森県内で、近年、白浜式期の住居跡の検出例が徐々に増加しつつあるが、絶対数はまだ少ないと言えよう。

現在のところ、八戸市根城跡(八戸市教・1982)、同長七谷地 8 号遺跡(八戸市教・1982)、三沢市根井沼遺跡(三沢市教・1988)、六ヶ所村上尾駮(2)遺跡(青森県教・1988)、同幸畑(1)遺跡(青森県教・1977)で合計 8 軒が検出されており、又、平成元年度に発掘調査された下田町中野平遺跡では住居跡 12 軒が検出された。(注)

次に、これらの住居跡と本遺跡で検出された住居跡との比較検討を住居跡の形状・規模、柱穴の配置、炉の有無等の順序で述べたい。

#### (住居跡の形状・規模)

本遺跡の住居跡の形状は、いずれも残存部分からの推定ではあるが、不整な楕円形及び隅丸長方形である。県内の遺跡では、上尾駮(2)遺跡、根城跡、根井沼遺跡で楕円形ないし楕円形に近い形状を呈する住居跡が 5 軒と多く、一般的な傾向と思われる。

本遺跡での規模は、推定面積ではあるが、約 10m<sup>2</sup>とその倍の約 18m<sup>2</sup>で、平均値は約 14m<sup>2</sup>である。県内では約 11～17m<sup>2</sup>の規模で、本遺跡検出例にほぼ近似する。

#### (柱穴の配置)

本遺跡では、いずれも柱穴が壁寄りに配置されている。県内では、柱穴の配置が不明な上尾駮、根井沼遺跡 2 H を除き、3 軒が壁寄りの柱穴配置で、一般的な傾向と思われる。なお、根井沼遺跡 1 H は五本の主柱穴をもつ住居跡であるが、下田町中野平遺跡では主柱穴をもつ住居跡が検出されており、今後の調査報告で増加すると思われる。

#### (炉の有無)

本遺跡では住居跡内で炉は検出されておらず、また、県内の各遺跡でも同様である。このことから、白浜式期の住居跡には炉が屋内になく、屋外に存在したのではないかとと思われるが、

今後の増加例を待ちたい。

(まとめ)

本遺跡で検出された住居跡は、形状・規模、柱穴の配置等いままで検出された当該期の住居跡とはほぼ一致しており、一般的な傾向と思われる。

なお、下田町中野平遺跡では、当該期の住居跡が12軒検出されており、資料が急激に増加することが期待され、調査報告を待ちたい。

(注) 平成元年度に青森県教育委員会では下田町中野平遺跡を発掘調査しており、調査の内容は遺跡見学会の小冊子を参照した。報告書は平成2年度刊行予定である。(奈良)

第3表 青森県内の白浜式期の住居跡  
〔本遺跡で検出された住居跡〕

住居番号	平面形	規模( )は推定			炉の有無	柱穴の配置	附属施設	備考
		長径(m)	短径(m)	面積(m <sup>2</sup> )				
5 H	不整な楕円形	(4.90)	(4.30)	(18.35)	無	壁寄りの配置	なし	
6 H	隅丸長方形	(4.32)	(3.20)	(9.92)	無	壁寄りの配置	なし	

〔青森県内で検出された住居跡〕

遺跡名	平面形	規模( )は推定			炉の有無	柱穴の配置	附属施設	備考
		長径(m)	短径(m)	面積(m <sup>2</sup> )				
表館(1) 1 H	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	住居跡南壁のみ
長七谷地8号 1 H	円形	4.05	3.25	11.0	無	壁寄りの配置20個	なし	溝状ピット、風倒木と重複
根城跡 S 153 H	楕円形	5.6	不明	不明	無	壁寄りの配置	なし	一部調査区域外、堀跡と重複
根城跡 S 154 H	隅丸長方形	4.55	不明	不明	無	壁寄りの配置	なし	S 153 Hと重複
根井沼(1) 1 H	不整な円形か楕円形	不明	不明	不明	無	5本の主柱穴	なし	風倒木と重複
根井沼(1) 2 H	不整な円形か楕円形	不明	不明	不明	無	配置不明2個のピット	なし	住居跡の西側不明
上尾駁(2) 65 H	不整楕円形	6.2	4.5	16.6	無	壁寄りにピット1個	なし	
上尾駁(2) 66 H	不整楕円形	6.0	5.0	17.0	無	壁寄りにピット1個	なし	

物見台式期の住居跡

青森県内での物見台式の住居跡の検出例は、八戸市売場遺跡(青森県教1985)の1軒と六ヶ所村弥栄平(7)遺跡の1軒と本遺跡の3軒を合わせた5軒の検出例であり、本県の検出例は少ない。次にこれらの住居跡について住居跡の形状・規模、柱穴の配置、炉の有無の順序で記載したい。

(住居跡の形状・規模)

本遺跡の3軒の住居跡の形状は、楕円形・隅丸長方形の形状を呈する。このような形状は縄文時代早期の貝殻文系土器の初期段階の白浜式においても同様な形態であり、又貝殻文系土器の末期段階吹切沢式の住居跡(吹切沢式の代表的な集落として東通村下田代納屋B遺跡(青森県郷1976)があげられる)の変化はみられない。この事は縄文時代早期の貝殻文系の時期には、楕円形・隅丸長方形が住居跡の基本的な形状と思われる。

規模は、第2・4号住居跡が長径約6m前後で床面積約20m<sup>2</sup>と近似した数値である。この住居跡の規模が当該期の平均的な住居跡と思われる。しかし、第1号住居跡は長径3mで床面積



約7㎡と他の住居跡と比較して小型であり、又、第2号住居跡から約30mという離れた位置に立地している点など他の住居跡と異質な感を与える。なお第2号住居跡の北側部分でテラスを検出したが、物見台式と同時期の北海道中野A遺跡（函館市1977）の第13号住居跡でも同様なテラスを検出しているが、テラスの用途に関しては不明である。テラスの出現期は、物見台式に出現したと思われる。

**（柱穴の配置）**

住居跡の柱穴配置は、第4号住居跡が4本柱の支柱穴をもつが、他の住居跡は壁よりにみられる壁柱穴が主体である。売場遺跡の検出した住居跡も壁柱穴が主体の住居跡である。

**（炉の有無）**

炉を有する住居跡は第2号住居跡の1軒である。中央部に位置し壁・底面はあまり火熱を受けておらず、長期間の使用とは考えにくい。同該期中野A遺跡の第11号住居跡でも炉を検出している。なお、他の第1・4号住居跡の中央部にピットを検出したが焼土がみられず炉とは断定出来なかった。

（成田）

注（1）青森県教育委員会文化課の工藤大氏より、弥栄平（7）遺跡から物見台式の隅丸長方形の住居跡を検出したというご教示を受けた。平成2年度に報告書刊行の予定である。

**第4表 青森県内の物見台式期の住居跡**  
〔本遺跡で検出された住居跡〕

住居番号	平面形	規模( )は推定			炉の有無	柱穴の配置	附属施設	備考
		長径(m)	短径(m)	面積(㎡)				
1H	隅丸長方形	3.32	2.82	7.36	無	壁寄りの配置	中央部に楕円形ピット	2号土壇と重複
2H	楕円形	5.90	4.40	20.6	無	壁寄りの配置	中央部に円形のピット	
3H	長方形	6.00	4.64	20.65	無	4本支柱穴の配置?	ピット2基	

**〔青森県内で検出された住居跡〕**

遺跡名	平面形	規模( )は推定			炉の有無	柱穴の配置	附属施設	備考
		長径(m)	短径(m)	面積(㎡)				
売場 202H	隅丸方形	不明	不明	不明	無	壁寄りの配置	なし	溝状ピットと重複

## 第2節 出土遺物

### 1. 土器

#### ア. 第Ⅰ群1類土器

本類土器は、白浜・小舟渡平式に比定される土器群である。本類土器の特徴としては次の点が上げられよう。

1. 刺突文施文の土器が比較的多く、とりわけ爪形状刺突文施文の土器が全体の32%を占めている。また、その刺突文施文部位は主として口縁部である。
2. 胎土中に植物性繊維の混入が全体の77%で多い。
3. 口唇部の断面形態は丸みのあるものと平坦なものが大部分を占めており、内傾するものは極めて少ない。

第1の特徴は、江坂輝彌氏が型式設定した従来の白浜式(江坂・1956)に相当する。また、本遺跡で出土した口縁部の肥厚するもの(第137図-64)は、いわゆる小舟渡平式にみいだされるものである。

第2・3の特徴は、六ヶ所村千歳(13)遺跡(青森県教・1977)の第Ⅰ群1類土器、同上尾駁(2)遺跡B・C地区(青森県教・1988)の第Ⅰ群1類土器等に見られ、白浜式土器に共通する点である。

ところで、白浜式及び小舟渡平式は、資料不足と双方の相違点が明確でないために、それぞれを明確に分離できないのが現状である。したがって、ここでは白浜式・小舟渡平式として一括した。

近年、六ヶ所村を中心に発掘調査が進展し、爪形状刺突文を主体として沈線文、貝殻圧痕文を施文した白浜・小舟渡平式の土器群の出土量が増加している。

本遺跡で出土した沈線文・刺突文・貝殻圧痕文施文の土器は、幸畑(1)遺跡(青森県教・1977)、八戸市根城跡(八戸市教・1982)、千歳(13)遺跡、三沢市根井沼遺跡(三沢市教・1988)、上尾駁(2)遺跡A・B・C地区等で出土している。

爪形状刺突文以外の棒状・竹管状工具による円形状刺突文(第136図-56・57・59・63)は上尾駁(2)遺跡A・B・C地区等で出土しており、また、底辺部まで施文されている刺突文(爪形状)は千歳(13)遺跡、館平遺跡(杉山・1980)で出土している。

第137図-64の貝殻圧痕文は横位・斜位方向に文様が構成され、施文部位は胴部から口縁部までであり、寺の沢式への関連が考えられると思われる。

以上のように、本遺跡で出土した爪形状刺突文を中心とした土器群は、千歳(13)遺跡、上尾駁(2)遺跡と類似しており、白浜・小舟渡平式の範疇でとらえられるものと思われる。

(奈良)

## イ. 第 I 群 2 類土器

貝殻腹縁文を主体とした本類土器は、物見台式（江坂・1950）に相当すると思われる。物見台式は、徐々にではあるが、最近の発掘調査で資料が増加している（表 5）。

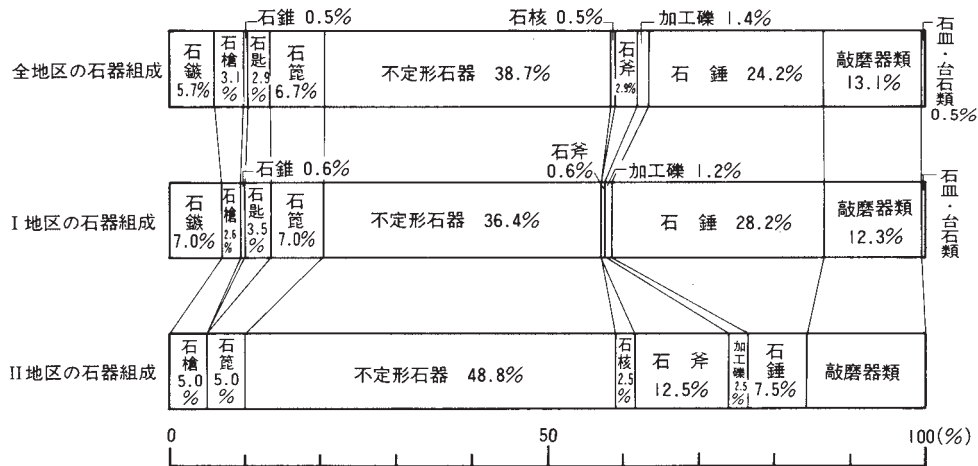
物見台式を概観すると、本類土器の山形状文・方形文を主体としたタイプ千歳遺跡 A 地点（青森県教・1974）と、渦巻文を主体とした千歳遺跡（青森県教・1986）・田面木平遺跡（八戸市教・1988）のもの両者に二分される。特に六ヶ所村に位置する本遺跡と千歳遺跡の土器様相は、地域差とは考えられず型式差として考えられる。A 種の山形文・方形文は、根井沼式（三沢市教・1988）の山形文・方形文の系譜の中で把握できると考えられ、縦位弧状文は渦巻文の萌芽的な文様と考えられる。このことは、本類土器が物見台式の初期の段階に位置付けられる。又編年序列は、根井沼式→第 I 群 2 類土器→千歳・田面木平と変遷したのではないかと考えられる。（成田）

第 5 表 青森県内物見台式出土遺跡

市 町 村	遺 跡 名
東 通 村	物見台遺跡
六 ヶ 所 村	千歳(13)遺跡・大石平遺跡・庄内墓地遺跡・新納屋(1)遺跡・表館(1)遺跡・上尾駮(2)C遺跡・発茶沢遺跡
三 沢 市	根井沼遺跡
八 戸 市	売場遺跡・長者森遺跡・長七谷地 1 号遺跡・田面木平遺跡・鶉窪遺跡
青 森 市	蛭沢遺跡
浪 岡 町	源常平遺跡
平 賀 町	鳥海山遺跡

## 2. 石器

本遺跡で出土した石器は、石鏃・石槍・石錘・石匙、石篋、不定形石器、石核、石斧、加工礫、石錘、敲磨器類、石皿・台石類の12種類で、総計421点の出土である。



第150図 I・II地区石器組成

本遺跡では、I地区で物見台式期の住居跡が3軒検出され、その周辺には物見台式の土器が出土しており、さらに、II地区では白浜式期の住居跡が2軒検出され、その周辺に白浜・小舟渡平式の土器が出土している。このように、本遺跡は各地区ごとに単一時期の遺構・遺物で構成されている。

これにもとづいて石器の組成を概観すると、I地区では11種類の石器で構成されており、不定形石器が36.4%、石錘が28.2%で比較的多く出土している。また、II地区では8種類の石器で構成されており、不定形石器が48.8%と圧倒的に多く、次いで敲磨器類が16.3%で比較的多く出土している。

I地区とII地区を比較すると、不定形石器は双方に共通して多く出土しており、数量は少ないが石槍・石篋は両者で出土している。相違点は、石錘はI地区で極端に多く、逆に石斧がII地区に多い傾向を示している。

石器の石質は、剥片石器では圧倒的に珪質頁岩が多い。また、礫石器では安山岩、チャートが多く、粘板岩、砂岩は少ない。石斧では、緑色ホルンフェルスが多い傾向を示している。

本遺跡の石器の出土状況として注目される点は、

1. 石鏃は長脚状の無茎石鏃が多く、しかもI地区の住居跡からの出土が多い。
2. 石匙はI地区の住居跡周辺から出土した。
3. 石錘はI地区の住居跡周辺からの出土が多く、しかも当時の海岸線に近い。

があげられよう。

本遺跡では、石鏃が物見台式期に相当すると思われ、無茎鏃・五角形鏃が中心である。工藤竹久氏の言う「尖底貝殻土器時代は無茎鏃・五角形鏃の2つの基本形態から構成されるのが特徴である」(工藤・1977)点と一致し、とりわけ住居跡内に長脚状の無茎鏃が多い点は注目される。さらに、石匙は本遺跡では、I地区にのみ出土した。リタッチの施されている石匙は縄文時代早期末葉～前期初頭に多い傾向を示すが、本遺跡では物見台式期の土器に伴う点が注目される。

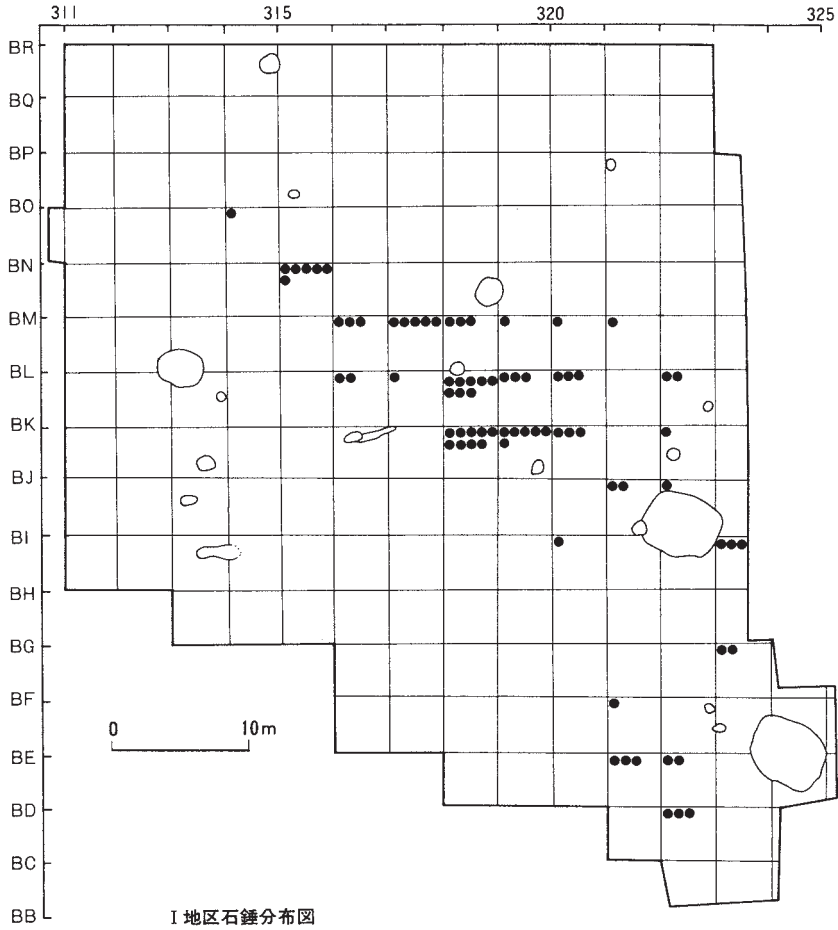
また、石錘はI地区(物見台式期)で高い比率で出土した。製作技法としては器体の長軸方向の両端部を打ち欠いているものが多く、また、大きさ・重さは平均値より小さい値のものが多く、いずれも最大値と最小値の開きは大きい傾向にある。

石錘の用途としては、従来、漁網錘・編み物用の錘等考えられている。石錘の漁網錘としての用途に否定的な見方(渡辺・1973)もあり、諸説の多いところである。

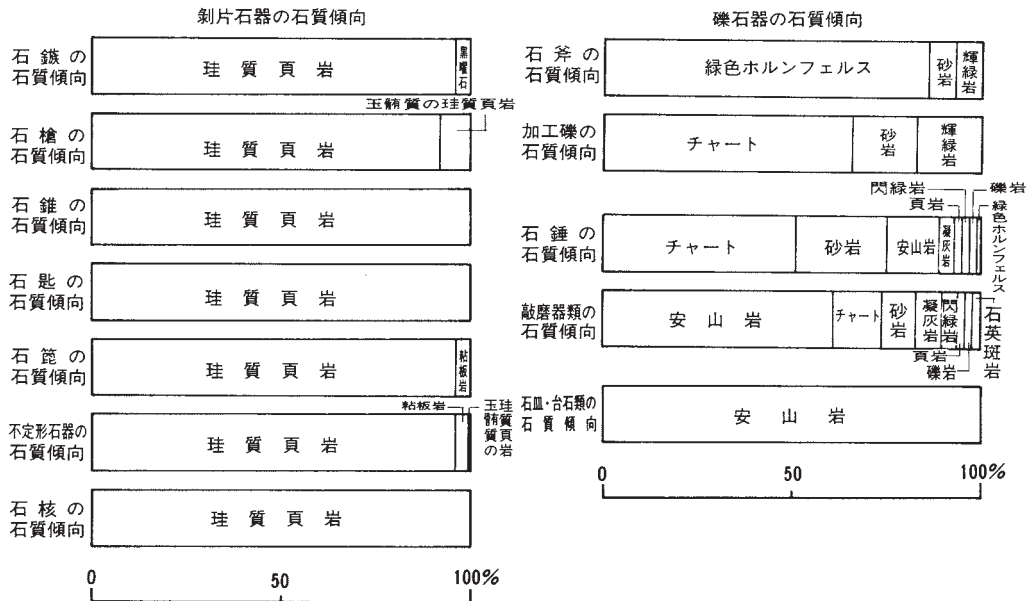
本遺跡では、当時の地形から、石錘の出土地点が海岸線と推定される地点に近いことから漁業に関わりがあると思われるが、石錘の大きさ・重さがバラエティーであることからその用途も多様であったと考えられる。

本県の縄文時代早期の遺跡での石器組成について見ると、本遺跡I地区と東通村下田代納屋遺跡(吹切沢式期)の組成が類似している。いずれも石錘の出土比率が高く、このことは地形的な要因なのか、あるいは、時期的な一般的な傾向なのかは今後の調査事例を待ちたい。

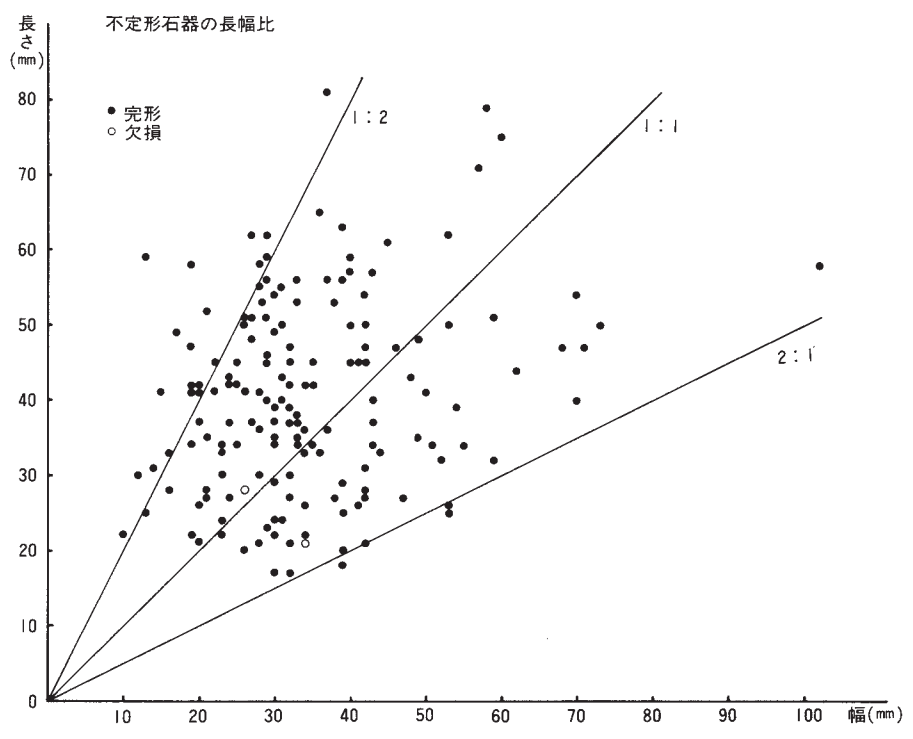
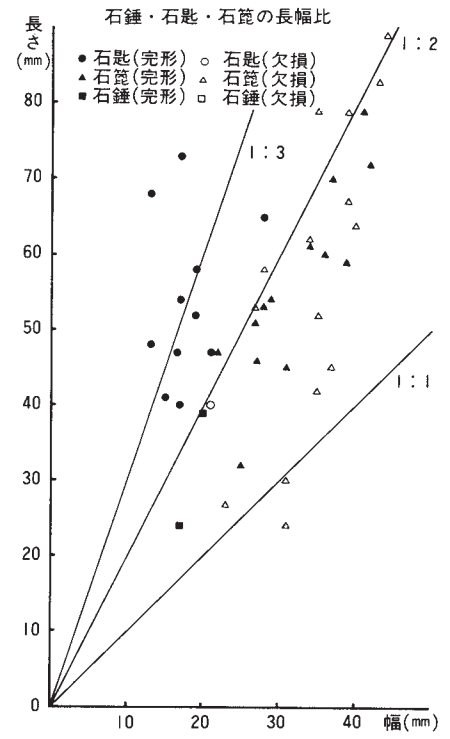
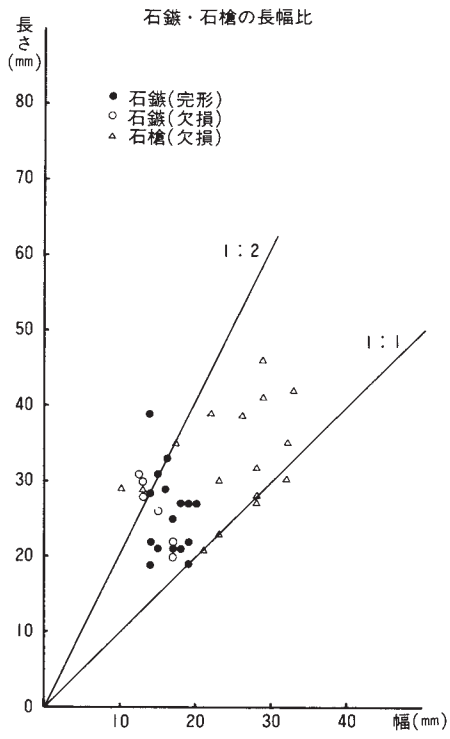
(奈良)



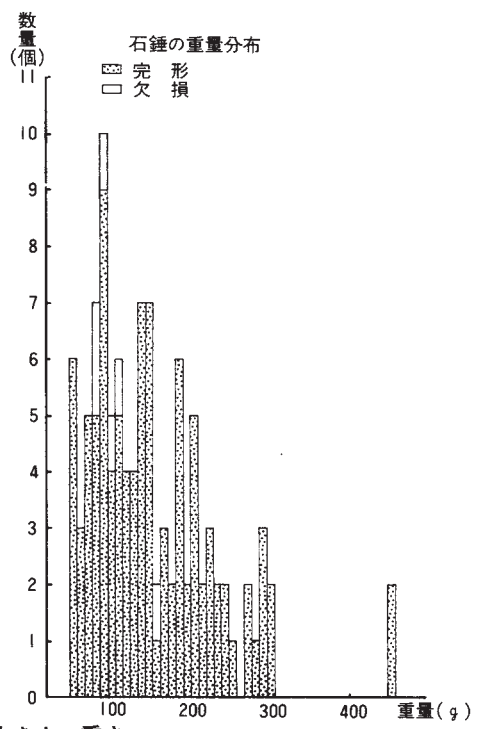
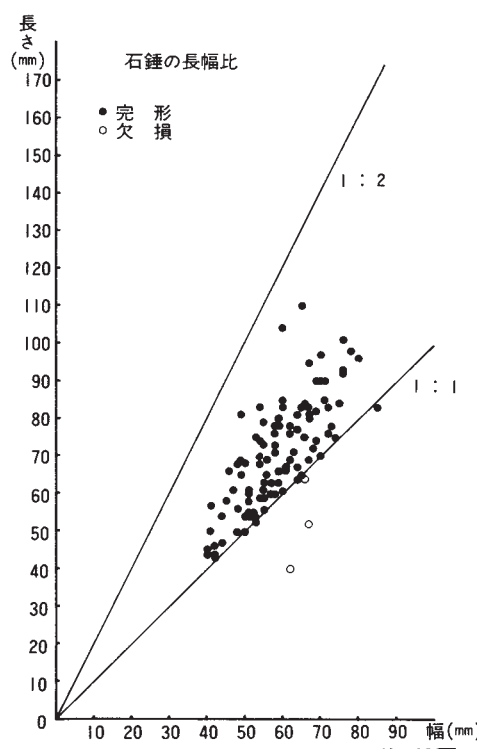
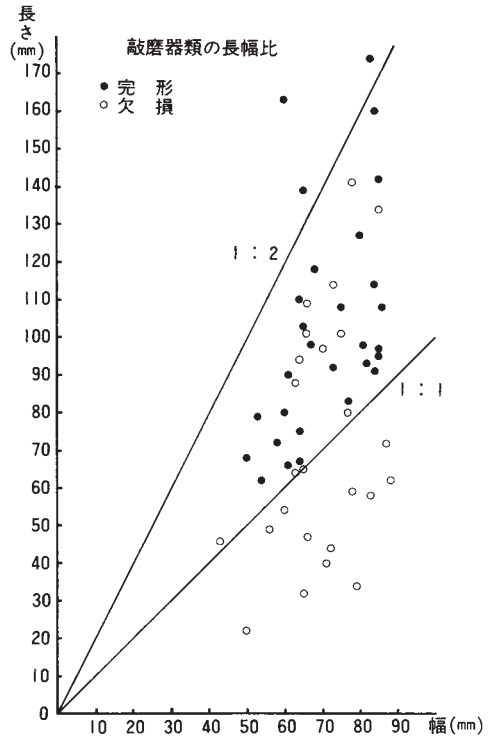
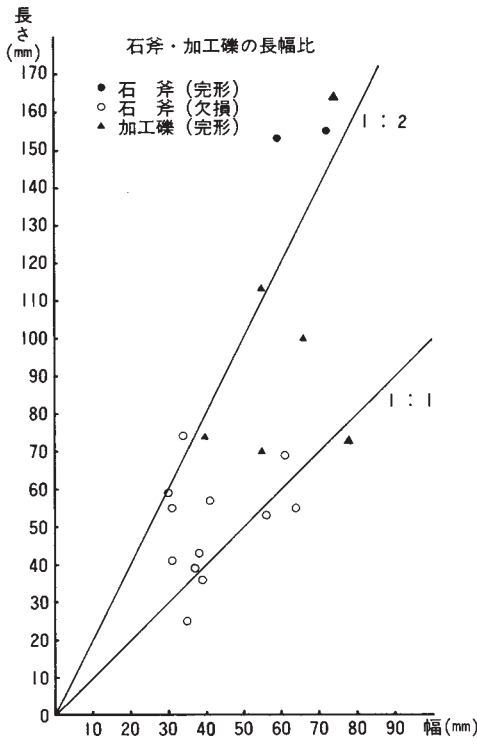
I 地区石錘分布図



第151図 I 地区石錘分布図・石器の石質傾向



第152図 石器の大きさ



第153図 石器の大きさ・重さ



# 第Ⅵ章 自然科学的分析

## 第1節 花粉分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### 1. 目的

本調査の目的は、花粒分析の手法を用いて、表館(1)A遺跡周辺の縄文時代早期頃の古植生を復元することにある。

### 2. 試料

分析試料は、BM-323北壁断面のⅣb層およびⅦ層において各1点ずつ採集された2点である(表1)。なお、Ⅳb層は縄文時代早期の貝殻文土器包含層、Ⅶ層は地山とされる。

### 3. 分析方法および結果の表示法

花粉・胞子化石の抽出は、以下に示した方法で行った。

試料を湿重で10~15g秤量し、フッ化水素(HF)処理により試料中の珪酸質の溶解と試料の泥化を行う。次に重液(ZnBr<sub>2</sub> 比重2.2)を用いて鉱物質と有機物を分離させ、有機物を濃集する。その有機物残渣について、アセトリシス処理を行い植物遺体中のセルロースを加水分解して、最後にKOH処理により腐植酸の溶解を行う。

処理後の残渣は、よく攪拌しマイクロピペットで適量を取り、グリセリンで封入しプレパラートを作成した。検鏡においてはプレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類(Taxa)について同定・計数した。

古植生の検討を行うために、花粉化石群集変遷図を作成した。出現率は木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総花粉・胞子数から不明花粉数を除いた数を基数として百分率で算出した。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは種類間の区別が困難なものである。

### 4. 結果

本調査で分析した全試料とも、花粉化石・シダ類胞子化石がほとんど検出されなかった(表2)。また、これらの化石は保存状態が極めて悪く、破損・溶解がかなり進んでいた(図版1)。

### 5. 考察

本調査によって、分析した全試料からは花粉化石がほとんど検出されなかった。この原因と

しては、好氣的な環境下による酸化や微生物などの影響により花粉化石が分解してしまったことが考えられる。特に、今回の試料のような「ローム」とよばれている風成堆積物には、一般に花粉・シダ類孢子が化石として残っている可能性が低く、花粉・シダ類孢子化石の大部分が分解してしまっていると考えられる。一般に、被子植物より裸子植物の花粉やシダ類孢子の方が、風化・腐敗に対して抵抗が強い。そのため、花粉化石の保存が悪く落葉樹の半数以上に風化の痕跡が見られるような場合には、その試料は花粉分析には不適である（徳永・山内、1971）とされている。以上のことから、今回の分析結果から古植生を復元することは差し控えた。今後、本遺跡周辺の縄文時代における植生を検討するには、周辺の低地などの花粉化石の保存状態が良好と思われる場所で採取した同時期の堆積物を分析対象とする必要がある。

第6表 表館(1)A遺跡分析試料表

試料 No	分析項目		採集層位等	時代	土質
	花粉	植物 珪酸体			
1	○	—	IV b 層	縄文時代早期	にぶい黄褐色シルト
2	○	—	VII層	縄文時代早期	明黄褐色シルト

第7表 表館(1)A遺跡花粉分析結果

種類 (Taxa)	試料No	
	1	2
木本花粉		
マツ属	-	1
コナラ属コナラ亜属	2	-
ウルシ属	8	-
草本花粉		
イネ科	-	1
キンボウケ科	1	-
ヨモギ属	4	1
他のキク亜科	11	2
不明花粉	1	-
シダ類孢子		
シダ類孢子	9	1
Pseudoschizaea	2	-
合計		
木本花粉	10	1
草本花粉	16	4
不明花粉	1	0
シダ類孢子	9	1
総花粉・孢子	36	6

## 第2節 年代測定

学習院大学放射性炭素年代測定結果報告書

学習院大学教授 木越邦彦

1989年 12月27日

青森県埋蔵文化財調査センター殿

1989年9月20日受領致しました試料についての年代測定の結果を下記の通り御報告致します。

なお年代値の算出には $^{14}\text{C}$ の半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差は $\beta$ 線の計数値の標準偏差 $\sigma$ にもとずいて算出した年数で、標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料の $\beta$ 線計数率と自然計数率の差が $2\sigma$ 以下のときは、 $3\sigma$ に相当する年代を下限の年代値(B.P.)として表示してあります。また試料の $\beta$ 線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が $2\sigma$ 以下のときには、Modernと表示し、 $\delta^{14}\text{C}\%$ を付記してあります。

### 記

---

Code No.	試料	年代(1950年よりの年数)
GaK-14534	Charcoal from 表館(1)遺跡	430 $\pm$ 90
	C-1 2号住	A.D. 1520
GaK-14535	Charcoal from 表館(1)遺跡	2200 $\pm$ 110
	C-2 4号住	250 B.C

---

## 第Ⅶ章 ま と め

1. 本遺跡は、尾駮沼と平沼にはさまれた台地上に立地し、西側台地に瓮茶沢遺跡が位置する。標高は約12～17mである。
2. 表館(1)遺跡は、湿地によって二分されており、本来は別遺跡としてとらえる必要がある。このため北側台地をⅠ地区、東側台地をⅡ地区と呼称する。
3. 表館(1)遺跡Ⅰ地区は、縄文時代早期(白浜式・物見台式・早稲田Ⅳ式)・中期末葉～後期前葉・晩期の遺物が出土しているが、その主体をなすものは縄文時代早期(物見台式)である。遺構は、住居跡3軒・土壙16基・溝状ピット2基である。その時期は、住居跡が縄文時代早期(物見台式)であるが、他の土壙・溝状ピットについては不明である。
4. 表館(1)遺跡Ⅱ地区は、縄文時代早期の遺物(白浜式・物見台式)が出土しているが、その主体をなすものは縄文時代早期(白浜式)である。遺構は、住居跡2軒・土壙2基・溝状ピット3基である。その時期は、住居跡が縄文時代早期(白浜式)であるが、他の土壙・溝状ピットについては不明である。
5. 遺構は、調査範囲が狭いため断定できないが各地区の遺構分布状況から、集落の外縁部に相当すると考えられる。特にⅠ地区から検出した縄文時代早期(物見台式)の住居跡は、県内での検出例が少なく、貴重な資料を提供したと考えられる。
6. 出土した土器は、縄文時代の各期のものであるが、なかでも縄文時代早期中葉の貝殻文系土器が主体である。この時期の土器編年については種々論議されているところである。出土量の多かった物見台式は、従来出土量が少なかつただけに、他地域及び他遺跡の比較資料として重要と考えられる。
7. 出土した石器については、長脚状の無茎石鏃と石匙がⅠ地区(物見台式期)から出土している。また、石錘は全体の出土量が多く、特にⅠ地区から多く出土している。当該期の石器組成はこれまで不明瞭であり、当時の生活を知るうえで貴重な資料と思われる。

(成田・奈良)

## 引用・参考文献

\*青埋文は青森県埋蔵文化財調査報告書の略である。

- 青森県教育委員会 1974 『むつ小川原開発に伴う新住区予定地域内埋蔵文化財分布・試掘調査報告書』 県埋文第10集
- 青森県教育委員会 1976 『千歳(13)遺跡発掘調査報告書』 県埋文第27集
- 青森県教育委員会 1977 『むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財試掘調査概報』 県埋文第36集
- 青森県教育委員会 1981 『鷹架遺跡発掘調査報告書』 県埋文第63集
- 青森県教育委員会 1981 『表館遺跡発掘調査報告書』 県埋文第61集
- 青森県教育委員会 1985 『売場遺跡発掘調査報告書』 県埋文第93集
- 青森県教育委員会 1986 『大石平遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 県埋文第97集
- 青森県教育委員会 1988 『上尾駮(2)遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 県埋文第114集
- 青森県教育委員会 1988 『上尾駮(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 県埋文第115集
- 青森県教育委員会 1989 『表館(1)遺跡試掘調査報告書』 県埋文第121集
- 青森県立郷土館 1976 『下田代納屋B遺跡発掘調査報告書』 青森県立郷土館調査報告第1集
- 江坂輝弥 1950 「青森県下北郡東通村尻屋物見台遺跡発掘調査報告」『考古学雑誌』第36巻4号
- 江坂輝弥 1954 「各地域の縄文土器—東北—」『日本考古学講座』3
- 工藤竹久 1977 「北日本の石槍・石鏃について」『北奥古代文化』第9号
- 庄内昭男 1983 「貝殻文」『縄文文化の研究』5
- 杉山 武 1980 「白浜式・小舟渡平式土器にかかわる館平遺跡出土の早期貝殻文土器について」『奥南創刊号』
- 杉山 武 1982 「白浜式・小舟渡平式土器にかかわる館平遺跡出土の早期貝殻文土器について(2)」『奥南2号』
- 名久井文明 1974 「北日本縄文式早期編年に関する一試考」『考古学雑誌』第61巻3号
- 八戸市教育委員会 1982 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅳ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第9集
- 八戸市教育委員会 1982 『長七谷地遺跡発掘調査報告書—長七谷地8号遺跡—』八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 八戸市教育委員会 1986 『八戸新都市区域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—鳥木沢遺跡—』

八戸市埋蔵文化財調査報告書第17集

函館市教育委員会 1977 「函館空港第4地点中野遺跡」

三沢市教育委員会 1988 『根井沼遺跡緊急発掘調査報告書Ⅱ』三沢市埋蔵文化財調査報告書  
第4集

渡辺 誠 1973 『縄文時代の漁業』 考古学選書7 雄山閣

# 写 真 图 版





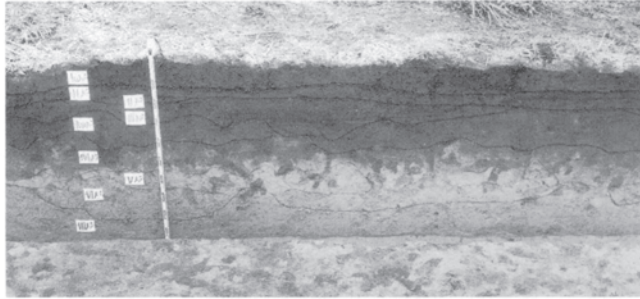
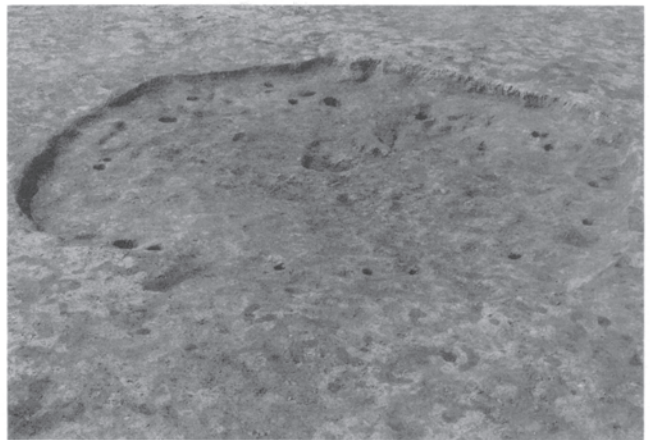
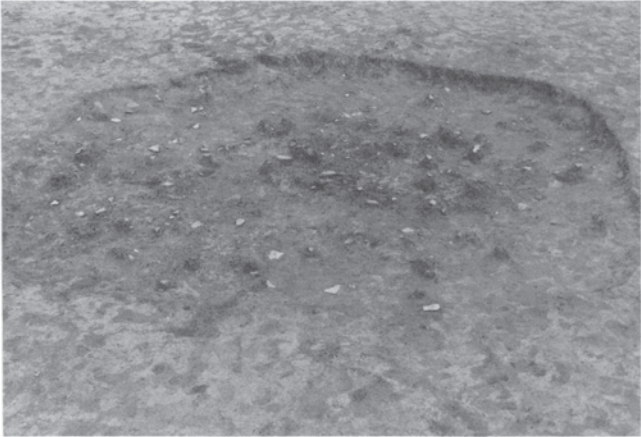
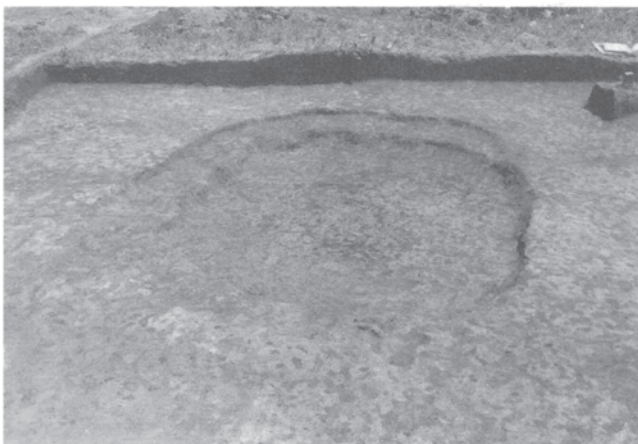
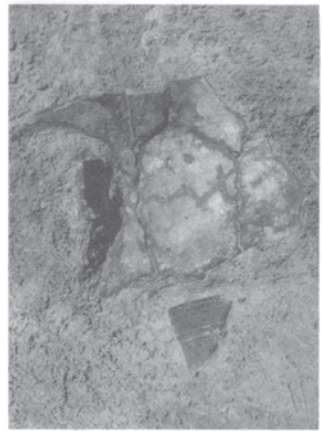
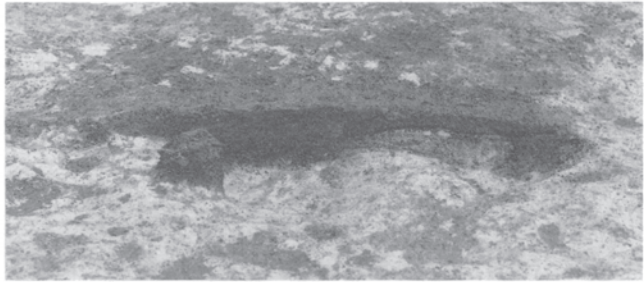
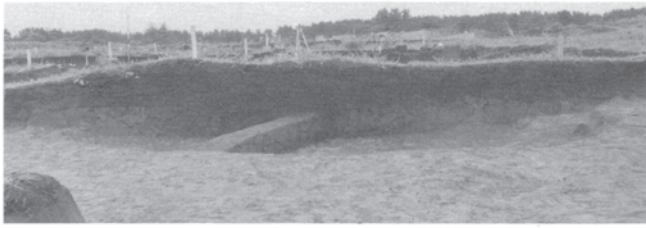


写真1 I地区遠景写真・基本層序



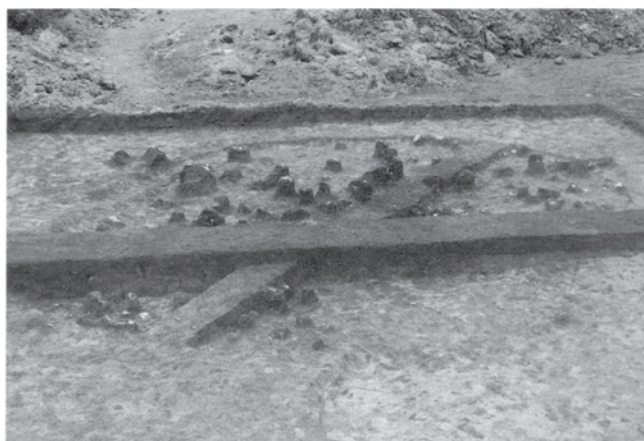
第1号住居跡

写真2 I地区住居跡(1)

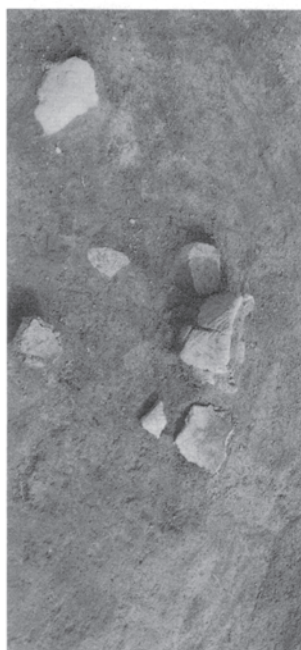


第2号住居跡

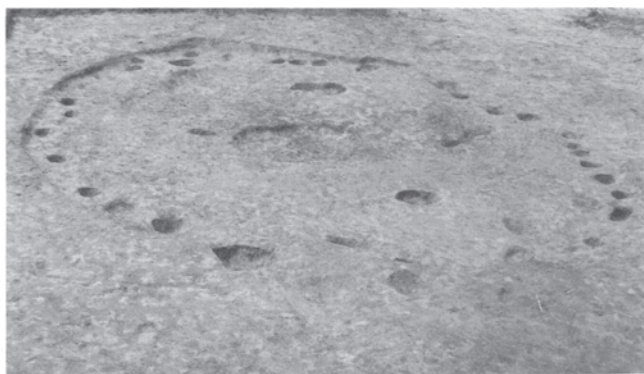
写真3 I地区住居跡(2)



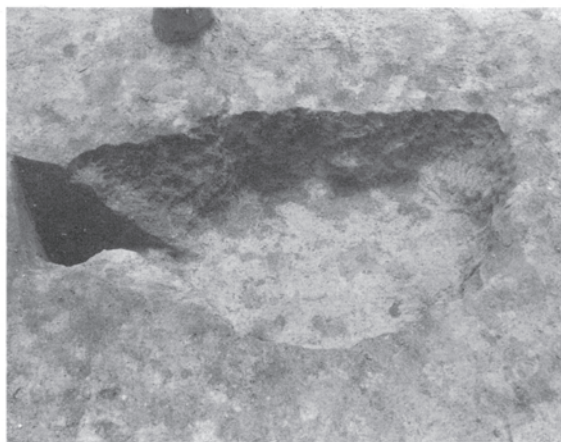
第4号住居跡



第4号住居跡



第4号住居跡

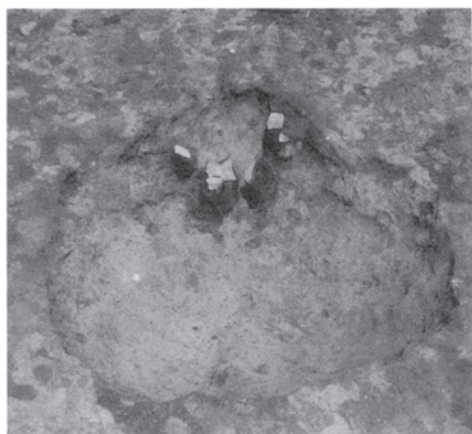


第1号土塊

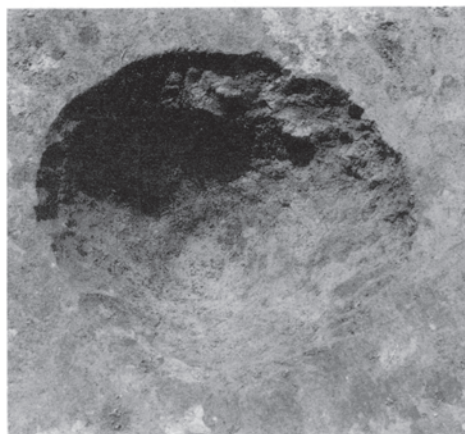
写真4 I地区住居跡・土塊



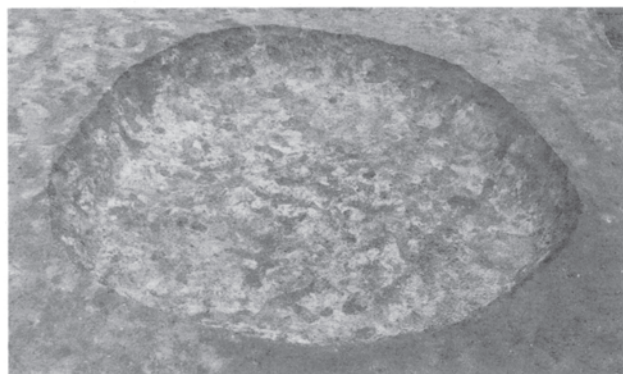
第3号土塊



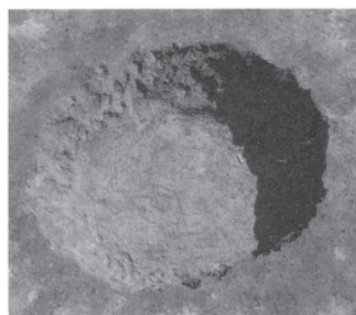
第5号土壤



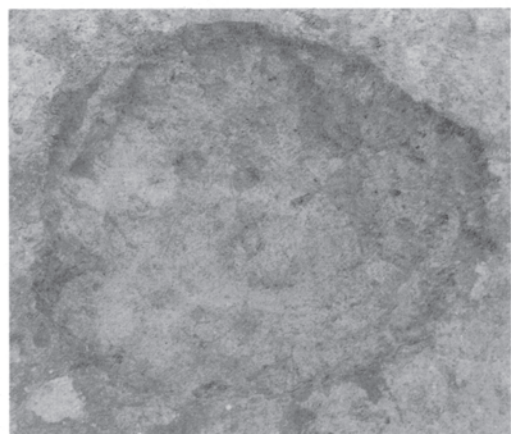
第6号土壤



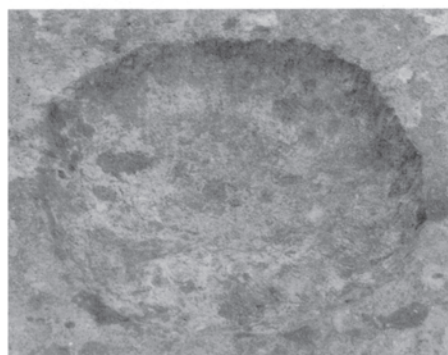
第10号土壤



第7号土壤

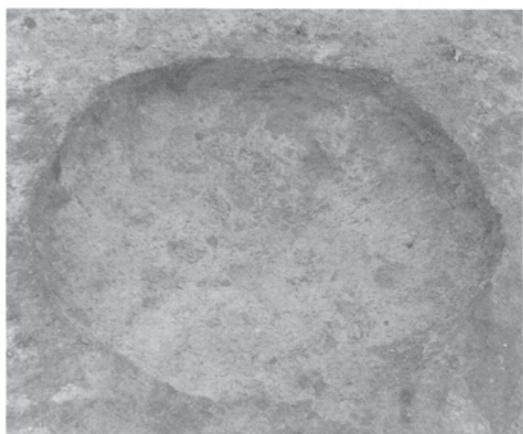


第11号土壤

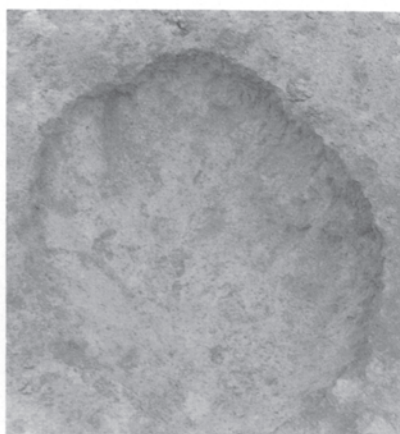


第12号土壤

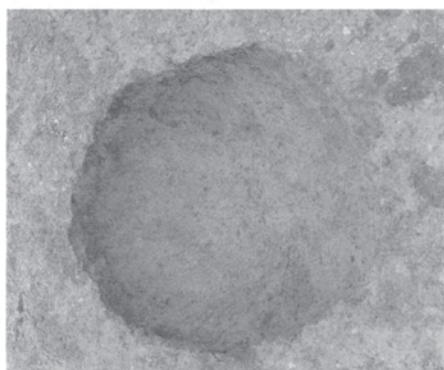
写真5 I地区土壤



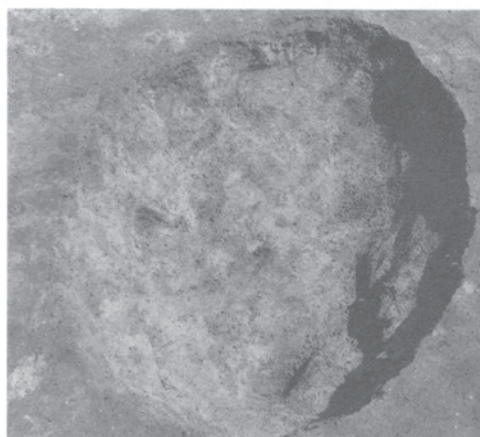
第13号土壌



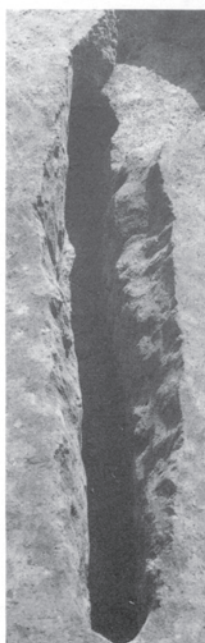
第15号土壌



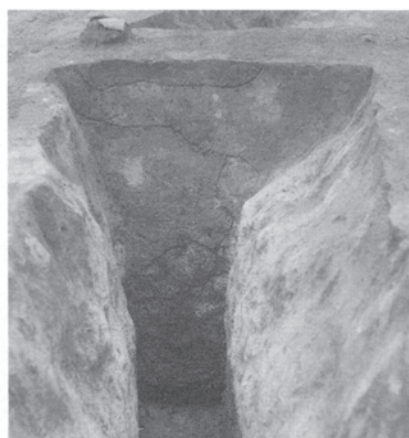
第16号土壌



第18号土壌



第1号溝状ビット



第1号溝状ビット



第2号溝状ビット

写真6 I地区土壌・溝状ビット

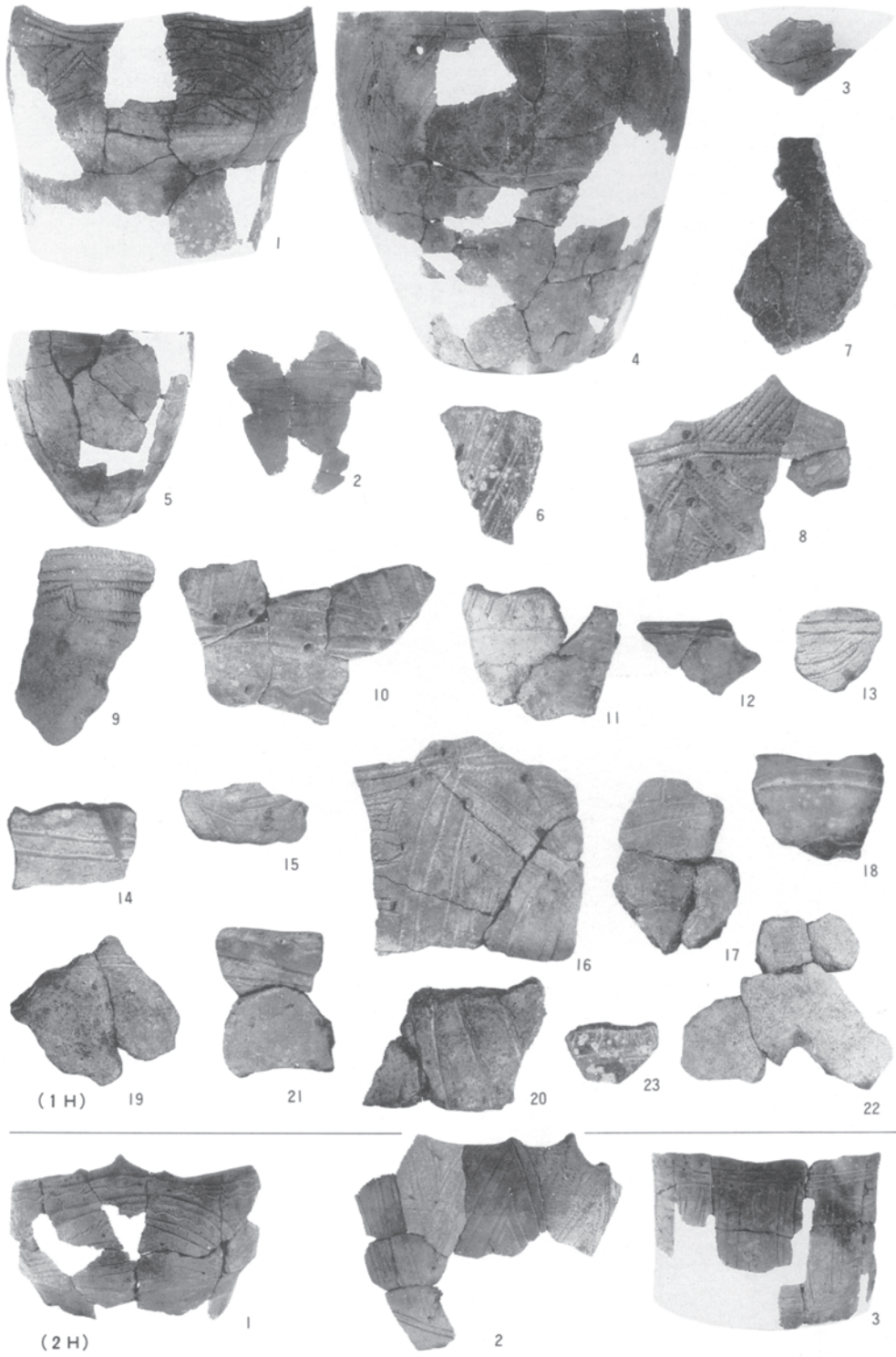


写真7 I地区住居跡出土土器(1)

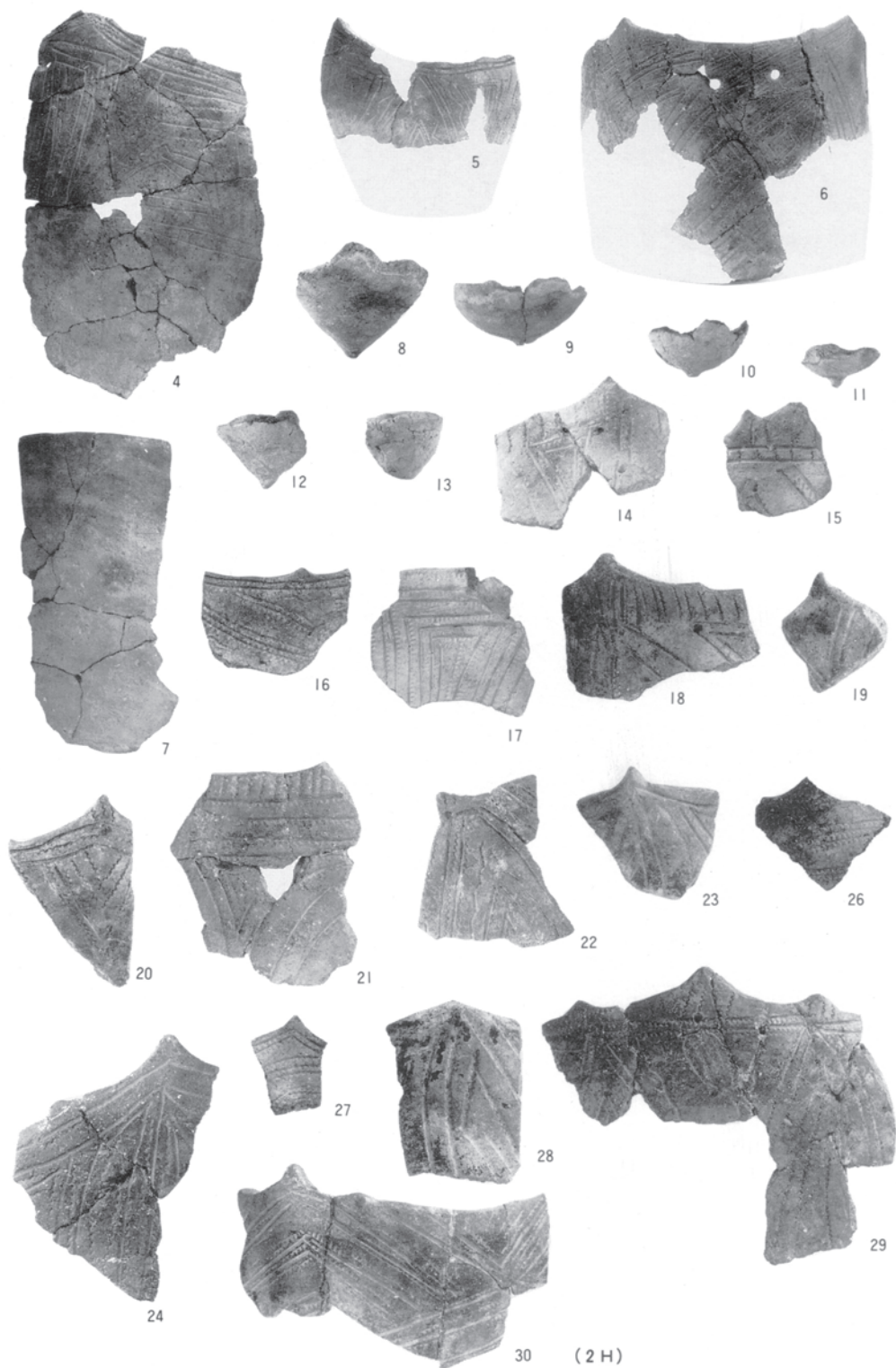
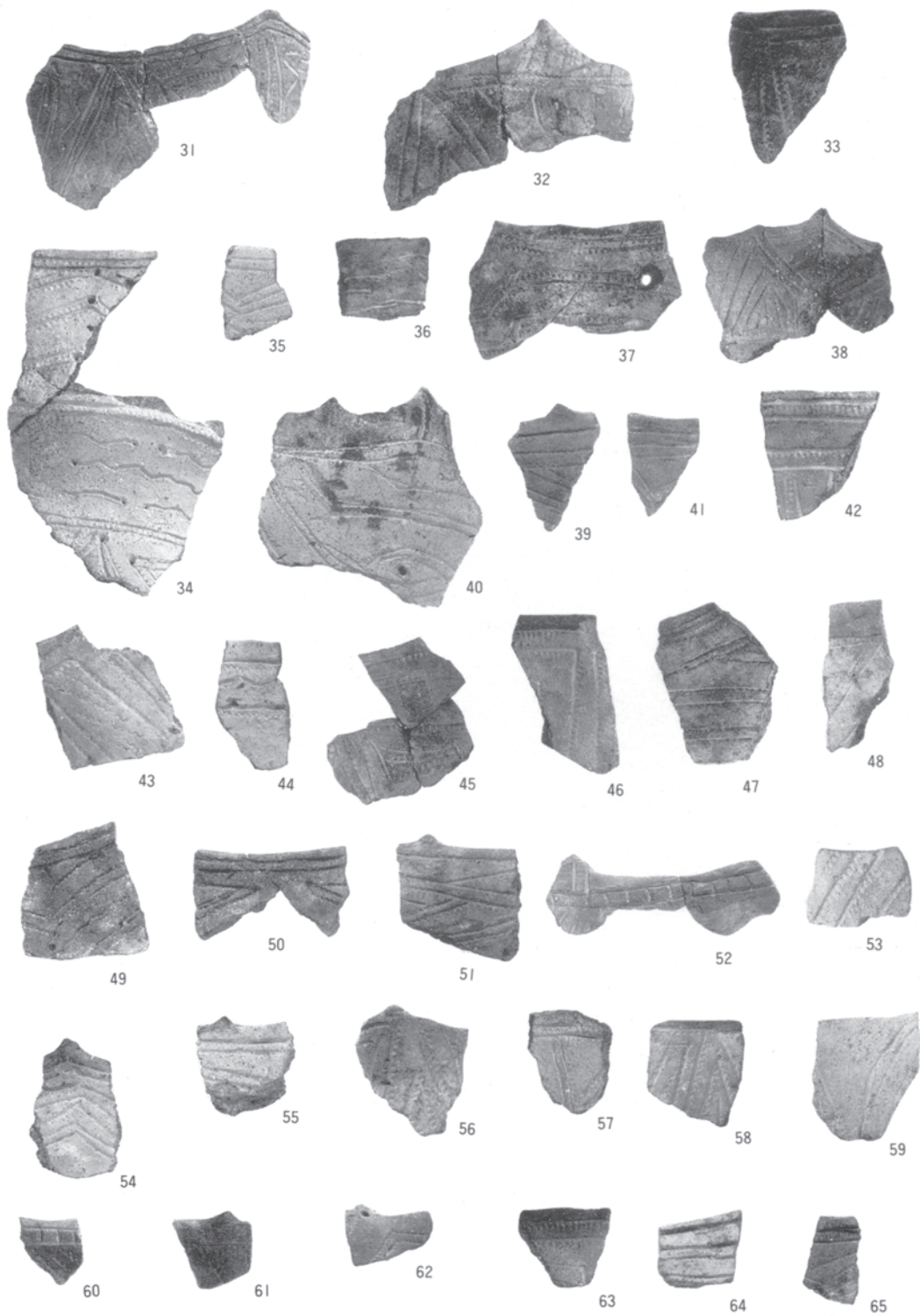


写真8 I地区住居跡出土土器(2)





(2 H)

写真9 I地区住居跡出土土器(3)

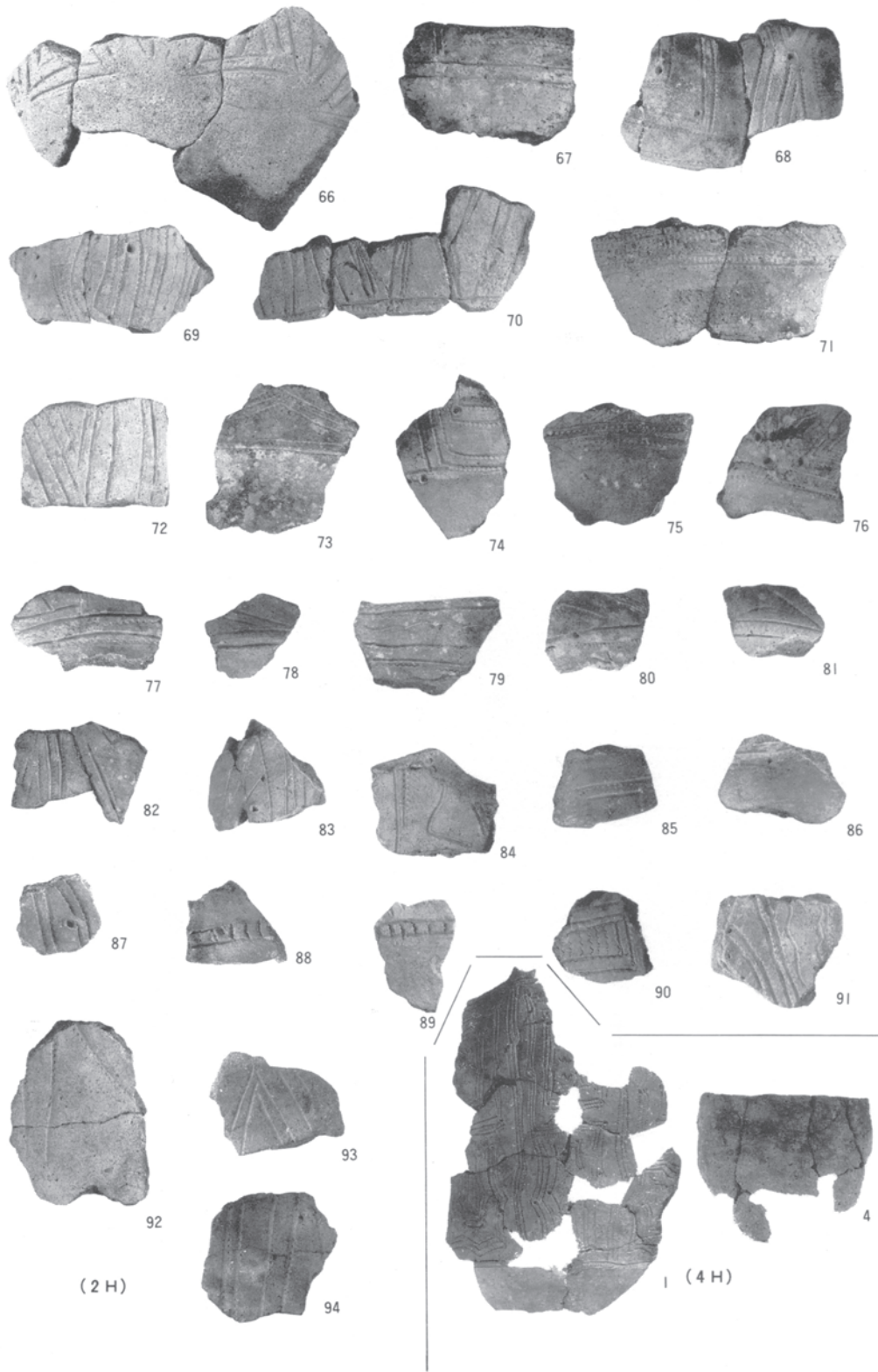


写真10 I地区住居跡出土土器(4)

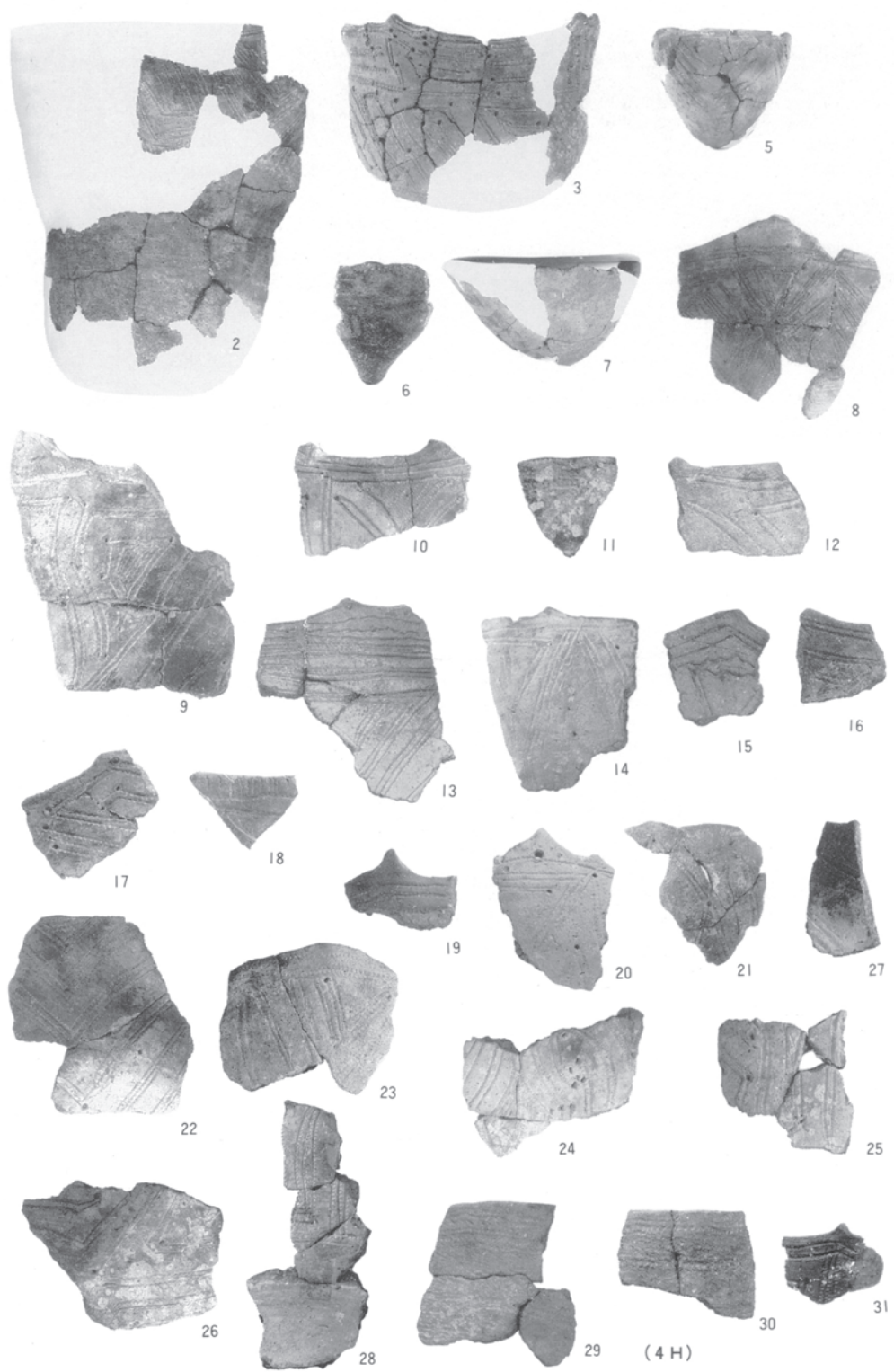


写真11 I地区住居跡出土土器(5)

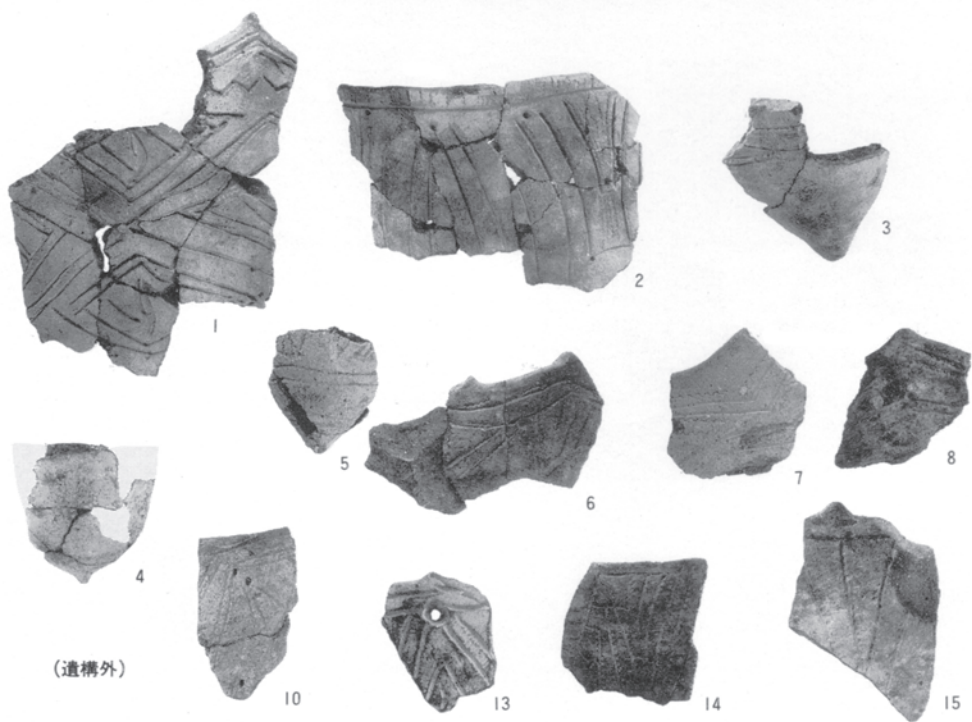
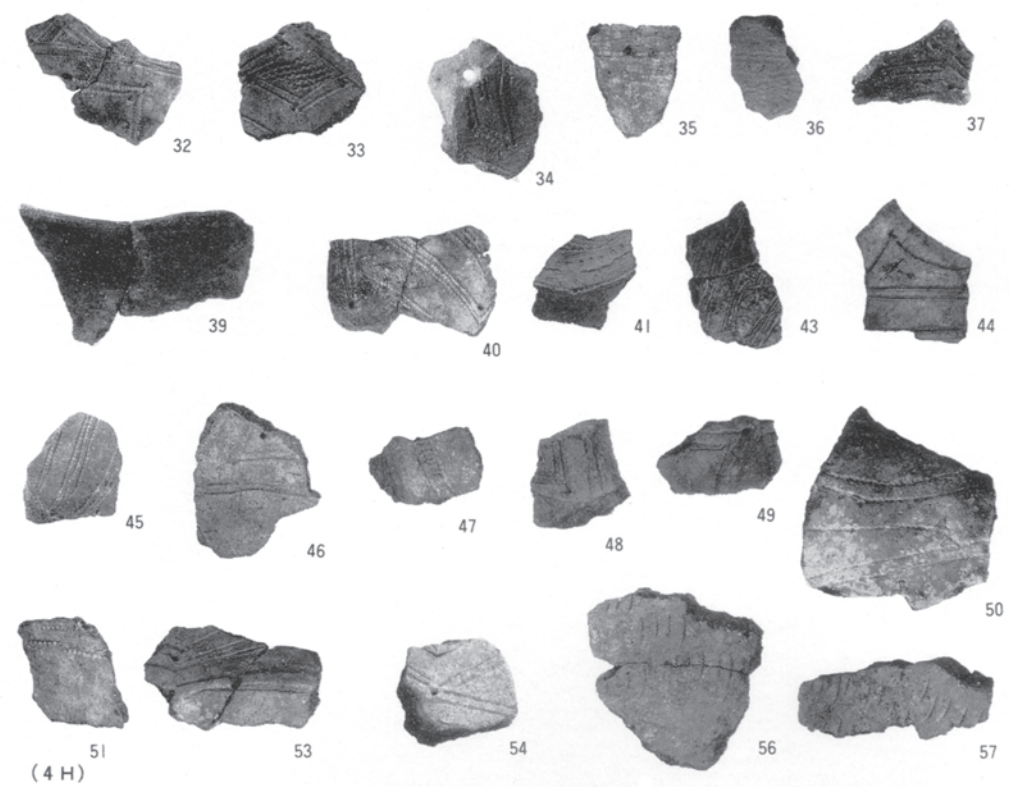


写真12 I地区住居跡・遺構外出土土器

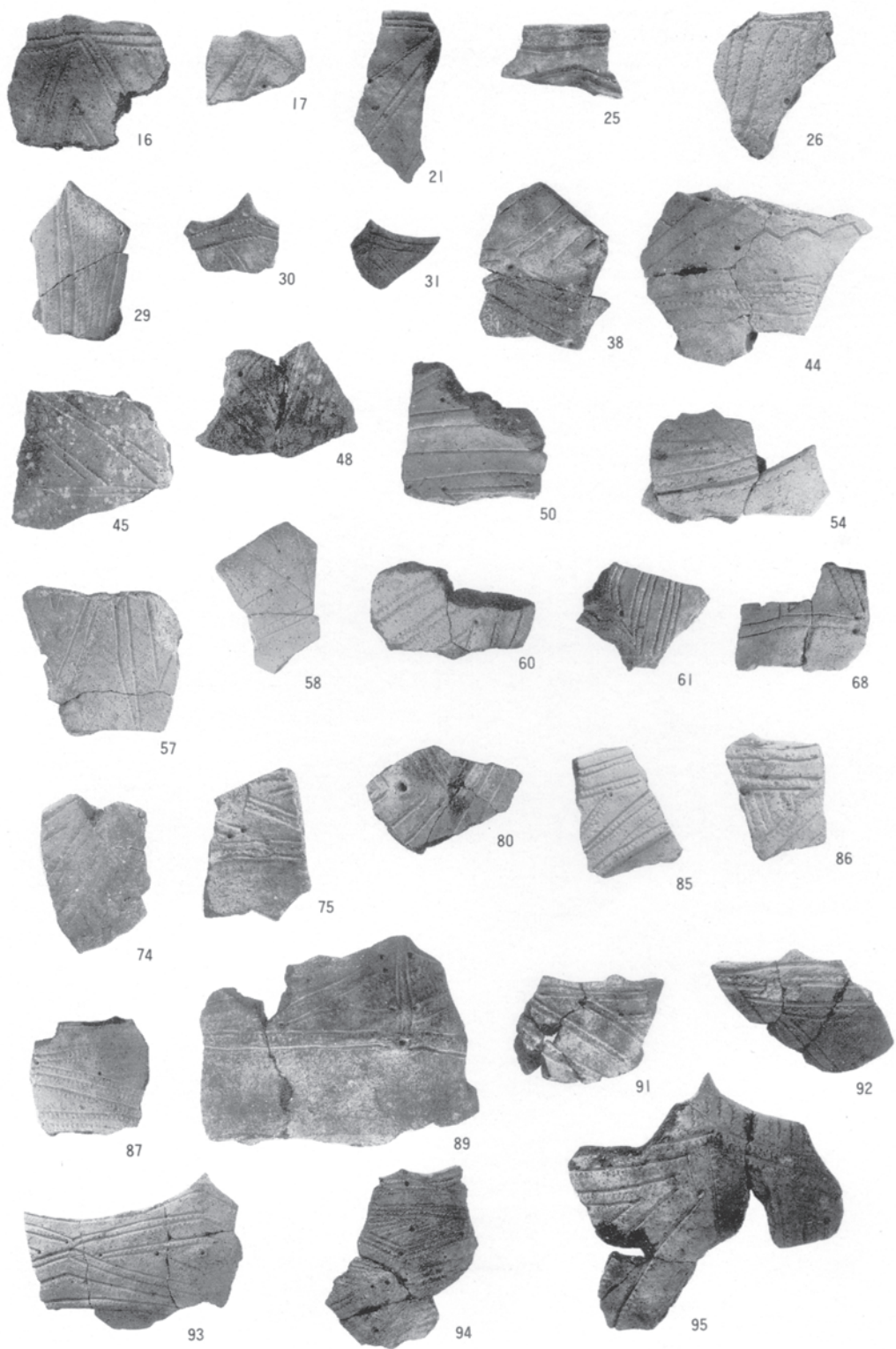


写真13 I地区遺構外出土土器(1)

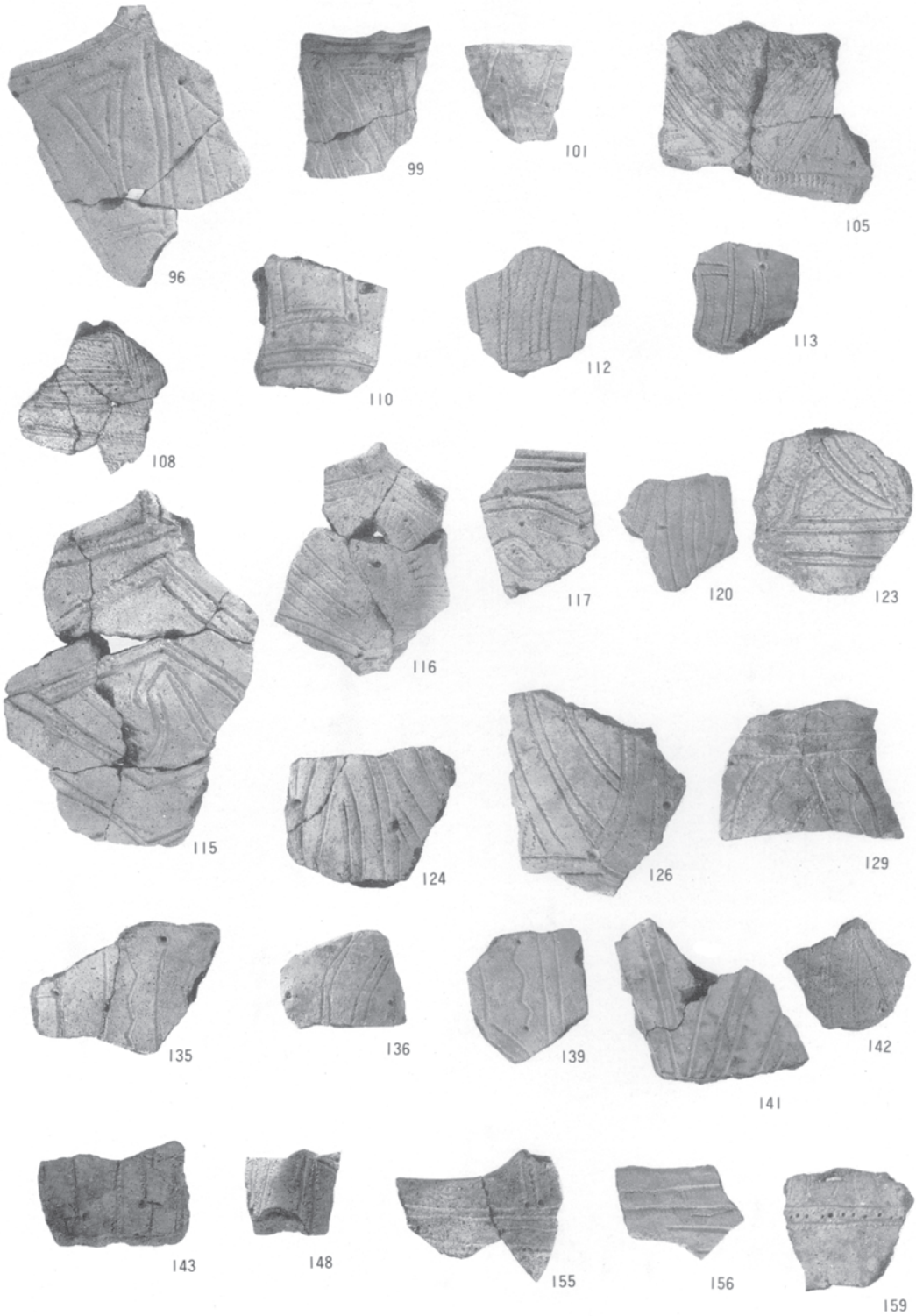


写真14 I地区遺構外出土土器(2)

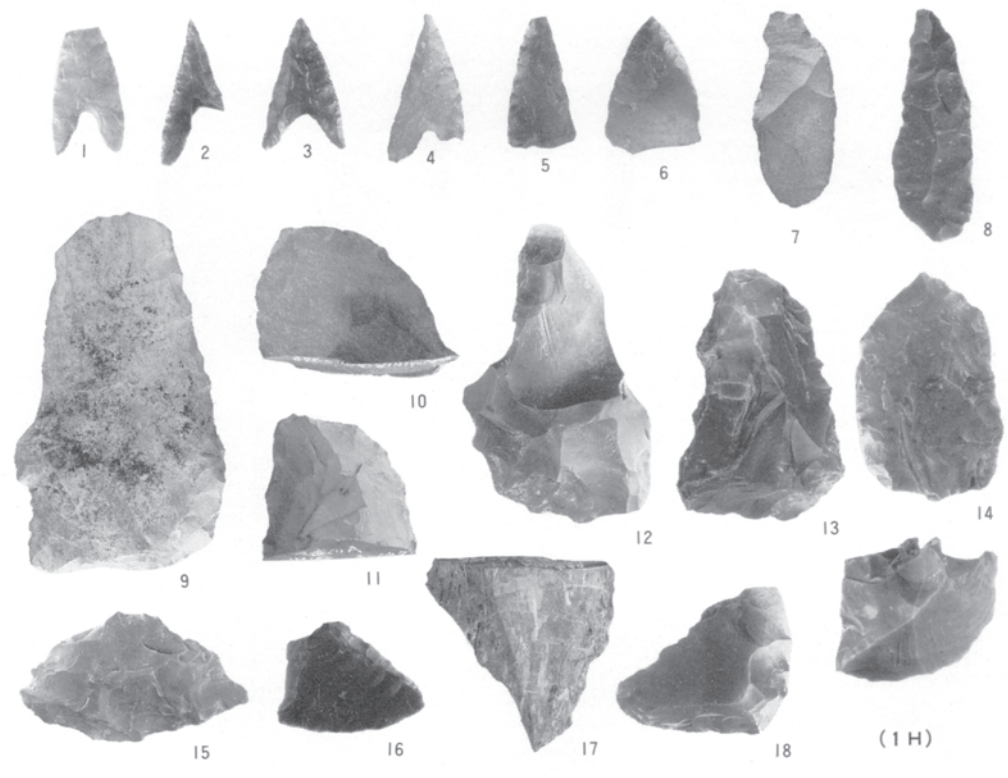
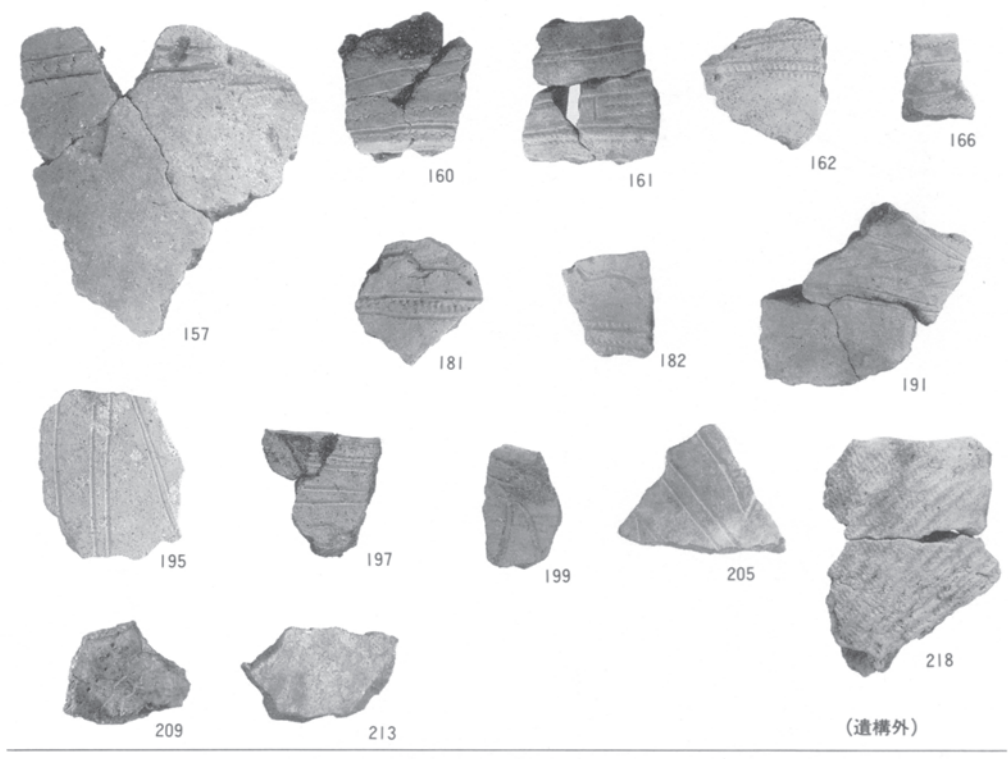


写真15 I地区遺構外出土土器・住居跡出土石器

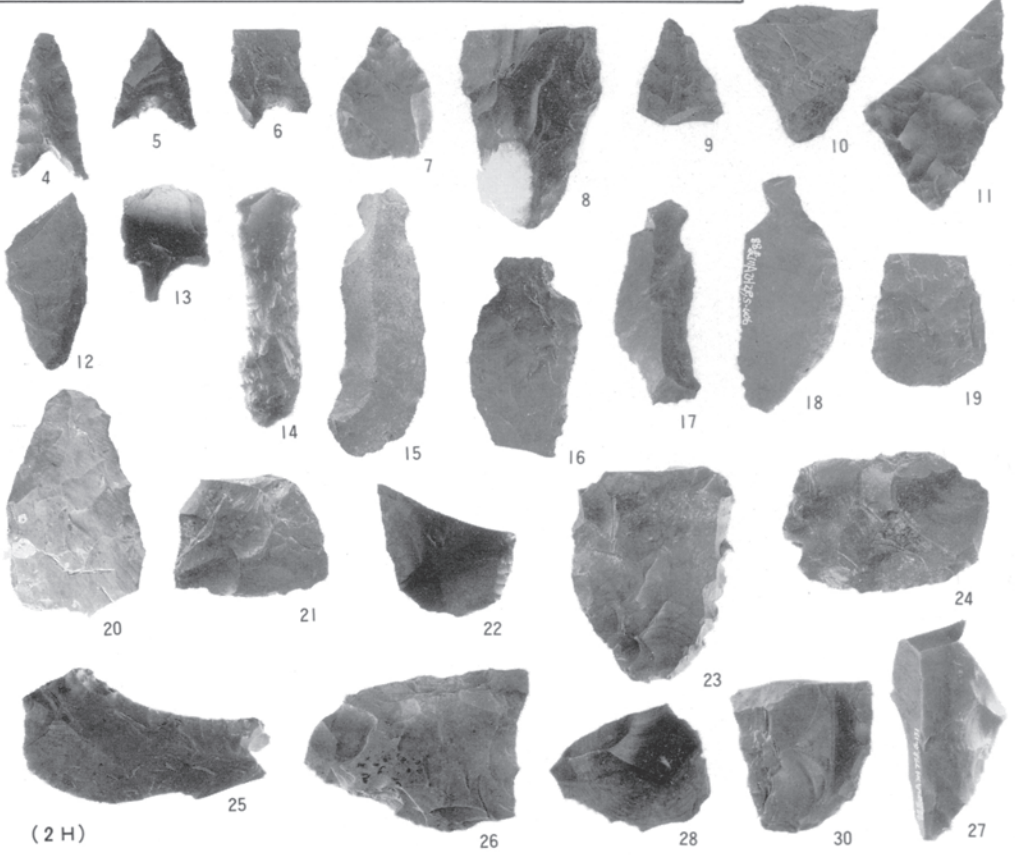
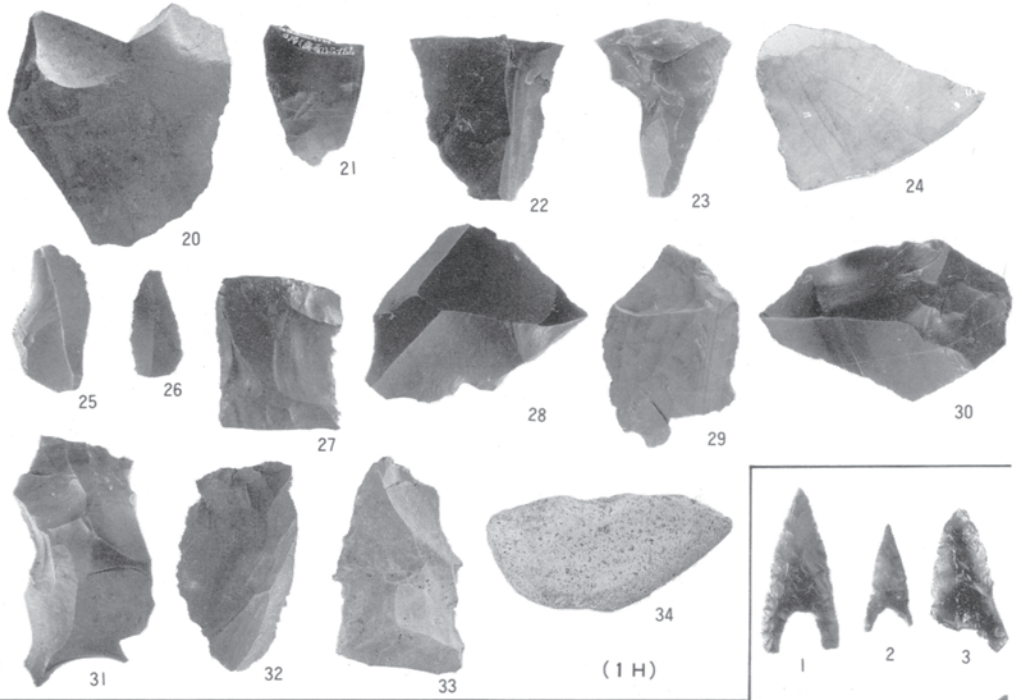


写真16 I地区住居跡出土石器(1)



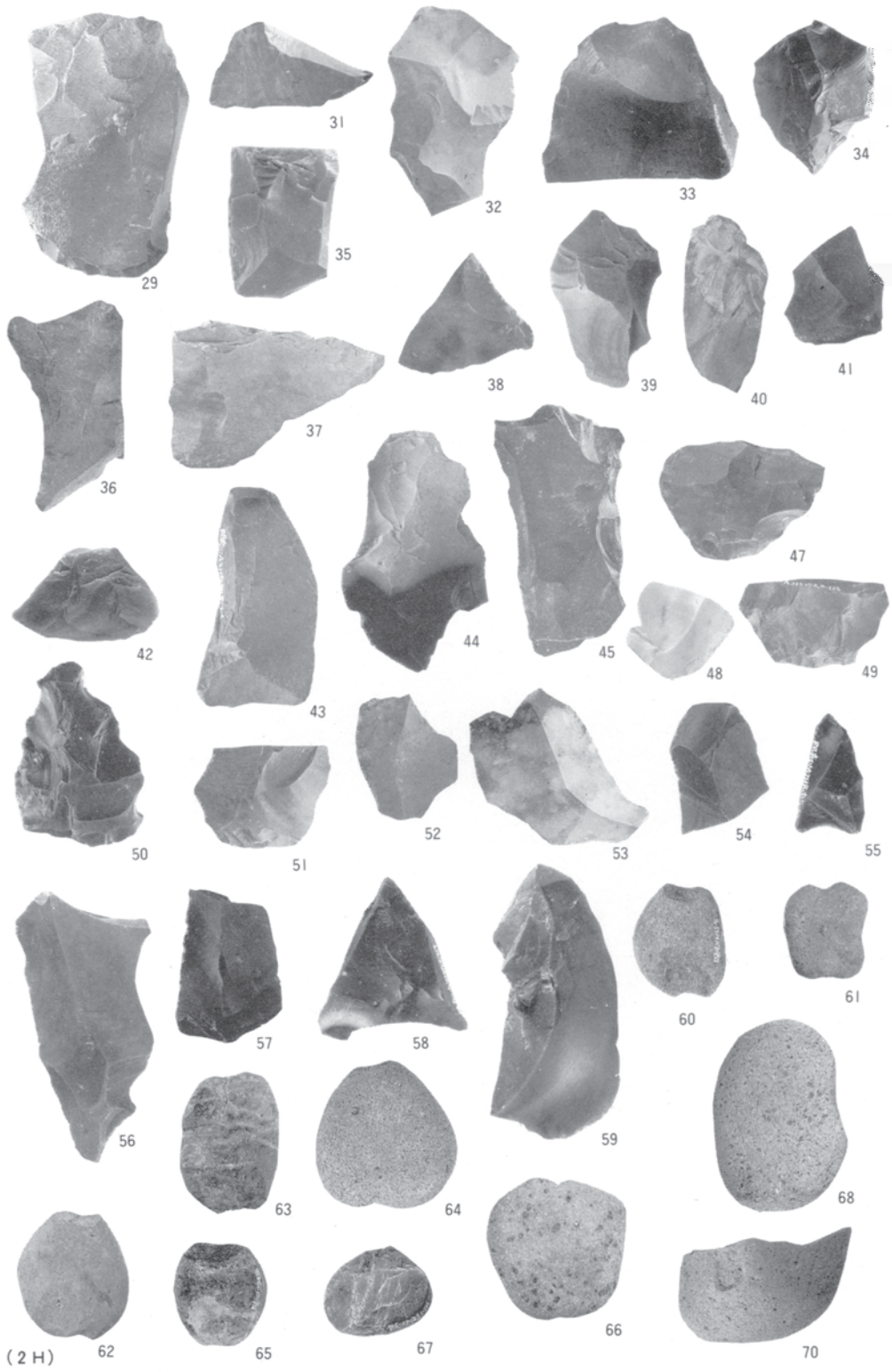


写真17 I地区住居跡出土石器(2)

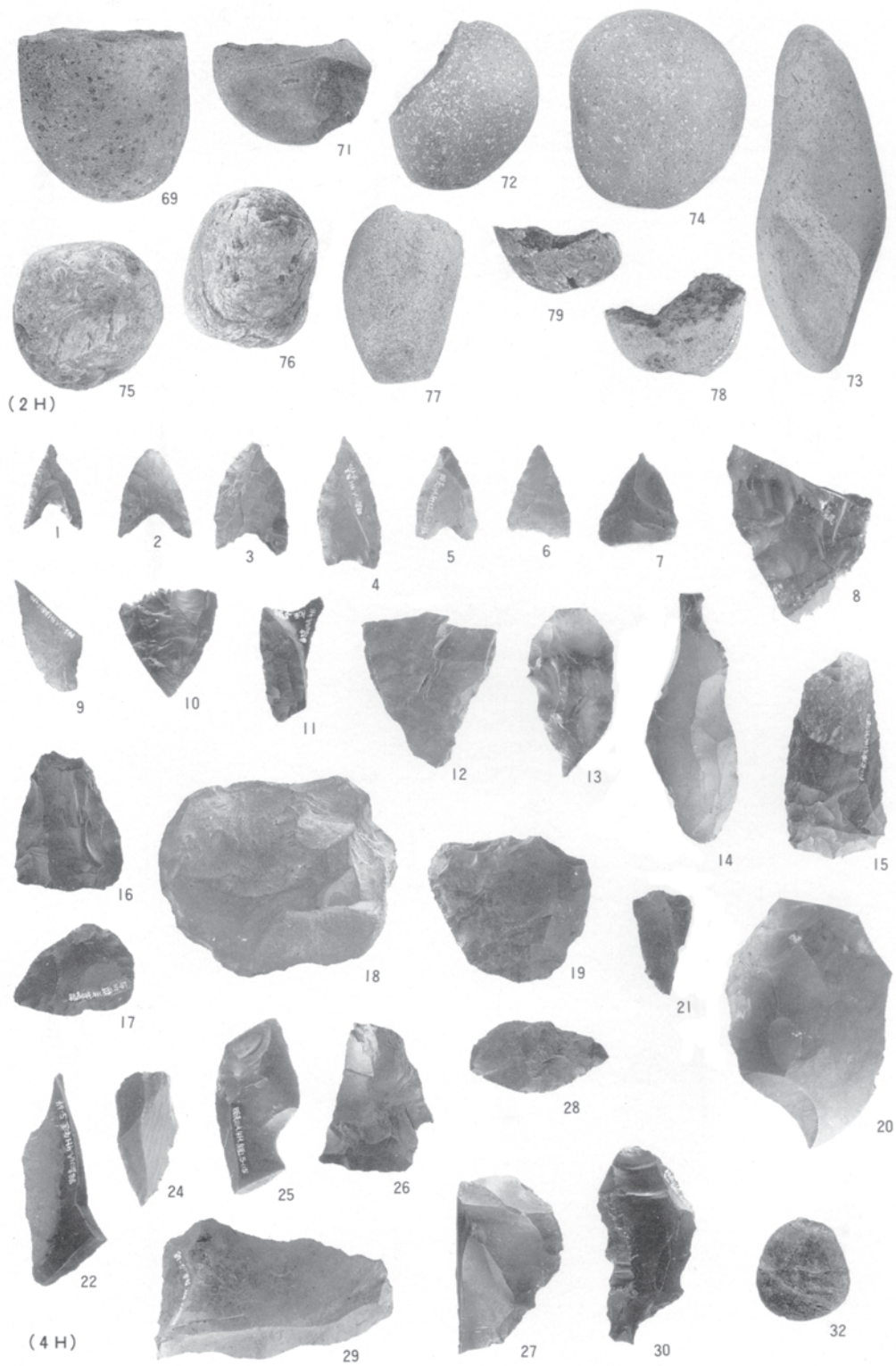


写真18 I地区住居跡出土石器(3)

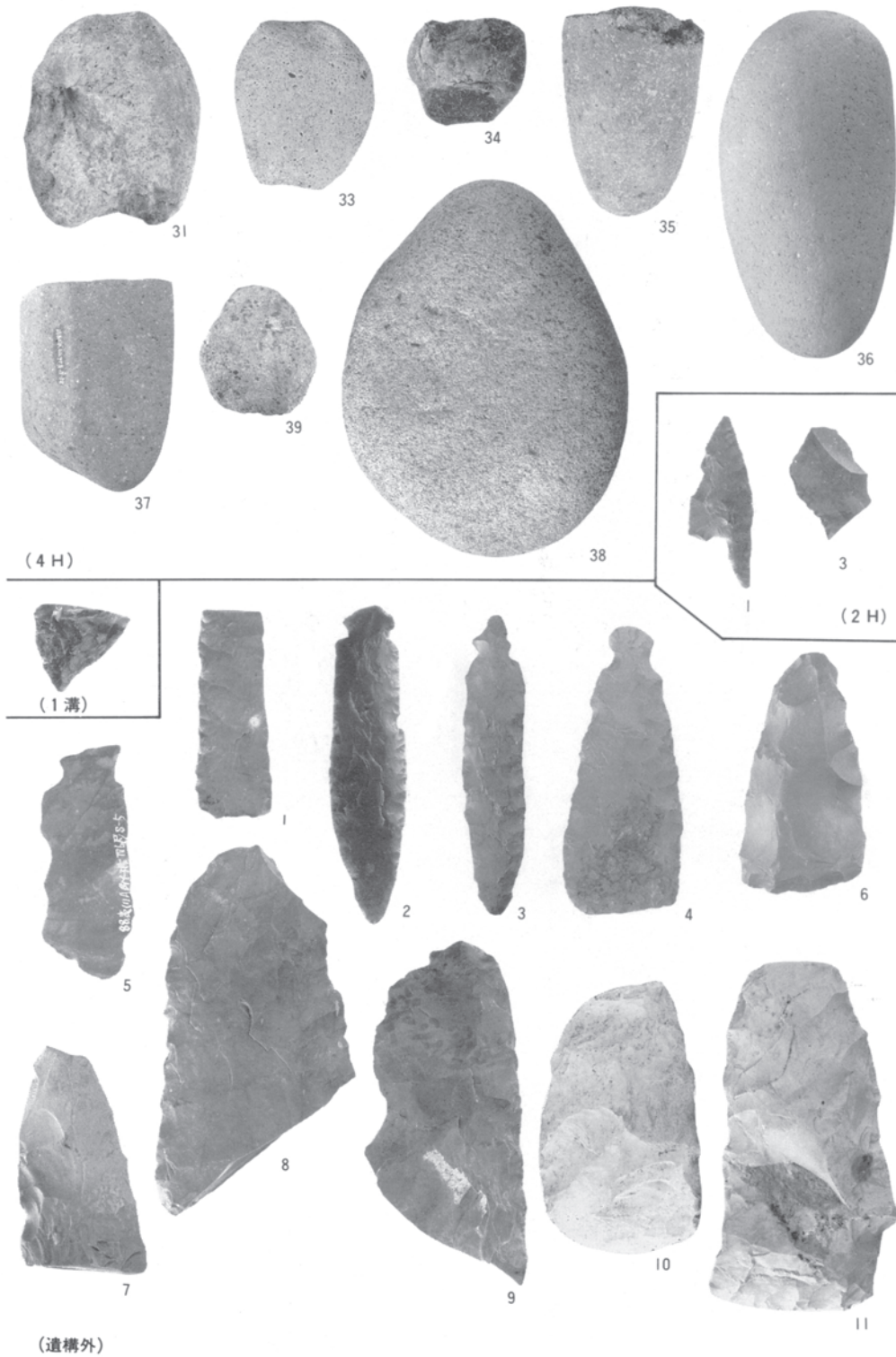


写真19 I地区住居跡・土壌・溝状ピット・遺構外出土石器

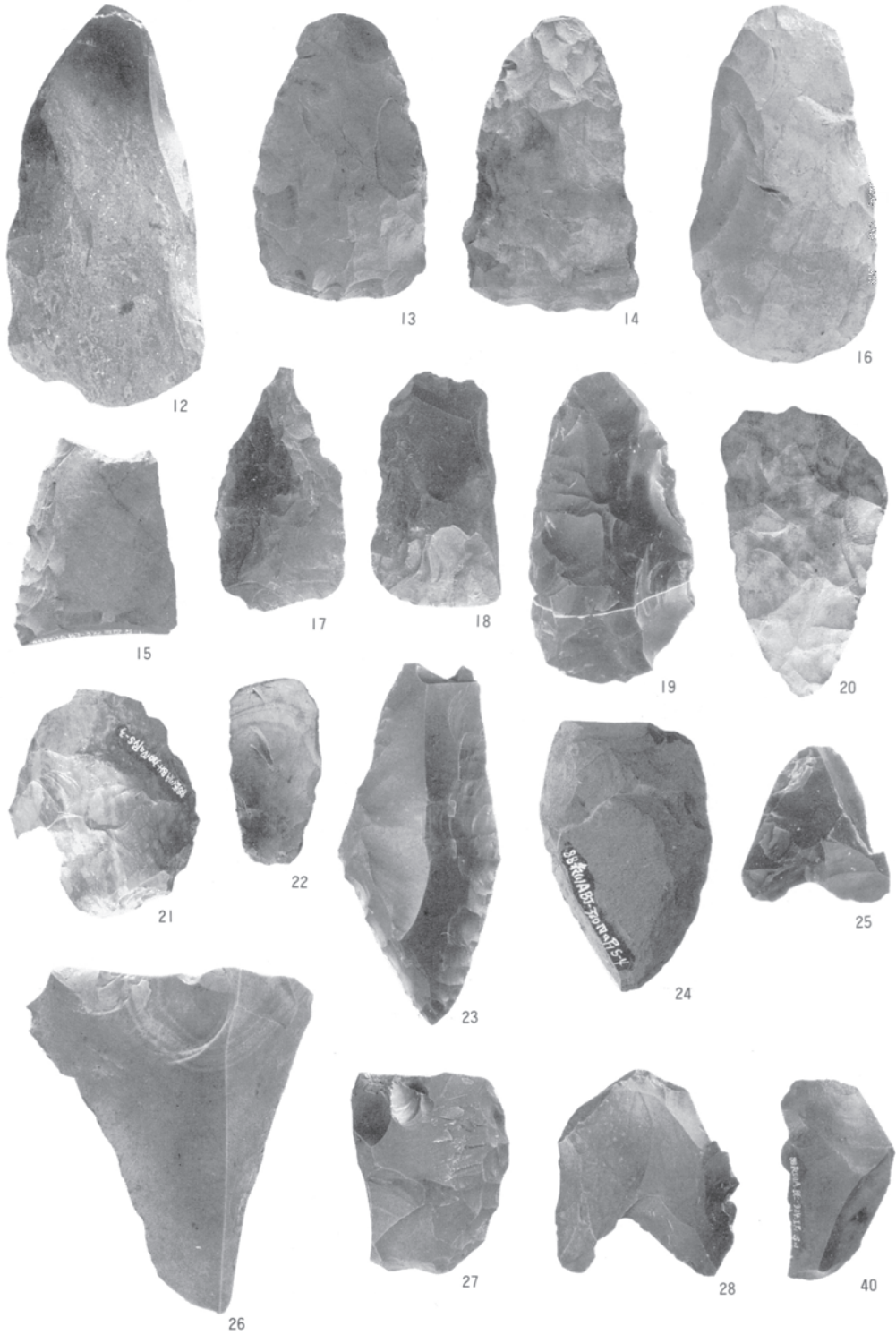


写真20 I地区遺構外出土石器(1)

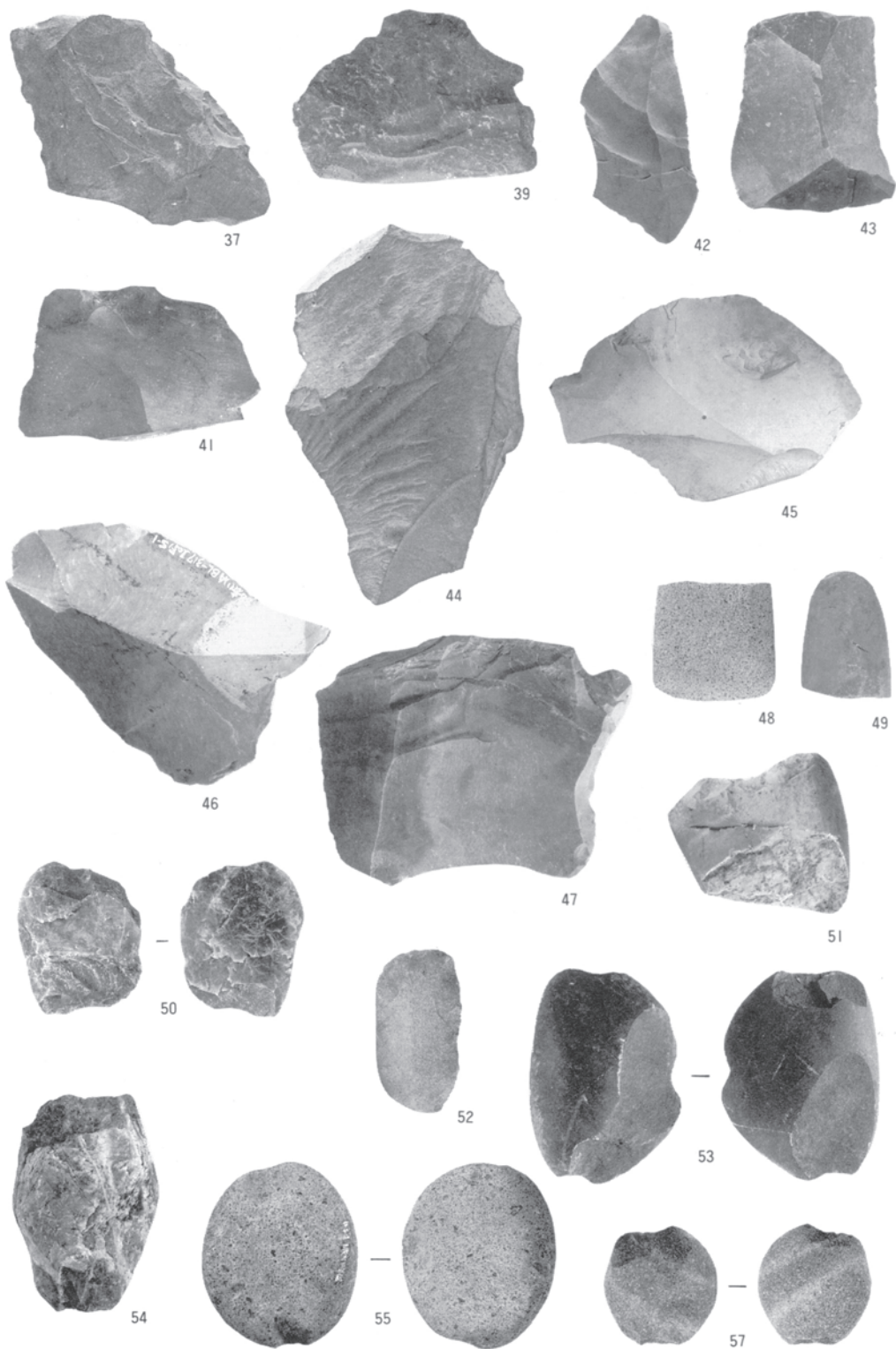


写真21 I地区遺構外出土石器(2)



写真22 I地区遺構外出土石器(3)

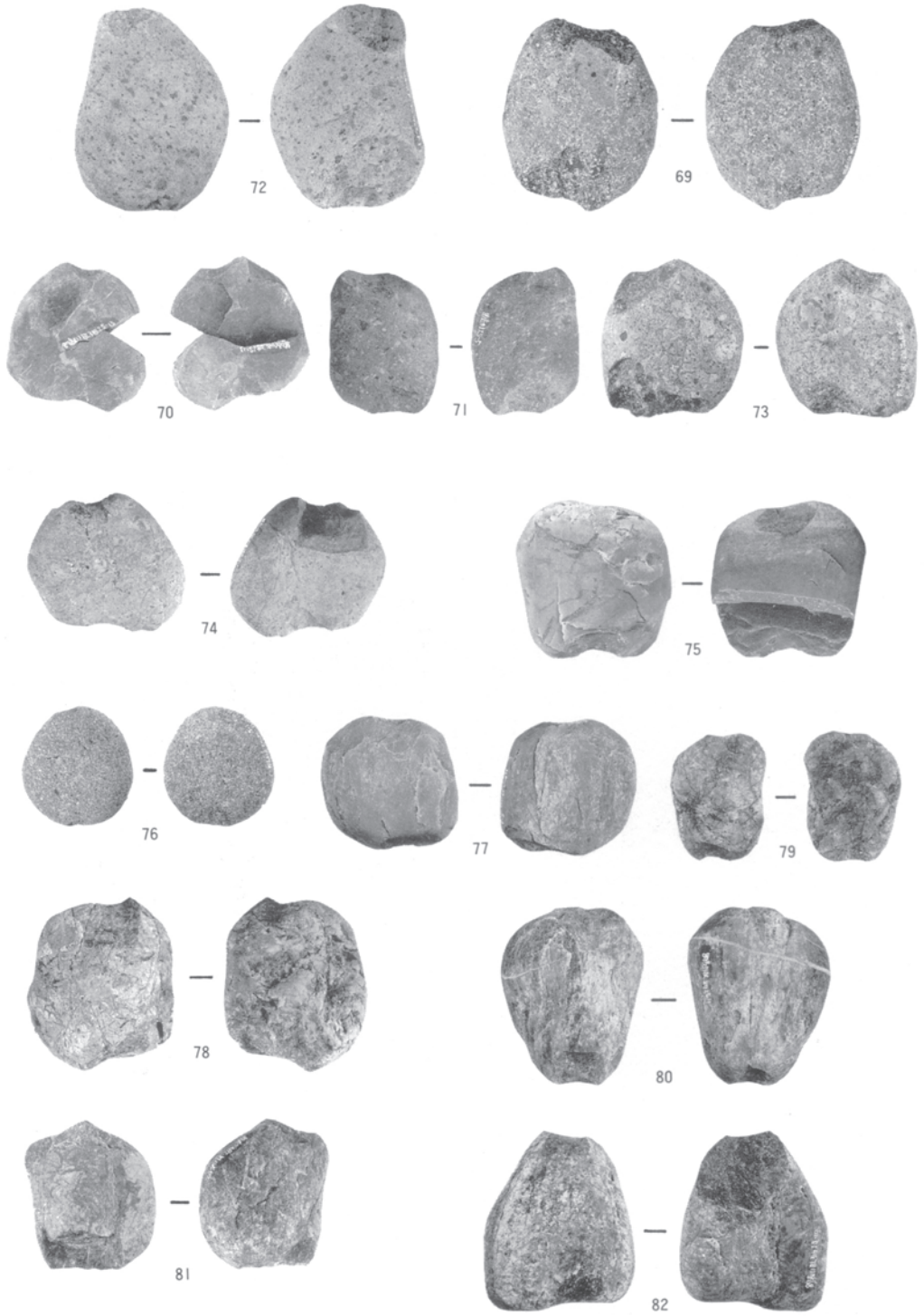


写真23 I地区遺構外出土石器(4)

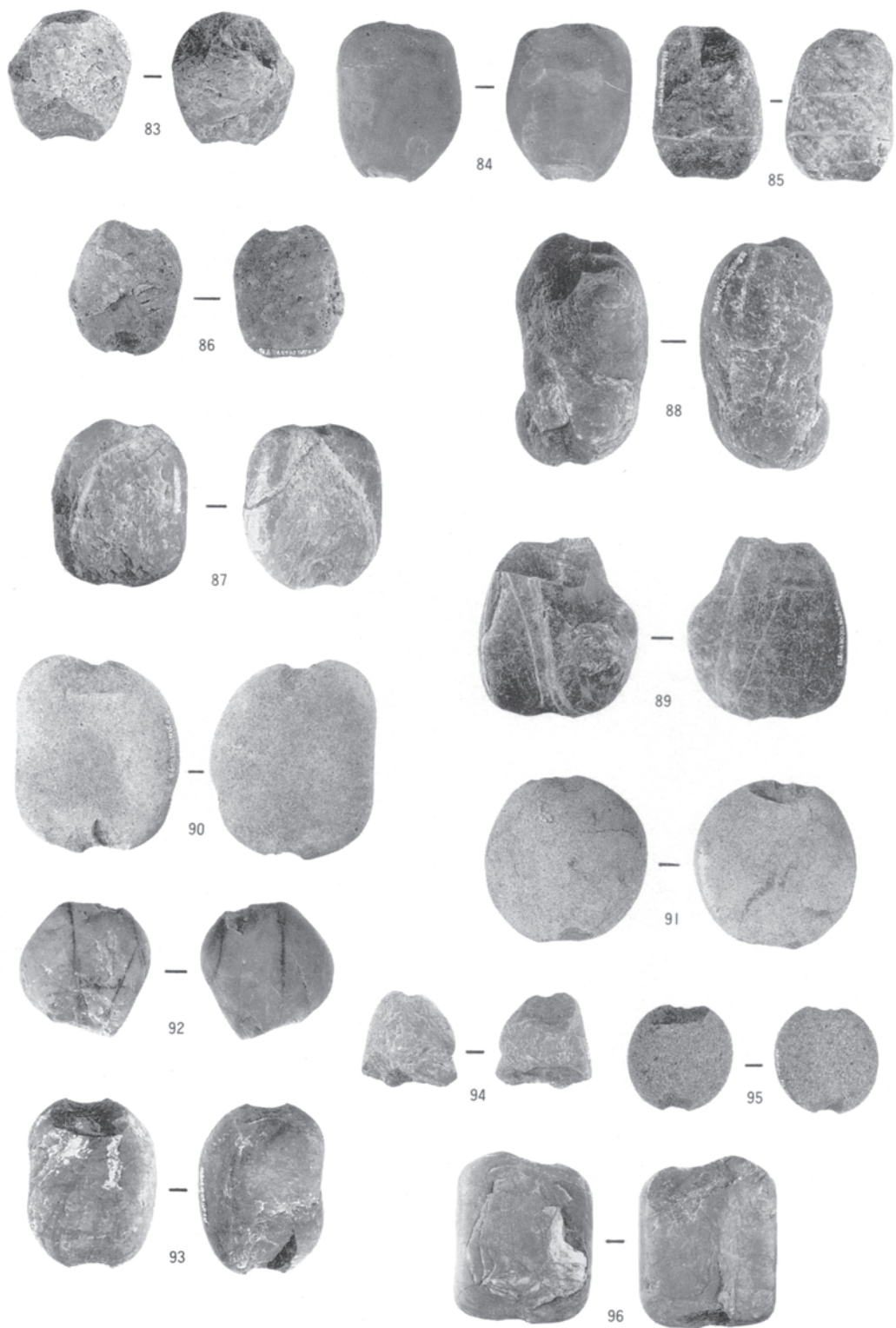


写真24 I地区遺構外出土石器(5)



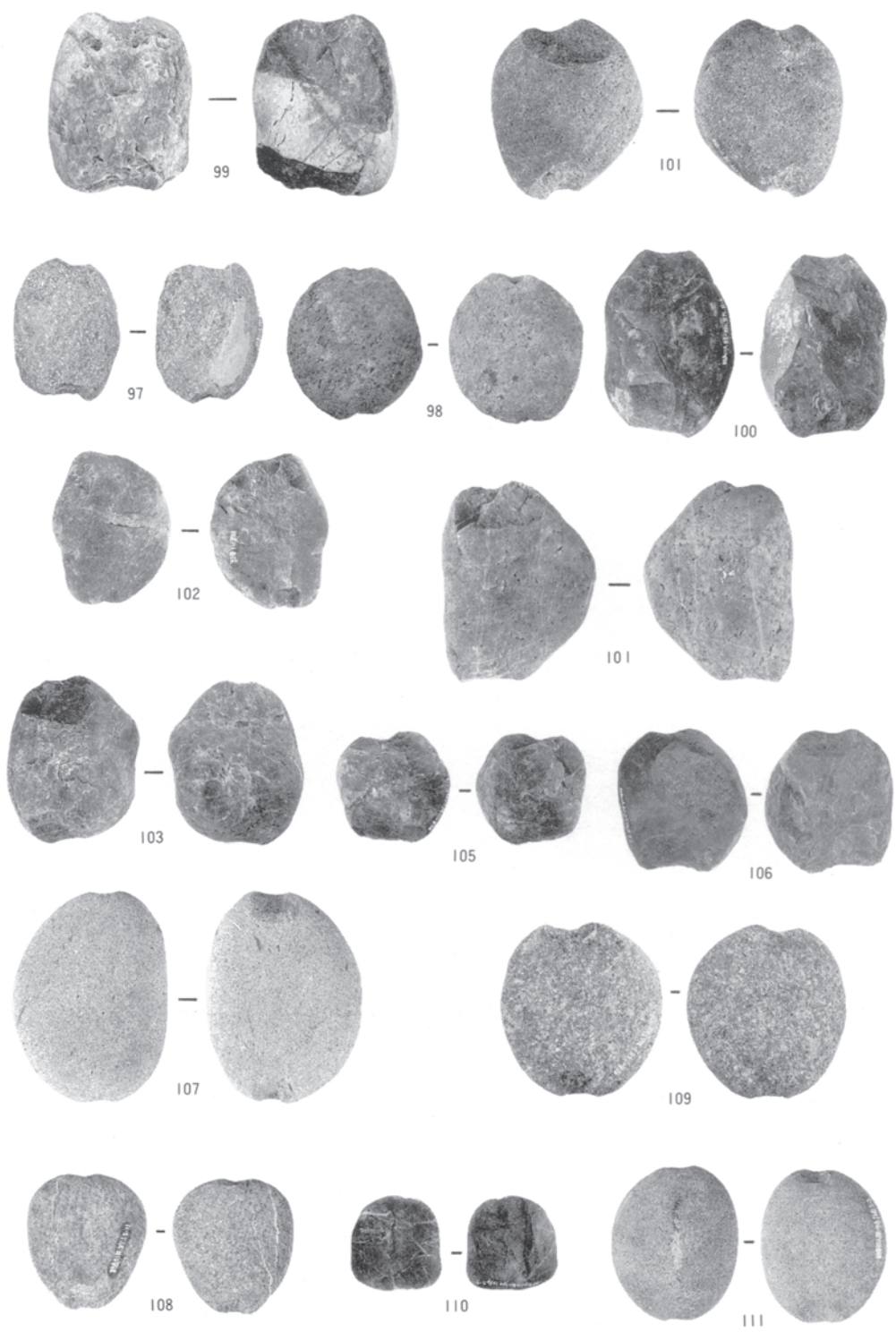


写真25 I地区遺構外出土石器(6)

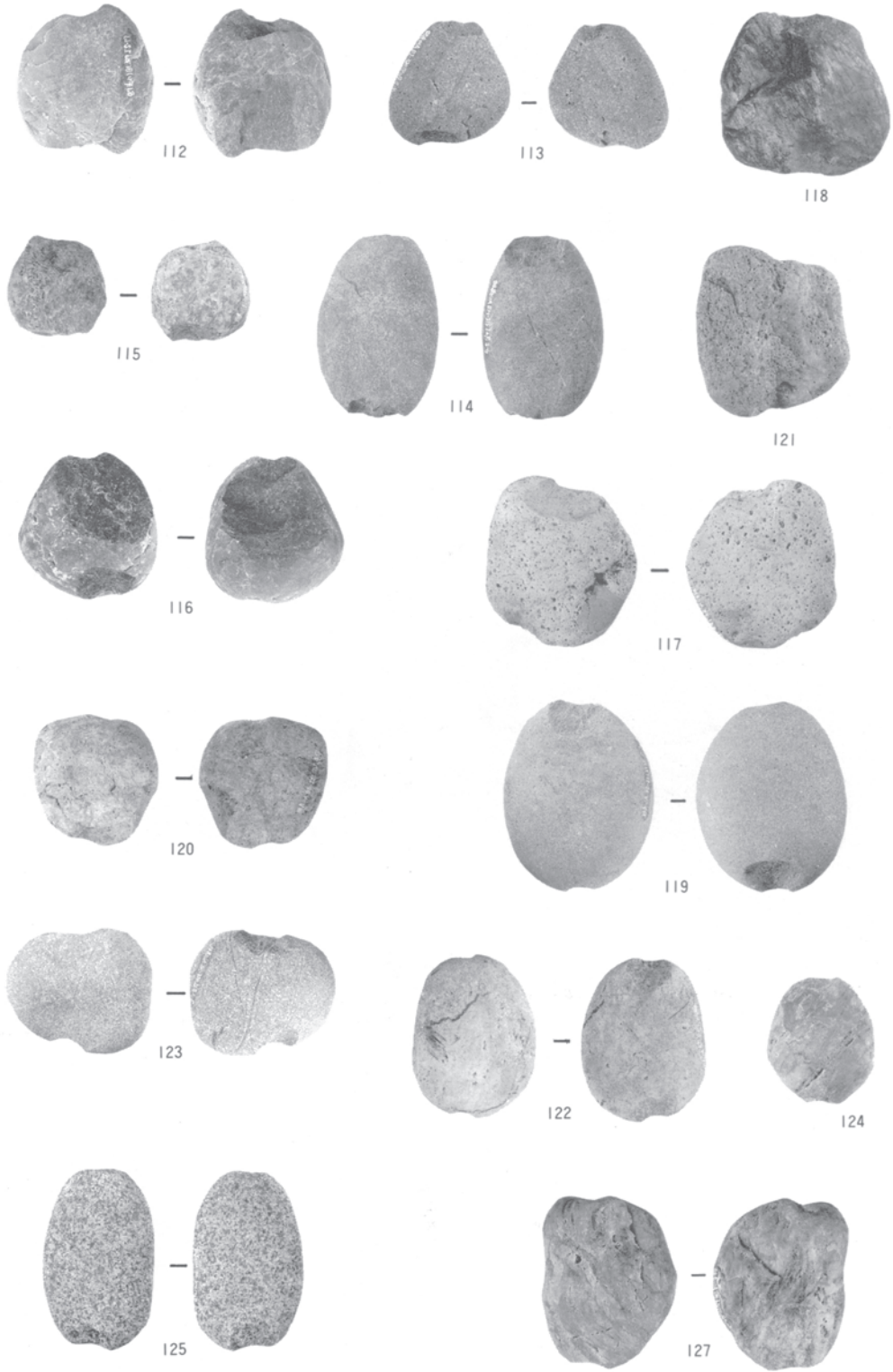


写真26 I地区遺構外出土石器(7)

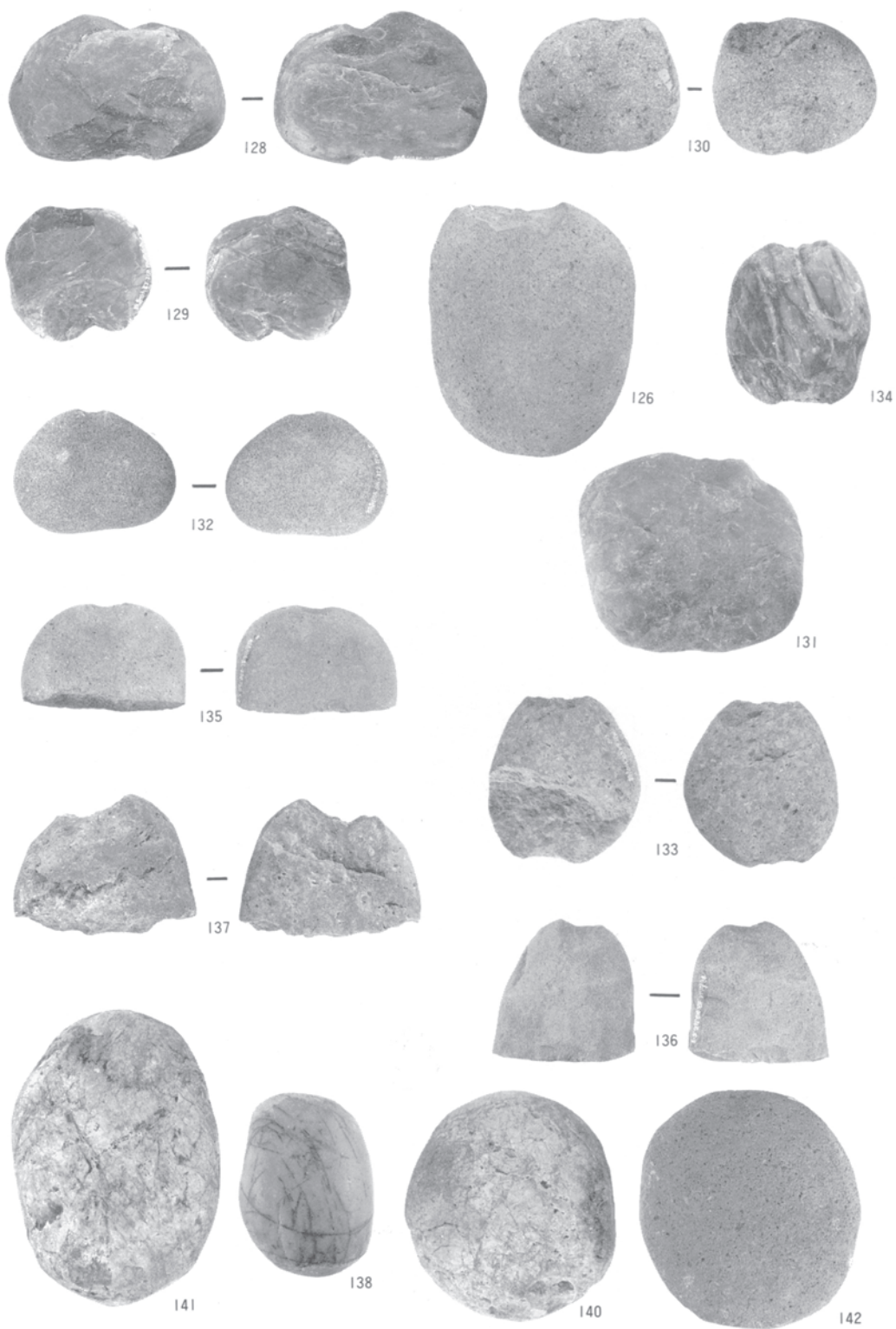


写真27 I地区遺構外出土石器(8)

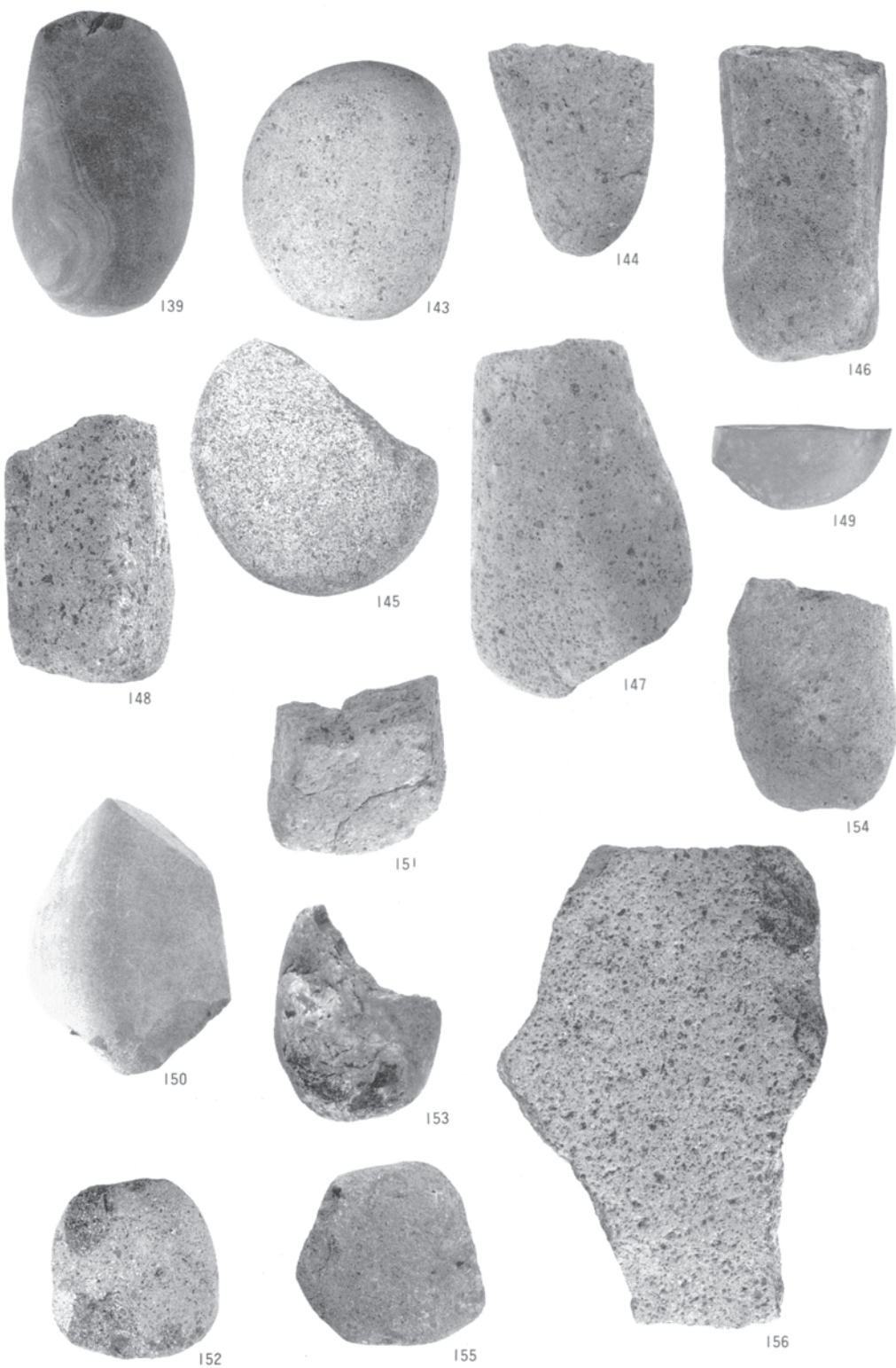


写真28 I地区遺構外出土石器(9)



遠景写真 (N→)



遠景写真 (W→)

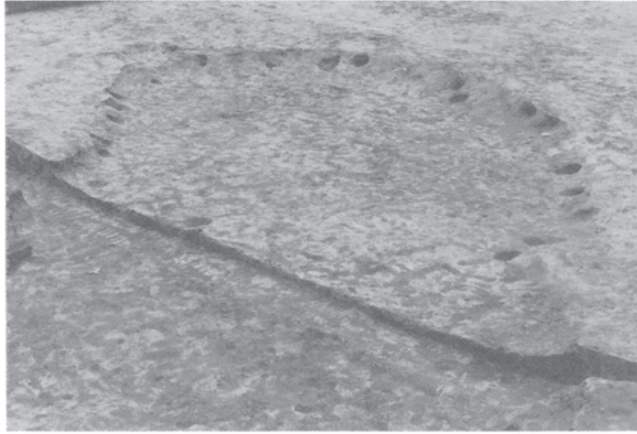


遠景写真 (E→)



基本層序

写真29 II地区遠景写真・基本層序



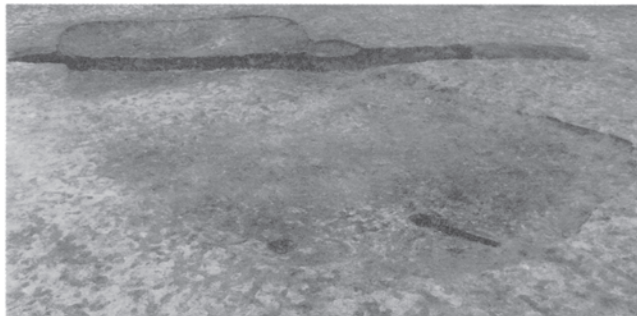
第5号住居跡



第6号住居跡

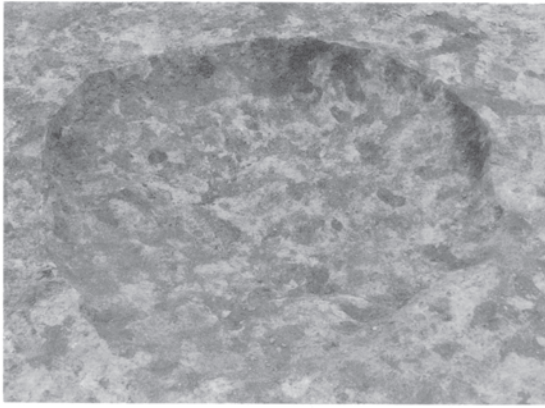


第6号住居跡

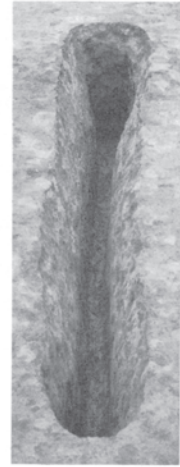


第5・6号住居跡

写真30 II地区住居跡



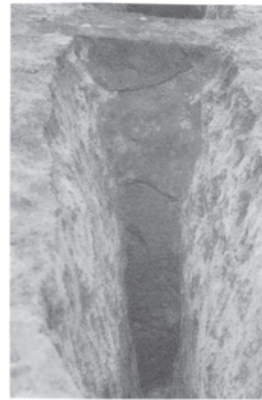
第20号土坑



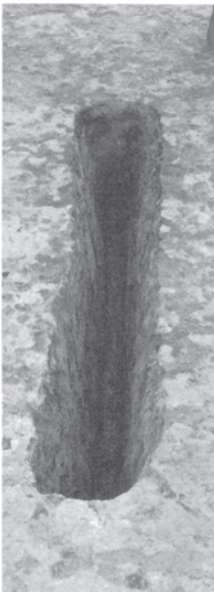
第3号溝状ビット



第21号土坑



第3号溝状ビット



第4号溝状ビット



第5号溝状ビット



第5号溝状ビット

写真31 II地区土坑・溝状ビット

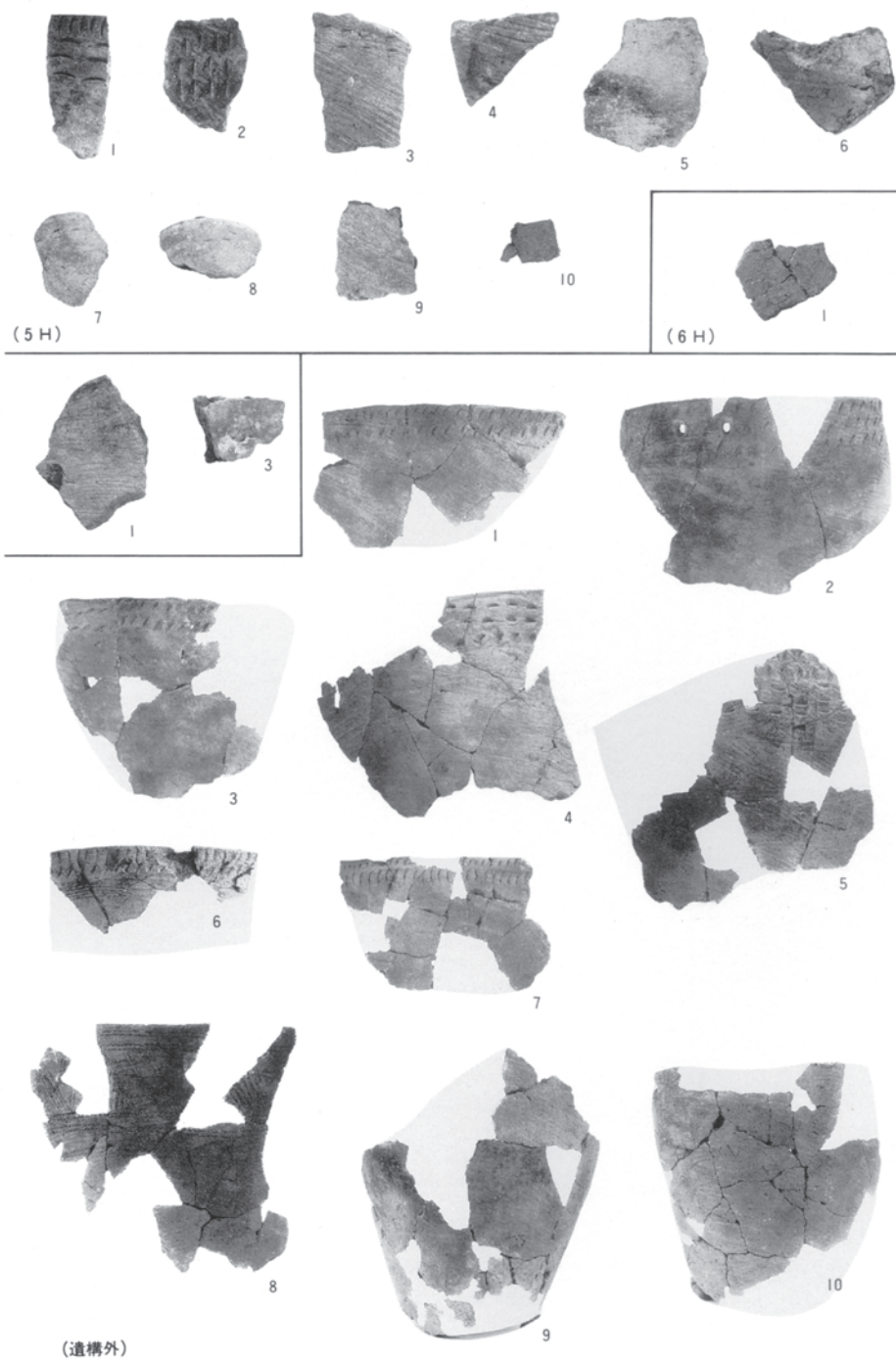


写真32 II地区住居跡・溝状ピット・遺構外出土土器



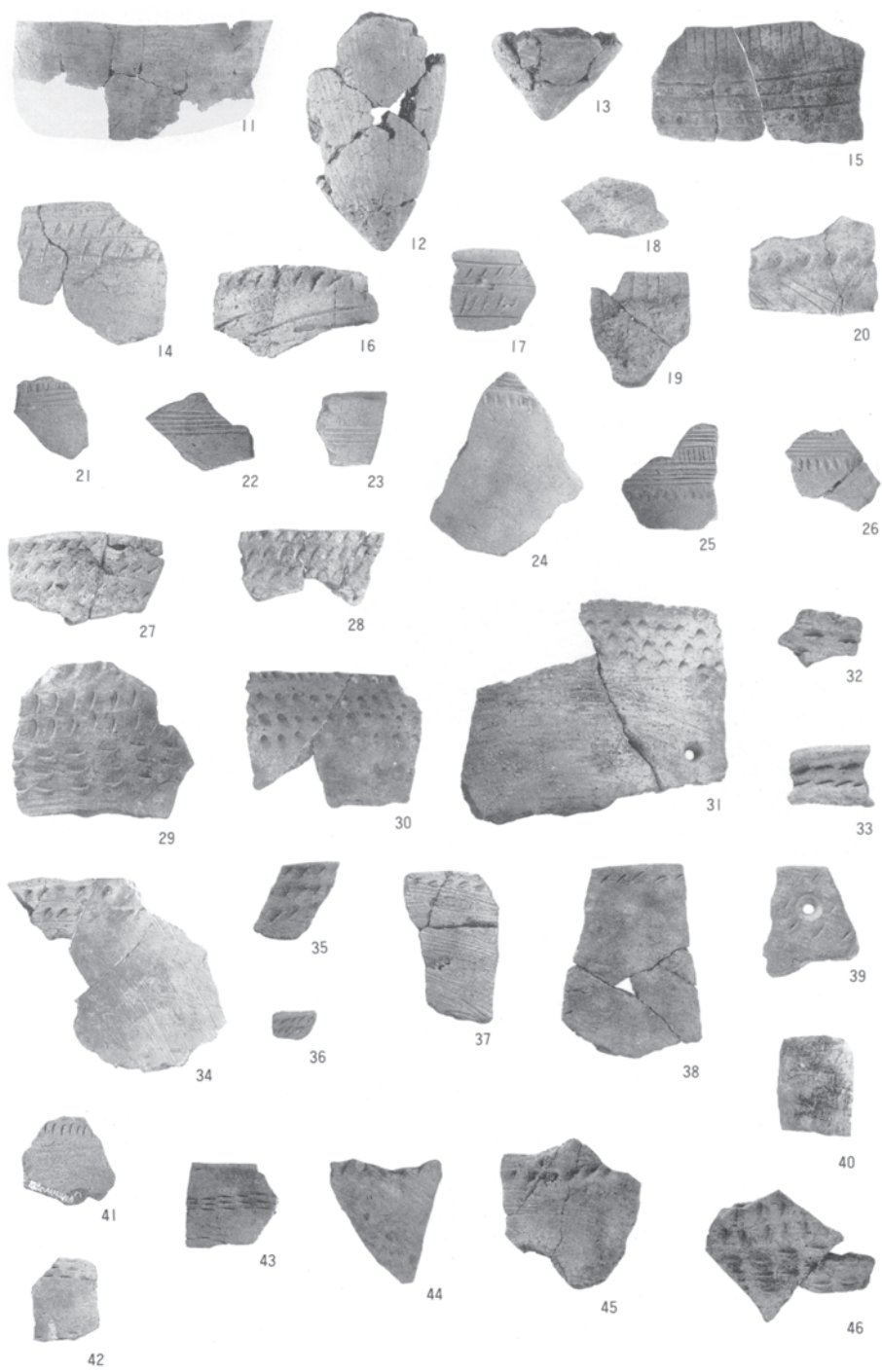


写真33 II地区遺構外出土土器(1)

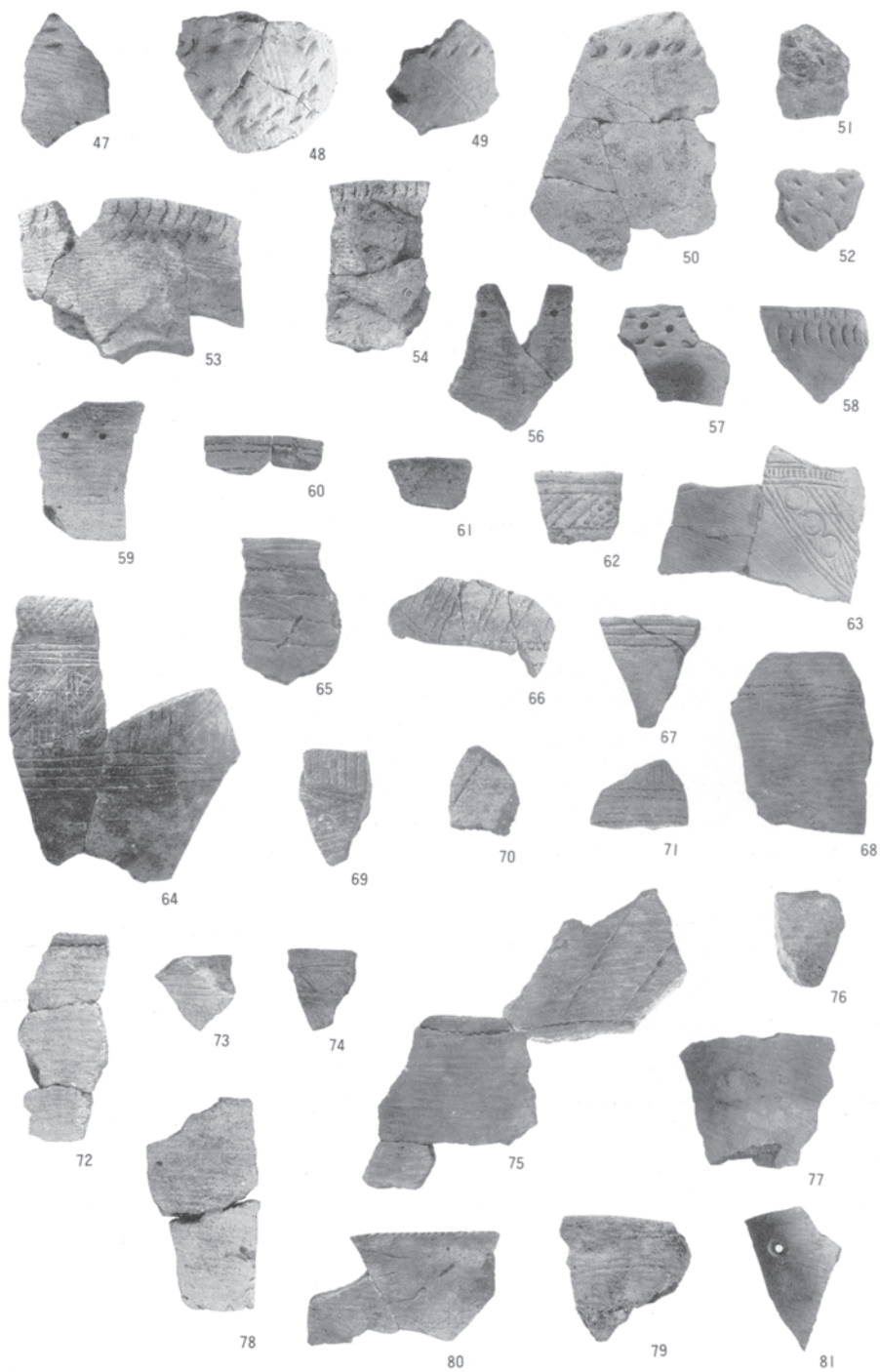


写真34 II地区遺構外出土土器(2)

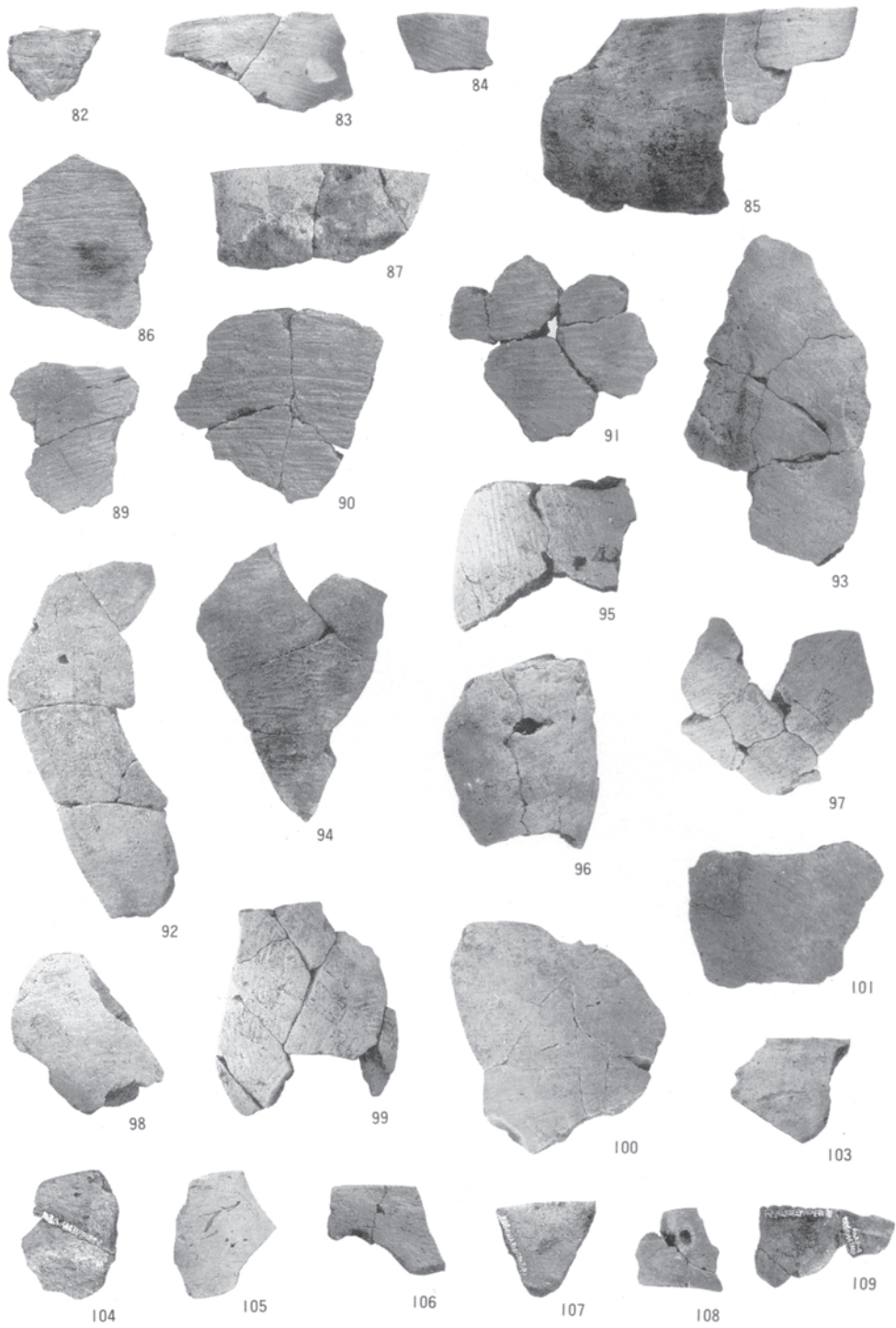


写真35 II地区遺構外出土土器(3)

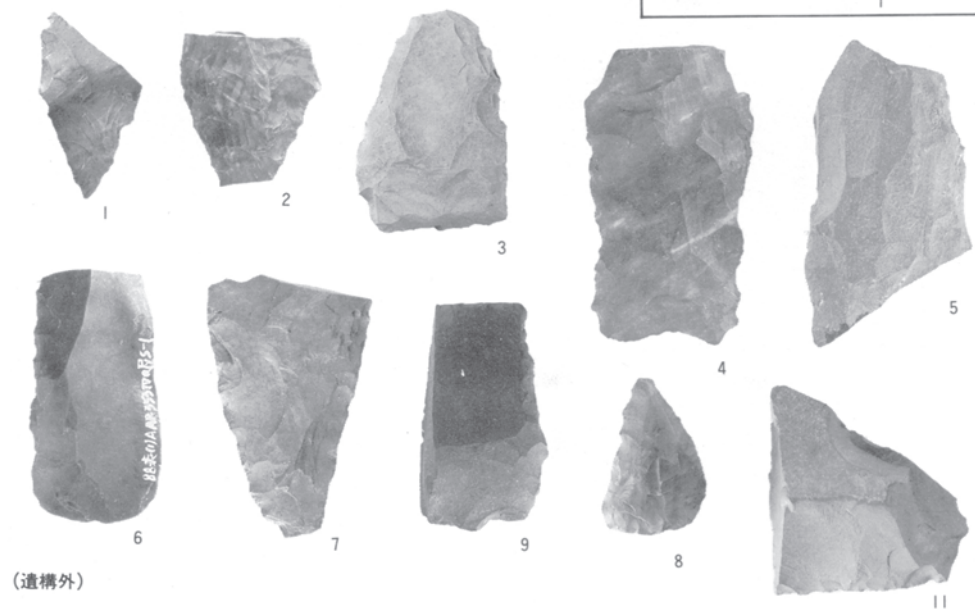
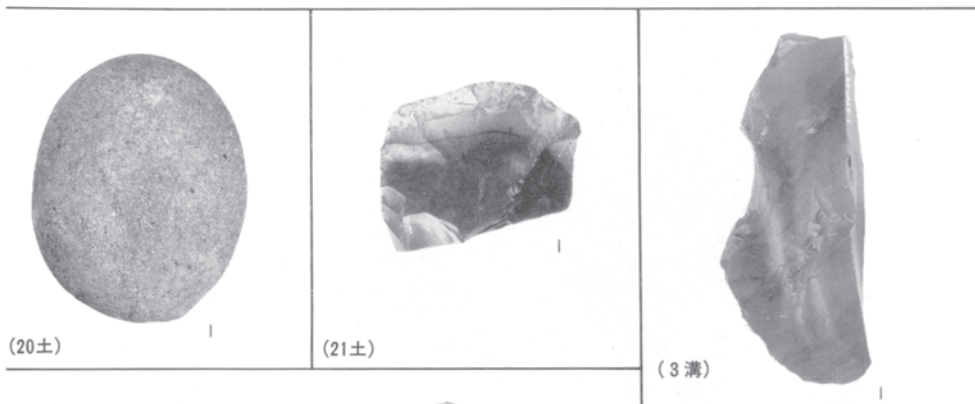
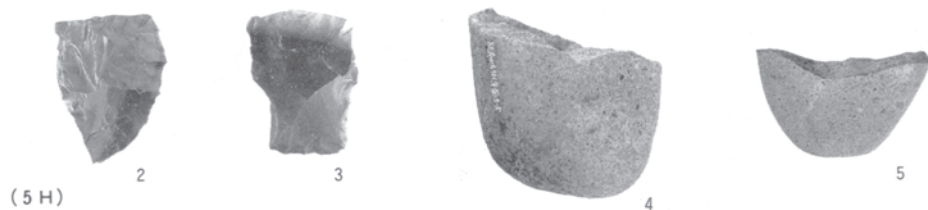
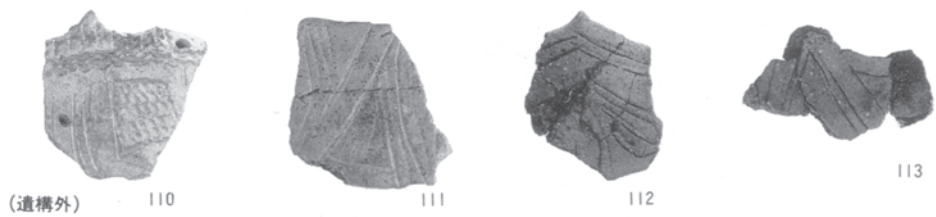


写真36 II地区住居跡・土壌・溝状ピット・遺構外出土土器・石器

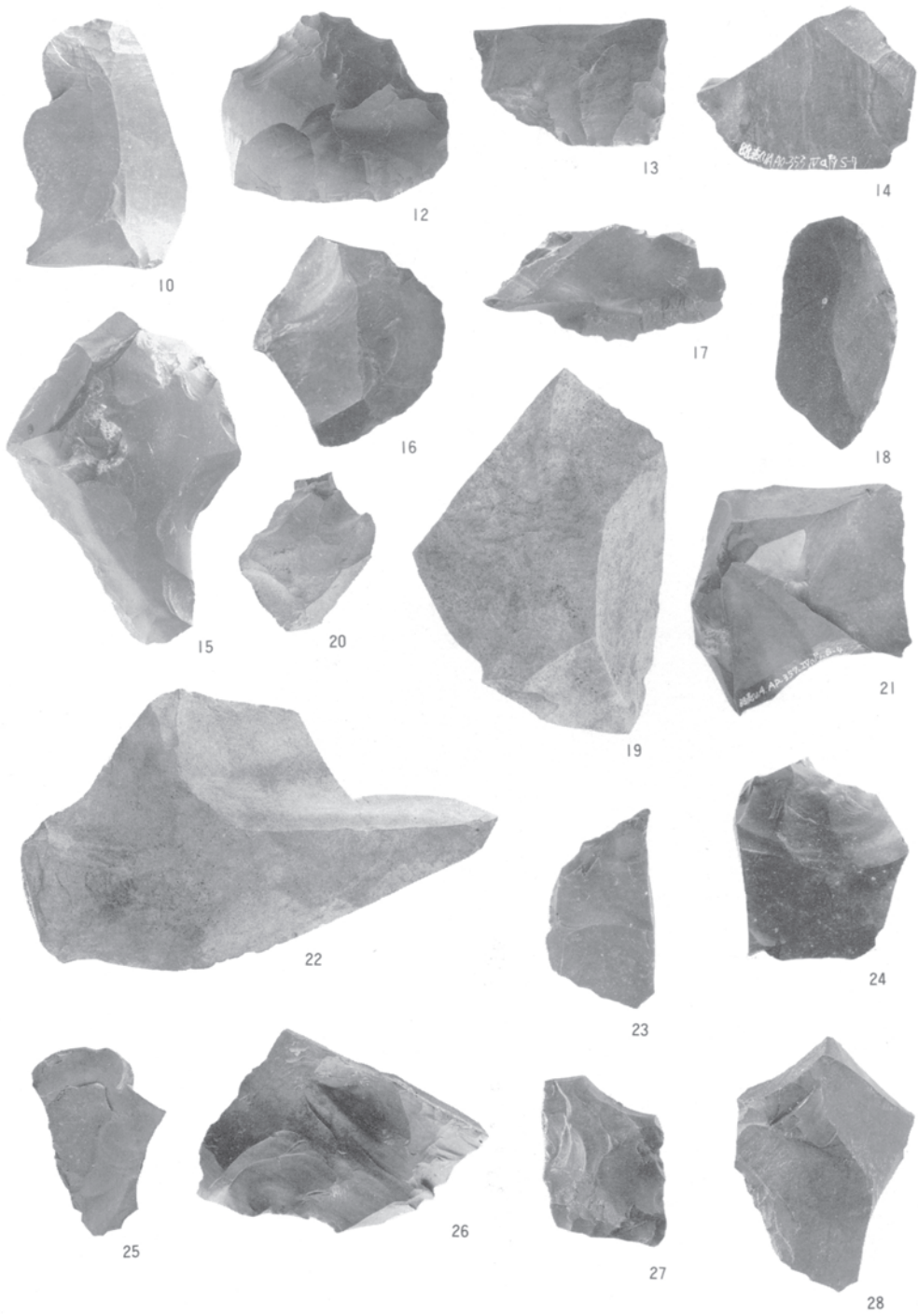


写真37 II地区遺構外出土石器(1)

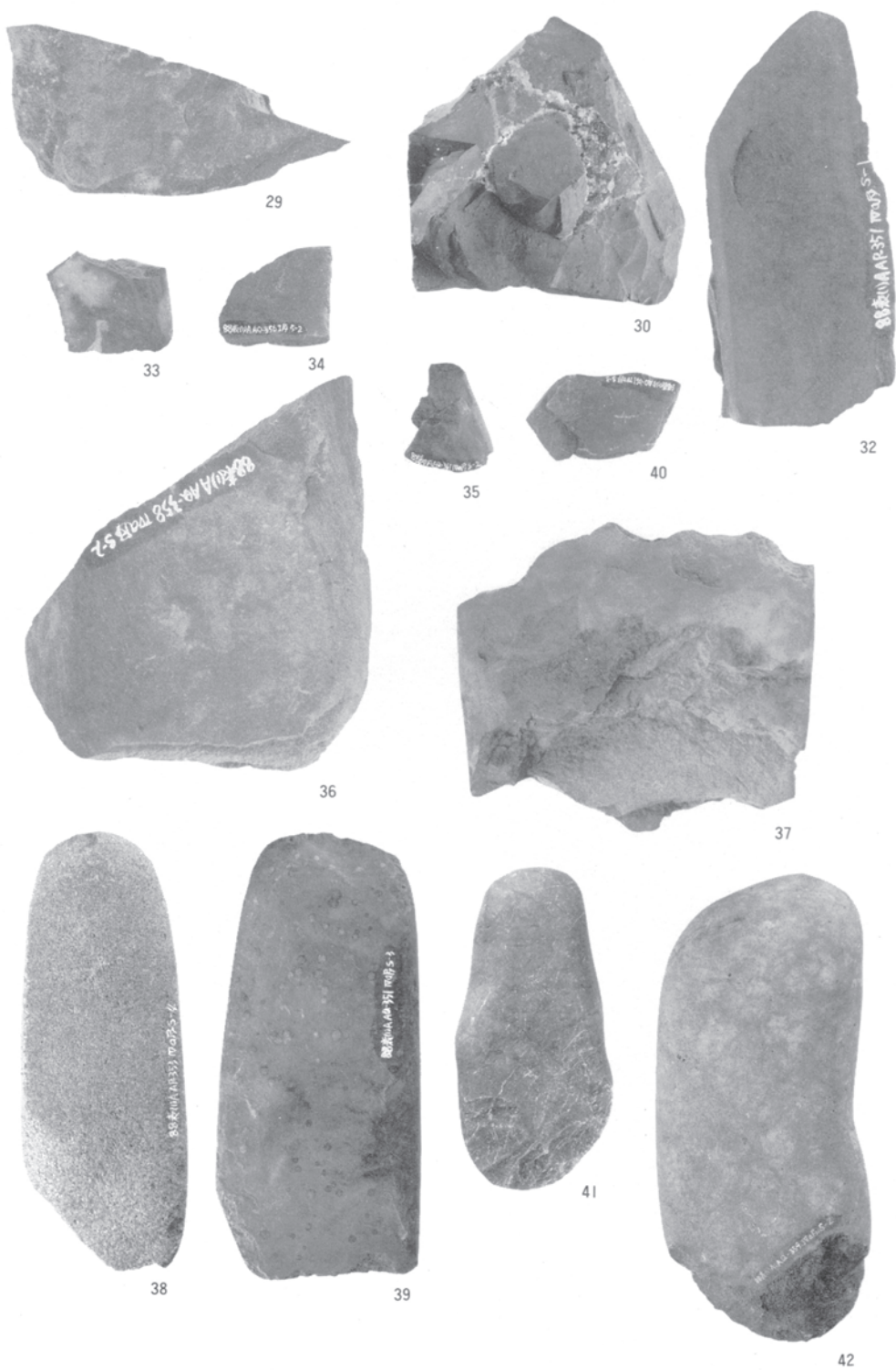


写真38 II地区遺構外出土石器(2)



写真39 II地区遺構外出土石器(3)

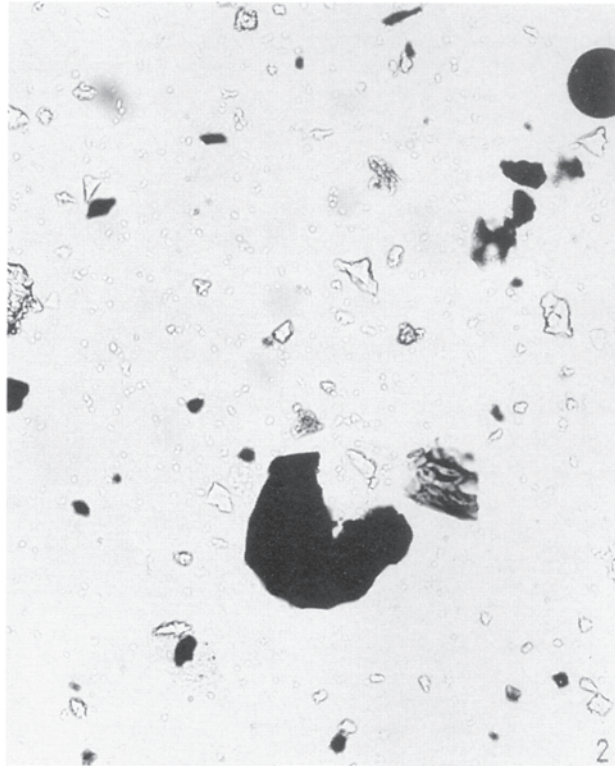
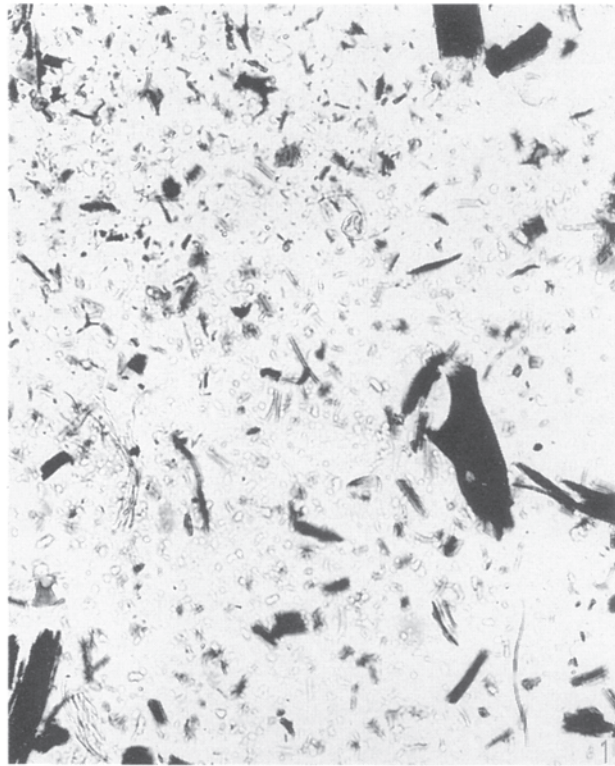


写真40 花粉化石状況写真



青森県埋蔵文化財調査報告書 第127集

---

表館(1)遺跡Ⅴ

—むつ小川原開発事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行年月日 平成2年3月31日

発行 青森県教育委員会

編集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038 青森市大字新城字天田内152-15

電話 0177-88-5701・5702

印刷 長尾印刷株式会社

---

